

平成27年度

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

活動報告書

(資料編)

平成28年3月

区分	プログラム名	資料編 ページ数	日 程	開催大学
F D	授業設計ワークショップ	3	6月20日(土)～21日(日)	徳島大学
	授業デザインワークショップ(第24回)	15	7月4日(土)～5日(日)	愛媛大学
	授業デザインワークショップ(第25回)	27	9月1日(火)～3日(木)	愛媛大学
	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	33	9月2日(水)～3日(木)	高知大学
	新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」	44	9月17日(木)～18日(金)	香川大学
	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	52	7月11日(土)～12日(日)	愛媛大学
	アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ	54	7月11日(土)～12日(日)	愛媛大学
	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ<高専対象>	64	9月25日(金)～27日(日)	愛媛大学
	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	70	3月9日(水)～11日(金)	徳島大学
S D	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ)第1回【新任教職員研修】	74	5月13日(水)～15日(金)	香川大学
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅠ)第2回	83	11月19日(木)～20日(金)	愛媛大学
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅡ)	92	10月14日(水)～15日(木)	愛媛大学
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(共通科目 第1回)	100	9月10日(木)～11日(金)	愛媛大学
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(共通科目 第2回)	110	9月17日(木)～18日(金)	愛媛大学
	「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」見直しワークショップ	119	6月25日(木)～26日(金)	愛媛大学
	社会連携系職員養成プログラム レベルⅠ「地域特性論」-地方創生・地域資源を活用した地域の活性化- ※SPODフォーラム	125	8月26日(水)	愛媛大学
	国際連携系職員養成プログラム レベルⅠ①「外国人受入入門」-留学生の受入 A to Z- ※SPODフォーラム	129	8月26日(水)	愛媛大学
	国際連携系職員養成プログラム レベルⅠ②「海外派遣入門」 ※SPODフォーラム	133	8月26日(水)	愛媛大学
	次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)	137	5月21日(木)～23日(土)	徳島大学
	次世代リーダー養成ゼミナール(第2回)	140	7月16日(木)～18日(土)	愛媛大学
	次世代リーダー養成ゼミナール(第3回)	143	11月5日(木)～7日(土)	高知大学
	次世代リーダー養成ゼミナール(第4回)	146	1月21日(木)～22日(金)	愛媛大学
	職員のための講師養成講座(第1回)「総論」	149	6月18日(木)～19日(金)	愛媛大学
	職員のための講師養成講座(第2回)「マイクロティーチング」	157	12月3日(木)～4日(金)	愛媛大学
	SDC名簿	165		
	四国地区大学教職員能力開発ネットワークにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定に関する申合せ	166		
	トップリーダーセミナー 学習成果をめぐる国内外の動向-学内・国内・国際社会における合意形成のアプローチ- ※SPODフォーラム	168	8月27日(木)	愛媛大学
	人材育成のための人事評価-評価の心構えとその手法- ※SPODフォーラム	173	8月27日(木)	愛媛大学
フ ォ ー ラ ム	SPODフォーラム事前アンケート	178		
	SPODフォーラム全体(事後アンケート)	180		
	SPODフォーラム全体(事後アンケート)自由記述	182		
	SPODフォーラム2015参加者からの要望等について(対応)	191		
	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	198	5月7日(木)	徳島工業短期大学
	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート	200	5月29日(金)	新居浜工業高等専門学校
	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	202	6月3日(水)	高知工業高等専門学校

区分	プログラム名	資料編 ページ数	日程	開催大学
共通	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	204	6月15日(月)	弓削商船高等専門学校
	事例から考えるハラスメント	206	7月7日(火)	香川短期大学
	事例から考えるハラスメント	209	7月30日(木)	松山東雲女子大学・短期大学
	効果的なeラーニングの活用方法	212	7月31日(金)	阿南工業高等専門学校
	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	214	8月6日(木)	愛媛県立医療技術大学
	コーディネート力養成講座	216	8月19日(水)	香川大学
	事例から考えるハラスメント	219	8月24日(月)	香川県立保健医療大学
	教職員のためのPowerPoint ～30分でマスターするPPT、プレゼン資料からポスター作成まで～	221	8月31日(月)	聖カタリナ大学・短期大学部
	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	223	9月10日(木)	徳島文理大学・短期大学部
	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン(ID)入門～ARCS 動機づけモデルの活用～	227	9月14日(月)	四国大学・短期大学部
	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～	229	9月15日(火)	高知学園短期大学
	教職員のためのプレゼンテーション～説得力のある話し方、組み立て方～	232	9月17日(木)	今治明德短期大学
	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	234	9月18日(金)	愛媛大学
	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	236	9月24日(木)	高知県立大学・高知短期大学・ 高知工科大学
	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～	238	9月30日(水)	環太平洋大学短期大学部
	学生の学びを促すシラバスの書き方	240	10月8日(木)	松山大学・松山短期大学
	インストラクショナル・デザイン(ID/教育設計)を活用した企画・立案マネジメント	242	10月21日(水)	徳島大学
	プロジェクト・マネジメント入門	244	10月28日(水)	高知大学
	学生が輝くFDの実践事例	246	2月18日(木)	高松大学・高松短期大学
	SPOD内講師派遣年度末アンケート	249		
SPOD将来構想ワーキンググループ	254			
運営	総会関係	260		
	ネットワークコア運営協議会	262		
	各県内加盟校会議	298		

目 次

5 平成27年度活動実績

(1) FD事業

- ① 新任教員プログラムの開発, 実施 2
- ② 教育業績記録 (ティーチング・ポートフォリオ) の開発 52

(2) SD事業

- SDプログラムの開発, 実施 74

(3) SPODフォーラム 178

(4) SPOD共通事業

- ① SPOD内講師派遣 198
- ② SPOD将来構想ワーキンググループ 254

(5) SPOD運営

- ① 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会, FD/SD分科会 260
- ② ネットワークコア運営協議会 262
- ③ 各県内加盟校会議 298

5 平成27年度活動実績

(1) FD事業

①「新任教員プログラムの開発，実施」 資料

①新任教員プログラムの開発, 実施

新任教員研修プログラムの基準枠組対応表

国立教育政策研究所が作成した 新任教員研修プログラムの基準枠組			徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
学習領域	学習目標	実施 区分	研修名:授業設計ワークショップ	研修名:よりよい授業のための FDワークショップ	研修名:授業デザインワークショップ	研修名:学生の学びを支援する 授業の準備 (新任教員FDワークショップ)
			日程:2日間	日程:1泊2日	日程:1泊2日又は3日間	日程:2日間
1. 大学コミュニ ティーについて の理解	1-1 大学に関する 基礎知識を得る。	各大学	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション
	1-2 同僚とのコ ミュニケーションをと る。	共通	「授業設計ワークショップ」研修全体を通して	「よりよい授業のためのFDワークショップ」 研修全体を通して	「授業デザインワークショップ」 研修全体を通して アイスブレイキング	「新任教員FDワークショップ」 研修全体を通して
2. 授業のデザ イン(目標設 定、実施計画、 成績評価)	2-1 授業デザ インのための基礎知識 を得る。	共通	講義・ワーク「アクティブ・ラーニング」 講義「成績評価の仕方」 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 体験「模擬授業の実施と解説」 講義・ワーク「授業計画」	グループワークⅠ「学生の考える良い授業」 講義Ⅰ「シラバスの書き方」	講義Ⅰ「何が学生の学びを促進するのかわか るのか?」 講義Ⅱ「シラバスの書き方」 講義Ⅲ「コース設計とクラス設計」	グループワークⅠ「良い授業とは?」 ミニレクチャーⅠ「目標設定と授業計画、 シラバスの書き方」
	2-2 授業デザ インのためのスキルを修 得する。	共通	講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 体験「模擬授業の実施と解説」 講義・ワーク「授業計画」	グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」	グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」 グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」	グループワークⅠ「良い授業とは?」 グループワークⅡ「共通教育科目の開発①」
3. 教育の実 践	3-1 教育実践に 関する基礎知識を 習得する。	共通	講義・ワーク「アクティブ・ラーニング」 講義「成績評価の仕方」 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 体験「模擬授業の実施と解説」 講義・ワーク「授業計画」 模擬授業実施	講義Ⅱ「様々な授業方法」	講義Ⅰ「何が学生の学びを促進するのかわか るのか?」 講義Ⅳ「様々な授業方法」	ミニレクチャーⅡ「様々な授業形態、それぞ れのメリットとデメリット」
	3-2 学習者中心 の授業および学習 支援を実現し、学生 の学習を促進する。	共通	講義・ワーク「アクティブ・ラーニング」 講義「成績評価の仕方」 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 体験「模擬授業の実施と解説」 講義・ワーク「授業計画」 模擬授業実施	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 「中間発表」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」
	3-3 学生と適切な コミュニケーションを とる。	共通	講義・ワーク「アクティブ・ラーニング」 講義「成績評価の仕方」 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 体験「模擬授業の実施と解説」 講義・ワーク「授業計画」 模擬授業実施	講義Ⅱ「様々な授業方法」 グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	講義Ⅰ「何が学生の学びを促進するのかわか るのか?」 講義Ⅳ「様々な授業方法」 グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 「中間発表」 「模擬授業」	ミニレクチャーⅢ「様々な授業形態、それぞ れのメリットとデメリット」 ミニレクチャーⅣ「コース設計とクラス設計」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」
4. 成績の評 価、フィード バック	4-1 教育の評 価やフィードバックに 関する基礎知識を 得る。	共通	講義・ワーク「アクティブ・ラーニング」 講義「成績評価の仕方」 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 体験「模擬授業の実施と解説」 模擬授業実施	講義Ⅲ「よりよい成績評価のために」	講義Ⅴ「学習評価の基本」	ミニレクチャーⅤ「様々な成績評価、その目 的と方法」
	4-2 適切な成績 評価およびフィード バックを行う。	共通	講義・ワーク「アクティブ・ラーニング」 講義「成績評価の仕方」 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 体験「模擬授業の実施と解説」 模擬授業実施	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 「中間発表」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」
5. 教育活動の 自己改善・キ ャリア開発、教育 開発	5-1 授業改善・ キャリア開発や教育 開発に関する基礎 知識を習得する。	共通	模擬授業準備、実施 模擬授業の振り返り プログラムのまとめ	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 「中間発表」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」
	5-2 自己改善・ キャリア開発や教育 開発のためのスキル を修得する。	共通	模擬授業準備、実施 模擬授業の振り返り プログラムのまとめ	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 「中間発表」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」

平成27年度徳島大学FD推進プログラム
「授業設計ワークショップ」実施要項

1 目 的

各大学における教育の質向上への課題が高まる中、実質的なFDの取り組みを進めるための全学FD推進プログラムの一つとして、本ワークショップを毎年実施しています。このワークショップでは、教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善を重視しています。また、授業について教員同士が学び合う場を提供する事で、教育の質向上のためのコミュニティ形成につながることを期待しています。

2 目 標

1. FD活動の理念、活動計画を理解することができる
2. 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得することができる
3. 授業研究の仕方を理解し、実践することができる
4. FD参加者同士の仲間づくりができる

3 概 要

このワークショップでは、主に授業設計と教育技術に関する理論と実践を学んでいきます。主な活動内容は、シラバスと授業計画の作成、模擬授業です。体験を通して、授業の目的、到達目標の設定、授業実施の留意点、評価方法等について理解し、具体的な授業計画を立て、模擬授業を実施します。これらの活動を通してご自身の授業について考え、振り返ることで、実践的な教育力の向上を目指します。(ワークショップまでにシラバスと授業計画書を一度作成頂くこととなります。)

4 実施日 平成27年6月20日(土)・21日(日)

5 実施場所 共通教育棟6号館201(徳島大学大学開放実践センター2階)他
*参加人数によっては教室を変更する場合があります

6 研修プログラム 別紙のとおり

7 対象者 (1) 徳島大学

- ・学外より、講師または准教授採用後1年以内の教員
- ・学内で、助教から講師または准教授昇任後1年以内の教員
(ただし、所属が研究部以外のセンター等、病院の場合、及びプロジェクト採用などの場合は除く。)
- ・学部等から推薦を受けた者(助教及び教授等)及び希望者
- ・平成26年度「授業設計ワークショップ」欠席者

【参加免除について】以下に該当する場合、参加が免除されます。

- ①学外で同様の研修を受けた場合(他大学等での研修修了者については、研修内容等がわかる資料を提出の上、個別に対応する。ただし、原則「授業コンサルテーション」、3年以内に「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」への参加をすることとする。)
- ②診療業務を主に担当している場合

【研修の代替について】

やむを得ない理由により本研修を欠席する者で、SPOD*の同様の研修に参加した場合は、授業設計ワークショップの代替を認める。(ただし、原則「授業コンサルテーション」、3年以内に「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」への参加をすることとする。)

(2) SPOD*加盟校

SPOD加盟校の大学・短期大学・高等専門学校の新任教員(若干名)

*SPOD=四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

8 参加費 無料

9 その他 「授業設計ワークショップ」対象者は、原則「授業コンサルテーション」、3年以内に「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」への参加をすることとする。
※「授業コンサルテーション」の詳細は、
<http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/article/0000268.html> をご覧ください。
※「ティーチング・ポートフォリオ」の詳細は、
<http://www.teaching-portfolio-net.jp/> をご覧ください。

10 主 催 徳島大学FD委員会/四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

授業設計ワークショップ日程

第1日 (2015年6月20日・土曜日)

集合場所：共通教育6号館201 (徳島大学大学開放実践センター2階)

時刻	内 容	講師・担当者	備 考
9:00-9:30	・受付 (共通教育6号館201) *9:20までにお集りください		7:00AM 徳島市に「大雨警報かつ暴風警報」または「洪水警報かつ暴風警報」が出ていたら中止
9:30-10:00	(1) オリエンテーション ・はじめに (副学長より挨拶) ・進め方とスタッフ紹介 ・研修のねらいと意義	吉田博 (進行) 副学長 (教育担当) 高石喜久 FD委員会委員長 赤池雅史	教室：6-201
10:00-10:30	(2) アイスブレイク「課題・目標設定」 ・参加者自己紹介・交流	上岡麻衣子	教室：6-201
10:30-11:20	(3) 講義・ワーク「アクティブ・ラーニング」 ・アクティブ・ラーニングの理論と効果 ・学生の深い学びを促す問いかけ	久保田祐歌	教室：6-201
11:20-12:00	(4) 講義「成績評価の仕方」 ・成績評価の意義・方法	川野卓二	教室：6-201
12:00-13:00	休憩 各自で昼食		*生協休業
13:00-14:50 <途中小休憩含む>	(5) 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 ・学生の学習を促す授業方法 ・反転授業の理論と実践 ・学習を省察するポートフォリオの活用 ・シラバス・授業計画書の書き方	吉田 博 金西計英 宮田政徳	教室：6-201
14:50-15:00	休憩		
15:00-16:00	(6) 体験「模擬授業の実施と解説」 ・模擬授業の実施 ・学生の主体的な学習を促進する授業方法	川瀬和也	教室：6-201
16:00-16:10	休憩		
16:10-17:45	(7) 講義・ワーク「授業計画」 ・シラバス・授業計画書の修正 ・2日目の模擬授業の進め方について	スタッフ全員 吉田 博	教室：6-201
18:00-20:00	交流会 (任意参加)	吉田 博	生協食堂2階

第2日 (2015年6月21日・日曜日)

時刻	内 容	講師・担当者	備考
9:00-9:30	・集合、模擬授業準備 (教材印刷が必要な場合は9:00集合)	スタッフ	教室:6-201
9:30-12:10	(8) 模擬授業実施 (グループで実施) ・FD委員紹介、流れの確認 ・シラバス紹介、模擬授業実施、検討会 1人25分×4人 (休憩適宜) →チェックリストをもとによかった点、改善点等を検討する。	各班司会:FD委員 ワーク支援: スタッフ全員	集合:6-201 〈模擬授業実施手順〉 教室:各班グループ部屋へ移動 グループ分け、教室は別紙のとおり。
12:10-13:10	休憩 各自で昼食		*生協休業
13:10-13:40	(9) 模擬授業の振り返り ・模擬授業検討会を受けて授業の改善点 ・今後のアクションプラン	川野卓二 吉田 博	教室:6-201
13:40-14:20	(10) プログラムのまとめ ・講評 ・教育力開発コースの意義・内容 ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	吉田博 (進行) FD委員会副委員長 大橋 守 FD委員会委員長 赤池雅史	教室:6-201

平成27年度「授業設計ワークショップ」アンケート集計結果(回答数: 41名) 6月20日～21日開催

問番号	回答項目	大学	短期大学	高等専門学校	その他	未解答	合計
1-(1)	所属先	37	3	0	0	1	41

問番号	回答項目	国(国立大学法人)	地方自治体(公立大学法人を含む)	学校法人	その他	未解答	合計
1-(2)	所属先の設置者	34	0	6	0	1	41

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。	※下記に記述
-----------	----------------------------------	--------

2.参加への経緯について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
2-1	授業設計ワークショップの目的や内容についてある程度知った上で参加した	10	13	11	5	2	41
2-2	自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した	7	13	13	5	3	41
2-3	授業設計ワークショップの内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した	4	9	15	10	3	41

3.プログラムの設計について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
3-1	授業設計ワークショップの目的は明確に設定されていた	26	10	3	0	2	41
3-2	授業設計ワークショップは自分の業務に生かせる内容だった	24	12	3	0	2	41
3-3	授業設計ワークショップはわかりやすい順序ですすすめられた	20	13	6	0	2	41
3-4	授業設計ワークショップの時間は目的を達成するために丁度よい長さだった	9	18	6	6	2	41
3-5	授業設計ワークショップの実施時期は適当だった	15	13	5	6	2	41
3-6	参加者の人数は適当だった	18	19	2	0	2	41

4.講師について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
4-1	講師の言動は学習意欲を高めた	16	17	5	1	2	41
4-2	講師は研修に必要な知識を十分に持っていた	19	17	3	0	2	41
4-3	講師の用意した教材はわかりやすかった	19	11	9	0	2	41

5.研修の会場・スタッフについて		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
5-1	授業設計ワークショップ会場は快適な環境だった	30	8	1	0	2	41
5-2	授業設計ワークショップ会場には十分な設備が整っていた	31	7	1	0	2	41
5-3	スタッフは手際よく研修を運営していた	27	9	3	0	2	41

6.授業設計ワークショップについて		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
6-1	自分に必要な知識やスキルを身につけることができた	14	20	5	0	2	41
6-2	受講したことによって教育への取り組み方が改善されると思う	21	17	1	0	2	41
6-3	新たに人的なつながりをつくることができた	15	17	5	2	2	41

7.授業設計ワークショップ全体について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
7-1	授業設計ワークショップは全体的に満足できるものだった	19	14	6	0	2	41
7-2	授業設計ワークショップは期待を上回る内容だった	12	21	6	0	2	41
7-3	今後も、授業設計ワークショップを継続していきべきだと思う	20	13	5	1	2	41

自由記述	「授業設計ワークショップ」に参加してよかったと思われる点を、具体的にお書き下さい。	※下記に記述
	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。	
	その他、お気づきの点があればご記入ください。	

※下記に記述

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。
1	授業の手法を多く学び実践できるようにすること
5	e-learning
6	・多様な学生への対応スキル ・講義科目が実社会でどのように役立っているかを分かり易く伝えるスキル
8	・授業の進め方 ・資料作成法
9	学生との適切な問いかけ
10	全体の授業設計
11	喋ることについて自信がありません
12	学生とのアイコンタクトなどのコミュニケーションスキル
13	研究
14	学生をひきつけることができるしゃべり方
15	授業の種類と内容を理解する
16	・講義の方法 ・アクティブラーニング
17	学生とのやりとり
18	板書中の学生とのコミュニケーション・アイコンタクト
19	学生の興味を引き出す講義法
20	講義を行う学生さんのレベル、様子を的確に判断すること
21	学生に興味を持たせる方法
23	アクティブラーニングを上手く実施するためのスキル
24	・アクティブラーニングへの取り組み ・目標の明確化
25	Active Learningの知識の取得と導入
26	学生が本当に理解しているのかを判断
28	授業準備のスピードアップ
30	e-learning等新たな授業方法に関する事項
31	・単調な話し方、講義を改善する ・学生との相互交流ができるような方法を考える
32	学生を引き付ける話し方、講義の仕方
34	・教材作成のスキル ・学生の授業内容定着のためのプログラム作り
35	学生とのやりとり
36	講義の進め方
37	教育手法にバリエーションを持たせること
38	授業設計と種類
40	利用できるICT(ラーニングポートフォリオ等)の利用・理解
41	授業における伝達のテクニック

自由記述	「授業設計ワークショップ」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
1	・全く講義をしたことがない人にとっては必須であると思う。 ・他の教員の講義を聞けるのは大変参考になる。
4	他学部の人の考え方

自由記述	「授業設計ワークショップ」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
5	知らない授業方法を知る事ができた
6	・他の先生方の講義を聞く機会を得られたことは非常に良い経験でした。 ・自分の講義に取り入れたいアイデアを知る事ができた。
8	他の先生の授業を体験できるようになった。
9	・シラバスの書き方がよくわかった。 ・自分の講義の問題点が分かった。 ・教員間のつながりができた
10	・大学教育というものの認識、理解ができた。 ・Active Learningなど今後の授業。講義を含めたプレゼンテーションについて新しい知見を得る事ができた。
11	・目標・目的の明確化、シラバスの書き方 ・他の先生の授業を見る事ができた。すごく勉強になり、刺激となりました
13	・新しい取り組みを行う意欲がわいた ・他学部の先生方の講義は大変興味深く、様々な手法を教えて貰った
15	色々な授業の種類を知りました。すぐにできなくても、5年くらいで実施できそうだと思います。
16	疑似講義を通じて、自分の講義を見直す事ができた。講義にすぐに導入しようと思った
17	自分自身の授業の振り返りが良かった
18	模擬授業でコメントを頂けたこと
19	教育の方法論を体系的に話を聞ける
20	現場で実際に授業をしている先生方の意見を聞けたことです
21	・色々な授業手法を知る事ができたこと ・他の先生の授業を見る事ができた
22	学部が異なると、教育に対する思想が違うということが分かったこと
24	他の先生方の授業を知り、話し合うことで問題点・悩みなどを共有できた
25	Active Learningの方法について学べたこと
26	自分が受けてきた「授業」が最早通じないということが明瞭になった
30	自分の授業を客観的に評価していただいたこと
31	・授業で試してみたい手法。事例が多くあった ・模擬授業で素直な意見を得られた
32	授業改善のヒントを得た。特に授業の目標を学生に意識させること、EQTーク、反転授業の実施
34	・反転授業など細心の授業方法に関する知見が得られた。 ・模擬授業を行い評価されることで自分の授業を客観視できた
36	模擬授業は良かった
37	授業形態に様々なものがあることが分かった
38	授業を行うに当たって、色々な方法があることを知った
39	他の先生の授業を受講できたのはいい勉強になりました
40	・模擬授業で多くの先生の授業にふれることができ参考になった。 ・改善のための具体的な方法が理解できた
41	模擬授業で他人に見て貰ったり、他人の授業を見る事ができたことは大変役に立ちました

7自由記述	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
1	個別の資料(プリント等)が多いので冊子にするなどまとめるといいのではないのでしょうか
4	開催の時期を後期にしてもらいたい。学部によっては授業の数が5-7あります。初年度の前期は週末すら授業準備に追われている方々がいます。この時期にFDをすると準備がしっかりとできない状態で授業をしないといけません。これでは学生にも不利益だと思います。
6	より多くの先生の講義を見れた方が良いと思う
8	短期詰め込みで「何を学習したいか」が十分に消化しきれなかったため3日に分けてほしい

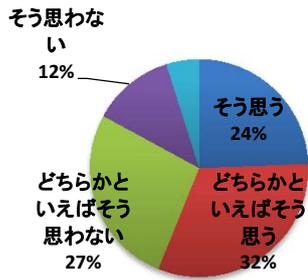
7自由記述	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
10	事前のe-learningを一部に行うことでしょうか。全部は多分見てこないでWSの目的・目標をたとえば文部科学省の方針や大学の最新の動向を踏まえた短い動画があれば良いかもしれません。たぶん研究所や病院勤務から来た人は教育やFDなどへの認識が薄いと思います
12	2日間は長すぎると思います。内容を吟味すれば1日で十分だったと思います。中途半端なワークショップは必要ないと思います
13	出来れば1日で終わらせてほしい。時期については学会シーズンを避けてほしい。殺人的スケジュールの中で参加しました
18	平日にしてほしい
19	8月、9月にすれば土日は避けられると思います。模擬授業は分野の近い人でまとめた方が指摘しやすい
20	新任だけの教育をしても意味がないと思います。失礼ですが、”既存の方でこのプログラムの受講を必要としない”としている先生方にこそ再教育があるだろうという先生が実際におられます。ここにメスを入れないと真の改善が成されないと思います
22	比較的近い目的意識の人をグループにする方が効果が高い(かも?)と思う
24	・時間短縮 ・事前の資料配布
25	要点を絞ってなんとか1日で終わった方がよい。数年後、費用的効果(学生は↑研究は↓でいいのか?)を検証し継続すべきは継続、短縮すべきは短縮、さらに進めるべきは進めよ(外部評価)
26	目的をプログラムの早い段階(通知のメールが来る前)にもっと周知した方がよい(プログラムの本気度が伝わりにくかった)
28	文科省の考え・指導のように数年もすれば役に立たなくなる情報よりも、本校の教育に必要な本質的な情報を増やしてほしい。Ex)ハラスメントの境界線、利用できる予算制度、表彰された授業例など
29	・I can't answer this survey, because it's in Japanese. (私はこのアンケートに答えられません。それは日本語で書かれているからです。) ・Next time send announcements in English. (for foreign/international participants) (次回からは(外国人の参加者のため)英語でアナウンスして下さい。) ・You don't need to translate everything to English... Keywords are enough. (全てを英語に直す必要はありません。キーワードだけで十分です。)
31	スケジュールが2日間ぎっしり詰まっているのはしょうがないとは思いますが1つ1つの講義がかなり駆け足で進んでいる印象を受けた。
32	もう少し多様なアクティブラーニングの手法を取り入れた講義があるとより参考になりやすいと思う。たとえば、せつかくの2日間のプログラムだから2日目のどこかまでに何かを予習させて反転授業っぽいものをするとか
34	指導方法をより具体的に見る事ができればよかった。学問分野ごとあるいは授業のタイプごとでグループが判れていればより自分の授業設計に有益であったと思う
38	詰め込みすぎ
39	WSの時間を短縮するためにe-learningの精度にした方がよいと思う。そうすれば模擬授業の時間のみで1日くらいでいいと思います。このWSを反転にできませんか?
40	細かい事ですが機器のチェックはしておいた方がよいと思います

7自由記述	その他、お気づきの点があればご記入下さい。
4	Active Learningの扱い方にかたよがりがあると思います。FDの話聞く限りActive Learningが神のように扱われているように感じました。授業の内容、科目の特色など様々な要素を考慮して適切な時にActive Learningを使用するというのが妥当な扱いではないだろうか。中身のないActive Learningを回避するためにもこうしたActive Learningの利点、欠点を考える事が本当の学習だと思います。
5	講師の先生のレクチャー内容が興味深く、分かりやすいものであった。
11	お世話になりました。貴重な体験となりました

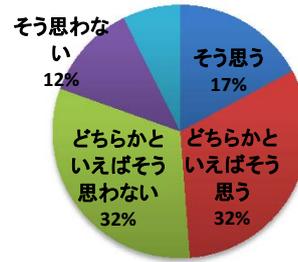
12	学部によっては求められるスタイルが異なると思いますので学部ごとに取り組まれてはいかがでしょうか。このワークショップのアウトカム(良い授業をすること？学生の就職率？人間性の形成？)が不明瞭なまま継続されない方が良いのではないのでしょうか
13	講師に昇任したひとではなく、役職を問わず講義を担当し始めた人、新年度から担当する予定の人が参加するべきだと思う。もっと早く受けたかった。
15	学会の締め切りが近い時の実施はやめて頂きたかったです
24	グループがずっと同じだったので途中でシャッフルしてもいいかも
26	一部はe-learningや反転授業による講義にして1日でプログラムを終了できるようにすればいいのでは？
29	Thank you for giving me the opportunity to participate in this workshop. It was a great learning experience. Unfortunately, I wasn't able to participate fully due to the language barrier. I think the organizers should prepare worksheets, announcements & information in English. If Tokushima University REALLY wants to GLOBALIZE, now is the time to start! (このワークショップに参加する機会を与えてくれてありがとう。素晴らしい学びの経験でした。残念なことは、言語の壁のせいで十分参加できませんでした。企画者はワークシートやアナウンスや情報を英語で準備すべきだと思います。もし徳島大学が本気でグローバル化したいなら、今がスタートする時です。)
31	スタッフの方々の配慮が隅々までいきわたっていてリラックスしながら過ごすことができました。2日間ありがとうございました。お疲れ様でした。
34	現状の教育に対する批判的な視座が欠けているように思われた
36	1日で終えたい
38	授業設計に慣れた先生もいれば、全くの素人(ex)シラバスの意味すら知らない先生との差がありすぎなので、前もって班割、プログラムの変更が必要だと思います
40	2日間ありがとうございました

※自由記述の番号は回答者が連動しています。

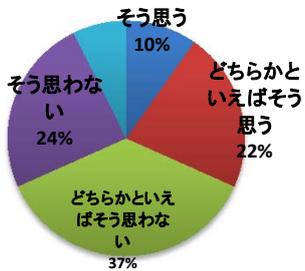
2-1 授業設計ワークショップの目的や内容についてある程度知った上で参加した



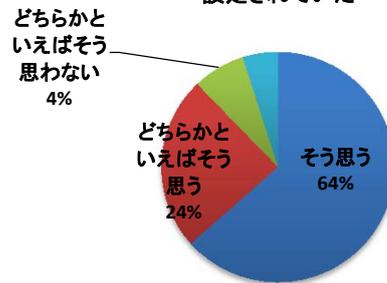
2-2 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した



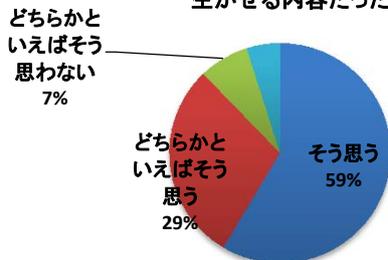
2-3 授業設計ワークショップ内容をすぐに活用しなければならぬ状況で参加した



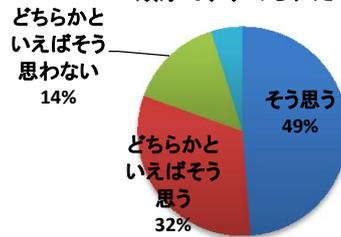
3-1 授業設計ワークショップの目的は明確に設定されていた



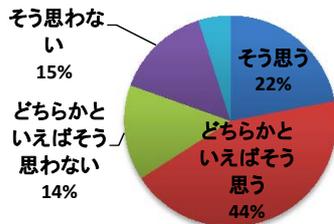
3-2 授業設計ワークショップは自分の業務に生かせる内容だった



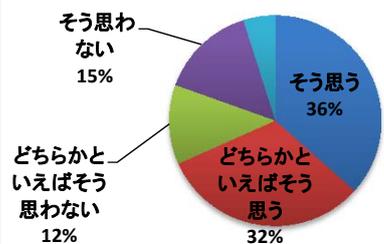
3-3 授業設計ワークショップはわかりやすい順序ですすすめられた



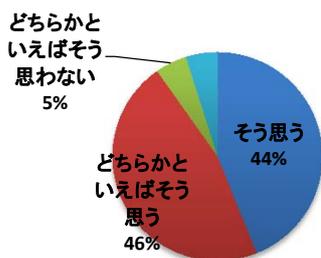
3-4 授業設計ワークショップの時間は目的を達成するために丁度よい長さだった



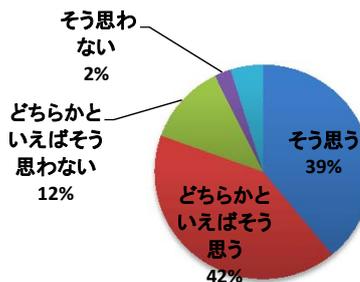
3-5 授業設計ワークショップの実施時期は適当だった



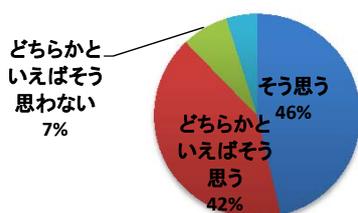
3-6 参加者の人数は適当だった



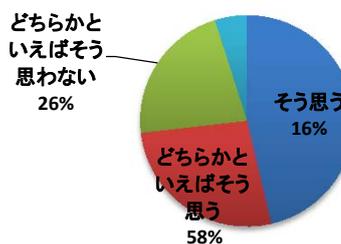
4-1 講師の言動は学習意欲を高めた



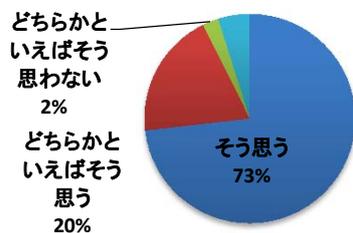
4-2 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた



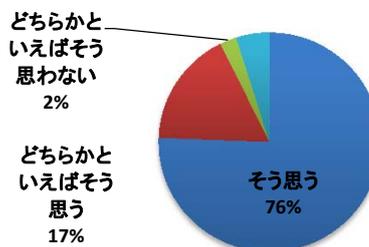
4-3 講師の用意した教材はわかりやすかった



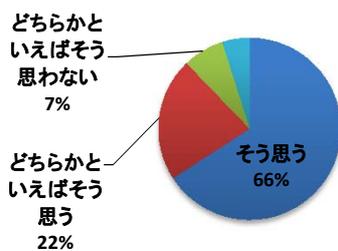
5-1 授業設計ワークショップ会場は快適な環境だった

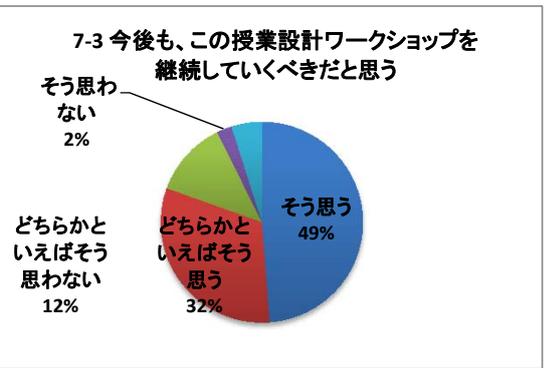
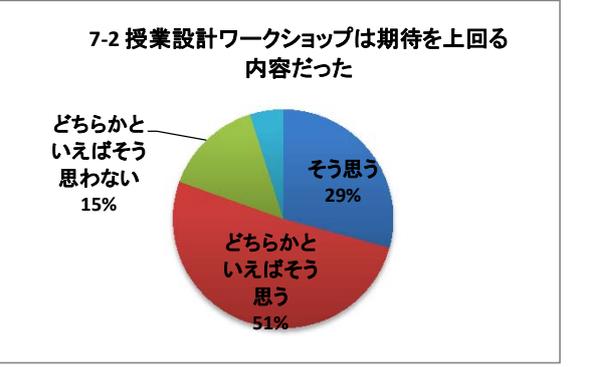
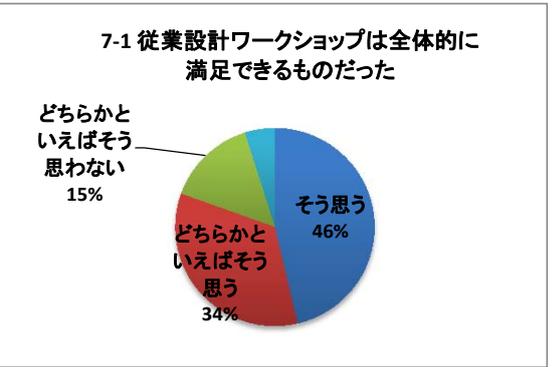
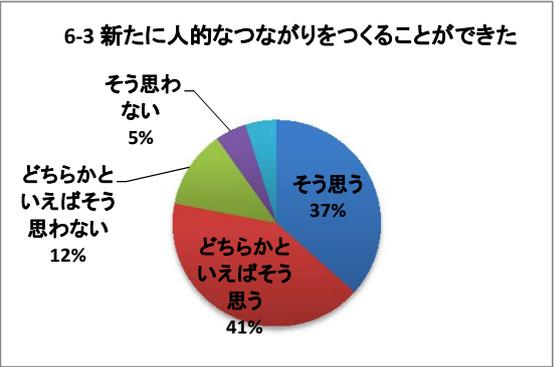
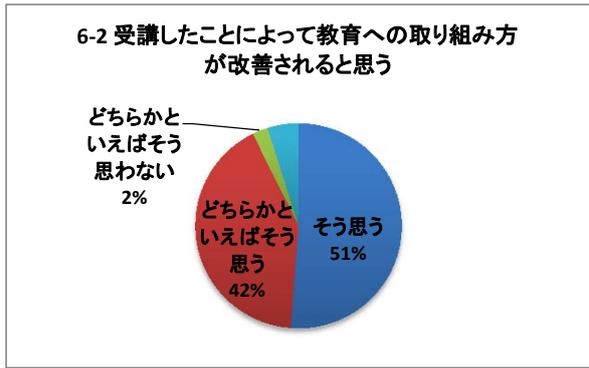
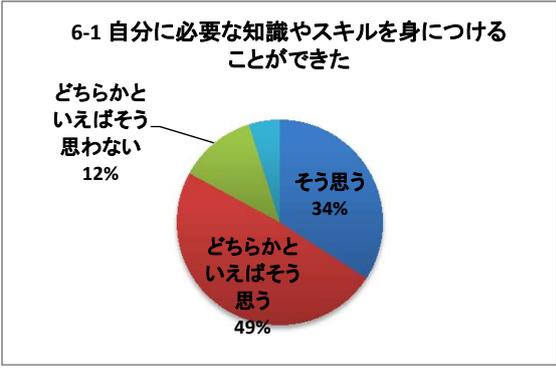


5-2 授業設計ワークショップ会場には十分な設備が整っていた



5-3 スタッフは手際よく授業設計ワークショップを運営していた





平成 27 年度 第 24/25 回 愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項

1. 主催

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室（教職員能力開発拠点）

「愛媛大学授業デザインワークショップ」は『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）』事業の一環である。

2. 期 日

第 24 回 平成 27 年 7 月 4 日（土）～7 月 5 日（日）久万高原ふるさと旅行村（宿泊研修）

第 25 回 平成 27 年 9 月 1 日（火）～9 月 3 日（木）愛媛大学城北キャンパス（通い型）

（同じ内容ですのでどちらか一方の参加となります。）

<第 24 回>

集合・出発時刻 1 日目 8:00 愛媛大学城北キャンパス正門前集合

8:10 出発（マイクロバスで移動）

※現地までは、原則として、愛媛大学から出発するマイクロバスでの移動をお願いします。

解散時刻 2 日目 15:20 愛媛大学城北キャンパス正門前解散

※詳細については以下のスケジュールをご参照ください。

<第 25 回>

集合・開始、終了時刻 1 日目 9 時 50 分集合、10:00 開始、19:30 終了予定（交流会含む）

2 日目 9 時 50 分集合、10:00 開始、17:00 終了予定

3 日目 8 時 50 分集合、9:00 開始、13:00 終了予定

※詳細については以下のスケジュールをご参照ください。

※上記日程でご都合が合わない方は、徳島大学、香川大学、高知大学においても同様の研修を実施しておりますので、そちらの研修にご参加ください。（詳細は 12 に表示）

3. 場 所

<第 24 回>久万高原ふるさと旅行村

〒791-1212 愛媛県上浮穴郡久万高原町下畑野川乙 488 番地 電話 0892-41-0711

URL:<http://www.kumakogen.jp/modules/furusatomura/>

<第 25 回>愛媛大学城北キャンパス

〒790-8577 愛媛県松山市文京町 3 番

<http://www.ehime-u.ac.jp/access/johoku/index.html>

4. 参加対象者（一度参加した者は除く）

- 1) 一昨年度から今年度にかけて大学等に採用された、授業担当または担当予定の教員（授業担当経験 5 年以上を除く）
- 2) 参加を希望する教員
- 3) 愛媛大学テニユア・トラック教員

5. 定員

<第 24 回>20 名程度

<第 25 回>20 名程度

6. 実行委員

弓削 俊洋（実行委員長、教育・学生支援機構長）

小林 直人（教育企画室長）

中井 俊樹（教育企画室教授）

仲道 雅輝（教育企画室講師）

清水 栄子（教育企画室講師）

村田 晋也（教育企画室講師）

丸山 智子（教育企画室特任助教）

加地 真弥（教育企画室特定研究員）

小林 忠資（教育企画室特定研究員）

濱元 悠子（教育企画チーム）

松本 章雄（能力開発室）

7. 目的

授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけます。

8. 目標

- 1) 適切な目的・目標設定ができるようになる。
- 2) わかりやすいシラバスを書けるようになる。
- 3) 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 4) 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 5) 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができるようになる。

9. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる学部 of 教員が、普段着で肩書きなしの対等な意見交換をすることで、学習効果を高めます。
- 3) 研修自体がグループ学習形式であり、学生参加型授業を体験します。
- 4) 全員が 10 分間の模擬授業を行います。

10. その他

- 1) 『愛媛大学 FD ハンドブック もっと!!授業を良くするために』第一巻（黄色い冊子）をテキストとして使用します。当日会場でお渡しします。
- 2) 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
- 3) 第 24 回（7 月実施）では宿泊いたしますので、洗面道具・ドライヤー・タオル・寝間着（パジャマ）・虫さされなどの常備薬、懐中電灯等をご準備ください。
- 4) 参加費として、第 24 回（7 月実施）は、8,500 円程度（宿泊費、食費、交流会費など）、第 25 回（9 月実施）は、5,000 円程度（食費、交流会費など）を当日会場で徴収します。詳細は後日お知らせします。
なお、ご都合により参加できなくなる場合は、1 週間前までに必ずご連絡ください。ご連絡がない場合は、参加費をご負担いただくことがあります。
- 5) 第 24 回（7 月実施）に参加する愛媛大学の教員は、出張扱いとなりますので、各部署の総務担当にお問い合わせ願います。また、愛媛大学正門から会場までのマイクロバスを運行しますので、ご利用ください。
- 6) 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行いますので了承ください。
- 7) 修了証書は、全日程に参加された方のみ授与されますので、あらかじめご了承ください。
- 8) 事前にアンケートをお願いすることになりますのでご協力お願いいたします。

11. お申し込み・問い合わせ

参加申込書（様式 1）によりお申し込みください。

<愛媛大学申し込み・問い合わせ先>

E-mail : opar@stu.ehime-u.ac.jp TEL : (089)927-8922 (担当 加地)

12. プログラム日程(宿泊研修の予定)

○第 24 回（7 月実施）スケジュール

9:30 現地到着

時刻	内容	講師・司会(予定)	場所
9:30-9:40	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い	小林 直人	ふるさと館 会議室
9:40-10:10	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク	加地 真弥	ふるさと館 会議室
10:10-10:40	(3) ミニ講義 I 「何が学生の学びを促進するのか」	清水 栄子	ふるさと館 会議室

10:40-11:10	(4) ミニ講義Ⅱ 「シラバスの書き方」 ・目標設定の立て方	仲道 雅輝	ふるさと館 会議室
11:10-11:50	(5) ミニ講義Ⅲ 「コース設計&クラス設計」 ・授業計画の立て方	仲道 雅輝	ふるさと館 会議室
11:50-12:00	(6) グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成	スタッフ全員	ふるさと館 会議室
12:00-13:00	集合写真撮影・昼食・休憩	—	村の茶の間 食堂
13:00-14:15	(7) グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成	スタッフ全員	ふるさと館 会議室
14:15-14:25	休憩	—	—
14:25-15:00	(8) ミニ講義Ⅳ「様々な授業方法」 ・講義形式のメリット・デメリット ・双方向型授業のコツ ・体験型授業 ・参加型授業	中井 俊樹	ふるさと館 会議室
15:00-16:00	(9) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 ・シラバス作成 ・授業計画と評価計画	スタッフ全員	ふるさと館 会議室
16:00-16:10	休憩	—	—
16:10-16:45	(10) ミニ講義Ⅴ「学習評価の基本」 ・学習評価の目的 ・評価の方法と評価対象	小林 直人	ふるさと館 会議室
16:45-18:00	(11) 中間発表 ・発表 3分 ・コメント 15分	スタッフ全員	ふるさと館 会議室

第Ⅱ部 1日目(夜) プログラム日程

時刻	内容	講師・司会	場所
18:00-19:00	夕食	—	ふるさと館 食堂
19:00-21:00	(12) グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・授業計画案作成 ※ミーティング(スタッフ)	スタッフ全員	ふるさと館 会議室
21:00-21:30	交流会	加地 真弥	ふるさと館 食堂
21:30-	ケビン移動・自由時間・お風呂	—	各ケビン

※シラバス&授業計画案の提出(～午前0時まで)

第Ⅲ部 2日目（朝・昼）プログラム日程

時刻	内容	講師・司会	場所
7:30-8:30	朝食	—	村の茶の間 食堂
8:30-10:00	(13) グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 ・ 模擬授業の練習 ※シラバス・フィードバック（スタッフ）	スタッフ全員	ふるさと館 会議室 2F 研修室
10:00-12:00	(14) 模擬授業（導入の10分） ・ 模擬授業 10分 ・ 討議・検討 15分	スタッフ全員	ふるさと館 会議室 2F 研修室
12:00-12:30	(15) 閉会式 ・ グループ作業の振り返り学んだことは何か？ （どう実践に活かすか？） ・ 修了証書授与 ・ 閉会の言葉	弓削 俊洋 小林 直人	ふるさと館 会議室
12:30-13:30	昼食	—	村の茶の間 食堂

13:45 現地出発予定

※内容等予定は変更になる場合がございます。

○第24回（9月実施）スケジュール

第Ⅰ部 1日目（朝・昼・夕）プログラム

時刻	内容
10:00-10:10	(1) オリエンテーション ・ 研修の目的・目標の確認 ・ スタッフ紹介とお願い
10:10-10:45	(2) アイスブレイキング ・ 自己紹介 ・ グループワーク
10:45-11:20	(3) ミニ講義Ⅰ「何が学生の学びを促進するのか？」
11:20-11:25	休憩
11:25-12:00	(4) ミニ講義Ⅱ「コース設計&クラス設計」 ・ 授業計画の立て方
12:00-13:00	集合写真撮影・昼食・休憩
13:00-13:35	(5) ミニ講義Ⅲ「シラバスの書き方」 ・ 目標設定の立て方
13:35-14:50	(6) グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ・ 目標設定 ・ 授業計画 ・ シラバス作成
14:50-15:00	休憩

15:00-15:35	(7) ミニ講義Ⅳ「様々な授業方法」 ・ 講義形式のメリット・デメリット ・ 双方向型授業のコツ ・ 体験型授業 ・ 参加型授業
15:35-17:00	(8) グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 ・ シラバス作成 ・ 授業計画と評価計画
17:30-19:30	交流会

第Ⅱ部 2日目プログラム日程

時刻	内容
10:00-10:35	(9) ミニ講義Ⅴ「学習評価の基本」 ・ 成績評価の目的 ・ 評価の方法と評価対象
10:35-12:00	(10) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 ・ 評価計画
12:00-13:00	昼食
13:00-14:25	(11) 中間発表 ・ 発表 3分 ・ コメント 10分
14:25-17:00	(12) グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・ 授業計画の立て方

第Ⅲ部 3日目プログラム日程

時刻	内容
9:00-10:00	(13) グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 ・ 授業の練習
10:00-12:30	(14) 模擬授業（導入の10分） ・ 授業紹介 ・ 模擬授業 10分 ・ 討議・検討 15分
12:30-13:00	(15) 閉会式 ・ 振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・ 修了証書授与 ・ 閉会の言葉

※昼食はお弁当を準備いたします。

※一日目の交流会はできる限りご参加ください。

※内容等予定は変更になることがあります。

12. 他大学における新任教員プログラムのご案内

- 1) 愛媛大学「授業デザインワークショップ」及び以下の徳島大学、香川大学、高知大学で開催されている新任教員プログラムは、四国地区教職員能力開発ネットワーク(SPOD)内で標準化されており、どのプログラムを受講しても同様の効果を得ることができます。
- 2) 以下のプログラムの受講を希望される方は各大学申し込み先にご連絡ください。
- 3) 以下のプログラムは、愛媛大学テニユア・トラック制度における PD 認定プログラムとして認定されています。受講する際は、別途、旅費等が必要になります。

◆徳島大学「授業設計ワークショップ」

【日程】6月20日(土)～6月21日(日)
【会場】徳島大学大学開放実践センター2階(6号館 201)
【申し込み先・問い合わせ先】
徳島大学総合教育センター(担当/吉田)
TEL:088-656-9865
E-mail:t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp

◆香川大学「よりよい授業のためのFDワークショップ」

【日程】9月17日(水)～18日(木)
【会場】休暇村讃岐五色台(香川県坂出市)
【申し込み先・問い合わせ先】
香川大学教育・学生支援室修学支援グループ
TEL:087-832-1153
E-mail:gakusenm4@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

◆高知大学「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ」

【日程】9月1日(火)～9月2日(水)
【会場】高知大学共通教育棟3号館1階310教室
【申し込み先・問い合わせ先】
高知大学学務部学務課
TEL:088-844-8652
E-mail:y-spod@kochi-u.ac.jp

第24回授業デザインワークショップ事後アンケート結果

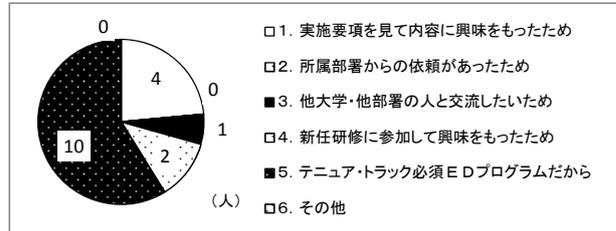
実施日 : 平成27年7月4日(土)～5日(日)
 実施会場 : 久万高原ふるさと旅行村
 参加者数 : 16名
 アンケート回答者数 : 14名(回収率87.5%)

所属先 : 4年制大学14名
 設置形態別 : 国立14名

【設問1】本ワークショップの参加の経緯についてお答え下さい

【1-1】ワークショップへの参加動機は何ですか<複数選択可>

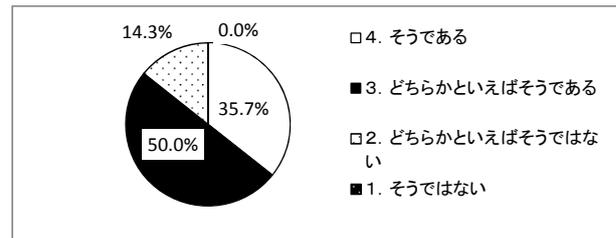
	回答数	割合
1. 実施要項を見て内容に興味をもったため	4	28.6%
2. 所属部署からの依頼があったため	0	0.0%
3. 他大学・他部署の人と交流したため	1	7.1%
4. 新任研修に参加して興味をもったため	2	14.3%
5. テンユア・トラック必須EDプログラムだから	10	71.4%
6. その他	0	0.0%



【1-2】1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

【1-3】ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

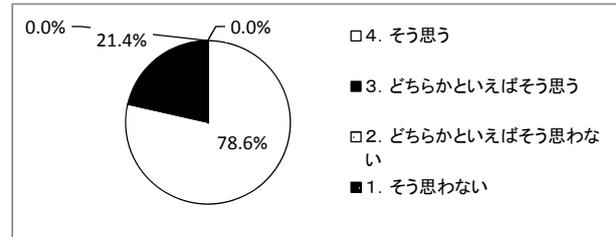
	回答数	割合
4. そうである	5	35.7%
3. どちらかといえばそうである	7	50.0%
2. どちらかといえばそうではない	2	14.3%
1. そうではない	0	0.0%
合計	14	100.0%



【設問2】本ワークショップの内容についてお答え下さい

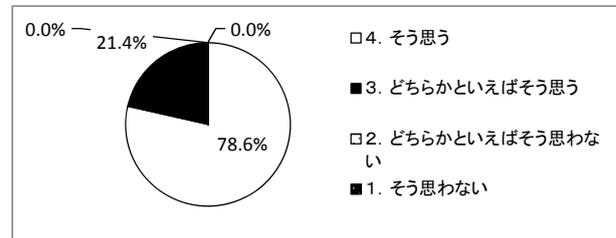
【2-1】ワークショップの目的は、明確に設定されていた

	回答数	割合
4. そう思う	11	78.6%
3. どちらかといえばそう思う	3	21.4%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



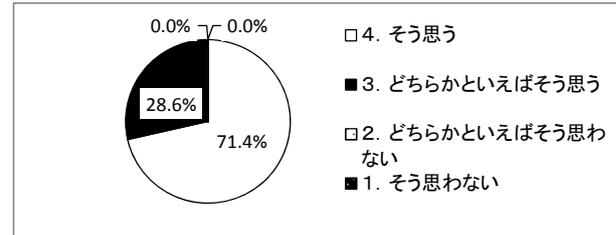
【2-2】ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

	回答数	割合
4. そう思う	11	78.6%
3. どちらかといえばそう思う	3	21.4%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



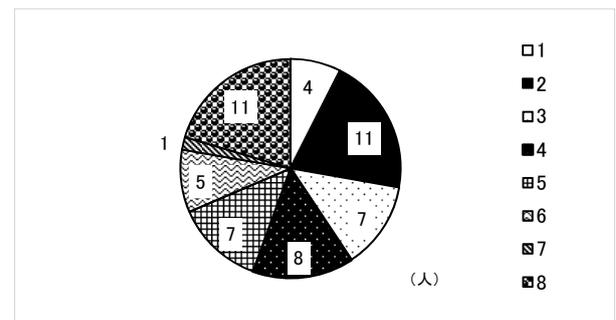
【2-3】ワークショップは、わかりやすい順序ですめられていた

	回答数	割合
4. そう思う	10	71.4%
3. どちらかといえばそう思う	4	28.6%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



【2-4】ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか<複数選択可>

	回答数	割合
1. 「何が学生の学びを促進するのか?」(浅い学習と深い学習)について考える機会を得た	4	28.6%
2. シラバスの書き方についての理解が深まった	11	78.6%
3. コース設計&クラス設計について理解が深まった	7	50.0%
4. 複数の授業方法について知ることができた	8	57.1%
5. 成績評価について理解が深まった	7	50.0%
6. 自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	5	35.7%
7. ワークショップの手法を知ることができた	1	7.1%
8. 他学部等の教員と知り合いになれた	11	78.6%
9. その他	0	0.0%

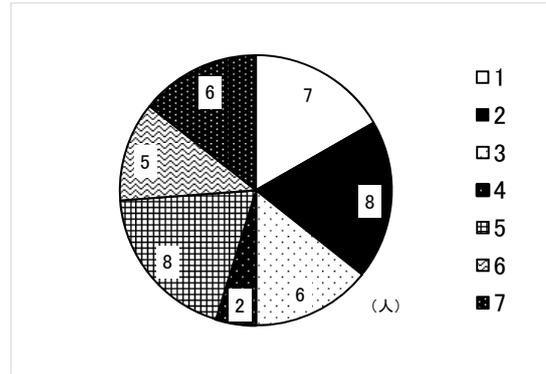


【2-5】2-4で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

【設問3】本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい

【3-1】ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>

	回答数	割合
1. 適切な目的・目標設定ができるようになるようになった	7	50.0%
2. わかりやすいシラバスを書けるようになるようになった	8	57.1%
3. コース設計・クラス設計について知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	6	42.9%
4. 深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	2	14.3%
5. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	8	57.1%
6. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	5	35.7%
7. 学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	6	42.9%



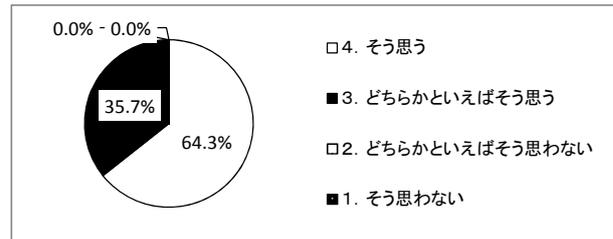
【3-2】ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字~400字程度)

→別添資料参照

【設問4】本ワークショップの研修環境についてお答え下さい

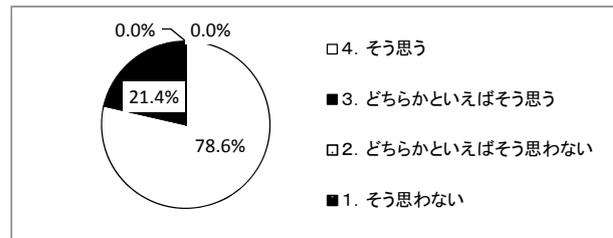
【4-1】講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
4. そう思う	9	64.3%
3. どちらかといえばそう思う	5	35.7%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



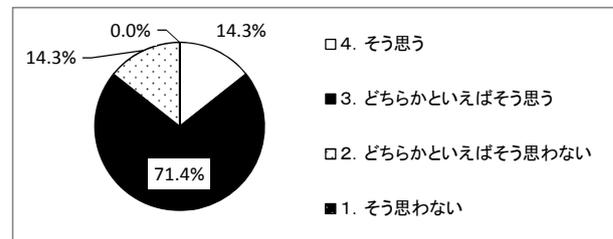
【4-2】事務局は手際よくワークショップを運営していた

	回答数	割合
4. そう思う	11	78.6%
3. どちらかといえばそう思う	3	21.4%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



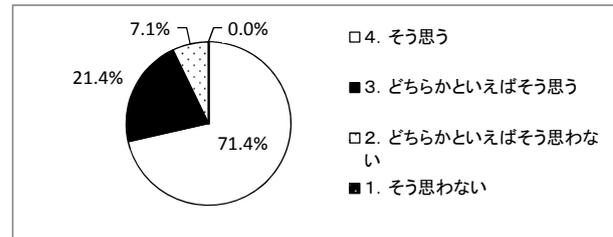
【4-3】ワークショップ会場は快適な環境であった

	回答数	割合
4. そう思う	2	14.3%
3. どちらかといえばそう思う	10	71.4%
2. どちらかといえばそう思わない	2	14.3%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



【設問5】本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

	回答数	割合
4. そう思う	10	71.4%
3. どちらかといえばそう思う	3	21.4%
2. どちらかといえばそう思わない	1	7.1%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

→別添資料参照

【3-2】 今回のワークショップであなただが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみてみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

ワークセッションで学んだ点	教育実践の場でやってみてみたい点
<p>学生の学びを高めるために学生参加のロールプレイングを取り入れると効果的であると学んだ</p> <p>ワークセッションで学んだ点</p> <p>シラバス作成については、シラバスが学生にとってだけでなく、教師にとっても自らの実践を計画する上で、また、これを振り返る意味でも大変重要な意味を持つ資料であることがよく理解できた。また、コース設計については、講義の目的、到達目標、講義ごとの目的、そして内容がそれぞれ一貫性・構造化をもって全体の講義を構成する重要性をよく理解できた。シラバスについてもコース設計についても、いわれればごくごく当たり前のことであるが、これまで自分ができていたかという点、全くできていない。これまでの自分の授業への向かい方を深く省察する良い機会となった。幸いにしてまだ自分が担当する授業が始まっていないため、次の機会は教わったことを基本的にシラバスを作ってみようと思う。</p>	<p>既に教育の場で取り入れられているが、学生の学びを高めるために学生参加のロールプレイングを取り入れることや学生による相互評価の有効性をさらに高めたい</p> <p>アクティブラーニングの手法は是非、教育実践の場で取り入れたい。ただし、授業法の講義で教わった手法を、実際に模擬授業でいくつか取り入れてみて、教師自身が「アクティブラーニングを通じて、学生にどのような問いについて考えてほしいか」について深く考えていないまま、小手先のテクニクとしてアクティブラーニングの手法を取り入れてしまうと、ただのゲームになってしまう危うさを感じた。コース設計やクラス設計をしっかりと考えた上で、そこに適切なアクティブラーニングの手法を埋め込んでいく思慮深さが重要であると感じた。今後、FD研修で各手法の講義があるようなので、是非参加したい。また、講義中で紹介された小道具セットはそれぞれかなりリアルなアイテムではあるが、それを使うことで既存の講義を改善できる可能性を感じた。是非使っていきたい。</p>
<p>私は今年から始めて授業を受け持つことになりました。自分が学生だったころも含めて、授業の準備、授業の方法、評価法など学んだことはまったくありませんでした。この一連の過程のすべてが私にとって新しいことでした。授業の準備・シラバス作成では、学生の視点で文章を作成することは重要であることを知りました。確かに自分自身で作成してみても、客観的に見たときに、これでどんな授業が行われるのか、どんなことが習得できるのか、わかりやすく解説する必要があるので、授業に理解できます。しかし、(必修)科目で、内容をどうであろうと授業に理解する必要があります。しかし、(選択)の場合はシラバスが唯一の判断基準となりますので、重要な情報源だと考えました。また、授業の(目的)と(到達目標)も明確にすることで、学生へのメリットだけではなく、自分にとってもどのような授業構成にするか考える基準となることがわかりました。授業方法は、こんなに方法があるのかと驚きました。私自身は講義形式の授業しか受講したことがありませんでしたので、様々な形態の授業方法を知ることができて勉強になりました。成績評価については、まだ経験がありませんが、授業を開始する前から詳細に考えておく、公開する必要があるので、私にとっては、どこに集中すればいいかわかりやすいこと、私にとっては、判断を公正にすることに加えて、判断をスムーズにできる点があると理解しました。方法論については、今後行われるセミナーで勉強させていきたいと思います。</p>	<p>特に気に入ったのは、Yes/No カードです。授業中に学生の反応を知るのに有用だと思いました。以前の授業では、学生に手を挙げてもらって、反応を見ましたが、誰も手を挙げてくれませんでした。おそらく、恥ずかしいとか、何か質問されるかもと考えたかもしれないです。私の担当の医学部の授業では、講義形式が多いので、私からの一方的な情報提供になってしまっているところを、このような方法によって、学生の意思をその場で確認できるツールとして有用だと感じました。</p>
<p>シラバス作成の手順、コース設計・クラス設計の手順や考え方について重要な点を認識することができた。階層分析や手順分析など、今後のシラバス改善や授業計画の改善に生かしていきたい。様々な授業方法の存在を知れただけでなく、模擬授業で他の受講者が実践しているのを見ることができ、その使用方法イメージも湧いた。</p>	<p>今回の模擬授業で用いた「マインドマップ作成」を自分の授業に取り入れてみたい。また、授業はじめにアイスブレーキングを導入し、話しやすい授業作りを心がけたい。早口になってしまっているのが自分の癖だと思うので、授業の中で重要なポイントは繰り返しなどとして、念を押す。学生への知識や考え方の定着を促進する工夫をしていきたい。</p>

教育実践の場でやってみたい点	ワークショップで学んだ点
<p>まだ習ったばかりの内容ですので、自分のなかでその教育効果が明確に理解でき、自信がついてから取り入れたいと思います。来年度授業計画の段階になってから、授業内容との兼ね合いでじっくりと考える予定です。</p>	<p>講師の先生方には熱心に指導をしていただき、さまざまなミニ講義を通じて、これまで知らなかった教育方法について学ぶことができました。また、同じグループのメンバーの方々がとても親切にして下さり、非常に助けられる場面が多くありました。良い教育とは何なのか、教育の本質とは何か、その意義とは何か。これらの問題は本当に難しいということを始め認識し、ますます悩みが増え、心の闇が深くなりました。貴重な機会をお与えいただき、どうもありがとうございました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・今回、「シラバスの書き方」という講義を通して、「目的」と「到達目標」の違いを理解することができたので、その点に注意しながら、「わかりやすいシラバス」を作成してみたいと思う。 ・これまでは、漫然と授業設計(コース・クラスともに)していたので、「クラスター分析」や「階層分析」といった手法を駆使しながら、「おいしい目玉焼き」が出来上がるような授業を組み立ててみたい。 ・せっかく「模擬授業」で「ロールプレイング」を試してみたので、実際の授業でも、他の授業方法を試してみたいと思う。それに「模擬授業」では講師のご意見をはじめとして、他の教員からも授業の工夫の仕方や話し方など、学ぶことが多かったもので、それを授業に取り入れたいと思う。 ・「学習評価」もこれまでは漠然と、点教順に「優良可不可」を付けていたが、学習成果(到達目標)を意識しながらの評価を心がけたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで中学・高校・大学で教えてきた経験があるため、授業自体に抵抗感はなく、また学生が「低年齢化」(言い方は悪いが)してきているため、高校までの教え方が大学でも十分通じる部分があった。しかし、このワークショップで学んだ「深イ学び」「シラバスの書き方」「コース・クラス設計」「様々な授業方法」「学習評価」といった、これらの講義は大学という高等教育に合致した内容であり、これから大学という場で授業を行っていくうえで、大変有益であった。 ・講義以外にも、グループで共同作業を行うことにより、他の分野の教員と交流を持つ機会が得られたとともに、同じテーマに対して「そのようなアプローチの仕方があるんだ」と関心させられた。これは教育面だけでなく、共同研究を行ううえでも役に立つのではないかと感じた。 ・宿泊という長時間をともにすることで、参加したメンバーと一体感を持つことができたため、今後、大学全体として何かに携わっていく際に、そのような他学部の教員との「つながり」の基礎を気づくことができたのではないかと思う。 ・私の出身大学では、このような研修は全くないので、新任教員にとっては非常にありがたい制度だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの書き方・価値を教授することの難しさ
<p>模擬授業では、複数の先生の授業の様子を少し見ることができたので、よかった点を自分も真似をしようと思う。模擬授業でのコメントも、ポジティブコメントやチャレンジングポイントとしていただけたので、自分も相手のモチベーションを高めるようなコメントができるようになりたいと思う。実践の場では、さまざまな手法を取り入れて、学生に飽きさせない授業ができたと思う。</p>	<p>授業のゴール、つまり、学生に身につけさせたい力、の明確化とその実現に向けて、バックワードデザインをすることが、授業に一貫性をもたせることになると思います。授業方法については、目的に応じて講義型を含めてそれぞれのよい点を効果的に選択することができるようになってきたと思います。コース設計・クラス設計とシラバスへの理解を深めることができました。学生にとっても教員にとっても分かりやすいシラバスの内容とその書き方について学ぶことができました。また、参加型の学習にするための教育方法を整理して学ぶことができたことは、今後の授業方法改善にも役立つと考えます。</p>

ワークショッップで学んだ点	教育実践の場でやってみていた点
<p>①「暗黙知」「経験値」として存在していた「シラバスの書き方」「成績評価」が「見える化」され、合理的・合目的にそれらを処理する手法を学んだ。</p> <p>②大教室での講義を担当するにあたって悩みの種であった「学生の反応」を引き出す技術について、具体的に知る事ができた。とりわけ模擬授業の際にいただいたコメント(赤青カードのメリット、拳手のデメリットなど)は参考になった。小さくかつ技術的なことではあるが、知ると知らないではやはり違う。</p> <p>③授業評価についても、大教室講義、とりわけ評価のやりにくい「人文系概論」でもルーブリック評価は使えそうで、これは是非実践したい。①②③を通じて、初任時に知っておくと「便利」な技を多く教示していただき、意義のある講習であったと感じる。</p>	<p>すでに記したが、②に関しては赤青カードや大きな指し棒の導入、③に関してはルーブリック評価は、すぐにも取り入れていきたい(もしくは作成してみたい)。</p>
<p>これまでシラバス内の「授業の目的」、「授業の到達目標」、「授業概要」についての書き分けが判然とできなかったが、シラバスに関する必要事項を学び、具体的に書くように、学生が主語となるように、到達目標を知識・技能・態度の三領域に書き分けるなどの具体的な指針を知ることができた。さらに、シラバスの模擬作成の際にこれらの指針を実践することでシラバスを書く際の作業の流れが明確に把握することができ、シラバス作成を大幅に効率化できたように思えた。</p>	<p>今回の模擬授業では「クリッカーの活用」を中心として授業を組み立てていったが、実際に授業を行う際には「クリッカーの活用」のみではなく、「バズ学習」や「シンク・ペア・シェア」等のグループワークについてもやってみてみたいと思った。しかしながら、今回のような大人数規模(～100人)を想定した場合、グループワークをただ単純に行うだけでは学生の集中力を保つことも難しいものと思われ、実際に大人数規模の授業を行うまでに集中力を保たせた上でグループワークに取り組みせる工夫について考えていきたいと思う。</p>
<p>シラバスの書き方、授業計画の書き方などが参考になった。また、グループワークの方法や成績評価法の具体的な方法を学ぶことができ、勉強になった。</p>	<p>簡単なグループワークであれば実践してみたいと感じた。</p>
<p>今年度初めて、1科目のなかの講義1クラスと技術演習1クラスを担当しました。授業案作成に苦勞しましたが、今回のワークでの学びを楽しみにしていました。課題分析図になじみがなかったのですが、分析図にすることで、授業の課題や流れが明確になることを感じました。次回授業案作成時に、課題分析図の活用を考えています。</p>	<p>レポートを課題にすると、その評価に教時間を要し、教員の負担も大きくなっていきます。今回紹介された授業方法にピア・エディティングがあり、グループワークのときも、ピア・エディティングの活用があまりありませんでした。自己の実践でも、活用できないか検討してみたいと思っています。</p>
<p>【学んだ点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生への配慮 <p>学生への配慮を一番大切にしているにもかかわらず、無意識のうちに配慮できていなかった自分にショックを受けました。授業だから、当たり前のようにいろいろなことを求めていたこと・押し付けていたことに反省するばかりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの先生への声かけ <p>同じグループの先生から、他の先生に対する声かけと配慮する姿勢を学びました。一人一人の先生を呼名しながら、話しかけたり、ヘルプを出しやすいようにされていた姿勢に学ばせていただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無意識にいろいろな動作をしていることに気付かされました <p>授業内で出されたこちらの意図しない意見の拾い方など、いままで気づかなかったことを指摘されて気づかされました。</p>	<p>【教育実践の場でやってみていた点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生への配慮を、授業前に再度意識してみる ・スタディスキルをつける授業方法を再検討してみる

【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

プロジェクトを使った講義や演習もよく行うので、ぜひ、プロジェクトをそろえたい。一方、手作りの備品を使った講義も新鮮でした。

まずはワークショップを設計していただいた教育企画室の皆様、お疲れ様でした。私は教職免許を持っていないので、これまで「どう教えるか」の思想や手法については、気になりつつも全く無頓着でしたが、本ワークショップを通じて多くの発見がありました。今後も積極的にFDに参加していきたいと思っております。ありがとうございました。借越ながら最初は「やる気のない人がいるとパフォーマンスが落ちる（グループのパフォーマンスを上げるのがこの研修の目的ではないし、やる気のない人がグループで出した結果にただ乗りされると感情的によりしくないので、グループワークじゃなくて、1人でやった方が良いんじゃないか」と思っていました。結果的にはグループで意見を出し合い、協力的に作業して、良い結果が得られました。

所属学部では、他学部の先生との交流はなかなか難しいですが、このような機会を通して交流がもめましたので、とても有意義でした。とくに、私は授業経験がありませんでしたので、先輩の先生からコツを聞くことができ、さっそく取り入れたいと思います。また、同じ立場の先生とは悩みなどを共有できて心強いと思いました。ワークショップ全体も講師の先生とスタッフの先生が綿密に計画されていて、非常に快適に受講できました。改めて、感謝申し上げます。蚊取り線香は、せまい空間ではおいが強烈だったので、別の器具でもよかったですか？ ケビンは非常にすばらしい建物でしたが、タオルやシャボンなどをもって来ませんでしたので失敗でした。書類かメールに必要事項として書いてありましたでしょうか？ 読み飛ばしてはいたしません。

お世話になりました。レクリエーションや最後のお見送りなど、スタッフの皆さんのご配慮を感じました。ありがとうございました。

スタッフの十分行き届いた配慮のおかげで、すばらしい企画を体験させていただきました。大変満足しております。もし可能であれば、初日（土曜日）の午前中に初めて顔を合わせたグループの交流を深める意味でも、せめて最初の食事（土曜日の昼ごはん）くらいは、企画室側がグループごとに席を固定させてもよいかなど感じました（もちろん、他の教員と交流する意味でも、土曜日のお昼以降の食事は自由な席でかまわないと思います）。あと、「ケビン」の部屋割りは大変「適切」だったと思います。私自身は法文学部ですが、教育学部の先生方と同じ部屋だったことで、同じ「文系」の教員が持つ悩みなどを語り合うことができました。そのような配慮をしていただいた企画室の皆様には感謝いたします。本日に2日間、スタッフの皆様にはいろいろとお世話になりました。大変すばらしい体験をありがとうございました。

いろいろと準備、ありがとうございました。模擬授業を実施してみて、もっと授業がうまくできるコツ（学生の興味関心を引くような授業の方法、話し方）も学びたいと思いました。研修場所ですが、伊方町の瀬戸アグリビアも、ロジックがきれいで快適で、景色も良く、おすすです。（大浴場もあります）模擬授業の場所等も確保できると思います。

ワークショップでは大変お世話になり、ありがとうございました。グループを組んで10分間の模擬授業を考えたいことは、たいへんよいことだと思います。それぞれの専門分野がかわらないようにテーマを与えてくださったのも納得できたものでした。模擬授業では主として目標にあわせてどのような授業方法を採用して進めていくかに焦点を当てるのだと考えておりましたが、グループ学習ではいろいろな内容を深く考えることに時間がかかってしまいました。あまり授業経験のない先生方のアイデアを生かして活躍してもらおうと考えていたのですが、私のほうでももう少しうまくマネジメントすればよかったかと反省をいたしました。土日の合宿を行うと、月曜日の授業に少々疲れを感じるのには年齢のせいですね。スタッフのみならずたいへんお世話になりました。ホスピタリティを感じました。ありがとうございました。

- ①天候不順のなか、諸準備そして講習を執行していただいたスタッフの方々にはお礼申し上げます。
- ②感想等はアンケートの通りですが、概論系授業の考え方・組み立て方に関する講習としては、大変実践的で有意義なものであったと考えます。
- ③全体として汎用性の高いものですが、「人文科学」「社会科学」「社会工学」系に特化した講習もあれば受講したいです（多分そのようなプログラムもあるのでしょうか）。例えば先日受講したサイエンスビジュアルライゼーションも理科系が想定されており大変役に立ったのですが、方法論が異なる部分もあるので、違和感も多少あります。いずれにせよ、今回の内容を自分の授業実践のなかでアレンジしていけばよい話なのですが。

スケジュール上難しいかもしれませんが、トイレ休憩等の時間があればよいと思います。

ハードでしたが、楽しく参加できました。1泊でしたので、学習以外にも、飲食や移動などの面でもお気遣いいただき、とても助かりました。また、スキルアップできるような機会がありましたら、参加したいと思っております。ありがとうございました。

このたびは、大変お世話になり、ありがとうございました。スタッフの皆様は、学ばせていただきましたとともに、大変居心地よく研修に参加させていただきました。他の大学の研修で、まったく知らない先生ばかりの中で、2日間気持よく過ごされたのも、全プログラムがよく練られているからだと思います。授業づくりに通じる姿勢を教えてくださいたいと思います。本当にありがとうございました。今後ともどうかよろしく願っています。

第25回授業デザインワークショップ事後アンケート結果

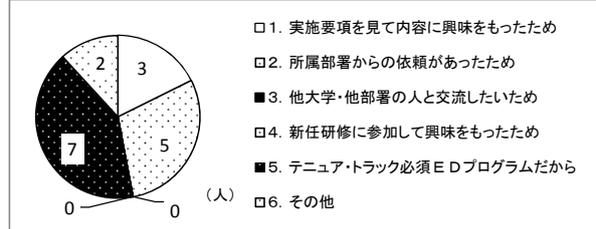
実施日 : 平成27年9月1日(火)~3日(木)
 実施会場 : 愛媛大学城北キャンパス
 参加者数 : 18名
 アンケート回答者数 : 17名(回収率94.4%)

所属先 : 4年制大学11名 設置形態別: 国立10名
 短期大学5名 公立1名
 専門学校1名 私立5名
 国立高等専門学校1名

【設問1】本ワークショップの参加の経緯についてお答え下さい

【1-1】ワークショップへの参加動機は何ですか<複数選択可>

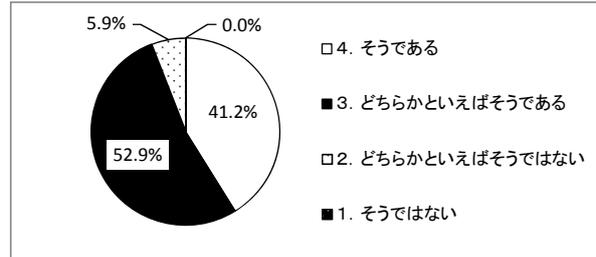
回答数	割合
1. 実施要項を見て内容に興味をもったため	3 17.6%
2. 所属部署からの依頼があったため	5 29.4%
3. 他大学・他部署の人と交流したため	0 0.0%
4. 新任研修に参加して興味をもったため	0 0.0%
5. テニユア・トラック必須EDプログラムだから	7 41.2%
6. その他	2 11.8%



【1-2】1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい
 先輩教員からのすすめ
 昨年新任だったが参加できなかったため

【1-3】ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

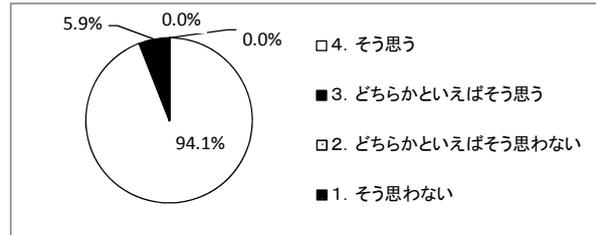
回答数	割合
4. そうである	7 41.2%
3. どちらかといえばそうである	9 52.9%
2. どちらかといえばそうではない	1 5.9%
1. そうではない	0 0.0%
合計	17 100.0%



【設問2】本ワークショップの内容についてお答え下さい

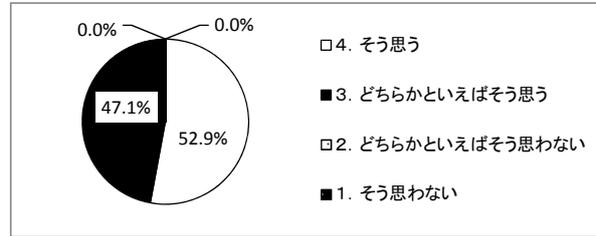
【2-1】ワークショップの目的は、明確に設定されていた

回答数	割合
4. そう思う	16 94.1%
3. どちらかといえばそう思う	1 5.9%
2. どちらかといえばそう思わない	0 0.0%
1. そう思わない	0 0.0%
合計	17 100.0%



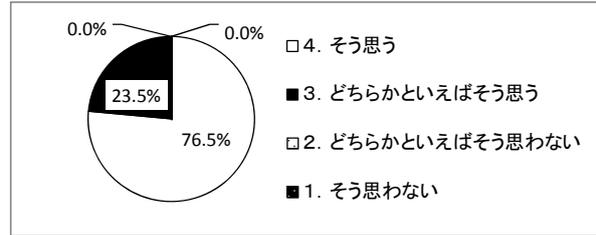
【2-2】ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

回答数	割合
4. そう思う	9 52.9%
3. どちらかといえばそう思う	8 47.1%
2. どちらかといえばそう思わない	0 0.0%
1. そう思わない	0 0.0%
合計	17 100.0%



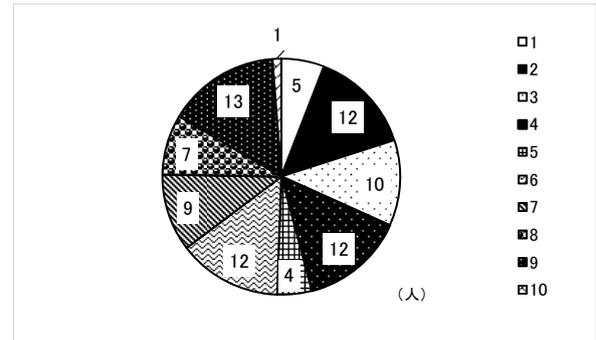
【2-3】ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた

回答数	割合
4. そう思う	13 76.5%
3. どちらかといえばそう思う	4 23.5%
2. どちらかといえばそう思わない	0 0.0%
1. そう思わない	0 0.0%
合計	17 100.0%



【2-4】ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか<複数選択可>

回答数	割合
1. 「何か学生の学びを促進するの何か？」について考える機会を得た	5 29.4%
2. シラバスの書き方についての理解が深まった	12 70.6%
3. コース設計(1科目の授業計画)について理解が深まった	10 58.8%
4. 複数の授業方法について知ることができた	12 70.6%
5. 成績評価について理解が深まった	4 23.5%
6. クラス設計(90分の授業計画)について理解が深まった	12 70.6%
7. 自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	9 52.9%
8. ワークショップの手法を知ることができた	7 41.2%
9. 他学部等の教員と知り合いになった	13 76.5%
10. その他	1 5.9%

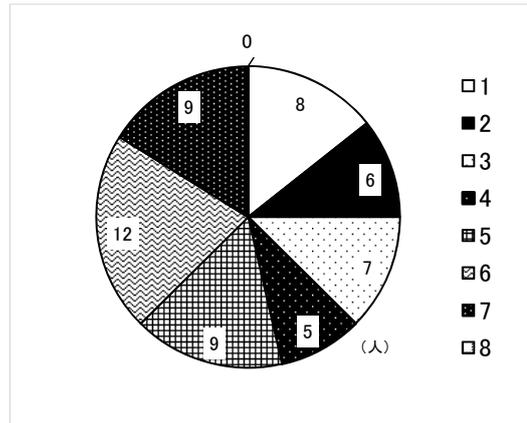


【2-5】2-4で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい
 抱いていた悩みが、自分だけのものか、新任教員共通のものか、知ることが出来た

【設問3】本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい

【3-1】ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>

	回答数	割合
1. 適切な目的・目標設定ができるようになった	8	57.1%
2. 「何が学生の学びを促進するか」について知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	6	42.9%
3. わかりやすいシラバスを書けるようになるようになった	7	50.0%
4. コース設計(1科目の授業計画)について知り、目的・目標にあった授業計画を立てることができるようになった	5	35.7%
5. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	9	64.3%
6. クラス設計(90分の授業計画)について知り、目的・目標にあった授業計画を立てることができるようになった	12	85.7%
7. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	9	64.3%
8. 学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	0	0.0%



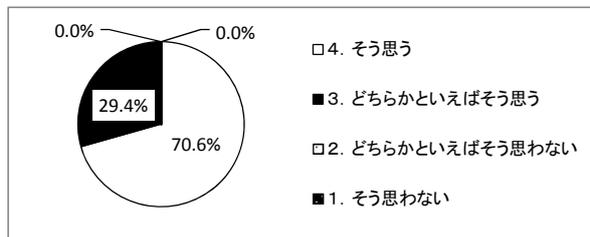
【3-2】ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字~400字程度)

→別添資料参照

【設問4】本ワークショップの研修環境についてお答え下さい

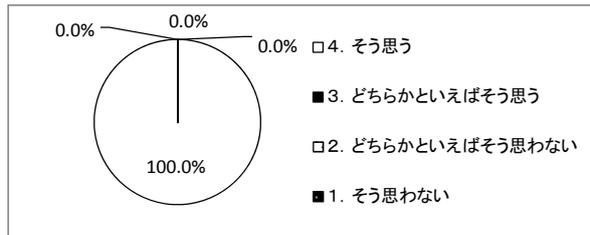
【4-1】講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
4. そう思う	12	70.6%
3. どちらかといえばそう思う	5	29.4%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	17	100.0%



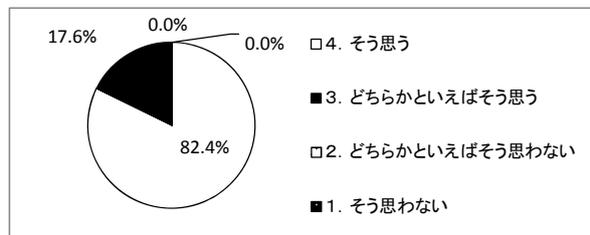
【4-2】事務局は手際よくワークショップを運営していた

	回答数	割合
4. そう思う	17	100.0%
3. どちらかといえばそう思う	0	0.0%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	17	100.0%



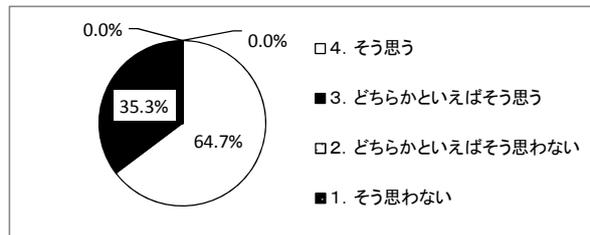
【4-3】ワークショップ会場は快適な環境であった

	回答数	割合
4. そう思う	14	82.4%
3. どちらかといえばそう思う	3	17.6%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	17	100.0%



【設問5】本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

	回答数	割合
4. そう思う	11	64.7%
3. どちらかといえばそう思う	6	35.3%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	17	100.0%



【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

→別添資料参照

【3-2】今回のワークショップであなただが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみてみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

ワークショップで学んだ点	教育実践の場でやってみてみたい点
よりよいシラバスの作成方法や授業計画・クラス的设计、様々なグループワークの方法について、特に学ぶところが多くあった。	シラバスは、すでに今年度は提出済みなので、後期の授業ではクラス設計のところを学んだことを反映したい。グループワークに関して学んだことは、ゼミの場で生かせると思うので、適宜取り入れたい。
学生目線での授業とはどういうものか、の一端を垣間見ることができた。	グループワークの効果的な活用を考えてみたい。
まだ1度しか授業をしたことがないので、今回学んだことはどれも実践できることだと思いました。自分の授業を振り返ってみると、ひたすら喋っていたと感じたので、進行途中に、理解度の確認を入れることは大切だと感じました。	私の担当する教科は、覚えることも重要な科目でもあり、また考える力も養っていく必要もあるため、グループワークなどを活用していきたいと感じました。
	オムニバスで授業を行うため、シラバスを書くことはないのですが、授業計画を書くことにはあるので、指摘していただいたことを踏まえて12月の授業を作りたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスのよりわかりやすい書き方が分かった。 ・自分の授業の改善点を模擬授業によって理解できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなグループワークの手法を今後授業で実践してみようと思う。
従来の講義では漠然と行っていた教育方法等の点が認識できた。	
丁寧な教えてくださり、授業を担当するにあたっての必要な知識と技術について理解が深まりました。実際にできるかどうかはわかりませんが、チャレンジしていきたいと思っています。	特に様々なアクティブラーニングの技法を教わりましたので、担当する教科で目的に合うものを選択し、是非試してみたいです。
現在、実技系と講義系両方の授業を担当しているが、講義系の中で学生たちにワークショップを科すことができそうな方法を学んだ。ただ、やり方を考えないと、一部のもとと知識を持っている者、熱心に事前に調査したことがある者が中心になる可能性も大きいと思った。そのような点を考慮しつつ、講義系の授業で徐々に取り入れたい。	
一方的な講義より、グループ作業を行う方が授業に意欲的に参加できるということを身をもって学んだ。今までシラバスを重要視していなかったが、それが間違っていた事に気付かされた。	様々な授業方法があるので、自分の担当する科目の特徴や学生人数などを考えて、適切な手法を取り入れていきたい。

【3-2】 今回のワークショップであなただが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみてみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

ワークシヨップで学んだ点	教育実践の場でやってみてみたい点
<ul style="list-style-type: none"> ・クラス設計の改善です。前期は90分間、話してできることしか頭の中にありませんでした。 ・模擬授業を通じて、指摘を受けた授業態度などの改善です。学生たちからも指摘を受けていたけど、改善方法がわかりませんでした。ワークシヨップ終了後、どのようになれば改善できるか、改善策が複数もてました。 	<p>知識伝達に特化した講義を展開していたので、学生参加型の手法を取り入れたいと思います。</p>
<p>授業デザインという言葉のとおり、「授業を組み立てる」ということに含まれるものを確認したり、あらたに知ったりしたことで、これからコースやクラスの設計をしやすくなったように感じます。</p> <p>さまざまな授業方法については、名前は知らなかったけれどもすでにやっているものもあり、よりそれを方法論として意識するようになったと思います。</p>	<p>これからの授業において、わかりやすいシラバスを用意してみたいです。また、評価リストも作ってみたいです。</p>
<p>各種グループワークを積極的に授業に取り入れていこうと思う。</p>	<p>授業の構成やシラバスの書き方、成績評価について、手法や教員が注意すべき点を具体的に学べた。また、模擬授業後の意見交換では、自分の講義について、「学生からどう見えるか」という観点から大変有益なアドバイスをもらえたように思う。</p> <p>グループワークの手法は、(そのままと使いくらいとしても)上手く工夫すればエッセンスを授業に組み込めそうなものが、いくつかあるように感じられて大変参考になった。</p>
<p>バズセッションやピアエディティングなど、似たような方法を行った事があり、それらのよりよい実施法と注意点、欠点について学べたので、今後の授業に活かして行きたい。</p>	<p>また、1時間の中においても講義だけでなく、今回学んだ様々な技法を用いて、学生が参加していく授業を組み立てていきたいと思った。</p>

【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

- ・まず初日は県外からの参加もあることから午後からの開始とし、終了をその分遅くすればどうか？交流会は7時半からのスタートにすればなんら問題ないのでは？
- ・交流会は大変重要と思うが、立食にし、できるだけ多くの交流ができるように工夫すべきでは。交流会こそ学長に参加してほしい。
- ・全体として満足のいく研修会であったが、学生に読んでもらったそのシラバスという視点では弱いように思う。精緻な、厳密な表現にこだわっても学生に伝わらなければ意味がない。
- ・今後は教育方法のプロの皆さんに、金を出しても買いたいと思わせるようなシラバスを追求していただければ幸いです。
- ・大変お世話になりました！

自分のグループでのメンバー間の交流は存分に図れたのだが、他グループの人が誰が誰であるのかが全く分からなかった。最初にグループ間だけでなく、名前と所属程度の自己紹介が全体であってもよかったのではと思う。

それ以外はとて満足しました。ありがとうございました。

アクティブラーニングについては大変理解が深まったので、もし機会があれば、パッシブだがよりわかりやすいいわゆる「講義」のコツを知れたらよいと思う。

運営担当の先生方はお疲れ様でした&ありがとうございます。

感想を率直に言えば、今回の講義の前提として、いわば”優等生”的な学生のみを対象にしていると感じました。

しかし、実際の教育現場では、計画的な方法論・実践以前の問題として、学生の授業態度などを受けて、教員側はフレキシブルな対応が迫られており、かつ困っている方が多いのが現実だと思います。

以上のような問題の改善・解決方法をレクチャーしていく事も求められるのではないかと感じました。（※愛媛大学では必要ないかもです。）

・専門する分野とまったく異なる先生方と、一緒にグループワークなどの作業を通し、交流を深めることができたのは、刺激にもなり、率直に楽しかったです。試行錯誤しながら模倣講義までたどり着けたことに、達成感を感じました。色々のご指導ありがとうございました。

・今後も、学びの継続として、研修には積極的に参加させていただきます。

これはここで提案しても不可能なことであろうが、シラバスの書き方などは、大学教員に採用されるまでに受けるべき授業であるように思う。実際、採用通知が1月初旬、1月末までにシラバスを記入、と連絡がきて、全く知識のないまま記入しているわけ。採用前にシラバスを記入するのはいいかたないものであるが、採用後半年後（わたくしの場合には1年半後）に受講し、すでに当該年度の後期までシラバスを記入しているわけで、正直なところ、この件に関しては少し疑問を持った。実際、昨年度、今年度も担当者よりシラバスを提出後、改定するように指導され、そのようなことを今さら何度も聞いたことをうかがっても得るものは多くはないように思う。授業の方法に関しては上述の通り、大変参考になった。

また、専門外の内容を10分で授業する、それを組み立てるのは興味深かった。従来から学生や外部で私が講師として話す内容で、「自分の専門に関して授業をできるのは当然。専門外のことであったとしてもどのように相手に相手をして15分間『もたせろか』ということは、教員にとつて必要な資質である。」と述べている。実際に、今回自分自身がつたたく門外漢の内容で授業を計画を行ったことは、非常に勉強になった。今回の経験は、今後の授業においても学生たちに披露できる内容であったように思う。

準備、実施、作業に当たられた方、どうもありがとうございました。

【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

緊張し、頭も使う作業の連続でしたが、アイスブレイクやチームの仲間との交流で、気持ち少し楽になりました。お茶やお菓子などは、最初はいらないのではと思いましたが、場をなごませてくれるツールとなりました。とても有意義なワークショップだったと思います。

参加者自身に考えさせるばかりでした。

考えたことについて、コーチ陣と意見を交換し、コーチ陣たちから「私(コーチ)は、このようにしている」などが、もっと厚く聞きたかったです。

ミニ講義やグループワークの過程で、いろいろな先生方の授業での実際のエピソードや工夫されていることを聞いたのがよかったです。ただ、人文学科の場合、「一定の知識を決まった期間で伝える」「特定の技能を身につけさせる」という授業内容でない分野も多くあります。その場合に、取り入れにくい部分もあるかなという気もしました。

講義(lecture)のよりよい方法についても学べたらよかったです。

お屋の手配やお菓子の準備等きめ細かい心遣いをありがとうございました。おかげで、グループ活動の休憩等ホッとした気分になりました。ありがとうございました。

高知大学 平成 27 年度学生の学びを支援する授業準備ワークショップ実施要項

1. 主催

高知大学 大学教育創造センター

2. 期日

平成27年9月2日(水)~9月3日(木)

9月2日 8:45~受付開始 9:00 ~ 17:00 (終了後 交流会 20:00頃まで)

9月3日 9:00 ~ 12:00

* 9月2日には、夕食をともにしながらの交流会があります。それぞれの部署を越えた新任教員間の関係づくりをめざしています。

3. 場所

高知大学朝倉キャンパス共通教育3号館 1階310番教室

4. 参加対象者(一度参加した者は除く)

1) 一昨年度から本年度にかけて大学等に採用された教員(授業担当経験5年以上の方を除く)

※大学での教育経験が5年未満の先生方を対象としておりますが、このご案内は、平成22年度以降に着任された方々でご都合により平成22~26年度の研修を受けておられない方すべてにお送りしております。

2) 上記以外で参加を希望する教員

5. 定員

40名

6. 運営スタッフ

塩崎 俊彦 (高知大学大学教育創造センター 教授)

立川 明 (高知大学大学教育創造センター 准教授)

竹岡 篤永 (高知大学大学教育創造センター 特任助教)

杉田 郁代 (高知大学大学教育創造センター 特任准教授)

俣野 秀典 (高知大学地域協働学部門 講師)

徳弘 英明 (高知大学学務課総務係)

高橋 智子 (高知大学学務課総務係)

7. 目的

授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけます。

8. 研修の目標

- 1) 適切な授業の目的・目標が設定できるようになる。
- 2) わかりやすいシラバスを書けるようになる。
- 3) さまざまな授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 4) さまざまな成績評価の方法を知り、目的・目標あった方法を選択できるようになる。
- 5) 学生参加型のグループワークを体験し、授業に取り入れることができるようになる。

9. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる学部の教員が、普段着で肩書きなしの対等な意見交換をすることで、研修効果を高めます。
- 3) 研修はグループ学習です。学生参加型授業を体験します。
- 4) グループごとに 10 分間の模擬授業を行います。

10. その他

- 1) 『愛媛大学 FD ハンドブック もっと!!授業を良くするために』第一巻をテキストとして使用します。
当日会場でお渡しします。
- 2) 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
- 3) 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行いますので、了承ください。
- 4) 修了証書は、全日程に参加された方のみ授与されますので、あらかじめ了承ください。
- 5) 参加費として夕食代、お茶代 1 5 0 0 円を徴収いたします。また SPOD 外からの参加の方は参加費が必要です。

11. お申し込み・問い合わせ

高知大学学務課総務係 【TEL】 088-844-8144 (直通) 【E-mail】 y-spod@kochi-u.ac.jp

12. プログラム日程

別紙資料参照

13. 他大学における新任教員プログラムのご案内

1) 高知大学および愛媛大学、徳島大学、香川大学で開催される授業デザインワークショップ、新任教員プログラムは、四国地区教職員能力開発ネットワーク (SPOD) 内で標準化されており、どのプログラムを受講しても同様の効果を得ることができます。

2) 以下のプログラムの受講を希望される方は各大学の申し込み先にご連絡ください。

◆愛媛大学「第24回愛媛大学授業デザインワークショップ」

【日程】7月4日(土)~7月5日(日)

【会場】久万高原ふるさと旅行村(宿泊研修)

【申し込み先・問い合わせ先】 e-Mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

◆愛媛大学「第25回愛媛大学授業デザインワークショップ」

【日程】9月1日(火)~9月3日(木)

【会場】愛媛大学城北キャンパス

【申し込み先・問い合わせ先】 e-Mail: opar@stu.ehime-u.ac.jp

◆徳島大学「授業設計ワークショップ」

【日程】6月20日(土)~6月21日(日)

【会場】徳島大学大学開放実践センター2階(6号館 201)

【申し込み先・問い合わせ先】 徳島大学総合教育センター(担当/吉田) e-Mail:t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp

◆香川大学 新任教員研修会「よりよい授業のための FD ワークショップ」

【日程】9月17日(木)~9月18日(金)

【会場】休暇村讃岐五色台(香川県坂出市)

【申し込み先・問い合わせ先】 香川大学教育・学生支援室修学支援グループ e-Mail:gakusenm4@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

2015 新任教員FDワークショップ スケジュール (別紙資料)

[日時] 2015年9月2日(水)・3日(木)

[会場] 高知大学 朝倉キャンパス共通教育 3号館 1階 310番教室

日程	時間	項目
1日目 9/2(水)	8:45	受付開始
	9:00	開会 高知大学 大学教育創造センター長 藤田 尚文 よりご挨拶
	9:10-9:40(30分)	オリエンテーション／アイスブレイキング「大好きマップ」
	9:40-10:10(30分)	グループワークⅠ「良い授業とは？」
	10:20-11:10(50分)	ミニレクチャーⅠ「目標設定と授業計画、シラバスの書き方」
	11:10-12:10(60分)	グループワークⅡ「共通教育科目の開発①(目標設定と授業計画)」
	12:10-12:30(20分)	ミニレクチャー「コースデザインの考え方」
	12:30-13:30(60分)	昼食 ※食堂や売店等をご利用ください。
	13:30-14:00(30分)	ミニレクチャーⅡ「様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット」
	14:00-14:50(50分)	ミニレクチャーⅢ「様々な成績評価、その目的と方法」
	14:50-15:00(10分)	休憩
	15:00-16:20(80分)	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②(授業計画と評価の方法・スケジュール)」
	16:30-17:30(60分)	グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」
	17:30-20:00頃	グループワークⅣ「共通教育科目の開発③(授業の計画・指導案)」 (お弁当を食べながらの交流会も含みます。) ※夕食は当方で手配いたします。
2日目 9/3(木)	9:00-9:50(50分)	グループワークⅤ「共通教育科目の開発④(最終発表準備)」
	10:00-11:00(60分)	グループ発表Ⅱ
	11:00-12:00(60分)	ふりかえり～今後に向けて～

学生の学びを支援する 授業準備ワークショップ

開催日
2015年
9/2(水)・3(木)

会場：高知大学朝倉キャンパス共通教育棟3号館1階310番教室
対象者：新任教員（大学での授業担当経験5年未満）および新たに大学の授業を担当する教員
交流会：1日目終了後

～お申込み～
平成27年8月20日（木）まで
宛先：裏面に記載

高知大学
朝倉キャンパス
共通教育棟
3号館1階
310番教室

※研修プログラムガイド2015に掲載しておりました開催日が、変更になっています。ご注意ください。

1日目 2015年9月2日(水)9:00～17:00

1. オリエンテーション/アイスブレイキング「大好きマップ」
2. グループワーク「良い授業とは？」
3. ミニレクチャー「目標設定と授業計画、シラバスの書き方」
4. グループワーク「共通教育科目の開発①（目標設定と授業計画）」
5. ミニレクチャー「コースデザインの考え方」
6. ミニレクチャー「様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット」
7. ミニレクチャー「様々な成績評価、その目的と方法」
8. グループワーク「共通教育科目の開発②（授業計画と評価の方法・スケジュール）」
9. グループ発表「グループワーク中間報告」
10. グループワーク「共通教育科目の開発③（授業の計画・指導案）」

※終了後 交流会（～20:00頃まで）

2日目 2015年9月3日(木)9:00～12:00

11. グループワーク「共通教育科目の開発④（最終発表準備）」
12. グループ発表
13. ふりかえり～今後に向けて～

学生の学びを支援する授業準備ワークショップ

1日目終了後の交流会について

1日目のスケジュール終了後、夕食をとりながら参加者の意見交換や懇親のための交流会を設定しております。

よって、1日目終了時刻は20:00ごろを予定しておりますので、ご了解下さい。

また、夕食代および研修中の飲料等の実費として、当日1,500円を徴収させていただきますので、ご用意くださいますようお願い致します。

大学教育創造センターでは、授業改善や新たな授業に取り組み教員のために、さまざまな支援を行っています。御相談、申込については、下段のメールアドレス宛にお願い致します。

授業相談／授業コンサルティングのご案内

授業をやっていく上での疑問やお悩みなどのご相談に対応しています。お気軽にお問い合わせください。

授業相談（シラバス・授業方法などについてご相談に対応します）

日時：4月13日（月）13:00～15:00

会場：共通教育棟1号館2階学務課会議室

また、授業開始後にも授業改善のための相談を実施します。下記を目途にお申込みください。

1学期 5月15日（金）まで

2学期 10月30日（金）まで

グループワーク授業OJTのご案内

本学が取り組んでいるグループワーク型授業について、実際に体験していただきながら、今後の指導のための理解を深めていただくために、当部門ではOn the Job Trainingを実施しております。下記の授業にOJT教員として参加していただき、グループワーク型授業の考え方や進め方などを経験することができます。

OJT対象授業（1学期開講分）

環境を考える：木曜4時限

課題探求実践セミナー（自由探求学習Ⅰ）：木曜4・5時限（隔週開講）

課題探求実践セミナー（学びを創る）：金曜4時限

*お申込み・お問い合わせ先

高知大学 学務課教育支援室総務係

〒780-8520

高知県高知市曙町2丁目5-1

Tel：088-844-8144

E-mail：y-spod@kochi-u.ac.jp

平成27年度高知大学セミナー表

日時		場所	研修	担当教員
9月2日(水) ～9月3日(木)	9:00 ～12:00	310	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (大学教育創造センター)
9月3日(水)	13:30 ～15:30	310	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ～考え方と進め方～	俣野秀典 (大学教育創造センター)
9月8日(火)	13:30 ～15:30	310	授業効果を高めるために授業の最初にすべきこと ～質問が出る教室づくり～	立川明 (大学教育創造センター)
9月30日(火)	13:30 ～17:00	農学部 (未定)	TA講習	立川明 (大学教育創造センター)
1月20日(水)	13:30 ～16:00	310 (予定)	学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (大学教育創造センター)
2月9日(火) ～2月10日(水)	10:00 ～17:00	310	ファシリテーション養成道場	俣野秀典・塩崎俊彦 (大学教育創造センター)
3月24日(木)	9:30 ～12:30	310 (予定)	初年次科目のためのグループワークの技法	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (大学教育創造センター)
3月24日(木)	13:30 ～18:00	310	能動的学習支援者必須！ グループワークのためのファシリテーション入門	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (大学教育創造センター)
3月25日(金)	13:30 ～15:30	310	授業効果を高めるために初回の授業ですべきこと ～受講生のやる気スイッチをONにする～	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (大学教育創造センター)
3月30日(水)	13:30 ～17:00	310 (予定)	TA講習	立川明 (大学教育創造センター)

開催場所<310：（朝倉）共通教育棟3号館1階310番教室>

SPOD研修アンケート集計結果

研修名 : 学生の学びを支援するための授業準備ワークショップ(新任教員FDワークショップ)

実施日 : 平成27年9月2日(水)~3日(木)

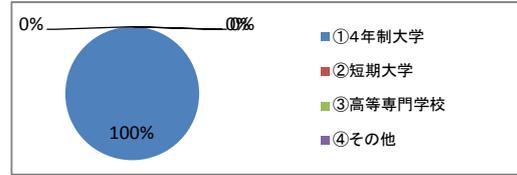
実施会場 : 高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟3号館1階310教室

参加者数 : 15名

アンケート回答者数 : 15名

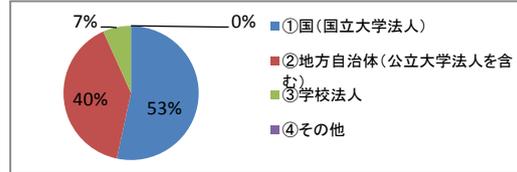
1-(1) 所属先

	度数	割合
①4年制大学	15	100.0
②短期大学	0	0.0
③高等専門学校	0	0.0
④その他	0	0.0
	15	100.0



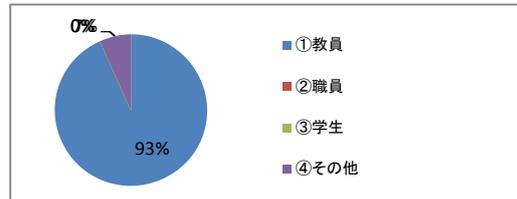
1-(2) 所属先の設置者

	度数	割合
①国(国立大学法人)	8	53.3
②地方自治体(公立大学法人を含む)	6	40.0
③学校法人	1	6.7
④その他	0	0.0
	15	100.0



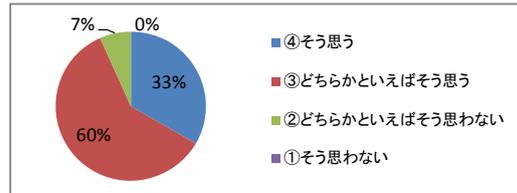
1-(3) 職種

	度数	割合
①教員	14	93.3
②職員	0	0.0
③学生	0	0.0
④その他	1	6.7
	15	100.0



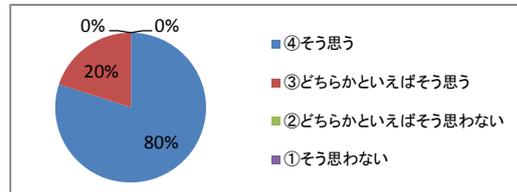
2-1 研修目的や内容についてある程度知ったうえで参加した

	度数	割合
④そう思う	5	33.3
③どちらかといえばそう思う	9	60.0
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	0	0.0
	15	100



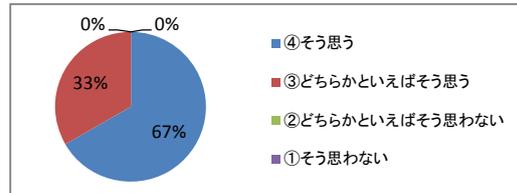
3-1 研修の目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	12	80.0
③どちらかといえばそう思う	3	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



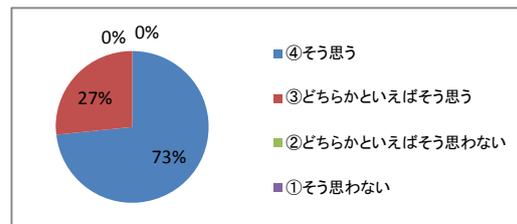
3-2 研修は自分の業務(教育改善)に生かせる内容だった

	度数	割合
④そう思う	10	66.7
③どちらかといえばそう思う	5	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



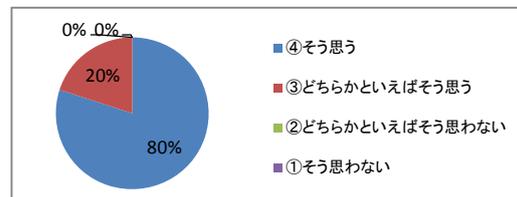
3-3 研修は分かりやすい順序で進められた

	度数	割合
④そう思う	11	73.3
③どちらかといえばそう思う	4	26.7
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



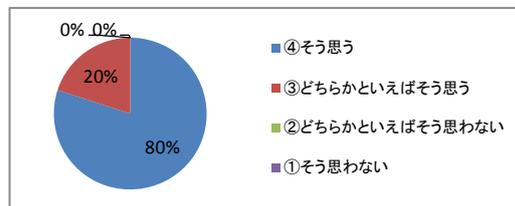
3-4 研修会場は快適な環境だった

	度数	割合
④そう思う	12	80.0
③どちらかといえばそう思う	3	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



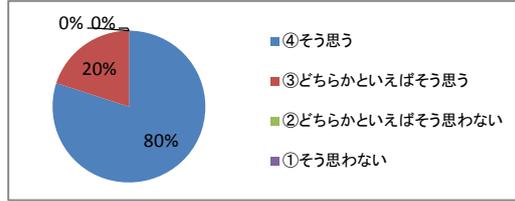
4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④そう思う	12	80.0
③どちらかといえばそう思う	3	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



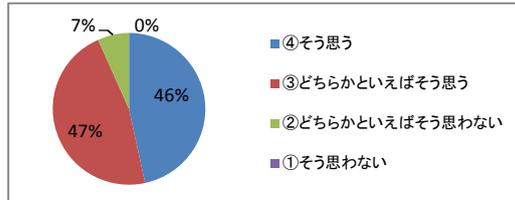
4-2 事務局は手際よく運営していた

	度数	割合
④そう思う	12	80.0
③どちらかといえばそう思う	3	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



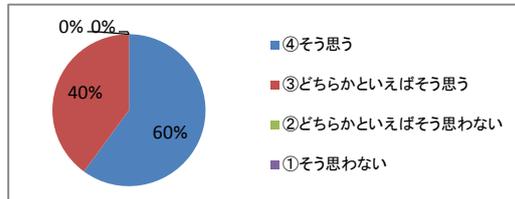
5-1 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④そう思う	7	46.7
③どちらかといえばそう思う	7	46.7
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	0	0.0
	15	100



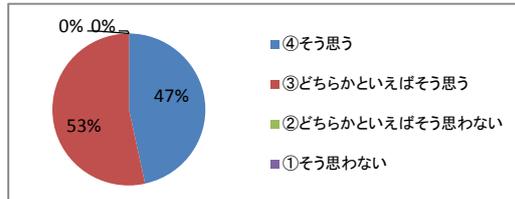
5-2 受講したことによって業務の取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④そう思う	9	60.0
③どちらかといえばそう思う	6	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



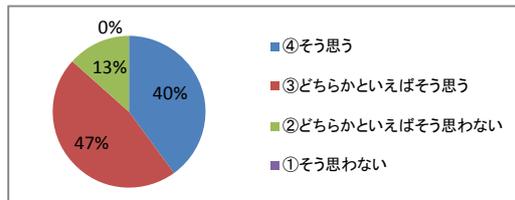
5-3 研修の内容は十分に理解できた

	度数	割合
④そう思う	7	46.7
③どちらかといえばそう思う	8	53.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



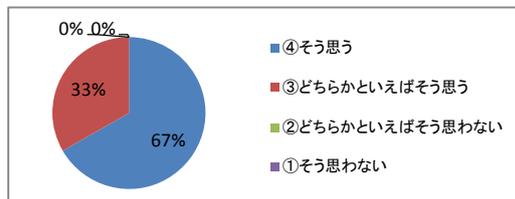
5-4 新たに人的なつながりをつくることができた

	度数	割合
④そう思う	6	40.0
③どちらかといえばそう思う	7	46.7
②どちらかといえばそう思わない	2	13.3
①そう思わない	0	0.0
	15	100



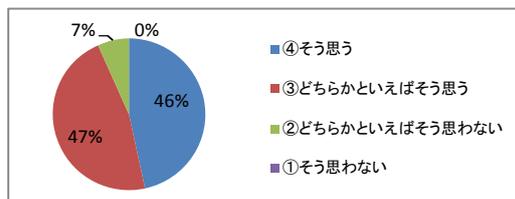
6-1 研修は全体的に満足できるものだった。

	度数	割合
④そう思う	10	66.7
③どちらかといえばそう思う	5	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



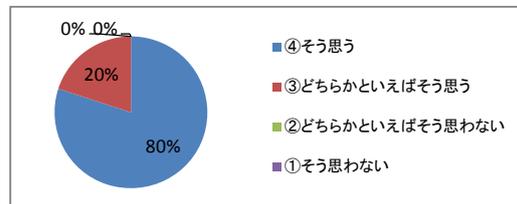
6-2 研修は期待を上回る内容だった

	度数	割合
④そう思う	7	46.7
③どちらかといえばそう思う	7	46.7
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	0	0.0
	15	100



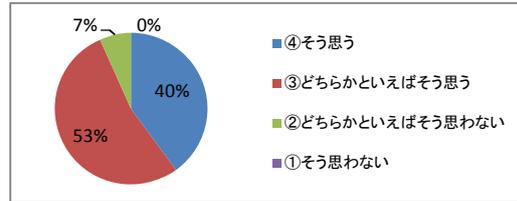
6-3 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	度数	割合
④そう思う	12	80.0
③どちらかといえばそう思う	3	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
合計	15	100



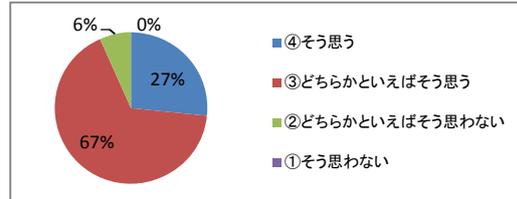
7-1 適切な授業の目的・目標設定ができるようになる

	度数	割合
④そう思う	6	40.0
③どちらかといえばそう思う	8	53.3
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	0	0.0
合計	15	100



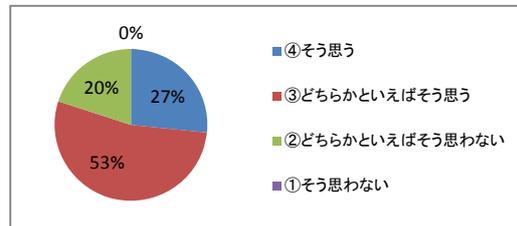
7-2 わかりやすいシラバスを書けるようになる

	度数	割合
④そう思う	4	26.7
③どちらかといえばそう思う	10	66.7
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	0	0.0
合計	15	100



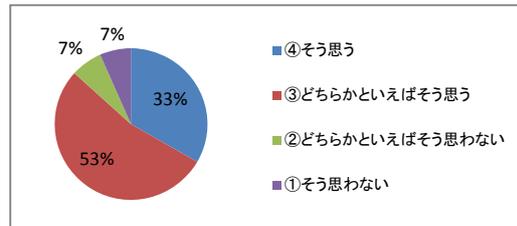
7-3 学習成果（ラーニング・アウトカムズ）を意識して授業デザインができるようになる

	度数	割合
④そう思う	4	26.7
③どちらかといえばそう思う	8	53.3
②どちらかといえばそう思わない	3	20.0
①そう思わない	0	0.0
合計	15	100



7-4 学生参加型のグループ作業を自らの授業で導入することができるようになる

	度数	割合
④そう思う	5	33.3
③どちらかといえばそう思う	8	53.3
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	1	6.7
合計	15	100



1-(4)本研修を知ったきっかけ・参加のきっかけは何ですか？
大学からの案内
SPODプログラム(冊子), 大学事務からのメール
学部内のアナウンス
所年次教員として必要知識を身につける必要があると紹介されたため。
大学のメーリングリスト
SPODホームページ
大学の案内
大学の案内メール
メールでの案内
新任教員への案内
学内のFD委員会からの案内
学内の掲示板
SPODのパンフ
所属先FD担当係よりお知らせがあり、学生評価の仕方を学びたくて参加を希望しました。
教職員グループウェア
1-(5)現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか？(具体的に)
グループワーク, アクティブラーニング運営能力
インストラクショナルスキル
グループワークのファシリの方法、バリエーションの多様さ
シラバスを作成し、実践するスキル
0
シラバス作成
グループワークの効果的な運営能力
シラバスにおける適切な評価の明示方法
シラバスの書き方でしたが、今回でアップできそうです。
プレゼンテーション
引きつけるプレゼン力
授業を進めるための方法やワークの手法
大人数講義の運営
とりあえず、評価指標の作成が最初にスキルアップしたいと思います。
ティーチング
8.研修ですぐに使ってみたいと感じたこと(アクションプラン)を、具体的にお書きください。
授業時間外学習に関する内容(予習への動機づけ)目標領域の明確化
授業外課題のしゅみをきちんとPlanしたい
シラバスの設計・目標・目的の明確化
目的と目標を分けて考える 評価について測定可能な尺度を基準に考え、具体案を作成する
シラバス作成
これまで前任の先生のシラバスをそのまま使っていました。シラバスじっくり書き直してみたいと思います。
シラバスの目的、目標を更に明確に整合性を持って書き直すこと
授業外学習の詳細な設定 2学期のシラバスの修正

まずはシラバスを作ってみたいと思います。
2日間ありがとうございました。 15コマのシラバスの構成を目標達成の視点からとらえなおしたいと思います。
授業の目的、達成目標、評価の相関関係を意識して授業をデザインしていこうと思います。
到達目標の設定
シラバスの書き方。 グループワークの手法
9.本研修を受講して良かったと思われる点や改善点、意見などを自由にお書きください。
授業内容改善に役立つシラバスの書き方(シラバスに準拠した授業設計)が分かった
人脈(ネットワーク)に感謝。準備, 運営etc 本当にありがとうございました。
特になし
シラバス使用用語が多少形式的・画一的な印象を受けた。 また「具体的」な表現については主観的相対的な面があり、多少主催者側との意識が相違していると感じた。
シラバスの重要性とシラバス作成時に気をつける点がよく理解できた。
ありがとうございました。
グループワークについての実践的アドバイスは大変参考になりました。有難うございました。
細切れに進んで行くのが気持ちよかったです。できれば説明の後ではなく、前にppt資料を配布いただければメモできるので助かります。
先生をお互いニックネームで呼ぶのにはどうしても慣れませんでした。 (私自身は”先生”と呼んだ方がコミュニケーションがスムーズになります)
夜のお弁当がおいしかったです。ありがとうございました。
雰囲気は大変良かった。 自分自身の”しゃべりすぎ”等、反省。
シラバスに書いた情報が不十分と気付くことができ、改善点も明確になった。

平成 27 年度香川大学新任教員研修会
『第 6 回よりよい授業のための F D ワークショップ』実施要項

1. 目的

授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループワーク形式で体験し、授業実践のために必要な能力を身につけることを目的とします。

2. 対象者

・香川大学

- 1) 一昨年度から今年度にかけて新規採用された、授業担当または担当予定の教員
(授業担当経験 3 年以上の教員、本ワークショップ受講修了者を除く)
- 2) 昨年都合により受講できなかった教員
- 3) その他参加を希望する教員

・S P O D 加盟校

参加を希望する教員

3. 日程

平成 27 年 9 月 17 日(木)～18 日(金) (1 泊 2 日)

(詳細は別紙日程表のとおり。)

4. 場所

休暇村讃岐五色台

(〒762-0015 香川県坂出市大屋富町 3042 電話 0877-47-0231)

5. 費用

研修の費用は無料です。

ただし、宿泊・食費等の実費を徴収します。(1 泊 4 食 約 12,000 円)

*SPOD 加盟校の旅費については、各大学・短大・高専でご負担願います。

6. 修了証書

研修修了者には、修了証書を授与します。

7. 主催

香川大学 大学教育開発センター

8. その他

この研修会は、S P O D (四国地区大学教職員能力開発ネットワーク) の研修プログラムとして、S P O D 加盟校に開放し実施します。

研修会の事務については修学支援グループ及び給与福利グループが担当します。

日程表プログラム日程

1日目 9月17日(木)

8:20までに香川大学北キャンパス 正門付近に集合

(敬称略)

時刻	内容	講師・司会	場所
8:20-9:15	送迎バス移動, 到着後受付		
9:15-9:30	(1) オリエンテーション ・開会あいさつ ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い		五色台の間 (中会議室)
9:30-10:00	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク	葛城 浩一	五色台の間 (中会議室)
10:00-10:30	(3) グループワークⅠ 「学生の考える良い授業」	西本 佳代	五色台の間 (中会議室)
10:30-10:40	休憩		
10:40-11:30	(4) 講義Ⅰ「シラバスの書き方」 ・目標設定の立て方 ・授業計画の立て方	葛城 浩一	五色台の間 (中会議室)
11:30-12:20	(5) グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成	スタッフ全員	五色台の間 (中会議室)
12:20-13:20	昼食		
13:20-14:10	(6) 講義Ⅱ「様々な授業方法」 ①学生参加型授業 ・グループ活動の基本 ・学生同士の話し合いを活性化する方法 ② クリッカーの使い方	西本 佳代	五色台の間 (中会議室)
14:10-14:20	休憩		

14:20-15:00	(7) 講義Ⅲ「よりよい成績評価のために」 ・成績評価の目的 ・評価の方法と評価対象	佐藤 慶太	五色台の間 (中会議室)
15:00-16:30	(8) グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 ・授業計画と評価計画	スタッフ全員	五色台の間 (中会議室)
16:30-16:50	休憩		
16:50-18:20	(9) グループ発表Ⅰ「中間発表」 ・授業計画のプレゼン ・質疑応答	5分×3 10分×3 石井 知彦	五色台の間 (中会議室)
18:20-19:20	夕食		
19:20-21:00	(10)グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 ・授業計画案作成	スタッフ全員	五色台の間 (中会議室)
21:00～	懇親会・入浴・自由時間		赤峰の間

2日目 9月18日(金)

時刻	内容	講師・司会	場所
7:30-8:00	朝食		
8:00-10:00	(11)グループワークV「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・役割決定 ・授業の練習	スタッフ全員	五色台の間 (中会議室)
10:00-12:00	(12)グループ発表Ⅱ「最終発表」 ・授業紹介 5分 ・ミニ授業 15分 ・討議・検討 10分	石井 知彦	五色台の間 (中会議室)
12:00-12:30	(13)閉会式 ・グループ作業の振り返り(学んだことは何か?どう実践に活かすか?) ・修了証書授与 ・閉会の言葉		五色台の間 (中会議室)
12:30-13:00	昼食(研修の振り返り)		

13:00 写真撮影・送迎バスにて香川大学まで・解散

SPOD研修アンケート集計結果

研修名:第6回「よりよい授業のためのFDワークショップ」

実施日:平成27年9月17日(木)から18日(金)

実施会場:休暇村讃岐五色台

参加者数:15名

アンケート回答者数:12名

設問1 本ワークショップへの参加の経緯についてお答え下さい。

1-1 ワークショップへの参加動機は何ですか

①新任研修に参加して興味をもったため	4
②実施要項を見て内容に興味をもったため	3
③所属部署からの依頼があったため	5
④他部署の人と交流したいため	
⑤その他	
合計	12

1-2 1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい。

授業をさらにより良くしたい

1-3 ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

①そうである	3
②どちらかといえばそうである	6
③どちらかといえばそうではない	3
④そうではない	
合計	12

設問2 本ワークショップの内容についてお答え下さい。

2-1 ワークショップの目的は、明確に設定されていた

①そう思う	11
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

2-2 ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

①そう思う	10
②どちらかといえばそう思う	2
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

2-3 ワークショップは、わかりやすい順序ですすすめられていた

①そう思う	9
②どちらかといえばそう思う	3
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

2-4 ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか<複数選択可>

①学生の考える良い授業・悪い授業について考える機会を得た	4
②シラバスの書き方について理解が深まった	11
③複数の授業方法について知ることができた	8
④成績評価について理解が深まった	5
⑤自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	5
⑥ワークショップの手法を知ることができた	7

⑦他学部等の教員と知り合いになれた	10
⑧その他	

設問3 本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい。

3-1 ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>

①適切な目的・目標が設定できるようになった	9
②わかりやすいシラバスを書けるようになった	7
③様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	5
④様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	4
⑤学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	5

設問4 本ワークショップの研修環境についてお答え下さい。

4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

①そう思う	11
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

4-2 事務局は手際よくワークショップを運営していた

①そう思う	10
②どちらかといえばそう思う	2
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

4-3 ワークショップ会場は快適な環境であった

①そう思う	9
②どちらかといえばそう思う	3
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

設問5 本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

①そう思う	10
②どちらかといえばそう思う	2
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

【自由記述欄】

3-2 ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書きください。

今回のワークショップに参加して、他の学問領域の先生方と交流させて頂き、様々な形態で知の展開がなされていることを身を以て知ることができました。
常日頃は、所属学科の中でしか授業に参加することがなく、学生たちにも実践的方法論を伝授することがほとんどです。
そのため、今回のワークショップのグループワークのような抽象度の高いピックスについて、授業設計して模擬授業を行う経験をさせていただき、
より幅の広い視野でシームレスな授業計画が必要だと強く感じました。
どのような学生にもよりわかりやすく聞きやすい授業を設計できるよう今回の学びをフルに活用させて頂きたいと思えます。

まず講義が30分と簡潔であった点が効果的だと思いました。
実際の授業でも講義形式を30分以上も続けると学生の集中力が目に見えて落ちるように思われる点からも、自分も説明はできる限り簡潔に、学生が活動や作業を行う時間をしっかり保証することが重要だと改めて感じました。
学生のコメントのグルーピング、シラバスの書き方、授業方法、成績評価の観点等、いずれもすぐに使えるものばかりで、自分の授業で取り入れたいと思えます。とても参考になりました。

目標は計測可能な項目にする。
スライドのはじめに本日の目標を入れる。
シラバスの作成方法を学べた。シラバスを考えておく側も授業構成がはっきりとして授業を実践しやすくなると思う。
協同学習の技法に記載してあるテクニック(文書作成のテクニックなど)は、ゼミ指導などで実践したいと思った。

体系的なシラバスの書き方を学ぶことができた。今後シラバスを書く際の基準が明確になったように思う。
また、学生にとってワークショップをおもしろいものにするには様々な工夫や下準備が必要であること、そしてその工夫のポイントについて、いくつかヒントを知ることができた。
グループごとに考える場合でも、意見をまとめるのか、出しっぱなしでいいのか等、いろいろあり得ることが分かり、
その授業(回)で何を習得できることが目的なのかと常に照らし合わせながら組み上げることが大切だと学んだ。
これまではマイクを持って教室を回り、意見を聞いたり、挙手をしてもらったりしていたが、コミュニケーションカード等のようなツールも使ってみたいと思う。

書かせることのなかに、もっと簡単にできるものがあるということも知って活かしたいと思った。
時間が足りなくて丁寧にできないところや、省略して今いがちなところも、工夫次第と、優先順位でできるようにしていきたい。

グループワークの評価について、大学はとてグループ数が多くなるので、困難さを感じていましたが、グループワーク評価の工夫として、「ピア評価」について教えていただきました。
たいへん有効な方法だと感じたので、早速、後期の担当講義で実践してみたいです。

沢山あるのですが、その中で特に印象に残ったことは、目的・目標を明確にすることです。
授業の目的・目標を明確に立てるのは勿論、学生に「どんな介護福祉士になって欲しいか」「何を学生生活の中で学んで欲しいか」という自身の目的や大きな目標も明確化した上で、学生に接していきたいと思えます。

設問6 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい。

・先生方がとてもあたたかい雰囲気、かつ熱心な指導をしてくださったので、2日間厳しい日程のように思われましたが、最後までがんばれました。
・参加している先生方も分野は違っていました、活動のなかでいろいろ学ぶところがあり、勉強になりました。

5 平成27年度活動実績

(1) FD事業

②「教育業績記録（ティーチング・ポートフォリオ）の開発」資料

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ実施要項

1 日 時：平成27年7月11日（土）～12日（日）

※詳細は別添スケジュール表のとおり

2 場 所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージズ3階 M32番教室 等

（オリエンテーション・TP作成作業等）

3 主 催：愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

4 目 的：ティーチング・ポートフォリオを実際に作成します。また、ティーチング・ポートフォリオを多くの教員に作成してもらうために、メンター養成を行います。

5 参加対象者：教員

6 メンター：松本 高志（阿南工業高等専門学校 教授）
（予定） 笹田 修司（阿南工業高等専門学校 教授）
奥本 良博（阿南工業高等専門学校 准教授）
吉田 博（徳島大学総合教育センター 講師）
Neil Heffernan（久留米大学文学部 准教授）
中山 晃（愛媛大学教育・学生支援機構英語教育センター 准教授）
長崎 睦子（愛媛大学教育・学生支援機構英語教育センター 准教授）
清水 栄子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 講師）
小林 直人（愛媛大学学長特別補佐、教育・学生支援機構教育企画室長 教授）
他

7 定 員：20名

8 その他：本ワークショップは、同時並行でアカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップを実施します。

TP作成WSスケジュール表（メンティー用）

	1日目(7月11日(土))	2日目(7月12日(日))	ワークショップ終了後
8:00			
8:30			
9:00		TP作成作業	
9:30	オリエンテーション+ 全体コメント及び作業指針	第2回個人ミーティング	第3校原稿提出締切 月 日() 時※
10:00	TP作成作業	TP作成作業	↓
11:00	第1回個人ミーティング	意見交換+昼食	
12:00	意見交換+昼食	第3回個人ミーティング	メンターよりメールにて コメント 月 日() ※
13:00	TP作成作業	TP作成作業	↓
14:00		第2校原稿確認	
15:00		TP披露 閉会式	第4校原稿提出締切 月 日() 時※
16:00			
17:00			
17:30			
18:00	情報交換会		
19:00			
20:00			
21:00			※提出日時はワークショップ の中でお知らせします。 提出ファイル名 「名前●稿No_日付」 例 shimizu3_0719 (第3稿7/19提出の場合)
22:00	原稿提出締切 22:00		
23:00			
0:00			

アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ実施要項

1 日 時：平成27年7月11日（土）～12日（日）

※詳細は別添スケジュール表のとおり

2 場 所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージズ3階 M32番教室 等

（オリエンテーション・AP作成作業等）

3 主 催：愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

4 目 的：アカデミック・ポートフォリオを実際に作成します。また、アカデミック・ポートフォリオを多くの教員に作成してもらうために、メンター養成を行います。

5 参加対象者：ティーチング・ポートフォリオを作成済みの教員

6 メンター：松本 高志（阿南工業高等専門学校 教授）

（予定） 奥本 良博（阿南工業高等専門学校 准教授）

小林 直人（愛媛大学学長特別補佐、教育・学生支援機構教育企画室長 教授）

他

7 定 員：5名

8 その他：本ワークショップは、同時並行でティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップを実施します。

AP作成WSスケジュール表（メンティー用）

	1日目(7月11日(土))	2日目(7月12日(日))	ワークショップ終了後
8:00			
8:30			
9:00		AP作成作業	
9:30	オリエンテーション+ 全体コメント及び作業指針	第2回個人ミーティング	第3校原稿提出締切 月 日() 時※
10:00			↓
11:00	AP作成作業	AP作成作業	
12:00	第1回個人ミーティング	意見交換+昼食	
13:00	意見交換+昼食	第3回個人ミーティング	メンターよりメールにて コメント 月 日() ※
14:00			↓
15:00	AP作成作業	AP作成作業	
16:00		第2校原稿確認	
17:00		AP披露 閉会式	第4校原稿提出締切 月 日() 時※
17:30			
18:00			
19:00	情報交換会		
20:00			
21:00			※提出日時はワークショップの中でお知らせします。 提出ファイル名 「名前●稿No_日付」 例 shimizu3_0719 (第3稿7/19提出の場合)
22:00	原稿提出締切 22:00		
23:00			
0:00			

平成27年度 ティーチング・ポートフォリオ, アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ(7月開催)アンケート集計結果

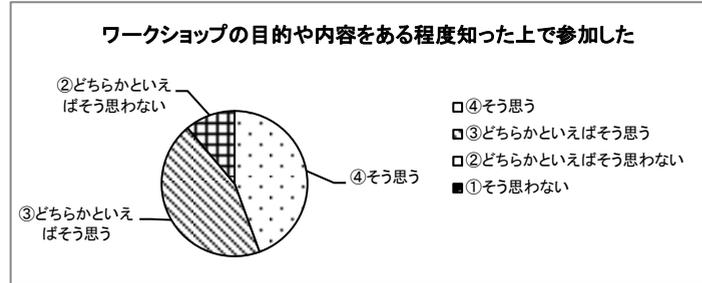
実施日:平成27年7月11日(土)~12日(日)
 会場:愛媛大学
 参加者数:20名
 回答者:18名

1. 参加者ご自身について
 省略

2. 研修参加の経緯について

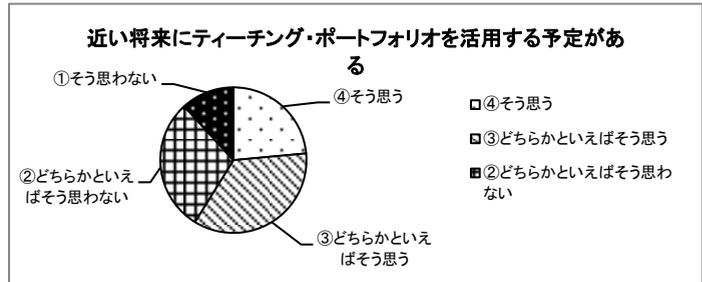
1. ワークショップの目的や内容がある程度知った上で参加した

	度数	割合
④そう思う	8	44.4
③どちらかといえばそう思う	8	44.4
②どちらかといえばそう思わない	2	11.1
①そう思わない	0	0.0
計	18	100.0



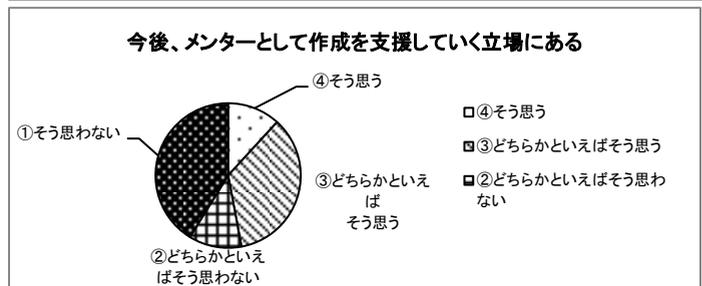
2. 近い将来にティーチング・ポートフォリオを活用する予定がある

	度数	割合
④そう思う	4	23.5
③どちらかといえばそう思う	6	35.3
②どちらかといえばそう思わない	5	29.4
①そう思わない	2	11.8
計	17	100.0



3. 今後、メンターとして作成を支援していく立場にある

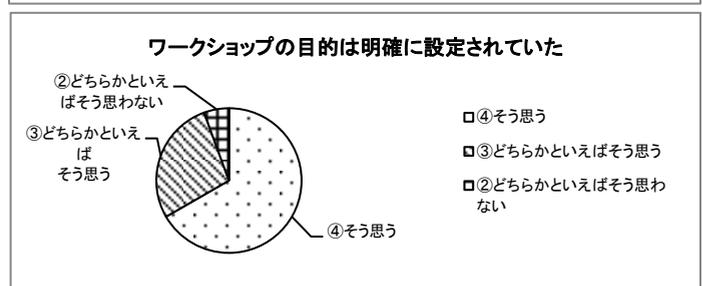
	度数	割合
④そう思う	2	11.8
③どちらかといえばそう思う	6	35.3
②どちらかといえばそう思わない	2	11.8
①そう思わない	7	41.2
計	17	100.0



3. 研修プログラムの設計について

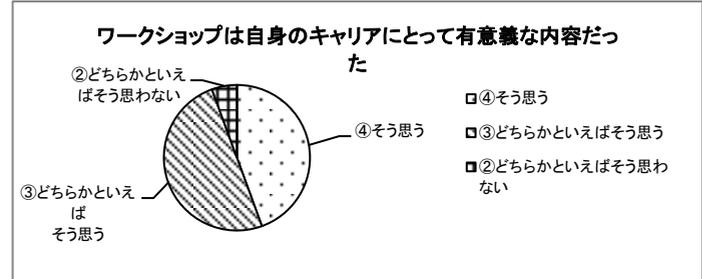
1. ワークショップの目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	12	66.7
③どちらかといえばそう思う	5	27.8
②どちらかといえばそう思わない	1	5.6
①そう思わない	0	0.0
計	18	100.0



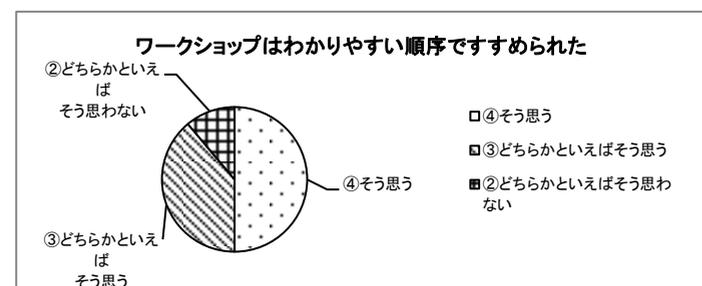
2. ワークショップは自身のキャリアにとって有意義な内容だった

	度数	割合
④そう思う	8	44.4
③どちらかといえばそう思う	9	50.0
②どちらかといえばそう思わない	1	5.6
①そう思わない	0	0.0
計	18	100.0



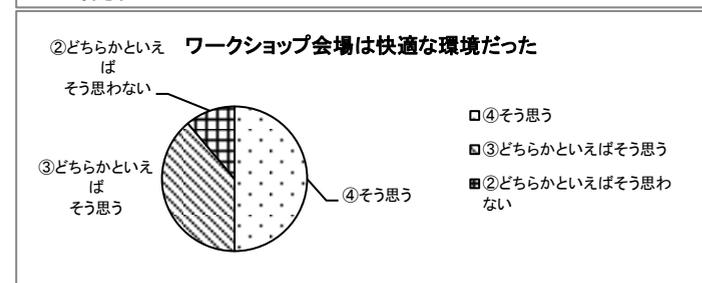
3. ワークショップはわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④そう思う	9	50.0
③どちらかといえばそう思う	7	38.9
②どちらかといえばそう思わない	2	11.1
①そう思わない	0	0.0
計	18	100.0



4. ワークショップ会場は快適な環境だった

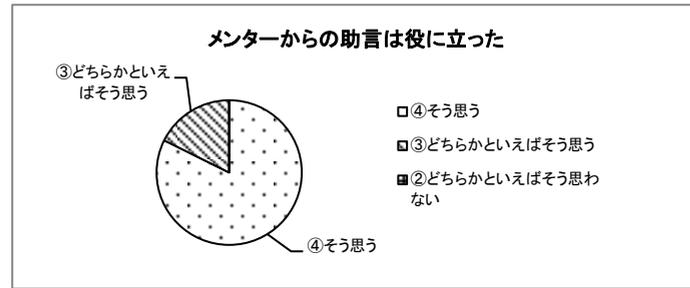
	度数	割合
④そう思う	9	50.0
③どちらかといえばそう思う	7	38.9
②どちらかといえばそう思わない	2	11.1
①そう思わない	0	0.0
計	18	100.0



4. 研修スタッフについて

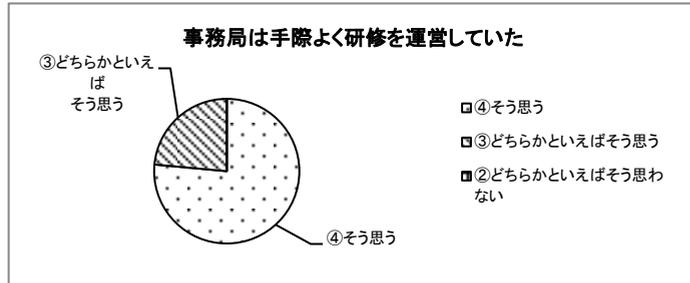
1. メンターからの助言は役に立った

	度数	割合
④そう思う	14	77.8
③どちらかといえばそう思う	3	16.7
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	17	94.4



2. 事務局は手際よく研修を運営していた

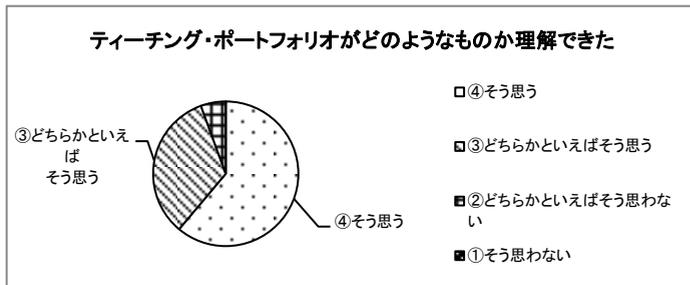
	度数	割合
④そう思う	13	72.2
③どちらかといえばそう思う	4	22.2
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	17	94.4



5. 研修成果について

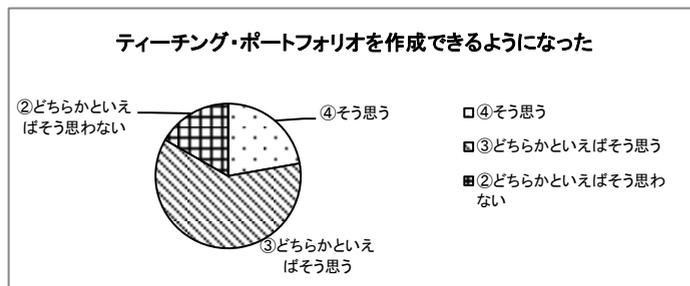
1. ティーチング・ポートフォリオがどのようなものか理解できた

	度数	割合
④そう思う	11	61.1
③どちらかといえばそう思う	6	33.3
②どちらかといえばそう思わない	1	5.6
①そう思わない	0	0.0
計	18	100.0



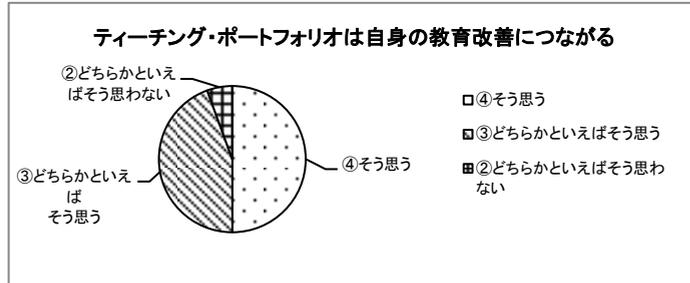
2. ティーチング・ポートフォリオを作成できるようになった

	度数	割合
④そう思う	4	22.2
③どちらかといえばそう思う	11	61.1
②どちらかといえばそう思わない	3	16.7
①そう思わない	0	0.0
計	18	100.0



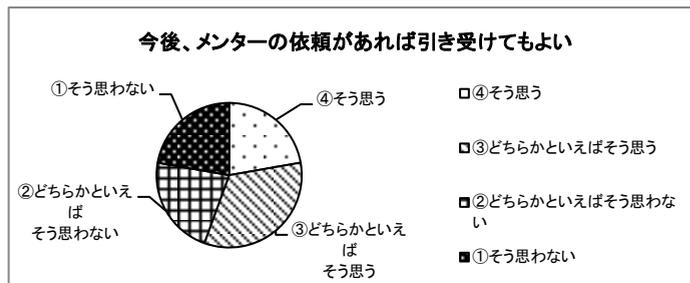
3. ティーチング・ポートフォリオは自身の教育改善につながる

	度数	割合
④そう思う	9	50.0
③どちらかといえばそう思う	8	44.4
②どちらかといえばそう思わない	1	5.6
①そう思わない	0	0.0
計	18	100.0



4. 今後、メンターの依頼があれば引き受けてもよい

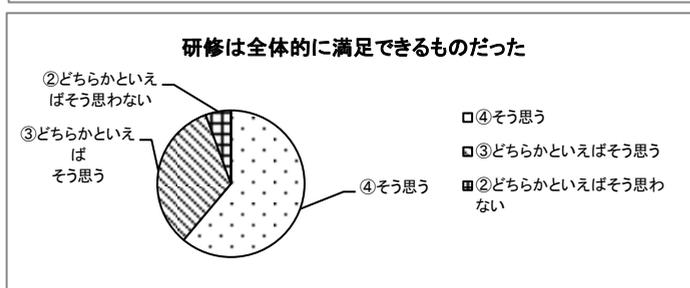
	度数	割合
④そう思う	4	22.2
③どちらかといえばそう思う	6	33.3
②どちらかといえばそう思わない	4	22.2
①そう思わない	4	22.2
計	18	100.0



6. 研修全体について

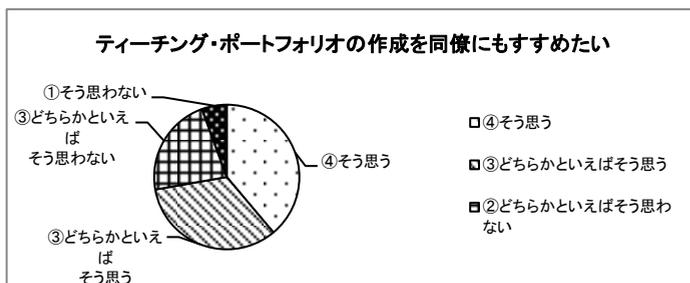
1. 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④そう思う	11	61.1
③どちらかといえばそう思う	6	33.3
②どちらかといえばそう思わない	1	5.6
①そう思わない	0	0.0
計	18	100.0



2. ティーチング・ポートフォリオの作成を同僚にもすすめたい

	度数	割合
④そう思う	7	38.9
③どちらかといえばそう思う	6	33.3
②どちらかといえばそう思わない	4	22.2
①そう思わない	1	5.6
計	18	100.0



【自由記述】

- ワークショップの場所、開催時期、日程等についてのご感想をお聞かせ下さい。
- ・ 場所は良いと思います。
 - ・ 開催時期は、たまたま私には問題のない時期でした。高専教員には、高専大会の時期なので、参加できない人も多いのではないのでしょうか。年に数回開催されているので、問題ないと思いますが。
 - ・ 日程は、やはり3日間の方が、ポートフォリオがこなれると思います。
 - ・ 土日開催は、校務に支障が出にくい設定なのでよかったです。
 - ・ 宿泊地や駅からのアクセスが非常に良い場所で開催されたことと、分かりやすい場所で開催されたので、とてもよかったですと思います。
 - ・ 開催時期については、着任してから3か月経った頃にTPを作成することができたので、振り返りを行う時期としては適切な時期でした。
 - ・ 開催時期は、6月でもよいのかと思いました。
 - ・ 日程、2日は書くのに厳しいですが、3日だと参加する方が、気が重くなるような気がします。
 - ・ I think that the place where we had the workshop and the times were appropriate.
 - ・ 休日を2日丸々使うので、1日は平日がよかったです。
 - ・ 二日間でワークショップを行うのは時間が短いと思います。
 - ・ 7月は学期末なので、もうすこし早い時期6月とかに開催したほうがいいのではないかと思います。
 - ・ 7月は看護学科の臨地実習と重なるので、8月か9月の夏季休業中に行ってほしい。駐車場を利用できるようにしてほしい。
 - ・ ワークショップの場所自体は気になりませんが、他の参加者の方の（外国の方の・・・テーマ以外の雑談がとても気になりました。あまり環境に慣れていない私が悪いのですが・・・。日程は、看護学科のような実習を行っている講座には厳しいですが、それ以外は特に気になりませんでした。
 - ・ 土日で参加しやすかったです。時間は足りなかったですが、平日は難しいのでよかったですと思います。
 - ・ 週末の愛媛大学城北校舎での開催であったので、私には有り難かったです。
 - ・ 何の問題もありませんでした。
 - ・ 適切だと思います。
- 事前課題（スタートアップ・シート）について、ご感想をお聞かせ下さい。
- ・ ティーチングポートフォリオのときの反省を生かし切れず、事前課題の内容を事前によく考える時間を取れませんでした。他業務との兼ね合いもあったので、仕方がなく、今後、ポートフォリオを完成させていく中で、深めていきたいと思います。
 - ・ 事前の振り返りは重要だが、比較的時間がとれず、提出が遅くなってしまった。

- ・ 事前課題を作成することで、メンターの先生と直接お話する前に自身の情報をお伝えすることができてよかったと思います。
- ・ スタートアップ・シートにある程度の情報を書き出すことで、ワークショップで思い出す作業の時やエビデンスを集める時に、ポイントを整理して取り掛かることができ、非常に有効な方法であると感じました。
- ・ 事前にある程度、考えての参加はよかったと思います。
- ・ Well, I didn't have the English version of the book, I had to look through the internet. However, it was difficult because I had to really think about my teaching and there were things that I never really thought about like short-term and long-term goals.
- ・ 事前課題を途中になっていたのを知らずに送ってしまったので、メンターの先生に申し訳なかったです。
- ・ メンターの先生に確認して頂いていたので、ティーチング・ポートフォリオを作成するのに役立った。一方で、スタートアップシートを作成するのに時間がかかるので、量を減らしてほしい。担当授業などについては、過去何年以内のものなど、指定があると少し楽になるかもしれないと感じた。教育歴の長い教員だと何日も要してしまうと思う。
- ・ スタートアップシートの段階で、ポートフォリオに書くべき題材をほとんど書かせておいたらどうか。私自身はスタートアップシートにかなり書き込んでおいたので、ワークショップの現場であまりあせることはなかったが、この事前準備ができていないと、ワークショップで時間的にかなりきついと思う。
- ・ 事前にスタートアップ・シートを作成することが本番のTPを作成するには大変助かりました。
- ・ 事前に頂いた本を読んでも、まったくイメージがわからなかったのも、スタートアップシートもいまいちどのように書けばいいのかまったくわからなかったです。
- ・ 作成の手引きとスタートアップシートを自分の中で関連付けることができなかったためか、スタートアップシートの作成が難しかった。
- ・ あまり自分自身の教育を振り返る機会がなかったので、事前に振り返りを行った上でのワークショップだったので良かったと思います。
- ・ 本を参考にしながらということでしたが、そのように書けばよいか少し難しかった。そのためか、スタートアップシートを研修にうまく活用できなかったように思いました。
- ・ 事前課題をベースにTP作成を行ったので、役に立った。
- ・ 結構作成に時間を要しました。ただ、事前にこれを作っておくことが必須であることは、作業しながら実感しました。
- ・ 適切だったと思いますが、新しく大学に移った教員や教育経験のない教員にとって何を書けばよいのかが明確であればよりよくなるかなと思いました。

○ アカデミック・ポートフォリオ／ティーチング・ポートフォリオを作成してみたご感想をお聞かせ下さい。

- ・ コアに対して、妙なこだわりを持っている自分を発見できました。メンターの言葉で、こだわりすぎていることが分かりました。
- ・ うまく自分のことを説明できていないこともよく分かりました。アカデミック・ポートフォリオ完成に向け、内省を続けていきたいと思っています。
- ・ 自分の活動をしっかりと振り返ることが大切であることに気づいた。
- ・ メンターとのやり取りを通して、自らの活動の意味付けが深まってきた。
- ・ 自分の中にあるものが、他者（メンター）を通してフィードバックされ、言葉になるという感覚が心地よかった。（しかし、それまでの悶々とした葛藤もある。）
- ・ さまざまな活動において、その構造や内容が振り返ってみると実はつながっていたりすることに気づいたとき、それが活動の理念や目標に近いものであることがわかった。
- ・ メンターの先生方、運営スタッフの方々には本当にお世話になり感謝いたします。
- ・ ワークショップ自体は 2 日間のタイトなスケジュールで作成しなければならなかったため、2 日間、とても集中して作成することができました。
- ・ 自分が潜在的に思っていたことや漠然と感じていたことを整理し、文章化するといった作業はとても大変でしたが、一方で、教育理念に沿って方法論まで作成するといったプロセスは、楽しく感じました。
- ・ いままで、気にしているようで、気にしていなかったことを改めて考えさせて頂いたのも参考になりました。
- ・ 教育・研究に関して、次に行うことの改善に繋がると思います。
- ・ It was difficult emotionally and mentally. Similar to the Start-up worksheet there were things that I had never thought about in my 22 years of teaching.
- ・ 普段から自分の授業の振り返りとしていろいろまとめているものがあったので作成しやすかった。
- ・ 定期的に、どのような授業をするか考え、できる限りの授業スキルを活用していたので、教育に関する責任、理念を書いたからはスムーズに作成することができた。また、理系教育はその趣旨がはっきりしていると感じた。
- ・ 作成し終わった後に、TP を作って個人の気持ちがスッキリすることを強調されたが、そうではなくて、この TP を今後愛媛大学（全国）では、どのように活用していこうとしていて、そのために教育企画室はどのような取り組みを行っているのか具体的に教えてほしい。
- ・ ティーチングポートフォリオ自体は、およそどういふものか理解はできたと思う。自己省察をするということも大きな目標のようであるが、普段からある程度、自己省察をする機会のある人の場合は、あまり目新しい結論が導かれないのではないかと。ただ、今回のワークショップは他人の目から見た意見を聞ける機会ではあったので、その意味では貴重だったと思う。

- ・ 作成に取り掛かる前に、どのような形で作成するのか戸惑った。
- ・ 昨年の後期から初めて授業を担当させて、教育経験のない私はドキドキしながらやりました。良い授業を作るために、大学のFDプログラムに参加し、様々な授業法を勉強してから担当授業で実施してみました。今回のワークショップでティーチング・ポートフォリオを作成してみて、担当授業で実施したことを振り返ることができて、自分の教育理念と教育戦略・方法を明確に確立することに大変役立てていると思います。
- ・ 自分が現時点で、どういう学生を育成したいのかが、受講前よりは明白になりました。できれば、3年ぐらい講義を担当してみた後に、作ってみたかったです、今後の自分の講義の方向性を再確認できてよかったです。
- ・ 作る内容が曖昧になっており、内容を具体化できていないと感じている。
- ・ 講義を担当しておらず、実習や演習メインの教員については、「今後どうしたいか」という、振り返りを踏まえた方向性を示すという形の方が作りやすいのではないかと思う。
- ・ 自分自身の教育観や教育の道に入ったきっかけを思い出し初心に帰ることができました。自分は何を目指し教育の道志、学生に何を伝えたいのか。まだ揺れているところもありますが、忘れないよう大切にしたいです。
- ・ 何回も修正していく中で、作成方法を学ぶことが出来ました。今後に役立てていきたいと思います。
- ・ 教育経験が非常に少ないなかでの取り組みであった。その状況で、教育理念になりうる思いを自己振り返りにより得ることができた。この点において大変有意義であった。
- ・ 短時間で書き上げるのは難しい。頭で思っただけじゃなく、文字にすることが難しいが重要だと感じました。
- ・ 公募に応募する際には絶対に使うと思います。
- ・ ティーチング・ポートフォリオを作成する中で、自分の中の理念（教育観、教育哲学？）と実践の齟齬も感じましたし、それに気づいてよかったなと思います。

○ **ワークショップに参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。**

- ・ アカデミック・ポートフォリオの例を参照できたこと。
- ・ 一人ではなく、多くのメンバーがともに作成することで、やる気が出た。
- ・ 他校の教職員と同じ空間で作業することで、程よい緊張感を持ち、作成に取り組むことができた。また、同じ課題に取りくむ者同士という、一種の連帯感もあった。
- ・ 昼食や懇親会、休憩時間などにおいて、他大学、他の専門領域の方々とコミュニケーションをとることができ、貴重な経験となった。
- ・ 2日間で本当にTPを作成することができるのか不安でしたが、メンターの●●先生の大変丁寧なご指導によって実際に作成することができて本当に良かったと思っています。

- ・ 私のメンターの先生ではなかったのですが、文章を作成して考え込んでいるときに、声をかけていただき、励ましていただきました。TP を作成する環境として非常に素晴らしかったと思います。
 - ・ ① 他分野の先生方の考えなど、聞く機会を頂いたこと。② 自身の教育に関することを見直す機会を頂いたこと。③ TP, APに関して、多少の知識が持てたこと。
 - ・ I think everything was all right. The only problem was eating the snacks. I have the tendency to stress eat.
 - ・ TP を作成する方法が分かった。
 - ・ 原稿を3度以上提出することで、TP が作成できそうである。
 - ・ 他の教育機関の人たちが、どのように自身の教育等を考えているか、いろいろ意見が聞けたことはよかったと思う。立場の違いがどのように考え方の違いとなって現れているか、等。
 - ・ メンターと一対一の面談ができて良かったと思いました。
 - ・ 自分の講義の内容の改善するためにも、それを証明するためにもエビデンスをとるのは大事なことだなと感じました。
 - ・ 教育も目的→戦略・手段→評価→改善というプロセスがあるのだなと実感しましたし、その意味でTP は有用だろうと感じました。
 - ・ メンターをはじめとした講師や他の教員との交流により、様々な学びを得たこと。ワークショップを通して、リフレクションができたこと。
 - ・ 自分自身の教育に対する理念や初心を思い出し、教育、学生、医学に対する思いを思い出しました。
 - ・ TP 作成の方法を知ることができた。
 - ・ 教育に対する姿勢を見つめることができた。
 - ・ 先輩教員の経験を知ることができた。
 - ・ 振り返りの良い機会になりました。
 - ・ 自分の授業の実践に対する振り返りが、教育の理念との関係でできた。
- **ワークショップをよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。**
- ・ 時間的に厳しいと思いますが、TP 作成の前にグループ内で自分なりの教育理念について、語る時間など多くあった方が、よかった気がします
 - ・ It would have been nice to have a generic print out for the native English teachers at the beginning of the orientation on day 1. Everybody could understand, but it would be nice to have an English version.
 - ・ TP を今後愛媛大学（全国）では、どのように活用していこうとしていて、そのために教育企画室はどのような取り組みを行っているのか具体的に教えてほしかった。

- ・ ティーチングポートフォリオ作成にあたり、ひとつの筋道を大切にしろということであった。教育経験の浅い人の場合、あまりしっかりとひとつの幹にまとめきってしまうと、小さくまとまってしまうのではないか。ティーチングポートフォリオに書いたことがかえってその人の将来の教育のあり方をしばってしまうようなら（教育改善どころか）むしろ逆効果だと思う。私は、正直なところ、そのあやうさを少し感じた。つまり、ある程度まとめるべきではあろうが、まとめきらない方がよい、ということ。この点は意識してワークショップでも指摘しておいていいのではないか。私自身は、ポートフォリオに書くことが将来の自分をしばることのないように、と自分に言い聞かせながらポートフォリオを書き進めている
- ・ ワークショップはもっと時間が欲しいと思います。2 週連続で週末を利用して行えば、時間は余裕と思います。
- ・ 最後の TP 発表は自分の教育環境や講義の内容・目的を伝えるには短すぎると感じました。
- ・ 教員の経験や職位によってある程度グループ化するのもアリではないかと思う。
- ・ メンターの個性や色は色々でいいと思います。ただ AP を終了しているかなどは正直気になるところではありました。親切、丁寧に指導していただいたので、不満などはありませんが。ベテランがいいかといえばそういうわけでもないように思いましたので、難しいところではあります。
- ・ メンターの存在は心強かったのですが、作業中は相談するどころではなかったのが正直な感じです。そのため、メンターの方に申し訳なく思います。
- ・ 今回のワークショップを経験して、特に思い当たる点は無い。
- ・ 最後のプレゼンテーションの時間が短すぎたと思います。作業時間を減らせないので苦肉の策なのは理解できますが。
- ・ 本質ではないですが、お弁当は改善の余地有りです。
- ・ 教育の理念をどのように考えるのかは難しい作業だと思えました。確かに、「どのようにやっているのか」から「なぜやっているのか」という流れはわかりやすいが、教育の哲学や信念に迫って、あえて実際の方法と齟齬があってもいいのかなと思いました。私自身は齟齬があったことで、実践の見直しができました。

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（高専対象）実施要項

- 1 日 時：平成27年9月25日（金）～9月27日（日）
別添「スケジュール表」参照
- 2 場 所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージズ3階 M32番教室 等
(オリエンテーション・TP作成作業等)
- 3 主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク
- 4 目 的：ティーチング・ポートフォリオを実際に作成してもらう。
また、ティーチング・ポートフォリオを多くの教員に作成してもらうために、
メンター養成を行う。
- 5 参加者対象者：四国地区の高等専門学校教員等
- 6 受講定員：15名
- 7 メンター（予定）
松本 高志（阿南工業高等専門学校電気電子工学科 教授）
清水 栄子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 講師）他

TP作成WSスケジュール表（メンティー用）

	9月25日(金)	9月26日(土)	9月27日(日)	ワークショップ終了後
8:00				
9:00		TP作成作業	TP作成作業	第3稿提出締切 月 日() 時※
10:00		第2回個人ミーティング	第3回個人ミーティング	
11:00		TP作成作業	TP作成作業	
12:00	オリエンテーション	意見交換+昼食	意見交換+昼食	
13:00	意見交換+昼食	TP作成作業	TP作成作業	メンターよりメールにてコメント 月 日() ※
14:00	第1回個人ミーティング		プレゼンテーション準備	
15:00	TP作成作業		TP披露閉会式	
16:00				
17:00				
18:00				最終稿提出締切 月 日() 時※
19:00	情報交換会(任意)			
20:00				
21:00				
22:00	初稿提出締切 22:00	第2稿提出締切 22:00		※提出日時はワークショップの中でお知らせします。 提出ファイル名 「名前●稿No_日付」 例 shimizu3_0927 (第3稿9月27日提出の場合)
23:00				
0:00				

平成27年度 ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(9月開催)アンケート集計結果

実施日:平成27年9月25日(金)～27日(日)

会場:愛媛大学

参加者数:5名

回答者:4名

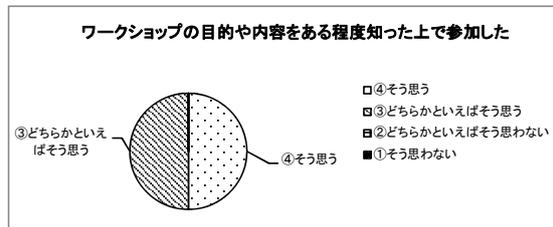
1. 参加者ご自身について

省略

2. 研修参加の経緯について

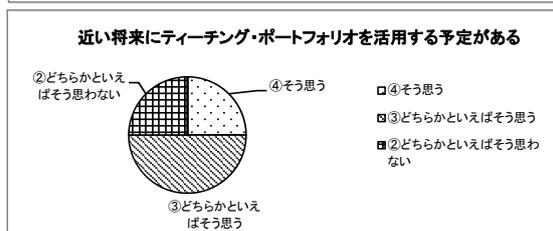
1. ワークショップの目的や内容がある程度知った上で参加した

	度数	割合
④そう思う	2	50.0
③どちらかといえばそう思う	2	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



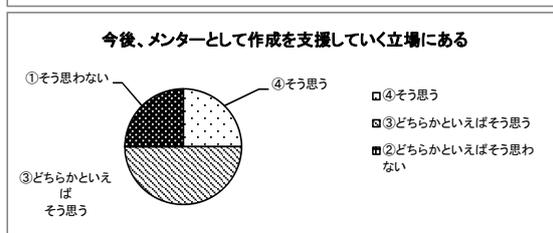
2. 近い将来にティーチング・ポートフォリオを活用する予定がある

	度数	割合
④そう思う	1	25.0
③どちらかといえばそう思う	2	50.0
②どちらかといえばそう思わない	1	25.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



3. 今後、メンターとして作成を支援していく立場にある

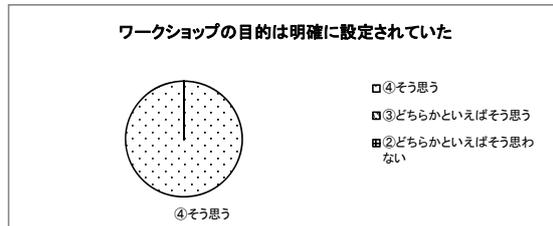
	度数	割合
④そう思う	1	25.0
③どちらかといえばそう思う	2	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	1	25.0
計	4	100.0



3. 研修プログラムの設計について

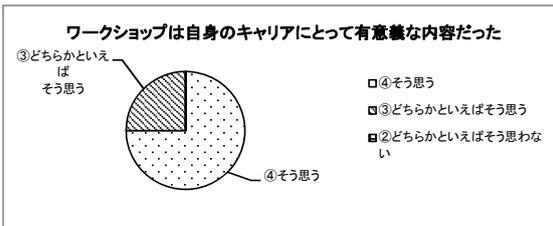
1. ワークショップの目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	4	100.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



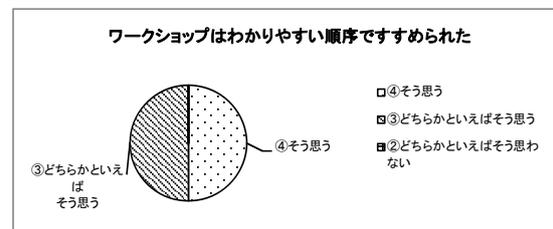
2. ワークショップは自身のキャリアにとって有意義な内容だった

	度数	割合
④そう思う	3	75.0
③どちらかといえばそう思う	1	25.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



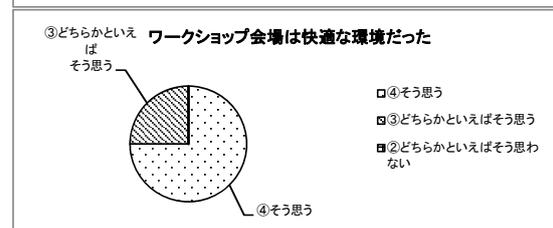
3. ワークショップはわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④そう思う	2	50.0
③どちらかといえばそう思う	2	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



4. ワークショップ会場は快適な環境だった

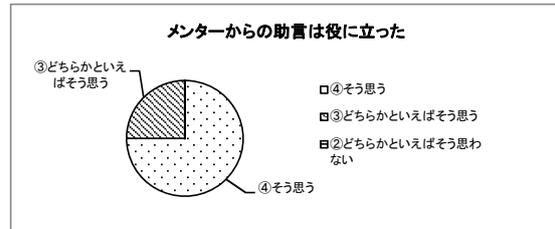
	度数	割合
④そう思う	3	75.0
③どちらかといえばそう思う	1	25.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



4. 研修スタッフについて

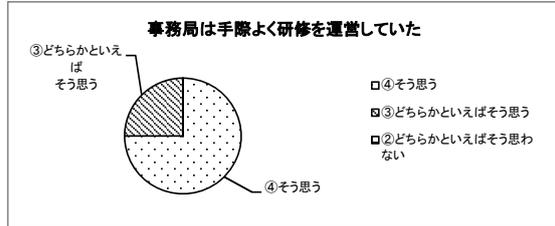
1. メンターからの助言は役に立った

	度数	割合
④そう思う	3	75.0
③どちらかといえばそう思う	1	25.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



2. 事務局は手際よく研修を運営していた

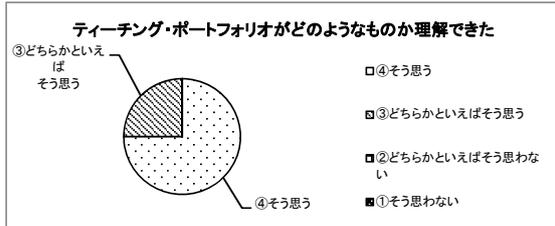
	度数	割合
④そう思う	3	75.0
③どちらかといえばそう思う	1	25.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



5. 研修成果について

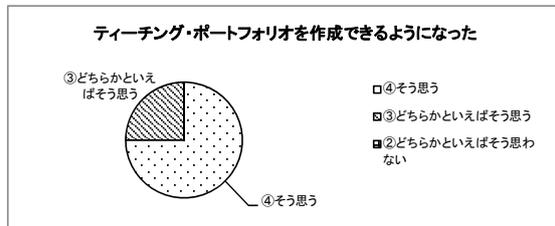
1. ティーチング・ポートフォリオがどのようなものか理解できた

	度数	割合
④そう思う	3	75.0
③どちらかといえばそう思う	1	25.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



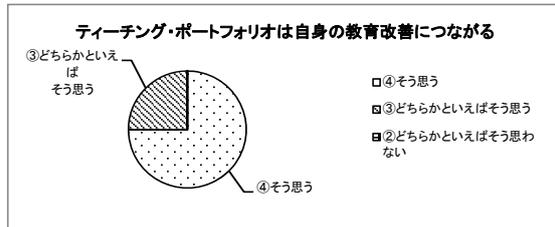
2. ティーチング・ポートフォリオを作成できるようになった

	度数	割合
④そう思う	3	75.0
③どちらかといえばそう思う	1	25.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



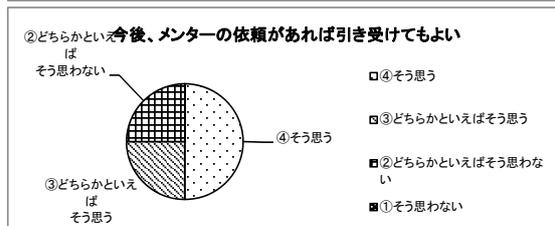
3. ティーチング・ポートフォリオは自身の教育改善につながる

	度数	割合
④そう思う	3	75.0
③どちらかといえばそう思う	1	25.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



4. 今後、メンターの依頼があれば引き受けてもよい

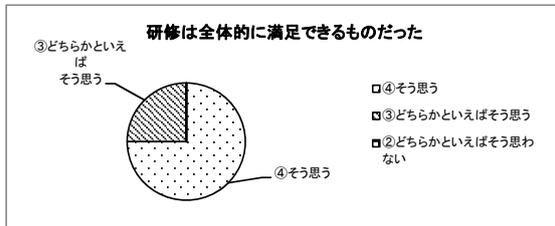
	度数	割合
④そう思う	2	50.0
③どちらかといえばそう思う	1	25.0
②どちらかといえばそう思わない	1	25.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



6. 研修全体について

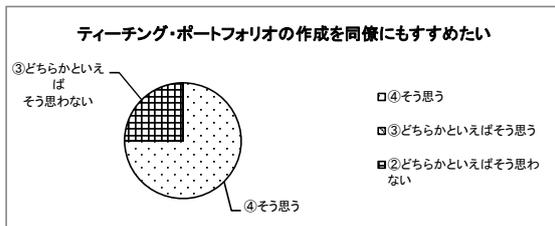
1. 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④そう思う	3	75.0
③どちらかといえばそう思う	1	25.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



2. ティーチング・ポートフォリオの作成を同僚にもすすめたい

	度数	割合
④そう思う	3	75.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	1	25.0
①そう思わない	0	0.0
計	4	100.0



【自由記述】

- ワークショップの場所、開催時期、日程等についてのご感想をお聞かせ下さい。
 - ・ 学内での開催は非常に参加しやすく、また開催時期も学期前でちょうど良いと思われま
 - ・ 限られた場所・時間内で集中して取り組むことができました。
 - ・ 作成前は、3日間は長いかなと考えておりましたが、ティーチング・ポートフォリオを執筆するう
 - ・ 私の場合、自己レベルアップのための研修として参加したので、平日に開催されるとなかなかスケ
 - ・ 会場は環境がよく、開催時期もちょうどよく、ゆっくり考えてTPをしあげることができました。

- 事前課題（スタートアップ・シート）について、ご感想をお聞かせ下さい。
 - ・ TPを作成するにあたり、事前調べをすることでスムーズな取り組みができました。
 - ・ 自分が箇条書きにしたのがよくないのですが、スタートアップ・シートである程度、文章化し
 - ・ ポートフォリオをいざ書こうとしたら、どこからなにを書けば良いか、暗中模索でした。事前
 - ・ 事前に課題を行っておくことで、いろいろな案をだして、考える時間がありました。

- ティーチング・ポートフォリオを作成してみたご感想をお聞かせ下さい。
 - ・ 改めて自身の教育に対する考え方を整理できてよかったです。
 - ・ じっくり考え、文章化したことでこれまで漠然としていた教育理念などが明確になりました。
 - ・ 自分の教育や教育方法を振り返るよい機会となりました。
 - ・ 一つ感じたのは、教育理念を論理的に書くことの難しさです。理念はさまざまな要因から形成
 - ・ 自分の活動をしっかりと振り返ることが大切であることに気づいた。
 - ・ ティーチング・ポートフォリオを作成して振り返ると、一番大事なところは理念だと私は理解
 - ・ 集中してTPを完成できたことは嬉しかったです。
 - ・ 今までの授業を振り返ることがなかったので、資料ややってきた教育活動の整理ができました。
 - ・ メンターからの適切なアドバイスでTPを完成させることができました。

- ワークショップに参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
 - ・ メンターからの助言でさらにブラッシュアップができたこと。また、先生方の取り組みなどを伺うことができたのは貴重な収穫でした。
 - ・ 自身の教育活動を見つめなおせた点
 - ・ ポートフォリオの作成の参考書はありますが、それを読むよりも、ワークショップへの参加することでよりポートフォリオとはどんなものか、どういうふう to 作成して行くか明確に理解できました。できたポートフォリオの完成度も作成の効率も自己流より高かったです。
 - ・ いろいろな分野の方との出会いがり、楽しくTPを作成しました。
 - ・ 様々な視野で私の教育について考えることができました。

- ワークショップをよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
 - ・ 事前準備から、大変お世話になりありがとうございました。
 - ・ プレゼンの時間がもう少しあれば、よかったです。

平成27年度徳島大学FD推進プログラム
「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」実施要項

1 目 的

徳島大学では、実質的なFDの取り組みを進めるため、「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を開催いたします。本ワークショップは、教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修の一つとして実施します。

2 目 標

1. 自身の教育活動を振り返り、教育理念と教育目的を整理することができる。
2. 自身の教育活動を振り返り、教育戦略・方法を整理することができる。
3. 自身の教育活動を振り返り、成果と具体的な課題を整理することができる。
4. 参加者同士の関係をつくることができる。

3 概 要

ワークショップでは、各自の教育活動を振り返り、自身の教育理念、教育目的、戦略、方法、成果、課題などを中心に整理を行っていきます。メンターが寄り添い、話し合いを重ねながら自身のティーチング・ポートフォリオを作成していきます。SPOD加盟校より集まった参加者同士で対話を行いながら、自身の教育活動について3日間集中して振り返る作業を行っていきます。

4 実 施 日 平成28年3月9日（水）～11日（金）

5 実 施 場 所 3月9日、10日 共通教育6号館2階 201講義室等
（徳島大学 大学開放実践センター 徳島市南常三島町1-1）
3月11日 日亜会館2階 講義室1等
（徳島大学本部 徳島市新蔵町2-24）

6 プログラム 別紙「スケジュール表」参照

7 対 象 者 SPOD加盟校教員

*SPOD=四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

8 スーパーバイザー

愛媛大学 教育企画室 講師 清水栄子

9 メンター 徳島大学総合教育センター教員等

10 参 加 費 無料（SPOD加盟校の場合）

11 主 催 徳島大学 FD委員会
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

第1日 (2016年3月9日・水曜日)

集合場所：共通教育6号館201 (徳島大学常三島キャンパス 大学開放実践センター2階)

時刻	内 容	備 考
11:30-12:00	受付 (共通教育6号館201) *11:50までにお集りください	7:00AM 徳島市に「大雨警報 かつ暴風警報」または「洪水 警報かつ暴風警報」が出 ていたら中止
12:00-12:30	オリエンテーション ・ はじめに (副学長よりあいさつ) ・ 自己紹介 (スタッフ・参加者) ・ ティーチング・ポートフォリオとは	教室：6-201
12:30-13:30	アイスブレイク 昼食 ・ 初校へ向けての共通アドバイス メンター、参加者との交流	教室：6-201
13:30-15:00	第1回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 13:30-14:15 二人目 14:15-15:00	個人ミーティングの 部屋へ移動
15:00-17:00	TP作成作業	教室：6-201
19:00-21:00	情報交換会 (任意参加)	(未定)

* 22:00 初稿提出締切

ファイル名(例) kawase1_0309(名前+稿番号+日付)

第2日 (2016年3月10日・木曜日)

時刻	内 容	備 考
9:00-10:00	TP作成作業	教室：6-201
10:00-11:00	第2回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 10:00-10:30 二人目 10:30-11:00	個人ミーティングの部 屋へ移動
11:00-12:00	TP作成作業	教室：6-201
12:00-13:00	意見交換 昼食 ・ 第1稿に共通するコメントと情報共有 ・ 第2稿をまとめるにあたって	教室：6-201
13:00-14:00	第3回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 13:00-13:30 二人目 13:30-14:00	個人ミーティングの部 屋へ移動
14:00-17:00	TP作成作業	教室：6-201

* 22:00 第2稿提出締切

ファイル名(例) kawase2_0310(名前+稿番号+日付)

第3日(2016年3月11日・金曜日)

集合場所: 日亜会館講義室1 (徳島大学新蔵キャンパス 日亜会館2階)

時刻	内容	備考
9:00-10:00	TP作成作業	教室: 講義室1
10:00-11:00	第4回 個人ミーティング 各自メンタリンググループへ移動 一人目 10:00-10:30 二人目 10:30-11:00	個人ミーティングの 部屋へ移動
11:00-12:00	TP作成作業	教室: 講義室1
12:00-13:00	意見交換 昼食 ・第3稿をまとめるにあたって ・TP 披露の形式説明 ・TPの活用方法(ワーク)	教室: 講義室1
13:00-14:00	TP作成作業 ・プレゼンテーションの準備(A4版・一枚程度)	教室: 講義室1
14:00~	プレゼンテーション準備	教室: 講義室1
15:00-16:00	TP披露・修了式 ・メンティーによるプレゼンテーション ・FD委員会委員長挨拶 ・修了証授与 ・記念写真 ・ワークショップを振り返って	教室: 講義室1

【ワークショップ終了後の流れ】

● 第3稿提出〆切

月 日 () : まで (メンターより個別に指示があります)

ファイル名(例) kawase3_0312(名前+稿番号+日付)

月 日 () までにメンターよりコメント

● 最終稿提出〆切

3月 22(火) 17:00 まで

エビデンスは各自が完成させて報告

ファイル名(例) kawase4_0322(名前+稿番号+日付)

5 平成27年度活動実績

(2) SD事業

「SDプログラムの開発，実施」資料

平成27年度大学人・社会人としての
基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）【新任職員研修】
実施要項

1. 目的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）のうち、3つの研修科目を実施する。

- ・コミュニケーション入門
- ・ビジネスマナー入門
（危機管理入門 ※ビジネスマナー入門の到達目標より科目立て）
- ・職員キャリア形成入門

3. 対象者

新任職員（平成26年4月2日～平成27年4月1日採用の職員）

4. 期間

平成27年5月13日（水）～5月15日（金）

5. 場所

香川大学 OLIVE SQUARE 2F 多目的ホール（幸町北キャンパス）
（高松市幸町1-1）

6. 日程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	講師	阿部 光伸
愛媛大学	教育学生支援部	部長	吉田 一恵
愛媛大学	教育学生支援部教育企画課	副課長	織田 隆司
高知工科大学	学生支援部学生支援課	主任	島田 くみこ
香川大学	教育学部総務係	係長	野口 里美
香川大学	法学部・経済学部総務係	主任	海老野 薫

8. 受講定員

80名

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主催

香川大学、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

平成27年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)【新任職員研修】 日程表

		12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	15:15	17:00	17:20	19:00	
1日目 5月13日 (木)	受付	開講式・オリエンテーション	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	15:15	17:00	17:20	19:00
	【講話】 ・新任職員に向けて 【講師：香川大学 理事 高木 健一郎】										
2日目 5月14日 (木)	昼食	【コミュニケーション入門】 1. コミュニケーションの基本 2. よりコミュニケーションをとるために 自分を理解する 相手を理解する 3. よりよいコミュニケーションをとるために 傾聴のポイント 質問のポイント 【講師：香川大学 野口 里美】	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	15:15	17:00	17:20	19:00
	【ビジネスマナー入門 (マナー編)】 1 ビジネスマナーの基本 2 来客対応のマナー 3 電話対応のマナー 【講師：高知工科大学 島田 くみこ】										
3日目 5月15日 (金)	休憩	【職員キャリア形成入門】 (ビジネス文書とは ポイント 3 文書作成時のポイント 【講師：香川大学 海老野 薫】	12:00	13:00	13:15	13:30	14:45	15:00	16:00	16:30	17:00
	【職員キャリア形成入門】 (ビジョン作成ワークショップ) 1 今までを振り返って 多面的に考える自分の仕事 2 自己を理解する 【講師：愛媛大学 阿部 光伸】										
9:00		10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:00	16:30	17:00	

※研修スケジュールは、受講者数・進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成27年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）
 実施日：平成27年5月13日（水）～5月15日（金）
 実施会場：香川大学
 当日参加者数：44名
 アンケート回答者数：44名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	42	95.5
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	2	4.5
④ その他（ ）	0	0.0
計	44	100.0

(2) 所属先の設置者

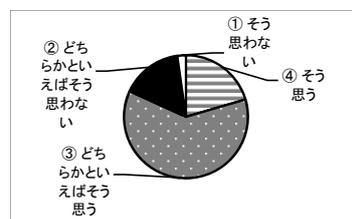
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	39	88.6
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	2	4.5
③ 学校法人	3	6.8
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	44	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。（具体的に） 別紙記載

2. この研修について

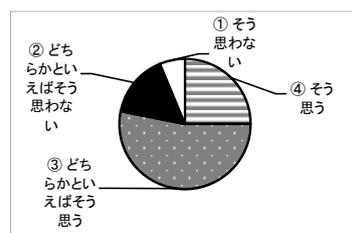
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	9	20.5
③ どちらかといえばそう思う	27	61.4
② どちらかといえばそう思わない	7	15.9
① そう思わない	1	2.3
計	44	100.0



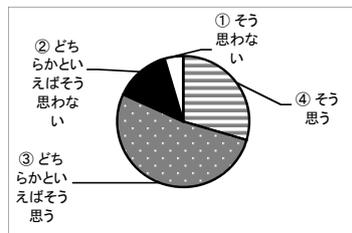
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	8	25.0
③ どちらかといえばそう思う	17	53.1
② どちらかといえばそう思わない	5	15.6
① そう思わない	2	6.3
計	32	100.0



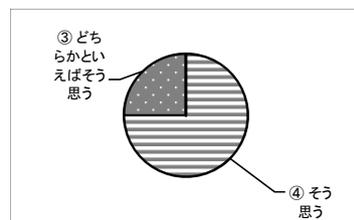
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	13	29.5
③ どちらかといえばそう思う	23	52.3
② どちらかといえばそう思わない	6	13.6
① そう思わない	2	4.5
計	44	100.0



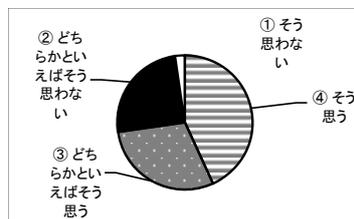
(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

	回答数	割合
④ そう思う	33	75.0
③ どちらかといえばそう思う	11	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



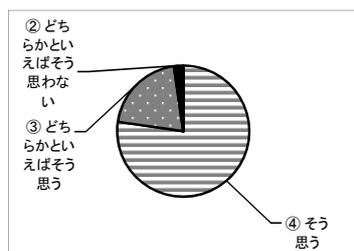
(5) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	19	43.2
③ どちらかといえばそう思う	13	29.5
② どちらかといえばそう思わない	11	25.0
① そう思わない	1	2.3
計	44	100.0



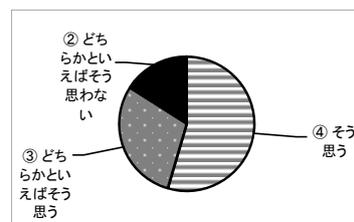
(6) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	34	77.3
③ どちらかといえばそう思う	9	20.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



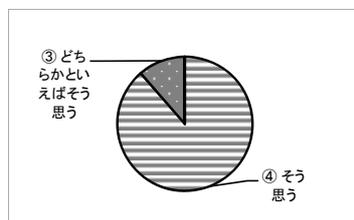
(7) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	24	54.5
③ どちらかといえばそう思う	13	29.5
② どちらかといえばそう思わない	7	15.9
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



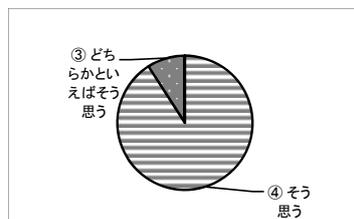
(8) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	39	88.6
③ どちらかといえばそう思う	5	11.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



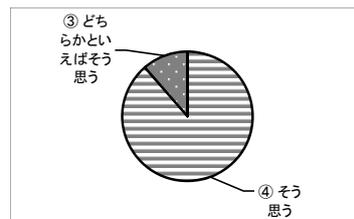
(9) 事務局の対応は丁寧だった

	回答数	割合
④ そう思う	40	90.9
③ どちらかといえばそう思う	4	9.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



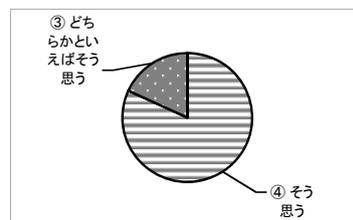
(10) 新たに人的つながりをつくることのできた

	回答数	割合
④ そう思う	39	88.6
③ どちらかといえばそう思う	5	11.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



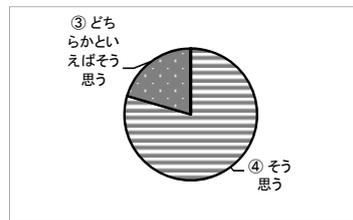
(11) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	36	81.8
③ どちらかといえばそう思う	8	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(12) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

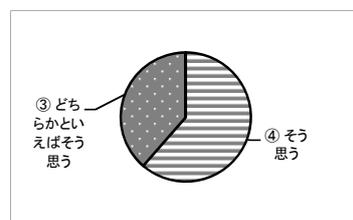
	回答数	割合
④ そう思う	35	79.5
③ どちらかといえばそう思う	9	20.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



3. 「大学(高専)職員の心得」研修について

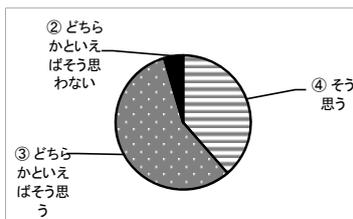
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	27	61.4
③ どちらかといえばそう思う	17	38.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



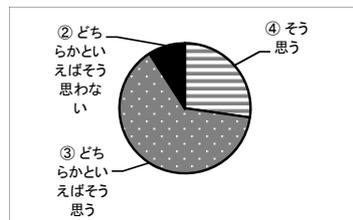
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	17	38.6
③ どちらかといえばそう思う	25	56.8
② どちらかといえばそう思わない	2	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



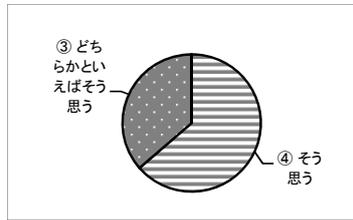
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	12	27.3
③ どちらかといえばそう思う	28	63.6
② どちらかといえばそう思わない	4	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



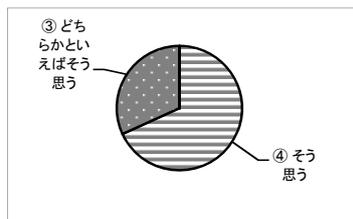
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	28	63.6
③ どちらかといえばそう思う	16	36.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

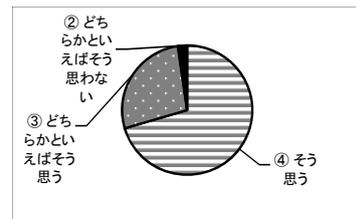
	回答数	割合
④ そう思う	30	68.2
③ どちらかといえばそう思う	14	31.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



4. 「コミュニケーション入門」研修について

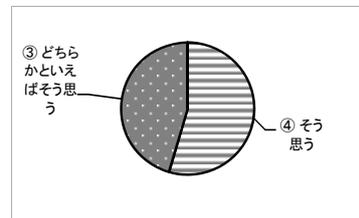
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	31	70.5
③ どちらかといえばそう思う	12	27.3
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



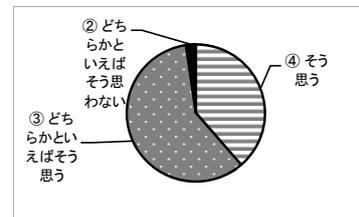
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	24	54.5
③ どちらかといえばそう思う	20	45.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



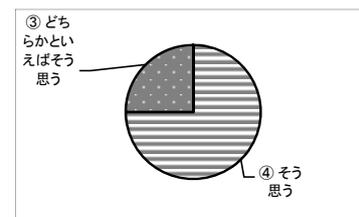
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	17	38.6
③ どちらかといえばそう思う	26	59.1
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



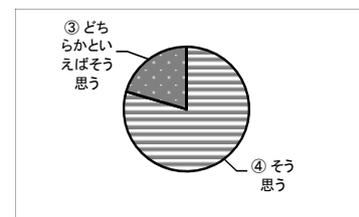
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	33	75.0
③ どちらかといえばそう思う	11	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

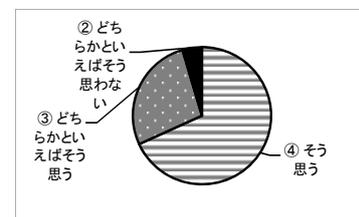
	回答数	割合
④ そう思う	35	79.5
③ どちらかといえばそう思う	9	20.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



5. 「ビジネスマナー入門(マナー編)」研修について

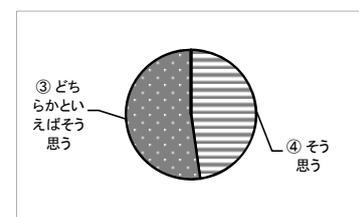
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	30	68.2
③ どちらかといえばそう思う	12	27.3
② どちらかといえばそう思わない	2	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



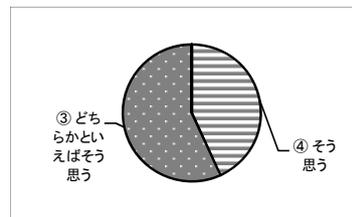
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	21	47.7
③ どちらかといえばそう思う	23	52.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



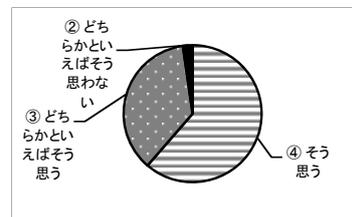
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	19	43.2
③ どちらかといえばそう思う	25	56.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



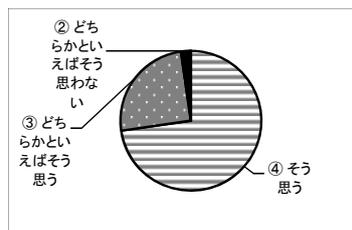
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	27	61.4
③ どちらかといえばそう思う	16	36.4
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

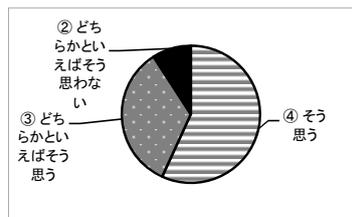
	回答数	割合
④ そう思う	32	72.7
③ どちらかといえばそう思う	11	25.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



6. 「危機管理入門」研修について

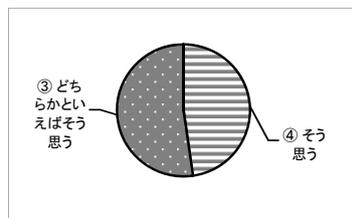
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	25	56.8
③ どちらかといえばそう思う	15	34.1
② どちらかといえばそう思わない	4	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



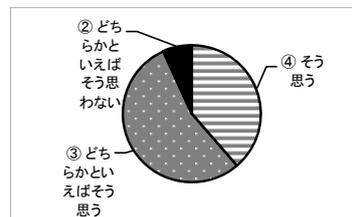
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	21	47.7
③ どちらかといえばそう思う	23	52.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



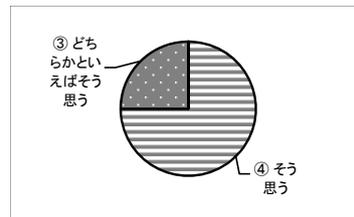
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	17	38.6
③ どちらかといえばそう思う	24	54.5
② どちらかといえばそう思わない	3	6.8
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



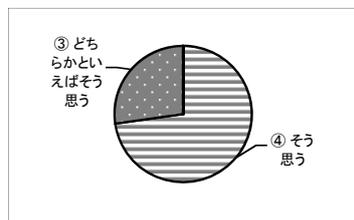
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	33	75.0
③ どちらかといえばそう思う	11	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

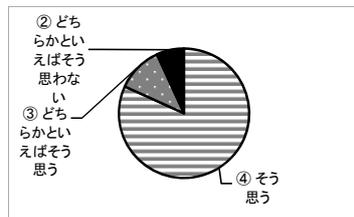
	回答数	割合
④ そう思う	32	72.7
③ どちらかといえばそう思う	12	27.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



7. 「ビジネスマナー入門(文書編)」研修について

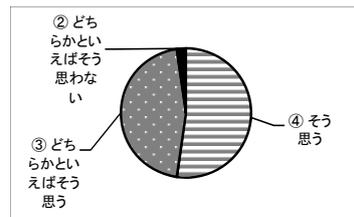
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	36	81.8
③ どちらかといえばそう思う	5	11.4
② どちらかといえばそう思わない	3	6.8
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



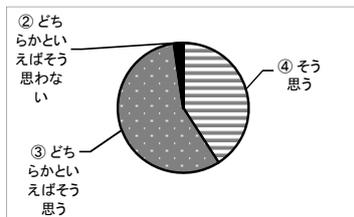
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	23	52.3
③ どちらかといえばそう思う	20	45.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



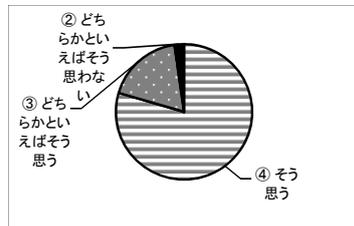
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	18	40.9
③ どちらかといえばそう思う	25	56.8
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



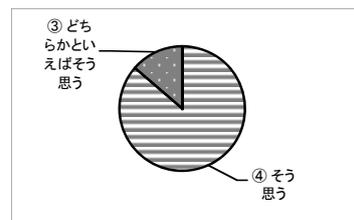
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	35	79.5
③ どちらかといえばそう思う	8	18.2
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

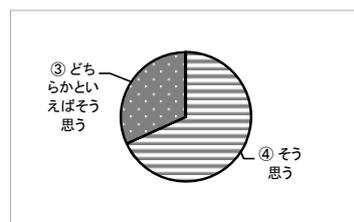
	回答数	割合
④ そう思う	38	86.4
③ どちらかといえばそう思う	6	13.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



8. 「職員キャリア形成入門」研修について

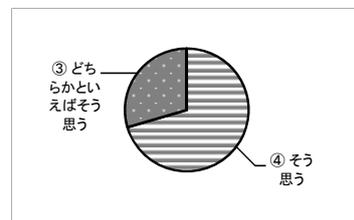
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	30	68.2
③ どちらかといえばそう思う	14	31.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



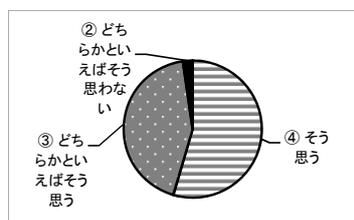
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	31	70.5
③ どちらかといえばそう思う	13	29.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



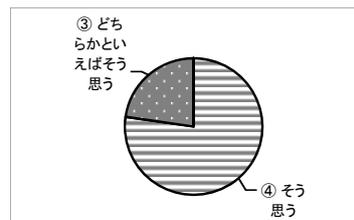
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	24	54.5
③ どちらかといえばそう思う	19	43.2
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



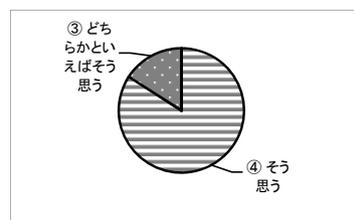
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	34	77.3
③ どちらかといえばそう思う	10	22.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

	回答数	割合
④ そう思う	37	84.1
③ どちらかといえばそう思う	7	15.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



9. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。
別紙記載

10. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
別紙記載

平成27年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）
実施要項

1. 目的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）のうち、3つの研修科目を実施する。

- ・リーダーシップ入門
- ・タイムマネジメント論
- ・プレゼンテーション入門

3. 対象者

係員相当級の職員

4. 期間

平成27年11月19日（木）～11月20日（金）

5. 場所

愛媛大学本部5階 第1会議室

6. 日程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	特任助教（拠点/SPOD-SDC）	丸山	智子	
愛媛大学	総務部	人事課 副課長（SPOD-SDC）	久保	秀二	
愛媛大学	総務部	学長秘書室	チームリーダー	大本	盛嗣
四国大学	入試広報部	広報課	係長	平田	晋也

8. 受講定員

30名

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、愛媛大学

平成27年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)日程表

【愛媛大学本部5階 第1会議室】

	13:30	13:45	14:00	17:00	18:00
第1日目 11月19日 (木)	受付		開講式・オリエンテーション	<p>【リーダーシップ入門】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 求められるリーダーとは 2. 立場を変えて考えるリーダーの仕事 3. 仕事とPDCA 4. フォロワーシップとコミュニケーションスキル <p>【講師：愛媛大学(拠点/SPOD-SDC) 丸山 智子】</p>	情報交換会
	第2日目 11月20日 (金)	<p>【タイムマネジメント論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. タイムマネジメントの原則 2. 自分のワークスタイルを知る 3. 自分の仕事を検証し改善する 4. 仕事の優先順位を明確にする 5. 仕事のやり方を工夫する <p>【講師：愛媛大学(SPOD-SDC) 久保 秀二】 【講師：愛媛大学 大本 盛嗣】</p>		休憩	<p>【プレゼンテーション入門】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションの前に 2. プレゼンテーションの基礎 3. 話す内容を検討する 4. 「話す」スキル 5. 総合演習(プレゼンテーション実践) <p>【講師：四国大学 平田 晋也】</p>
		9:00	12:00	13:00	16:30

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成27年度「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）」
 実施日：平成27年11月19日（木）～11月20日（金）
 実施会場：愛媛大学本部 第1会議室
 アンケート回答者数：41名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	38	92.7
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	3	7.3
④ その他（ ）	0	0.0
計	41	100.0

(2) 所属先の設置者

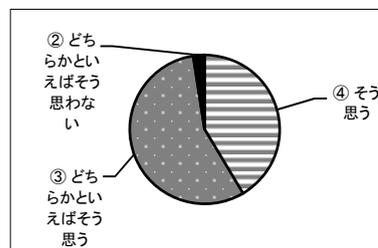
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	33	80.5
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	4	9.8
③ 学校法人	4	9.8
④ その他（ ）	0	0.0
計	41	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）
 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

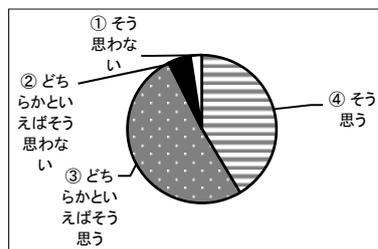
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	17	41.5
③ どちらかといえばそう思う	23	56.1
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



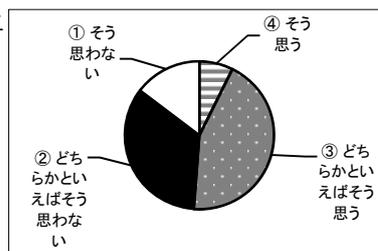
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	17	41.5
③ どちらかといえばそう思う	21	51.2
② どちらかといえばそう思わない	2	4.9
① そう思わない	1	2.4
計	41	100.0



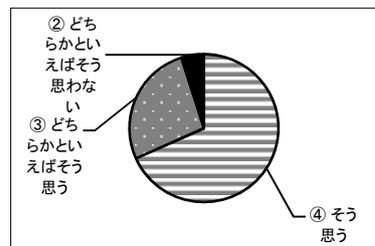
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	3	7.3
③ どちらかといえばそう思う	18	43.9
② どちらかといえばそう思わない	14	34.1
① そう思わない	6	14.6
計	41	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

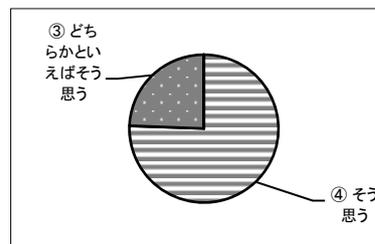
	回答数	割合
④ そう思う	28	68.3
③ どちらかといえばそう思う	11	26.8
② どちらかといえばそう思わない	2	4.9
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



3. 研修プログラムの設計について

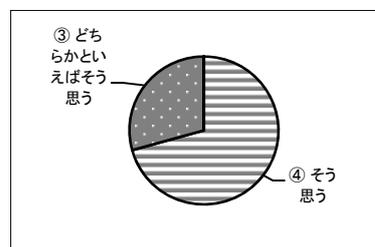
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	31	75.6
③ どちらかといえばそう思う	10	24.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



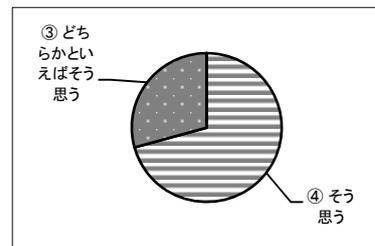
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	29	70.7
③ どちらかといえばそう思う	12	29.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



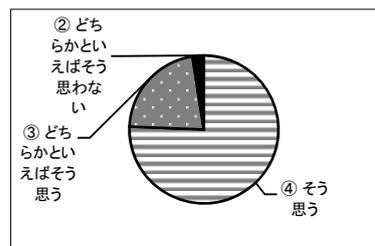
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	29	70.7
③ どちらかといえばそう思う	12	29.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



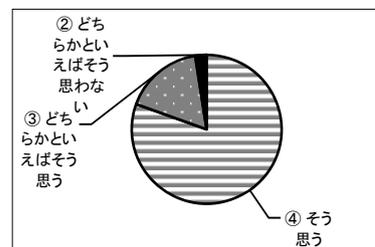
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	31	75.6
③ どちらかといえばそう思う	9	22.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



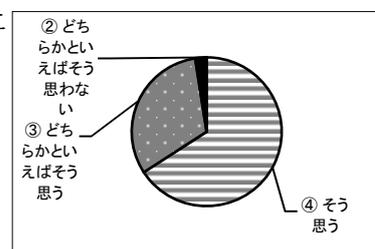
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	33	80.5
③ どちらかといえばそう思う	7	17.1
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



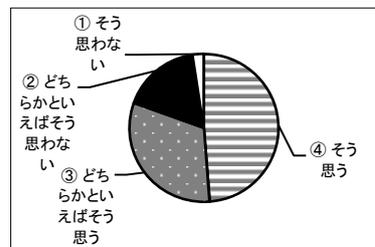
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	27	65.9
③ どちらかといえばそう思う	13	31.7
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



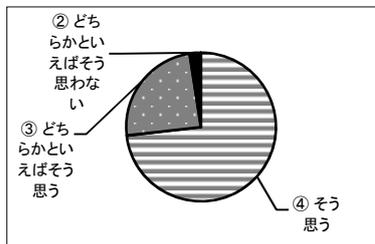
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	20	48.8
③ どちらかといえばそう思う	13	31.7
② どちらかといえばそう思わない	7	17.1
① そう思わない	1	2.4
計	41	100.0



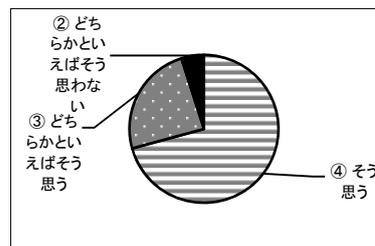
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	30	73.2
③ どちらかといえばそう思う	10	24.4
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

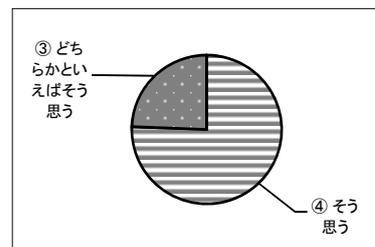
	回答数	割合
④ そう思う	29	70.7
③ どちらかといえばそう思う	10	24.4
② どちらかといえばそう思わない	2	4.9
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



4. 研修スタッフについて

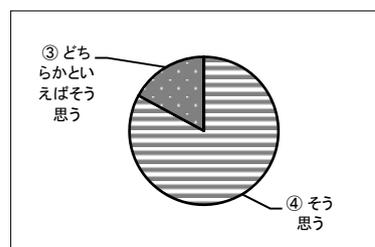
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	31	75.6
③ どちらかといえばそう思う	10	24.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



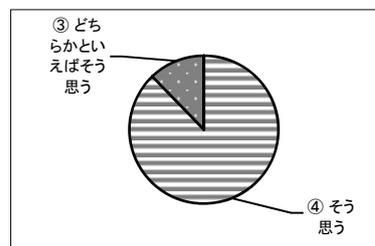
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	34	82.9
③ どちらかといえばそう思う	7	17.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



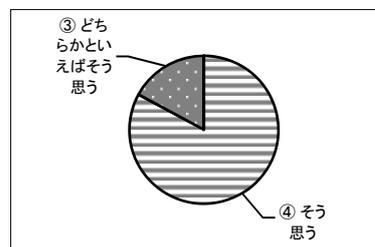
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	36	87.8
③ どちらかといえばそう思う	5	12.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



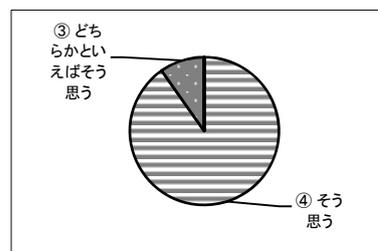
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	34	82.9
③ どちらかといえばそう思う	7	17.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

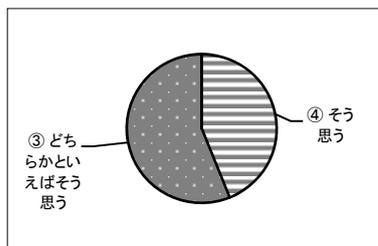
	回答数	割合
④ そう思う	37	90.2
③ どちらかといえばそう思う	4	9.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



5. 研修成果について

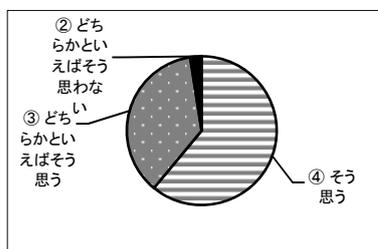
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	18	43.9
③ どちらかといえばそう思う	23	56.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



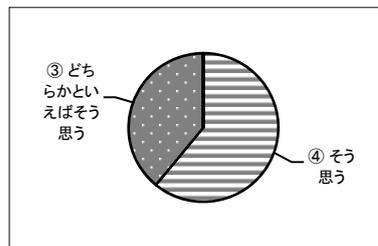
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	25	61.0
③ どちらかといえばそう思う	15	36.6
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



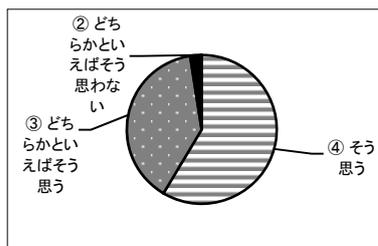
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	25	61.0
③ どちらかといえばそう思う	16	39.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	24	58.5
③ どちらかといえばそう思う	16	39.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



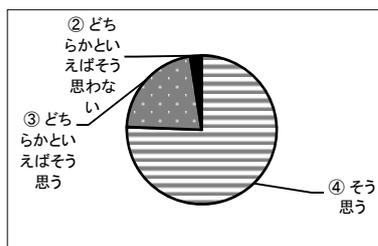
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

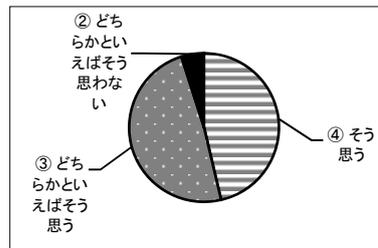
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	31	75.6
③ どちらかといえばそう思う	9	22.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



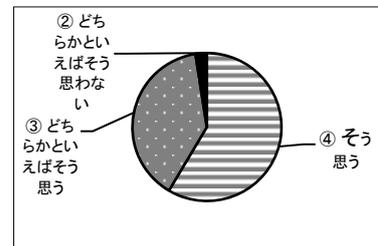
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	19	46.3
③ どちらかといえばそう思う	20	48.8
② どちらかといえばそう思わない	2	4.9
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	24	58.5
③ どちらかといえばそう思う	16	39.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

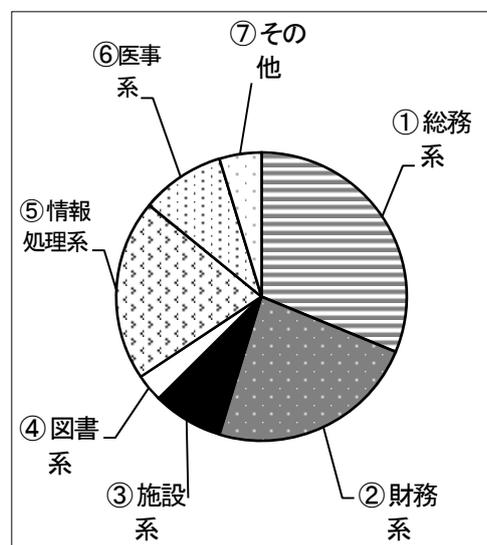
別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	20	48.8
② 財務系	15	36.6
③ 施設系	5	12.2
④ 図書系	2	4.9
⑤ 情報処理系	13	31.7
⑥ 医事系	6	14.6
⑦ その他	3	7.3

- ⑦その他
 ・学務系（2）
 ・人事系



1(3)現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ プレゼンテーションスキル (1 2)
- ・ 時間管理能力 (タイムマネジメントスキル) (6)
- ・ スケジュール管理 (3)
- ・ パソコン処理能力 (3)
- ・ 旅費規則等に関する知識 (3)
- ・ 表現能力 (2)
- ・ 財務専門知識 (2)
- ・ 総合的な大学職員スキル (2)
- ・ コミュニケーション力 (2)
- ・ 計画を立てる能力 (2)
- ・ 会計の知識
- ・ 説得力
- ・ 司会力
- ・ 業務に対する知識
- ・ 医療事務に関する知識
- ・ 渉外力 (対外的なこと)
- ・ 決断力
- ・ マネジメント
- ・ 文科答申
- ・ 大学経営知識
- ・ マニュアル作り
- ・ マナーなど人との接し方
- ・ 情報収集力
- ・ 学生指導のスキル
- ・ プレゼンテーションの資料作成
- ・ リーダーシップ
- ・ 効率よい仕事の仕方
- ・ 集中力
- ・ 論理立てて話す力
- ・ 専門分野 (施設) の知識
- ・ 規則や法律等
- ・ 必要な資料を集める力
- ・ 専門知識
- ・ 後輩の指導スキル

- ・ 実務系

5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ 自己の欠点に気付くことができ、改善点が分かった点。(7)
- ・ タイムマネジメントについて学べた点。(7)
- ・ プレゼンテーション能力について学べた点が良かった。(6)
- ・ 他大学の職員とのつながりが出来た。(5)
- ・ 他大学の人と考えをディスカッションできたこと。(4)
- ・ 自分の現状を知る良いきっかけとなった。(2)
- ・ リーダーシップについて学べた点。(2)
- ・ スケジュール管理などすぐに仕事に活かせることを学べた点。(2)
- ・ 将来自分が管理職になったときのことを意識するきっかけとなった。
- ・ 知識からモチベーションまで高められたことが良かった。
- ・ 普段意識していないことを具体的に見直せた点。
- ・ 今後業務を行う上での意識が変わった。
- ・ これからの筋道がぼんやりだが見えた。
- ・ プレゼンを作る際に資料が活用できそうな点。
- ・ 業務改善に役立つ内容で、部署・機関に関係なく必要とされるスキルについて学べた点。
- ・ ワークを交えて理解を深めることができた点。
- ・ 仕事をする上での時間配分、優先順位の付け方の様々なコツやテクニックが学べた点。
- ・ 具体的な業務事例(手帳など)が知れて参考になった。
- ・ 分かり易い講義で、吸収できた。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ プレゼンテーション入門についてももう少し準備をしたかった。事前課題をもう少し具体的に出して欲しい。(2)
- ・ お昼休みが少し短い。2日目の昼食時間がもう少し欲しかった。(2)
- ・ 研修なのでもう少し厳しさがあっても良いかと思う。
- ・ プレゼンテーションについて全体で発表する機会があってもよかったと思う。
- ・ 情報交換会の会場がもう少し分かり易いと良いと思います。
- ・ プレゼンテーションは班内でも立ってやりたかった。
- ・ リーダーシップについて、具体的にどうすれば良いかも聞きたかった。
(指示の仕方、決断力をどうやって身につけるか)

平成27年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）
実施要項

1. 目的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）のうち、プロジェクト・イノベーション実践を実施する。

3. 対象者

係長，主任相当級の職員

4. 期間

平成27年10月14日（水）～10月15日（木）

5. 場所

愛媛大学城北キャンパス校友会館2階 サロン

6. 日程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

愛媛大学 総合情報メディアセンター教育デザイン室長 仲道 雅輝
兼 教育・学生支援機構教育企画室 講師

愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 特任助教 丸山 智子

8. 受講定員

30名

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD），愛媛大学

平成27年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ) 日程表

研修会場：愛媛大学校友会館2階 サロン

	12:30	13:00	17:00	18:00
第1日目 10月14日 (水)		開講式・オリエンテーション	【プロジェクト・イノベーション実践】 1. アイスブレイク ・グループからチームになろう。 2. プロジェクトとは何か？イノベーションとは何か？ 3. 問題抽出・企画立案の方法 ・KJ法で整理し、問題を見出す。 ・プロジェクトを企画・立案する。 講師：愛媛大学(拠点/SPOD-SDC)仲道 雅輝, 丸山 智子	情報交換会
	受付			
第2日目 10月15日 (木)			【プロジェクト・イノベーション実践】 5. プロジェクト・マネジメントの活用 ・スケジュール管理をする。 ・プロジェクトを発表する(ポスター)。 講師：愛媛大学(拠点/SPOD-SDC)仲道 雅輝, 丸山 智子	閉講式
		休憩		
	9:00	12:00	13:00	16:00 16:30

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成27年度「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）」
 実施日：平成27年10月14日（水）～10月15日（木）
 実施会場：愛媛大学校友会館2階 サロン
 アンケート回答者数：20名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	17	85.0
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	3	15.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	20	100.0

(2) 所属先の設置者

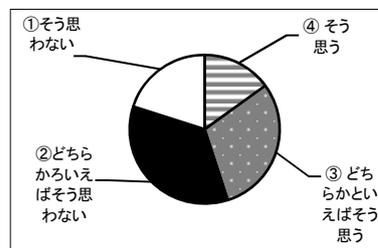
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	18	90.0
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	0	0.0
③ 学校法人	2	10.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	20	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に） 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

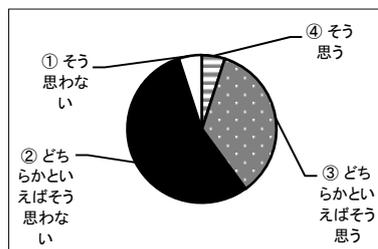
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	3	15.0
③ どちらかといえばそう思う	6	30.0
② どちらかといえばそう思わない	7	35.0
① そう思わない	4	20.0
計	20	100.0



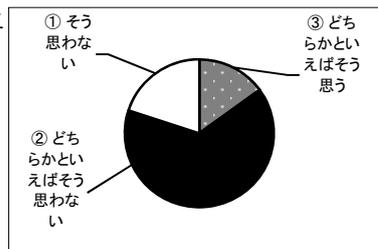
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	1	5.0
③ どちらかといえばそう思う	7	35.0
② どちらかといえばそう思わない	11	55.0
① そう思わない	1	5.0
計	20	100.0



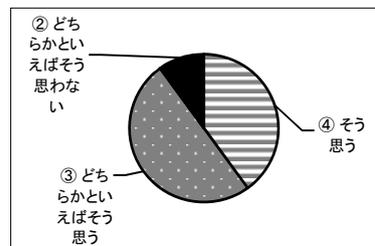
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	0	0.0
③ どちらかといえばそう思う	3	15.0
② どちらかといえばそう思わない	13	65.0
① そう思わない	4	20.0
計	20	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

	回答数	割合
④ そう思う	8	40.0
③ どちらかといえばそう思う	10	50.0
② どちらかといえばそう思わない	2	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0

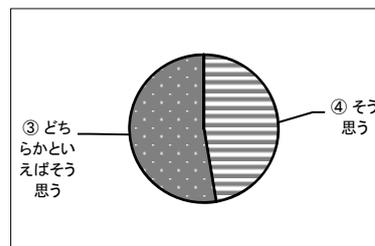


3. 研修プログラムの設計について

(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	9	47.4
③ どちらかといえばそう思う	10	52.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0

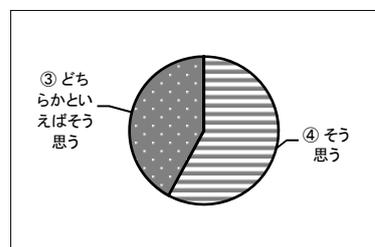
※1人未回答



(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	11	57.9
③ どちらかといえばそう思う	8	42.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0

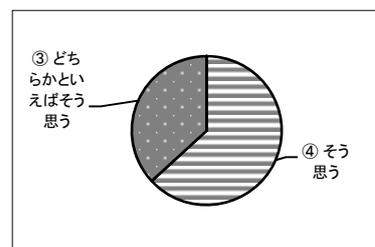
※1人未回答



(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

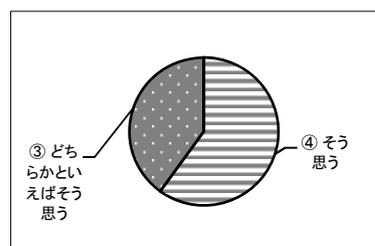
	回答数	割合
④ そう思う	12	63.2
③ どちらかといえばそう思う	7	36.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0

※1人未回答



(4) 研修会場は快適な環境だった

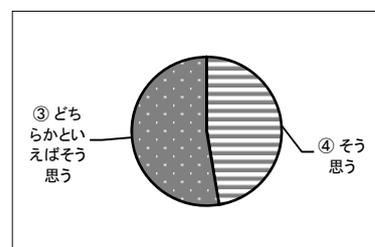
	回答数	割合
④ そう思う	12	60.0
③ どちらかといえばそう思う	8	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	9	47.4
③ どちらかといえばそう思う	10	52.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0

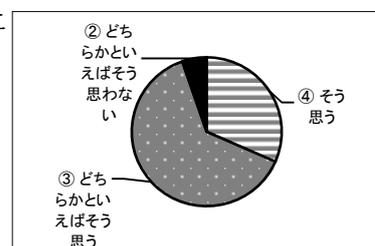
※1人未回答



(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

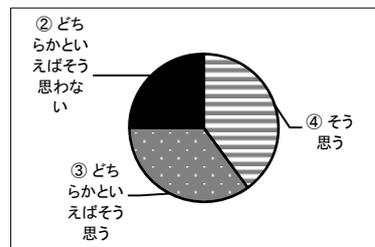
	回答数	割合
④ そう思う	6	31.6
③ どちらかといえばそう思う	12	63.2
② どちらかといえばそう思わない	1	5.3
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0

※1人未回答



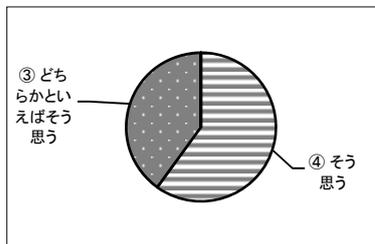
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	8	40.0
③ どちらかといえばそう思う	7	35.0
② どちらかといえばそう思わない	5	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



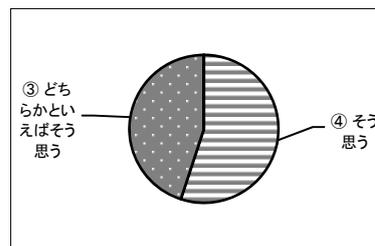
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	12	60.0
③ どちらかといえばそう思う	8	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

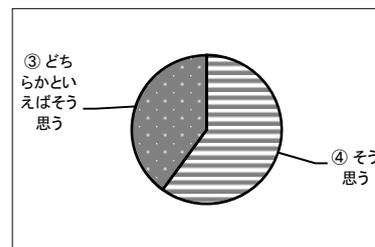
	回答数	割合
④ そう思う	11	55.0
③ どちらかといえばそう思う	9	45.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



4. 研修スタッフについて

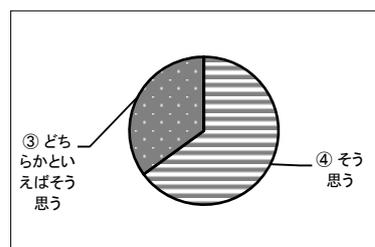
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	12	60.0
③ どちらかといえばそう思う	8	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



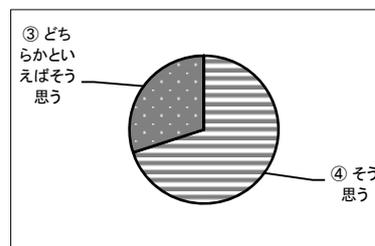
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	13	65.0
③ どちらかといえばそう思う	7	35.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



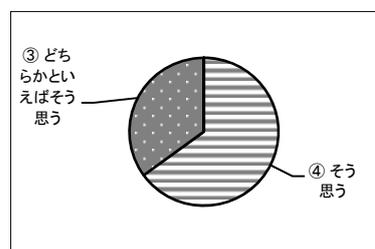
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	14	70.0
③ どちらかといえばそう思う	6	30.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



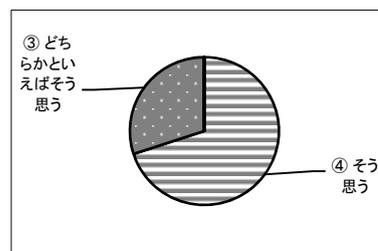
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	13	65.0
③ どちらかといえばそう思う	7	35.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

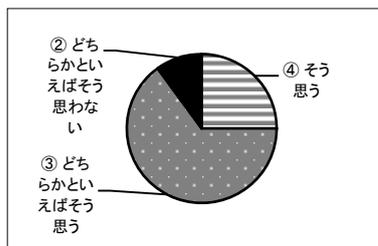
	回答数	割合
④ そう思う	14	70.0
③ どちらかといえばそう思う	6	30.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



5. 研修成果について

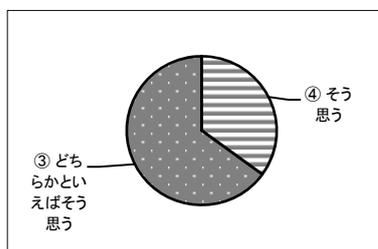
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	5	25.0
③ どちらかといえばそう思う	13	65.0
② どちらかといえばそう思わない	2	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



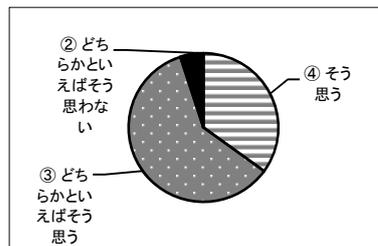
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	7	35.0
③ どちらかといえばそう思う	13	65.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



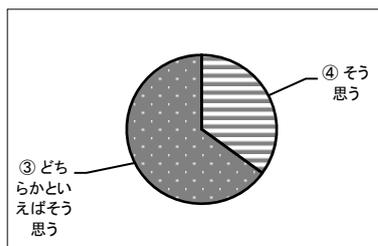
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	7	35.0
③ どちらかといえばそう思う	12	60.0
② どちらかといえばそう思わない	1	5.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	7	35.0
③ どちらかといえばそう思う	13	65.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



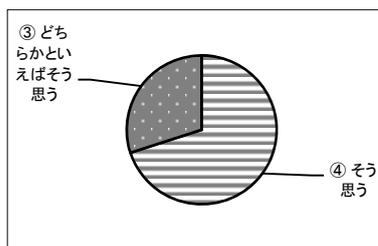
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

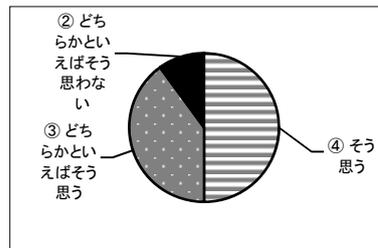
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	14	70.0
③ どちらかといえばそう思う	6	30.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



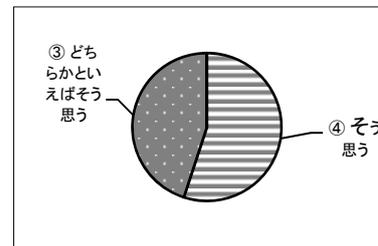
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	10	50.0
③ どちらかといえばそう思う	8	40.0
② どちらかといえばそう思わない	2	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	11	55.0
③ どちらかといえばそう思う	9	45.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



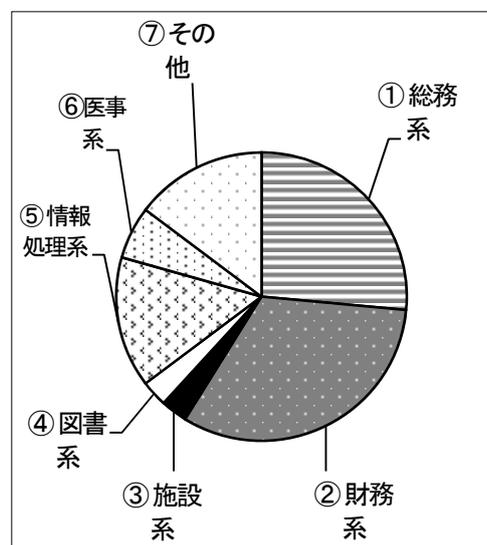
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	9	45.0
② 財務系	11	55.0
③ 施設系	1	5.0
④ 図書系	1	5.0
⑤ 情報処理系	5	25.0
⑥ 医事系	2	10.0
⑦ その他	5	25.0



⑦その他

- ・クロスオーバー系
- ・学生支援
- ・障害学習支援
- ・新入職員への愛媛大学の業務ルール
- ・学務系

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ プレゼン能力 (5)
- ・ 人前力 (3)
- ・ 業務に必要な知識を身につける (規程, マニュアルの把握) (2)
- ・ 企画力・スケジュール調整 (2)
- ・ しかるスキル・部下の育成力・報連相の環境作り (2)
- ・ 用語についての知識
- ・ マネジメント能力 (プロジェクトを管理)
- ・ コミュニケーションスキル
- ・ わかりやすく簡潔に用件を説明するスキル
- ・ 他のセクションとの交流
- ・ 財務系の専門知識 (国立大学法人会計基準, 財務会計システム等々)
- ・ システムのスキルアップ

5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書き下さい。

- ・ プロジェクトの組み方の基礎や進めていく流れが理解できた。(5)
- ・ 日々の業務に役立てていけそう。(4)
- ・ WBE を教えていただいたこと。
- ・ 今回教えて頂いたことが, 自然にできるようになれば, 最短で効率良く仕事ができるかなと思えたこと。
- ・ 空・雨・傘プロセスという有効な考え方を学ぶ事ができた。
- ・ リスクマネジメントを考えること。
- ・ 無意識に行っていることを具体的に理解できた。
- ・ 普段の自分を見直すことができた。
- ・ 全員が参加できた。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば, 具体的にお書き下さい。

- ・ 日程的にあと1日欲しい。
- ・ 課題の設定。
- ・ 業務の効率化・改善等につなげていけるような専門職養成プログラムを実施していただきたい。
- ・ 計画 (スケジュール) の立て方について, 実際にやってみるとか, もう少し詳しく教えて欲しかった。

平成27年度（第1回）大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）
実施要項

1. 目的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）のうち、1つの研修科目を実施する。

・情報科学応用編「Access」基礎

（Microsoft Office Access 2013の活用方法を、パソコンを用いた演習を交えて習得します。）

※Accessを全く使ったことのない方、基礎から復習したい方向けです。

3. 対象者 O A事務中級職員

（業務で多数のExcel形式の表、データや帳票等を使用している方）

4. 期間 平成27年9月10日（木）～9月11日（金）

5. 場所 愛媛大学城北キャンパス 総合情報メディアセンター4階（第6演習室）

6. 日程 別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

弓削商船高等専門学校	企画広報室情報・広報係長	瀧本	笑子
松山東雲女子大学	情報教育センター	続木	正博
愛媛大学	総合情報メディアセンター事務課	陣内	恭子

8. 受講定員 40名

9. テキスト代 1,988円（税込）

※テキスト代は、研修初日に受付で申し受けします。

「Microsoft Access 2013 基礎」（FOM出版）

9. 修了証書 研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主催 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、愛媛大学

平成27年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目) 日程表

研修会場: 愛媛大学総合情報メディアセンター4階第6演習室

9月10日 (木)	9:00	9:30	12:00	13:00	17:00	18:00	20:00
	受付	開講式・オリエンテーション	<p>【情報科学応用編:Access基礎】</p> <p>1. Accessの基礎知識 Accessの概要/Accessを起動する/Accessの画面構成/データベースの構成要素と基本操作/Accessを終了する</p> <p>2. データベースの設計と作成 データベース構築の流れを確認する/データベースを設計する/データベースを新規に作成する</p> <p>3. テーブルによるデータの格納 テーブルの概要/テーブルとフィールドを検討する/商品マスターを作成する/得意先マスターを作成する/売上データを作成する</p> <p>講師: 弓削商船高等専門学校 瀧本 笑子, 松山東雲女子大学 続木 正博, 愛媛大学 陣内 恭子</p>	休憩	<p>【情報科学応用編:Access基礎】</p> <p>3. テーブルによるデータの格納 テーブルの概要/テーブルとフィールドを検討する/商品マスターを作成する/得意先マスターを作成する/売上データを作成する</p> <p>4. リレーションシップの作成 リレーションシップを作成する</p> <p>5. クエリによるデータの加工 クエリの概要/得意先電話帳を作成する/得意先マスターを作成する/売上げデータを作成する</p> <p>講師: 弓削商船高等専門学校 瀧本 笑子, 松山東雲女子大学 続木 正博, 愛媛大学 陣内 恭子</p>		情報交換会
9月11日 (金)	9:00		12:00	13:00	16:30	17:00	
		<p>【情報科学応用編:Access基礎】</p> <p>6. フォームによるデータの入力 フォームの概要/商品マスターの入力画面を作成する/商品マスターの入力画面を編集する/得意先マスターの入力画面を作成する/売上データの入力画面を作成する/担当者マスターの入力画面を作成する</p> <p>7. クエリによるデータの抽出と集計 条件に合致する得意先を抽出する/条件に合致する売上データを抽出する/売上データを集計する</p> <p>講師: 弓削商船高等専門学校 瀧本 笑子, 松山東雲女子大学 続木 正博, 愛媛大学 陣内 恭子</p>	休憩	<p>【情報科学応用編:Access基礎】</p> <p>8. レポートによるデータの印刷 レポートの概要/商品マスターを印刷する/得意先マスターを印刷する/宛名ラベルを作成する/売上一覧表を印刷する</p> <p>9. 便利な機能 ナビゲーションフォームを作成する/オブジェクトの依存関係を確認する 総合演習 総合問題1/総合問題2</p> <p>講師: 弓削商船高等専門学校 瀧本 笑子, 松山東雲女子大学 続木 正博, 愛媛大学 陣内 恭子</p>	閉講式		

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成27年度（第1回）大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）
 実施日：平成27年9月10日（木）～9月11日（金）
 実施会場：愛媛大学総合情報メディアセンター4階 第6演習室
 当日参加者数：42名
 アンケート回答者数：42名

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	41	97.6
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	1	2.4
④ その他（ ）	0	0.0
計	42	100.0

(2) 所属先の設置者

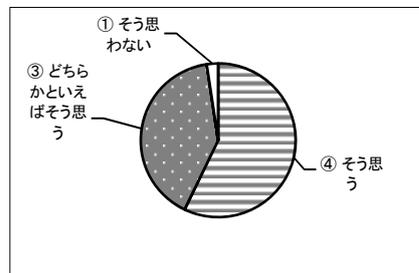
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	23	54.8
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	16	38.1
③ 学校法人	3	7.1
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	42	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に） 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

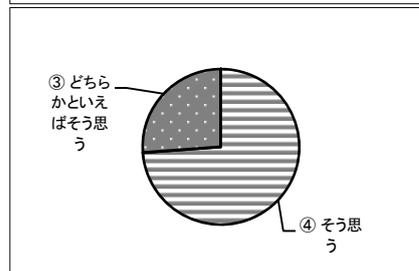
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	24	57.1
③ どちらかといえばそう思う	17	40.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	2.4
計	42	100.0



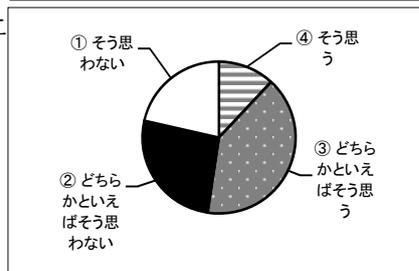
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	31	73.8
③ どちらかといえばそう思う	11	26.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

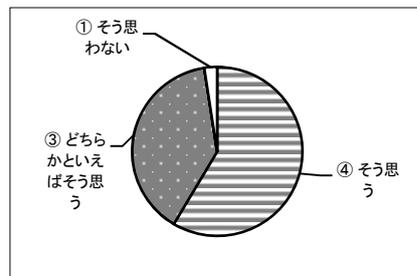
	回答数	割合
④ そう思う	5	11.9
③ どちらかといえばそう思う	17	40.5
② どちらかといえばそう思わない	11	26.2
① そう思わない	9	21.4
計	42	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

	回答数	割合
④ そう思う	24	58.5
③ どちらかといえばそう思う	16	39.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	2.4
計	41	100.0

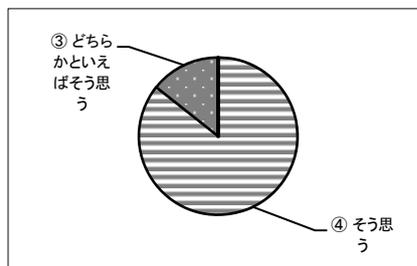
※1名未回答



3. 研修プログラムの設計について

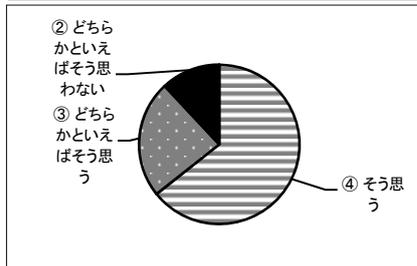
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	36	85.7
③ どちらかといえばそう思う	6	14.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



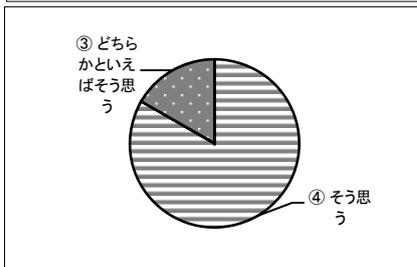
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	27	64.3
③ どちらかといえばそう思う	10	23.8
② どちらかといえばそう思わない	5	11.9
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



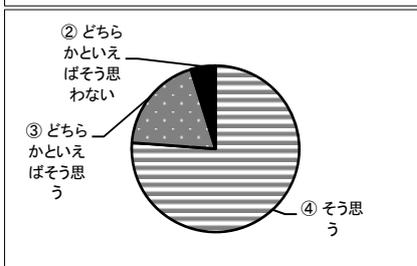
(3) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	35	83.3
③ どちらかといえばそう思う	7	16.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



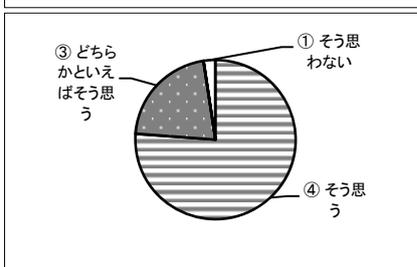
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	32	76.2
③ どちらかといえばそう思う	8	19.0
② どちらかといえばそう思わない	2	4.8
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



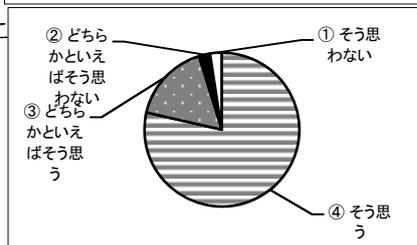
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	32	76.2
③ どちらかといえばそう思う	9	21.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	2.4
計	42	100.0



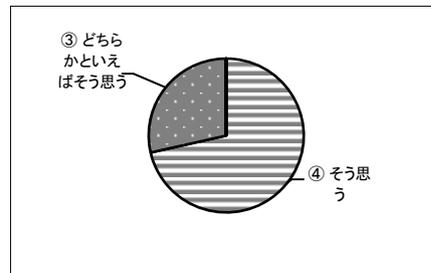
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	33	78.6
③ どちらかといえばそう思う	7	16.7
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	1	2.4
計	42	100.0



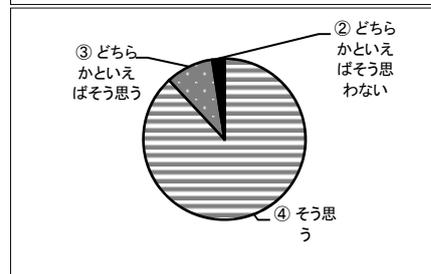
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	30	71.4
③ どちらかといえばそう思う	12	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



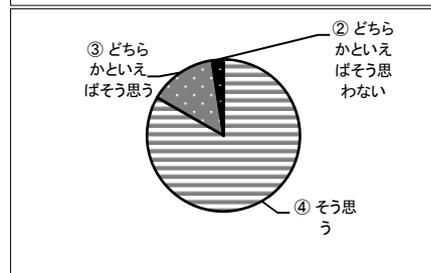
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	37	88.1
③ どちらかといえばそう思う	4	9.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

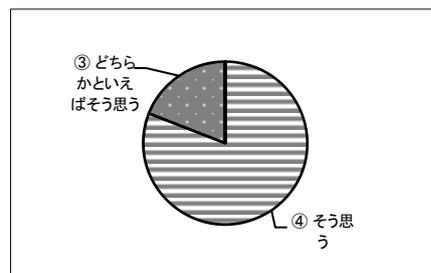
	回答数	割合
④ そう思う	35	83.3
③ どちらかといえばそう思う	6	14.3
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



4. 研修スタッフについて

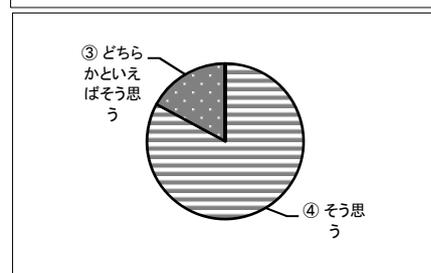
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	34	81.0
③ どちらかといえばそう思う	8	19.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

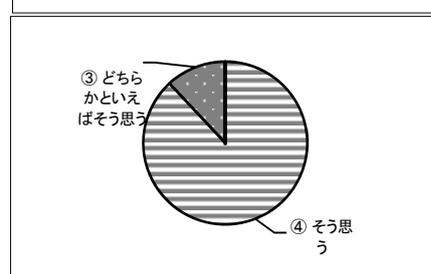
	回答数	割合
④ そう思う	34	82.9
③ どちらかといえばそう思う	7	17.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



※1名未回答

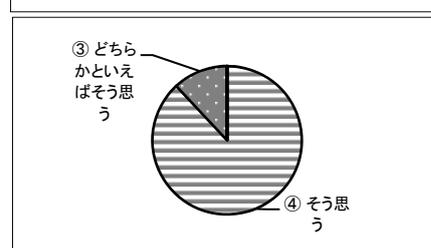
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	37	88.1
③ どちらかといえばそう思う	5	11.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



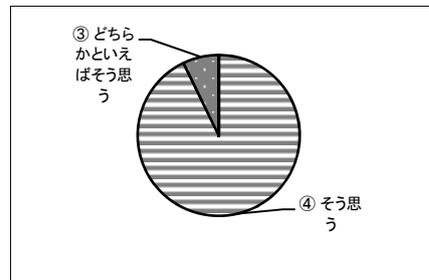
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	37	88.1
③ どちらかといえばそう思う	5	11.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

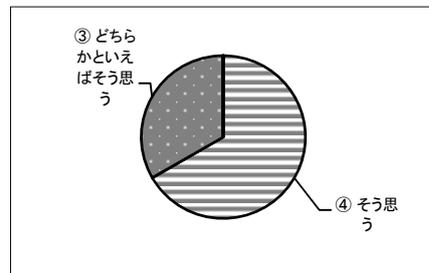
	回答数	割合
④ そう思う	39	92.9
③ どちらかといえばそう思う	3	7.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



5. 研修成果について

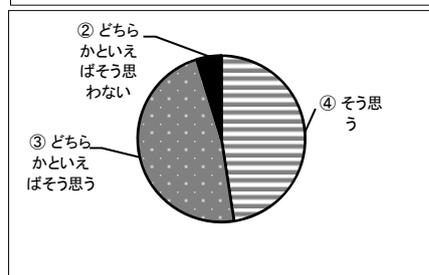
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	28	66.7
③ どちらかといえばそう思う	14	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



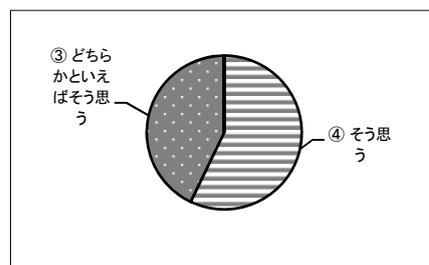
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	20	47.6
③ どちらかといえばそう思う	20	47.6
② どちらかといえばそう思わない	2	4.8
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



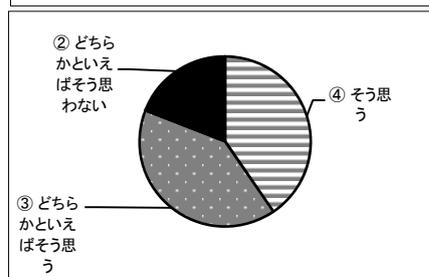
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	24	57.1
③ どちらかといえばそう思う	18	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	17	40.5
③ どちらかといえばそう思う	17	40.5
② どちらかといえばそう思わない	8	19.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0

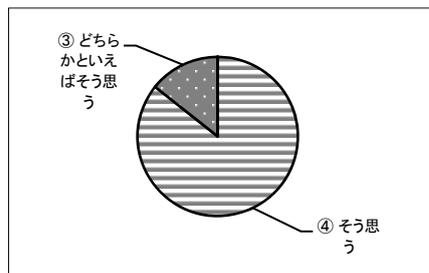


受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。
別紙記載

6. 研修全体について

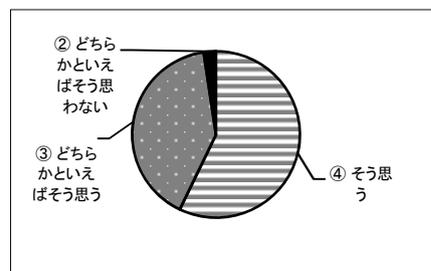
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	36	85.7
③ どちらかといえばそう思う	6	14.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



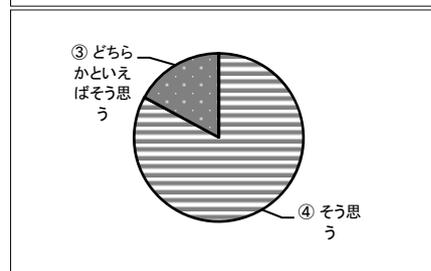
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	24	57.1
③ どちらかといえばそう思う	17	40.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	34	82.9
③ どちらかといえばそう思う	7	17.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



※1名未回答

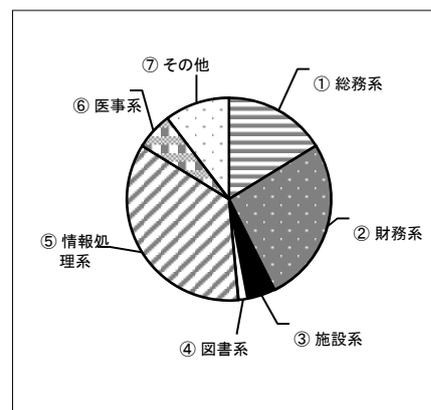
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思えますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	11	26.2
② 財務系	18	42.9
③ 施設系	3	7.1
④ 図書系	1	2.4
⑤ 情報処理系	24	57.1
⑥ 医事系	4	9.5
⑦ その他	7	16.7



その他の記述内容

- ・大学運営でこれまでどんな問題があったか事例をもとにリスクマネジメントの勉強がしたい
- ・教務系

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

【パソコン】

- ・ パソコンスキル (7)
- ・ Access (4)
- ・ Excel (4)
- ・ Excel の使うと便利な機能 (関数, マクロ, ピボットテーブル等) (4)
- ・ Word (2)
- ・ Office (普段使用している Excel, Word 等) のハイレベルの研修
- ・ 情報関係の知識
- ・ HP 運営上の WEB 言語能力
- ・ WEB デザイン
- ・ Access の基礎知識を習得し, 業務で使用している Access のデータ改善やエラー等への対応ができること
- ・ Access を使い本学の業務効率化を提案する。また, 他職員に使い方を教える
- ・ Excel, Access を使用したデータの活用方法を学ぶ
- ・ PC システム, セキュリティ対策, イラストレーター, フォトショップ等のスキル

【その他】

- ・ コミュニケーション能力 (3)
- ・ 会計 (3)
- ・ プレゼンテーションスキル (2)
- ・ 英語力 (2)
- ・ 学生支援 (2)
- ・ 学生対応に関すること
- ・ タイムマネジメント
- ・ 文章力, 文章力の向上
- ・ 公文書の書き方
- ・ 大学全般
- ・ 高専に関する知識全般
- ・ 大学マネジメント, 教学マネジメント, 大学改革の大きな流れに関する知識
- ・ 課内情報共有の為のツール作り
- ・ 年金に関する問い合わせが増えてきたので, より実務に関するレベルアップが求められている
- ・ 総務系の専門性を高めたい
- ・ 事務処理能力
- ・ 大学の広報の知識
- ・ 毎日の作業において知識を増やすことで, 業務が効率化する

5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- Access についての基礎知識を得ることができた。(5)
- 他大学の職員とのつながりができたこと。(5)
- 基礎から丁寧に教えてもらうことができた。(3)
- 今後の業務に活かすことができそう。(2)
- とても分かりやすい指導方法で、内容も理解しやすいような設定になっており、大変満足のいく講義だった。
- 講師の説明が本当にわかりやすく、声も聞き取りやすく、素晴らしかったです。おかげさまで Access が何かがよくわかりました。今日と昨日教えていただいたことを、今後役に立てますよう Access を積極的に利用していきます。ありがとうございました。
- 説明が丁寧でゆっくりだったので、Access 初心者にも分かりやすかった。これまでの研修での要点等が反映されており、講習がスムーズに進むよう工夫されていた。現在、Excel で管理しているデータを Access で管理できるよう、今回の研修を日常業務に落とし込みたい。
- 今まで Access の仕組みをあまり理解せず使用していたので、Access の簡易的な修正しかできなかった。今後は、ある程度理解して Access を使用できるので、仕事の効率化につながるような活用等に取り組んでいきたい。
- これまでよくわからずに使っていた Access のフォームが、どういう成り立ちでできているか理解することができた。フォームを改善したいと思っていたので、得た知識を基にやってみたいと思った。
- Access の知識 0 の状態で参加しましたので「基礎」でなんとかついていくことができる状態でしたが、総合問題も自分でなんとか解けるくらいまでになったので、とても嬉しいです。
- Access について全く無知の状態に参加させていただいたので、すごく勉強になりました。忘れないように活用したいと思います。
- 今まで曖昧な知識で使用していた Access を今後は理解したうえで使用できるようになったこと。
- データベースの構築の仕組みを学ぶことで、既存の Access データへの理解を深めることができた。
- 通常業務で Access を使用することに対して気後れしなくなった。
- Access の基本を学べ、学内システムの活用に生かされそう良かった。
- 今まで独学で Access を使用していたため、限られた範囲内での加工しか出来なかったが、今回基礎を一から学べたので考え方のプロセスが整理できたと思う。
- 現在の業務で使用しなければならない状況というわけではないですが、Access を導入したら便利だと思いました。
- 自分が求めている内容だったので、とても良かったです。
- Access に関する知識がほとんどなかったため、操作の仕方などを知ることができて良かったです。業務で活かしていけるかはまだわかりませんが、自分でも復習して自分のものにしていきたいです。
- テキスト以外のことを質問しても、即回答してくれました。
- 研修終了後もふり返って学習できる資料・テキスト。
- 研修の内容が実用的で、目的意識を高く持って研修を受けることができた。
- 一冊の本をやりおえる進捗になっていたのが良かった。(研修後に自己学習で本の残りの部分を行うのは大変なので)
- 必要な知識を身につけることができたこと。

- Access が少しは理解できた。
- Access の使い方がわからなかったが、なんだか使える気がしてきた。
- Excel についての基本的なことを知ることができたこと。
- Access で使える内容が増えて良かった。
- 休憩が多かったので、集中して取り組むことができた。
- しっかり理解しながら進むことができた。
- 懇親会楽しかったです。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

【内容】

- テキストや資料を見ながら作業することが多く、総合問題もすぐに解説が見られるようになってい
る。可能なら、もう少し自分で考えて設計するような問題・時間があるとなお学んだことが身につ
くと思う。
- もう少し総合問題を解く時間が欲しかったです。
- 丸2日は長いので、1日半ぐらいが良かった。
- 進みが早い人のために練習問題を多く用意してあると良い。
- 操作方法は理解できましたが、使用事例をいくつかあげてもらえたら（初級レベルでも使えるよう
な）どういうことに使用しているかわかり、業務に活かしやすいです。
- Excel と Access どちらが向いているかの判断材料になるポイントをもう少し知れたら・・・と思い
ました。

【その他】

- 他大学との交流の場がもう少しあってもよかったかも。
- 事務局の説明時にもマイクを使用して話して欲しかった。（空調の音で、後ろの方には聞き取りに
くかったです。）
- 昼食の時間をもっと長くしてほしい。（あと30分程）
- Access 応用編を開催してほしい。
- 1日目は空調が暑くなったり、2日目は寒くなったりしていたので、あらかじめ周知して上着等持
参対応していただければ嬉しいです。
- どうしても初日は同じ大学でかたまってしまうので、席を割り振るか、くじびきが良いような気が
します。2日目（情報交換会后）は緊張もほぐれ、皆積極的にばらけて座っていました。
- テキスト代が細かいので、受付の方が大変だと思いました。

平成27年度（第2回）大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）
実施要項

1. 目的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）のうち、1つの研修科目を実施する。

・情報科学応用編「Access」基礎

（Microsoft Office Access 2013の活用方法を、パソコンを用いた演習を交えて習得します。）

※Accessを全く使ったことのない方、基礎から復習したい方向けです。

3. 対象者 O A事務中級職員

（業務で多数のExcel形式の表、データや帳票等を使用している方）

4. 期間 平成27年9月17日（木）～9月18日（金）

5. 場所 愛媛大学城北キャンパス 総合情報メディアセンター4階 第6演習室

6. 日程 別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

弓削商船高等専門学校	企画広報室情報・広報係長	瀧本 笑子
愛媛大学	総合情報メディアセンター事務課	増田 隆司
愛媛大学	教育学生支援部教育支援課	星加 諒

8. 受講定員 40名

9. テキスト代 1,988円（税込）

※テキスト代は、研修初日に受付で申し受けします。

「Microsoft Access 2013 基礎」（FOM出版）

9. 修了証書 研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主催 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、愛媛大学

平成27年度(第2回)大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目) 日程表

研修会場: 愛媛大学総合情報メディアセンター4階 第6演習室

9月17日 (木)	9:00	9:30	12:00	13:00	17:00	18:00	20:00
	受付	開講式・オリエンテーション	<p>【情報科学応用編:Access基礎】</p> <p>1. Accessの基礎知識 Accessの概要/Accessを起動する/Accessの画面構成/データベースの構成要素と基本操作/Accessを終了する</p> <p>2. データベースの設計と作成 データベース構築の流れを確認する/データベースを設計する/データベースを新規に作成する</p> <p>3. テーブルによるデータの格納 テーブルの概要/テーブルとフィールドを検討する/商品マスターを作成する/得意先マスターを作成する/売上データを作成する</p>	休憩	<p>【情報科学応用編:Access基礎】</p> <p>3. テーブルによるデータの格納 テーブルの概要/テーブルとフィールドを検討する/商品マスターを作成する/得意先マスターを作成する/売上データを作成する</p> <p>4. リレーションシップの作成 リレーションシップを作成する</p> <p>5. クエリによるデータの加工 クエリの概要/得意先電話帳を作成する/得意先マスターを作成する/売上げデータを作成する</p>	講師: 弓削商船高等専門学校 瀧本 笑子, 愛媛大学 増田 隆司, 星加 諒 愛媛大学 増田 隆司, 星加 諒	情報交換会
9月18日 (金)	9:00	9:00	12:00	13:00	16:30	17:00	
		<p>【情報科学応用編:Access基礎】</p> <p>6. フォームによるデータの入力 フォームの概要/商品マスターの入力画面を作成する/商品マスターの入力画面を編集する/得意先マスターの入力画面を作成する/売上データの入力画面を作成する/担当者マスターの入力画面を作成する</p> <p>7. クエリによるデータの抽出と集計 条件に合致する得意先を抽出する/条件に合致する売上データを抽出する/売上データを集計する</p>	休憩	<p>【情報科学応用編:Access基礎】</p> <p>8. レポートによるデータの印刷 レポートの概要/商品マスターを印刷する/得意先マスターを印刷する/宛名ラベルを作成する/売上一覧表を印刷する</p> <p>9. 便利な機能 ナビゲーションフォームを作成する/オブジェクトの依存関係を確認する 総合演習 総合問題1/総合問題2</p>	講師: 弓削商船高等専門学校 瀧本 笑子, 愛媛大学 増田 隆司, 星加 諒 愛媛大学 陣内 恭子	閉講式	

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成27年度（第2回）大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）
 実施日：平成27年9月17日（木）～9月18日（金）
 実施会場：愛媛大学総合情報メディアセンター4階 第6演習室
 当日参加者数：39名
 アンケート回答者数：39名

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	38	97.4
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	1	2.6
④ その他（ ）	0	0.0
計	39	100.0

(2) 所属先の設置者

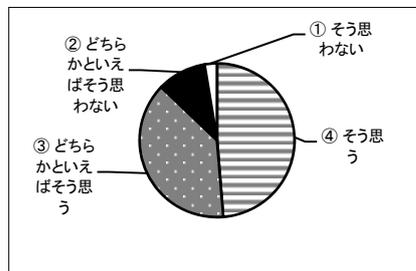
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	36	92.3
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	0	0.0
③ 学校法人	3	7.7
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	39	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に） 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

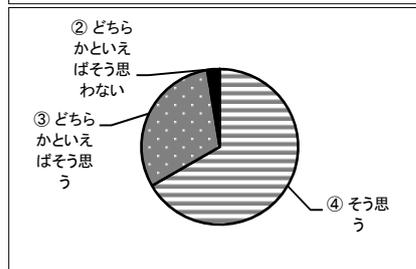
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	19	48.7
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	4	10.3
① そう思わない	1	2.6
計	39	100.0



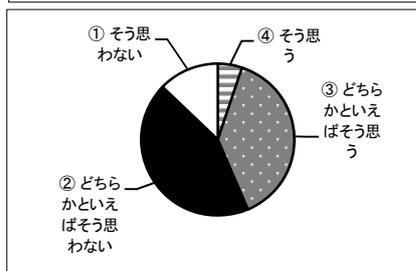
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	26	66.7
③ どちらかといえばそう思う	12	30.8
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

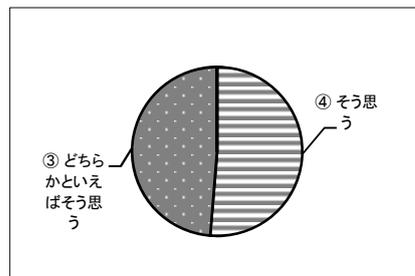
	回答数	割合
④ そう思う	2	5.1
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	17	43.6
① そう思わない	5	12.8
計	39	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

	回答数	割合
④ そう思う	20	51.3
③ どちらかといえばそう思う	19	48.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0

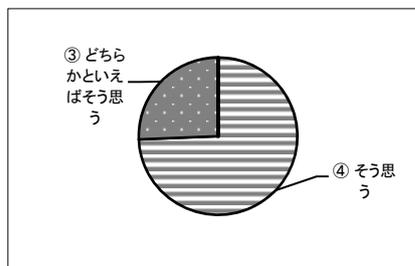
※1名未回答



3. 研修プログラムの設計について

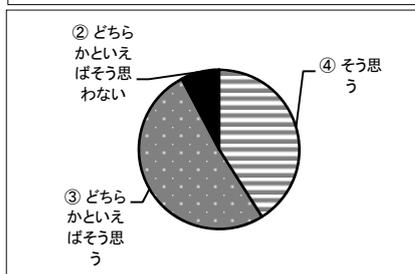
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	29	74.4
③ どちらかといえばそう思う	10	25.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



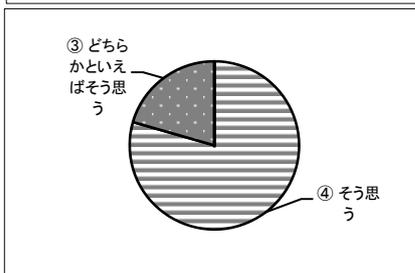
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	16	41.0
③ どちらかといえばそう思う	20	51.3
② どちらかといえばそう思わない	3	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



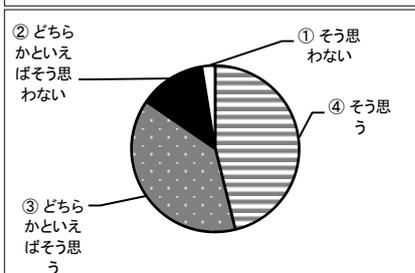
(3) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	31	79.5
③ どちらかといえばそう思う	8	20.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



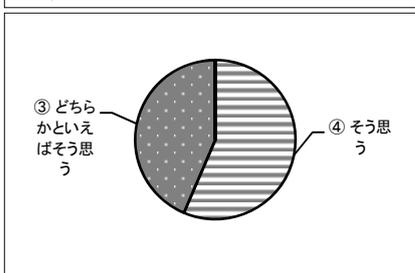
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	18	46.2
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	5	12.8
① そう思わない	1	2.6
計	39	100.0



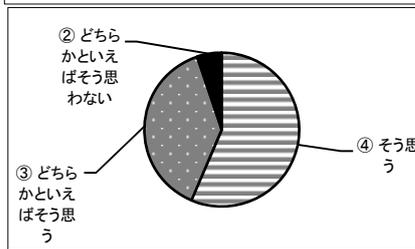
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	22	56.4
③ どちらかといえばそう思う	17	43.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



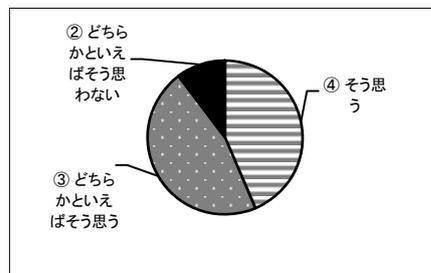
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	22	56.4
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	2	5.1
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



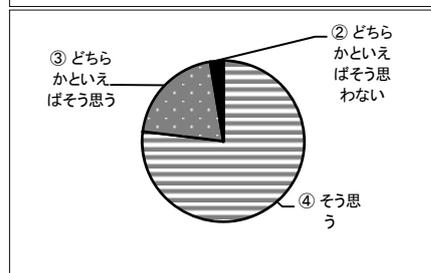
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	17	43.6
③ どちらかといえばそう思う	18	46.2
② どちらかといえばそう思わない	4	10.3
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



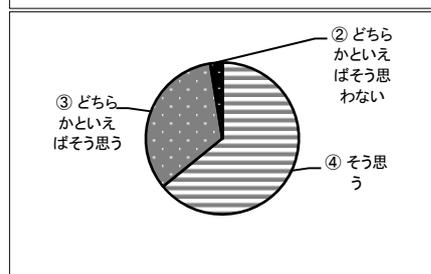
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	30	76.9
③ どちらかといえばそう思う	8	20.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

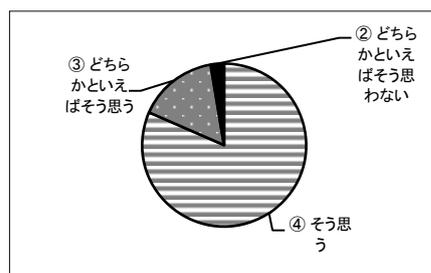
	回答数	割合
④ そう思う	25	64.1
③ どちらかといえばそう思う	13	33.3
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



4. 研修スタッフについて

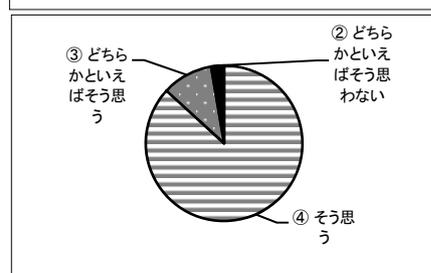
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	31	81.6
③ どちらかといえばそう思う	6	15.8
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



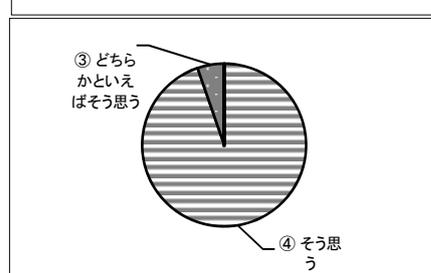
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	33	86.8
③ どちらかといえばそう思う	4	10.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



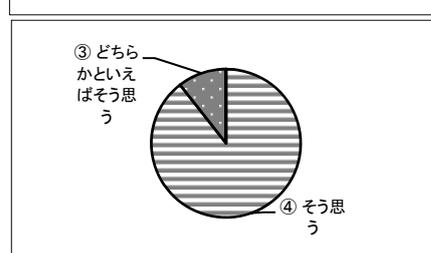
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	36	94.7
③ どちらかといえばそう思う	2	5.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

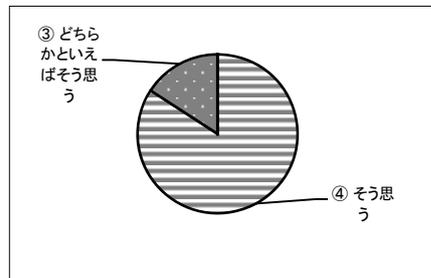
	回答数	割合
④ そう思う	34	89.5
③ どちらかといえばそう思う	4	10.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

	回答数	割合
④ そう思う	32	84.2
③ どちらかといえばそう思う	6	15.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0

※1名未回答

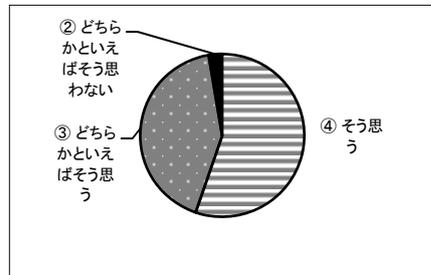


5. 研修成果について

(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	21	55.3
③ どちらかといえばそう思う	16	42.1
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0

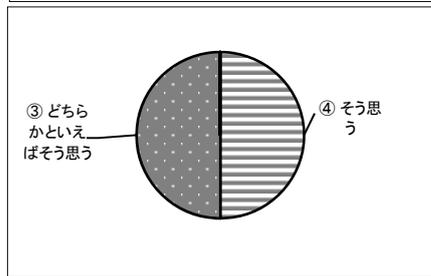
※1名未回答



(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	19	50.0
③ どちらかといえばそう思う	19	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0

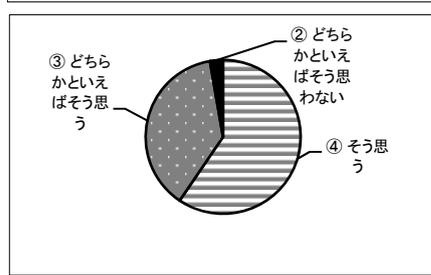
※1名未回答



(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	22	59.5
③ どちらかといえばそう思う	14	37.8
② どちらかといえばそう思わない	1	2.7
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0

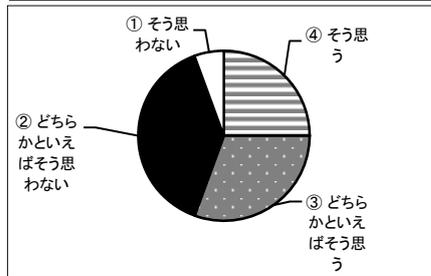
※2名未回答



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	9	25.0
③ どちらかといえばそう思う	11	30.6
② どちらかといえばそう思わない	14	38.9
① そう思わない	2	5.6
計	36	100.0

※3名未回答



受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

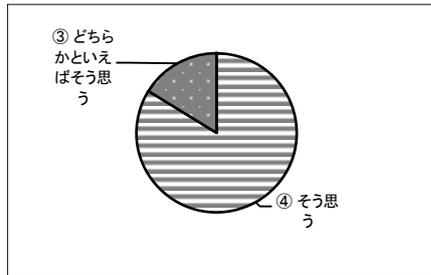
別紙記載

6. 研修全体について

(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	31	83.8
③ どちらかといえばそう思う	6	16.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0

※2名未回答



(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	25	67.6
③ どちらかといえばそう思う	11	29.7
② どちらかといえばそう思わない	1	2.7
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0

※2名未回答

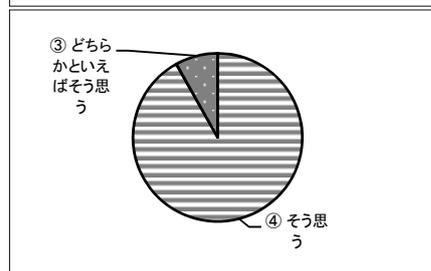
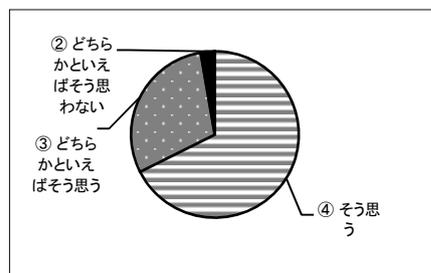
(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	34	91.9
③ どちらかといえばそう思う	3	8.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0

※2名未回答

研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

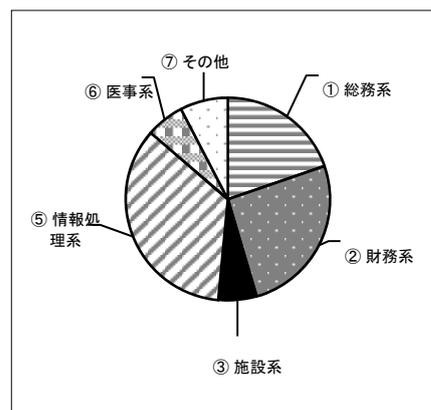
別紙記載



7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	13	33.3
② 財務系	17	43.6
③ 施設系	4	10.3
④ 図書系	0	0.0
⑤ 情報処理系	23	59.0
⑥ 医事系	4	10.3
⑦ その他	5	12.8



その他の記述内容

- ・ 語学系
- ・ Access応用
- ・ 国際関係

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

【パソコン】

- ・ PCスキル(業務の効率化) (12)
- ・ Excel(数式等の使い方等) (6)
- ・ 情報処理に関する知識(2)
- ・ ネットワークの基礎知識
- ・ 共有サーバーの管理スキル
- ・ システム系の知識
- ・ Accessのもう一段進んだスキルアップ
- ・ Accessで自在にレポートを作成できるようになること。
- ・ 資産管理をしているので、ExcelやAccessを効率よく使えるようになりたい。
- ・ 現在のExcelで管理している業務の効率化をはかるためAccessの知識・スキルが必要だと感じています。
- ・ Accessを使ってデータを管理するために必要な組み立てるスキル。どのように組み立てると自分が望む入力フォーム、印刷レポートになるかがまだうまく考えられない。
- ・ 大量のデータをまとめて表の作成やデータの計算を行う。今まで作成したデータを整理する。
- ・ データを整理し、必要時に抽出することに手間をとらないこと。

【その他】

- ・ 語学力(英語) (7)
- ・ プレゼンスキル
- ・ パワポ等プレゼン資料作り及びプレゼン・ 教員免許に関する法律の知識
- ・ 教務系業務しか経験していないため、総務・財務系の知識
- ・ 総務に関する(人事、給与、社会保険等)知識
- ・ 放射線取扱について(主任者資格)
- ・ 著作権法
- ・ 基本的な事務に必要なスキル
- ・ 初見の仕事を素早くこなすための仕事術

5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ 基礎固めを行うことができ、発展した内容について自主学習する準備が出来たこと。
- ・ 落ち着いたスピードで進めていただけたので、しっかり理解することができました。
- ・ データベースの活用方法がわかり、使い易いことがわかった。あとは、設計図を上手に構築できるかの努力が必要。
- ・ 習ったことをすぐに演習で復習することができたので、よく身についたように思います。
- ・ スキルを身につけられた。
- ・ 普段の業務で役立つ。

- ・ 復習問題があることで、普段の業務を思い浮かべることができ、普段の業務に生かせるよう頑張りたいと思いました。
- ・ 自己流で人の作成したデータベースをさわっていたが、基本から学び、自分で作ってみようという気がおきた。
- ・ 集中して学ぶことができた。
- ・ Access について全く知らなかったため、どのようなもので、どのような時に使うかが分かったため、日々の業務に取り入れるかどうか検討できるようになった。
- ・ 今まで全く理解していなかった Access の仕組みが分かった。また、学内でも今まで関わりがなかった方と関わることができた。
- ・ Access が難しいというイメージがなくなり、業務に活用したいと思えたこと。
- ・ 丁寧に解説していただけたため、基本的な知識・技術を身につけることができたこと。
- ・ まだ完全に理解できているとは言えないが、積極的に Access を業務に取り入れようと思うことができた。
- ・ Access を使用することによって、今まで作った大量の Excel データをまとめ、整理することができると思う。これを上手に使いこなし、表の作成やデータ管理を効率よく行いたい。
- ・ 講師の方のお話がとても聞き取りやすかった。話の内容もとても分かりやすかった。
- ・ 業務で Access のシステムを使用していたのですが、仕組みを詳しく理解していなかったので、今回教えていただいて、自分が使用中のシステムの作りについて理解できました。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

【内容】

- ・ 講師の方の説明が、ゆっくり・丁寧にとても分かりやすかったです。問題数も多く難しかったです。全部解けることができ達成感がありました。ありがとうございました。
- ・ 講習の方の説明、スピード、内容とも十分に満足です。ありがとうございました。
- ・ ゆっくりと丁寧に説明してくださり、とても分かりやすかったです。自分の理解力と PC 操作が遅くて落ち込みました。2 日間ありがとうございました。
- ・ 手順が全て書かれていたため、もう少し自分でどれを使ってつくるかなど、考えるところがあればより一人でできるようになったと思う。
- ・ テキスト他回答例がいただけると復習しやすい。
- ・ もう少し長い方が良い。
- ・ Access 初心者の中でも作業スピードにかなりの差があるため、作業が終わった方は時間を持て余していたのではないかと感じた。

【その他】

- ・ 空調が寒かった。(3)
- ・ 空気が悪かったので、時々喚起して欲しい。
- ・ テキスト代は拠出金から。
- ・ 大型連休前の 2 日間を全て研修に費やすのは、日常の業務をこなす上では時期的に大変だったので、できれば少しずつれていると助かると思いました。

「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」
見直しワークショップ実施要項

1. 目的

「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」を高等教育政策及び大学の管理運営の実情とニーズに沿ったプログラム内容に見直し，体系化することを目的とする。

2. 対象者

- ① 研修講師経験者
- ② 研修受講者
- ③ 人事担当者
- ④ SDプログラム開発に興味を持つ者

3. 期間：平成27年6月25日（木）～6月26日（金）

4. 日程：別紙のとおり

5. 場所：愛媛大学校友会館2階 サロン

6. 旅費：愛媛大学の旅費規則に準じて支給します。

7. 担当講師

愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	講師	阿部	光伸
愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	丸山	智子 他

8. 募集定員：20名

9. 主催：

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD），協力校：愛媛大学

「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」
見直しワークショップ日程表

日時：6月25日（木）～6月26日（金）：愛媛大学校友会館サロン

時間	(1日目) 6月25日 (木)	(2日目) 6月26日 (金)	時間
			9:00
		3. 研修プログラムの整理 (1) コンピテンスを身につけられる研修群 (2) 既存プログラムの「到達目標」の整理	
		昼 食	12:00
13:00	受 付		13:00
13:30	1. アイスブレイク	3. 研修プログラムの整理 (1) コンピテンスを身につけられる研修群 (2) 既存プログラムの「到達目標」の整理	
14:00	2. 「理想の人材像」の表象・抽象化 (1) 事前課題で挙げたキーワードの整理統合 (2) キーワードの関連づけ (3) 関連づけられたキーワードの明文化 ①マインド/コンピテンス ②人物像 ③研修の目的		
			17:00
17:30			
18:30	懇親会 ※任意参加		

(注) 都合により、時間を変更する場合があります。

SPODアンケート集計結果

研修名：「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」見直しワークショップ
 実施日：平成27年6月25日（木）～6月26日（金）
 実施会場：愛媛大学校友会館2階サロン
 アンケート回答者数：13名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① SPOD加盟校	10	76.9
② SPOD加盟校外	3	23.1
計	13	100.0

(2) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	11	84.6
② 短期大学	1	7.7
③ 高等専門学校	1	7.7
④ その他（ ）	0	0.0
計	13	100.0

(3) 所属先の設置者

	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	6	46.2
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	3	23.1
③ 学校法人	4	30.8
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	13	100.0

(4) 本プログラム参加の理由をお教え下さい。（具体的に）

別紙記載

(5) 貴学のSDの実施状況・課題をお教え下さい。（具体的に）

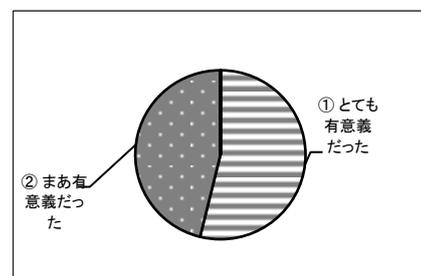
別紙記載

2. ワークショップについて

(1) ワークショップの内容はあなたにとって有意義なものでしたか。

	回答数	割合
① とても有意義だった	7	53.8
② まあ有意義だった	6	46.2
③ あまり有意義ではなかった	0	0.0
④ 全く有意義ではなかった	0	0.0
計	13	100.0

・有意義だった内容、有意義でなかった内容 別紙記載

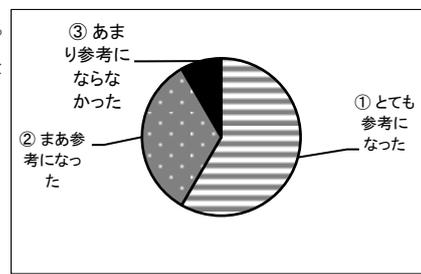


(2) ワークショップは今後のSDマップを開発するのに参考になりましたか。

	回答数	割合
① とても参考になった	7	58.3
② まあ参考になった	4	33.3
③ あまり参考にならなかった	1	8.3
④ 全く参考にならなかった	0	0.0
計	12	100.0

・参考になった内容、参考にならなかった内容 別紙記載

※1名未回答



(3) 今回のワークショップに参加しての意見・感想・要望などをご自由にお書きください。

別紙記載

【自由記述欄】

1 (4) 本プログラム参加の理由をお教え下さい。(具体的に)

- ・人事課からの指名。(2)
- ・SD担当者だから。
- ・実際にプログラムの講師を務めているため、見直しに参加して意見を伝えたかったため。
- ・自大学のSDプログラム開発のため、その手法を体験したかったから。
- ・SDプログラムの見直しは必要との考えから、講師経験が役に立てばと思い参加しました。
- ・養成プログラムの作成の流れについて興味・関心があったから。
- ・時代がまた変わろうとしている時にSPODの研修がどう変化しようとしているのかを探りたかった。
- ・当初のプログラム開発に関わったので講師を担当してやりづらさを感じたので。
- ・本学でもSD推進を考えていきたいという思いが基本的にあるため、プログラムの見直しやその背景などを知る機会となるのではないかと思い、また、SDCの方や取得を目指している方とのネットワークキングも少し期待して参加しました。
- ・自校のSDの参考にするため。
- ・所属大学のSDプログラム見直し手法を学ぶため。

1 (5) 貴学のSDの実施状況・課題をお教え下さい。(具体的に)

- ・SDは全く実施されていない。組織として、まず必要性を認識する必要があると考える。
- ・大学独自、国大協、人事院等の研修を組み合わせる研修を行っている。大学独自の研修については、プログラム開発から行っているため、講師の確保も含めて試行錯誤している。
- ・SPODを中心に実施している状況。職員を将来的にどうするか、どうなって欲しいかを考えた上での計画的なSDが今後の課題か？
- ・数多く実施しているが、本当に実務に役立っているか不明。本当に職員のレベルが上がっているか、不明。
- ・SDはないです。
- ・事務職員の人数が少なく、専任の担当者がいないこと。
- ・年間数人の職員がSPODの研修会やフォーラムに参加したり、私が短大協会などの部門別研修会に参加するという状況である。各部署内でそれぞれの成果を報告することはあっても事務組織全体で報告したり共有することは殆どないのが現状である。各部署の業務の多忙さ、人員数のこともあり、SDを上げられていないのが課題である。
- ・SDの取り組みについて、まったく評価の対象になっていない。そのことが原因かどうか不明だが、若手・中堅の研修受講者がほとんどいない。
- ・本来先に明確化されているべき個々人の適性や能力の適正な評価、キャリアパス(適正な人事異動)が整備されていない状況で研修が一人歩きしていることが問題。(現在の評価制度には人材育成にうまく繋げていく仕組みが実質的に機能していない。)
- ・「研修はあくまで目的達成の手段である」ということが機能していない。(研修が目的化している。)

- ・「SDの義務化」への対策だけではないが、毎年研修プログラムの体系化を目標にあげながら徐々に進歩してはいるが、実際の運営については節制的で職員のモチベーション向上につながっているとは思えない状況です。階層別研修は準備されている（主査、課長補佐、管理職、新任者）が毎年度1階層のみの研修が行われる。その他は外部での研修に数人推薦して参加するということが終わっている。
- ・外注できない内容にどのように対応するか。
- ・2014年度に人材像、育成方針を明確化するとともに、キャリアビジョンシートに基づく育成面談、職務ガイドの作成を行った。2015年度は研修制度の再構築、人事制度の策定が課題となっている。

2（1）ワークショップの内容はあなたにとって有意義なものでしたか。

■有意義だった内容を具体的にお書き下さい。

- ・研修全体のカリキュラムを見通すことができた。
- ・異なった目線で見直すことは、固定化した考えを取り払うことができ役にたった。
- ・機関や立場を越えて様々な意見を聞くことができた。
- ・多様な視点から意見交換、ディスカッションができた。
- ・モチベーションの維持方法など、自分の特性が理解できた。
- ・プログラムの見直し方法について知ることができた。
- ・講師の方々とのグループワークの中で違った考え方を知れたこと。
- ・研修全体を見ることができたこと。
- ・到達目標を減らせたこと。
- ・スキル（能力）のカテゴリ分類等の考え方
- ・到達目標を考える際に、どんな事に気をつけなければいけないのか知ることができた。
- ・結論を得るまでの議論を通じて共通認識を持てた点。

■有意義でなかった内容を具体的にお書き下さい。

- ・具体的なプログラム運営にまで、議論がいかなかったこと。

2（2）ワークショップは今後のSDマップを開発するのに参考になりましたか。

■参考になった内容を具体的にお書き下さい。

- ・必要とするスキルから考えていく手順が分かった。
- ・到達目標の見直し、整理
- ・講師側が違和感なく講義できる内容に精査できたのでは。
- ・カテゴリーを一つ考えるのにも苦勞し、勉強になった。

■参考にならなかった内容を具体的にお書き下さい。

- ・今後、自分自身がSDマップの開発ができるのか不明のため。

2 (3) 今回のワークショップに参加しての意見・感想・要望などをご自由にお書き下さい。

- ・職員として必要なスキルを自分自身で見直す良い機会になりました。
- ・SDマップの見直しは、必要なことだと思っていたので、その業務に関わられて良かった。より大学職員のためとなる能力開発につながるプログラムマップが出来上がればと思います。
- ・他大学のモチベーションの高い職員の皆様と交流ができ、大変刺激になりました。
- ・うまくゴールのイメージを持つことが出来ず、3班は迷走してしまった部分がありました。今回の反省点の1つです。お疲れ様でした。
- ・WSのゴールがあまり見えていなかったため、今何の作業をしているのか、今の作業が何に繋がるのか、時折分からなかった。
- ・プログラム及び到達目標のネーミング等は参加者の興味や大学からの派遣の際、とても大切な要素なので、戦略的な点からも考略していただきたい。
- ・レベルに応じた様々な研修があることを再認識できましたので、今のところ新任者研修しか受講できていなかったもので、違うプログラムにも積極的に参加していきたいと思いました。
- ・今回は見直しWSだったため、既存のものから派生した新規項目はあったが、全く新しいプログラムの必要性の議論、開発は行われていない。SPODは四国地区の大学等教職員の能力開発であるので、例えば、「地域」ということについて各大学等で取り組みを行っているとは思いますが、何かプログラムはできないか・・・などと思った。講師経験のある方々の修正案には、納得できることが多かったが、そうでない者は意見が少し出しにくい面もあった。
- ・それぞれのワークが有機的につながり得ていないように感じた。
- ・1日目の進め方について、自分自身の中で理解できなかったので作業に対するモチベーションが……。2日目に到達目標がある程度整理できて良かったです。今後、今回の作業をどう進めていくのか次のプログラムの実施にどう反映されるのか・・・お役に立てることがあれば、また声をかけてください。
- ・実際の作業に入るまでが遠回りに感じました。課題の本質を共有したうえで作業に入るのは必要だと思いますが、本ワークショップの目的が限定的である以上、あそこまで遠回りする必要はなかったかと思います。「2日目の午前中にまとめた、『必要な能力』を高めるためのSDプログラムが現在用意されているのか」という検証も含めて、2日目の午後の作業をした方がよいと思いました。「モチベーション」というキーワードも後半は出てこなくない、全体的な流れが分かりにくかったです。
- ・四国の皆さんは毎回元気だということは知っているつもりでしたが、今回はことさらパワフルさに圧倒されました。今回色々と議論できたことは非常によい経験で、これを自大学に持ち帰り同様のことをしたいとSDCフォローアップの内容でも考えましたが、何かハードルがあり難しくできませんでした。今回も同じ想いでおりますが、戻ればやっぱり同じかな・・・という感想です。が、今後とも継続的に色々と学ばせていただきたいので、よろしくお願いします。

SPODフォーラム2015「社会連携系職員養成プログラム（レベルⅠ）」

ー地域特性論ー

1. 到達目標

- ・地方創生の意味が理解できる。
- ・地域資源の活用方法を提案できる（地域イノベーションの提案）。
- ・地方創生における大学の意義・方向性を理解する（COCの意義）。

2. 対象者

教職員 地方創生、地域活性化の為には、地方国立大学がリージョナルセンターとしての機能をさらに強化しなければならない。大学を「地（知）の拠点」とするために活動している多くの教職員に参加していただきたい。

3. 日 時

平成27年8月26日（水）10:00～12:00

4. 場 所

愛媛大学 城北キャンパス

5. 担当講師

坂本 世津夫（愛媛大学 社会連携推進機構 教授(地域連携コーディネーター)）

6. 概 要

急速な人口減少、超高齢化社会、従来型産業の衰退と、現在の日本は（日本の地域社会は）大きな転換点にさしかかっている。それを打開させる為に、「地方創生」が叫ばれているが（国では、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう、まち・ひと・しごと創生本部を設置している。そして大学には、自治体との連携を強化して打開策に取り組み、地域課題に対応できるように大学改革が求められている）、具体的にどう対応すれば良いのか、国も自治体も大学も打開策を見いだせていない状況にある。今回の講義では、地方創生の意味を理解して、地域が本来持っている資源を如何に活用して地方創生を図るか、教職員は如何にアクションすれば良いのかについて講義を行う。地方創生、地域資源を活用した地域の活性化手法のヒントになればと考えている。

SPODフォーラム2015アンケート(個別プログラム用)集計結果

プログラム名: 社会連携系職員養成プログラム レベル I「地域特性論」-地方創生・地域資源を活用した地域の活性化-(2601C)

講師名: 愛媛大学 坂本 世津夫

実施日: 平成27年8月26日(水)

実施会場: 愛媛大学城北キャンパス 法文学部講義棟304講義室

当日参加者数: 41名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	35	85.4
② 短期大学	5	12.2
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他()	1	2.4
計	41	100.0

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	9	22.0
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	7	17.1
③ 学校法人	24	58.5
④ その他()	1	2.4
計	41	100.0

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	19	46.3
② 北海道	1	2.4
③ 東北	5	12.2
④ 関東	0	0.0
⑤ 中部	2	4.9
⑥ 近畿	3	7.3
⑦ 中国	7	17.1
⑧ 九州・沖縄	4	9.8
計	41	100.0

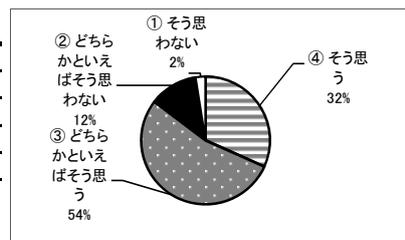
(4) 職種

	度数	割合
① 教員	7	17.1
② 職員	33	80.5
③ 学生	0	0.0
④ その他()	1	2.4
計	41	100.0

2. この研修について

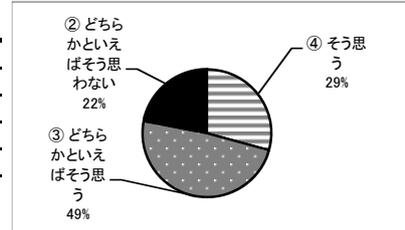
(1)研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	13	31.7
③ どちらかといえばそう思う	22	53.7
② どちらかといえばそう思わない	5	12.2
① そう思わない	1	2.4
計	41	100.0



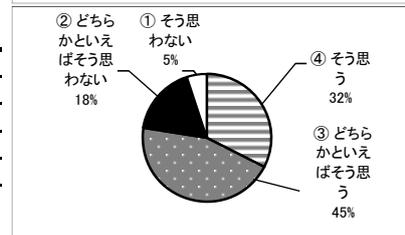
(2)研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	12	29.3
③ どちらかといえばそう思う	20	48.8
② どちらかといえばそう思わない	9	22.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



(3)研修の到達目標が明確に示されていた

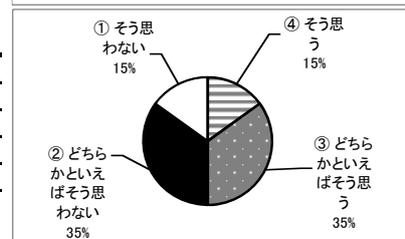
	度数	割合
④ そう思う	13	32.5
③ どちらかといえばそう思う	18	45.0
② どちらかといえばそう思わない	7	17.5
① そう思わない	2	5.0
計	40	100.0



※1名未記入

(4)研修はわかりやすい順序ですすめられた

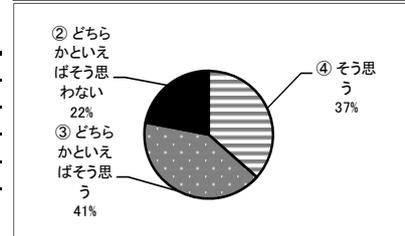
	度数	割合
④ そう思う	6	15.0
③ どちらかといえばそう思う	14	35.0
② どちらかといえばそう思わない	14	35.0
① そう思わない	6	15.0
計	40	100.0



※1名未記入

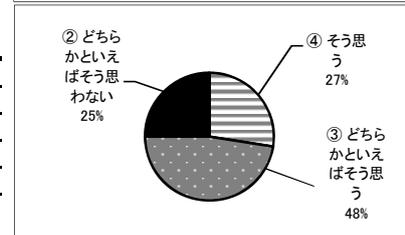
(5)講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	15	36.6
③ どちらかといえばそう思う	17	41.5
② どちらかといえばそう思わない	9	22.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



(6)自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

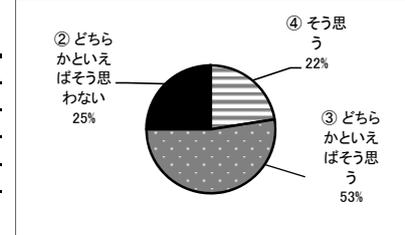
	度数	割合
④ そう思う	11	27.5
③ どちらかといえばそう思う	19	47.5
② どちらかといえばそう思わない	10	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



※1名未記入

(7)受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

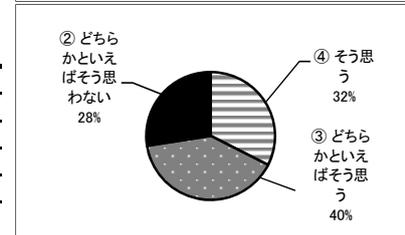
	度数	割合
④ そう思う	9	22.5
③ どちらかといえばそう思う	21	52.5
② どちらかといえばそう思わない	10	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



※1名未記入

(8)研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	13	32.5
③ どちらかといえばそう思う	16	40.0
② どちらかといえばそう思わない	11	27.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



※1名未記入

3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・「考えるスイッチを入れる」繰り返し述べられたこの言葉の意味をしっかりと受け止めて、これから課題を全体的に本質的に見ていくことに努めていきたいと思いました。教員として思考の転換が必要とされていることを実感させられる講義でした。ありがとうございました。
- ・頭にスイッチを入れる。俯瞰的に見る。
- ・哲学的な話がとても興味深かったです。質問しない学生の話がとても役に立ちました。
- ・全体を俯瞰する視点での思考の必要性についてよく理解できました。
- ・雑多に取り組んでいる案件にコンセプトが貼られたこと。
- ・「スイッチを入れる」という言葉が印象的でした。
- ・地方創生は良い人材の発掘と混ぜ合わせであるということ深く考えさせられました。地方創生の本当の意味を理解することが必要だと
- ・自分が日頃考えていたことについて触れた部分があり、考えが深まった。
- ・地域活性へ取り組む姿勢を再確認しました。常識やこれまでの成功例を頼りにしてはいけないと思いました。
- ・教職員として必要な視点や能力についてお話が聞けたこと。
- ・意識改革をできた。
- ・自治体との連携をする上での情報収集の具体例を紹介した点。
- ・地方創生について、これまで見聞きしたことが全くありませんでした。私が住む地域に興味、関心を持つきっかけになりました。
- ・IT活用については普段充分考えられていない点だったので参考になった。
- ・(社会連携への)業務を遂行する上で必要な視点を教えていただいたこと。
- ・思考のスイッチを入れてその場で考え、発言できるようにしたいと思った。
- ・本講義内容において「愛媛学」を開講している旨のお話がありましたが、本学においても「学びの青森化」を検討中とあります。同じ地方の大学として、地の拠点として改めて学ぶことができました。
- ・大学、地域が抱える問題点などを認識できました。
- ・自分の課題に引きつけて考える機会になりました。ありがとうございました。
- ・これからの地方大が進む方向が少しわかった点。また、それが進んでいることと政府の施策などが結びついて納得できた点。
- ・国の予算、自治体の予算の大きさを頭に入れて、大学として何ができるのか、何をすべきかを考える必要があり、自分自身の個々のタスクや課題解決だけに達成感を得てばかりではいけないなど自覚した。
- ・現在は地方創生に関する業務には携わっていないが、考える力やコミュニケーションの向上、様々な情報を知ることなど、今後の業務に生かせる内容がしるべきだった。
- ・日本の状況や対応の流れは勉強になった。
- ・国・県の動向を先に見ること、その重要性を気づかされた。
- ・大学に求められているもの、どんな立ち位置にいるかを知ることができ、根本的な考え方、視点を広くとるべきだと気が付いた。
- ・地域特性論の視点の中に人材育成が入っていたこと。
- ・国、自治体の動向、それに対して大学に求められていることを考えながら業務を進めなければならないと思った。情報をいかに集め、そこから何を考えるかが重要だと感じた。これからの業務に活かしていきたい。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・もう少しプログラムを長い時間にして、その中で自分で作成した地域創生案をグループで議論したら面白いを思います。
- ・概念的でしたので、具体例が備わってくるとより伝わると思いました。
- ・もう少し実用的な内容が聞きたい。
- ・始めに断りがあったが、お話が飛びがちでしたのでもう少し整理されていた方が分かりやすかった。また、もう少し取り組まれていることに対する具体的事例が聞きたかった。
- ・取組みの具体例などを挙げていただけたら参考にしたいと思いました。
- ・もう少しテーマに沿った話をしてもらいたい。
- ・「地方特性論、地方創生、地域貢献を活用した地域の活性化」という講義タイトルに沿った講義内容になっていない気がする。話題があちこち行き過ぎているような気がする。
- ・「こういう考え方・見方をしてほしい」という概念的なお話がほとんどだったが、「地域創生」「COC」等の大学改革に役立つ知識・事例の習得を期待していた。
- ・地方創生についてもう少し具体例を聞きたい。
- ・ちょっと予想していた講座ではなかった。地方創生するためのワークショップ型の講座があってもよかったと思う。
- ・実例を参考にすれば面白いのではないかな。

SPODフォーラム2015「国際連携系職員養成プログラム（レベルI）①

「外国人受入入門」－留学生の受入 AtoZ－

1. 到達目標

- ・外国人の受入手続きができる。
- ・外国人に渡日前の手続きについて説明することができる。
- ・外国人に渡日時の手続きについて説明することができる。
- ・外国人の就学・就労等に関する支援ができる。
- ・日本の生活・安全に関して説明することができる。
- ・外国人に帰国時の手続きについて説明することができる。

2. 対象者

大学等で海外からの留学生の受入業務に携わっている方。教員、職員を問いません。初心者及び経験年数が短い方はもちろんですが、中小大学等での事例も紹介しますので、経験年数の長い方でも、「おさらい」のために参加くださっても受入業務全体を俯瞰することによって、新たな発見や、業務改善のヒントになります。

3. 日 時

平成27年8月26日（水）13：00～15：00

4. 場 所

愛媛大学 城北キャンパス

5. 担当講師

塩川 雅美（摂南大学 学長室 大学改革アドバイザー）

6. 概 要

文部科学省による「留学生受入れ30万人計画」はもとより、国内学生の海外派遣数増加推進の方針に応じるためにも留学生の受け入れ推進は多くの大学にとって、避けては通れない課題になりつつあります。しかしながら、留学生受入れ業務は、経費と人手がかかるために、大学内の業務の中でも「後回し」になりがちであることも否めない事実です。今回の研修は、「国際連携系職員養成プログラム」の「レベル1」として、「留学生受入れ業務」のAtoZについて説明しながらも、「留学生受入れ業務」全体を俯瞰しますので、初心者ではない方も、今一度、業務を見直していただくきっかけになることでしょう。少ない担当者数、少ない予算でも、実践できる「留学生受入れ業務」の事例も紹介します。

SPODフォーラム2015アンケート(個別プログラム用)集計結果

プログラム名:国際連携系職員養成プログラム レベル I ①「外国人受入入門」-留学生の受入 A to Z-(2602F)

講師名:摂南大学 塩川雅美

実施日:平成27年8月26日(水)

実施会場:愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

当日参加者数:35名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	30	90.9
② 短期大学	2	6.1
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他()	1	3.0
計	33	100.0

★その他…「学校法人本部」

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	9	27.3
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	7	21.2
③ 学校法人	17	51.5
④ その他()	0	0.0
計	33	100.0

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	18	54.5
② 北海道	0	0.0
③ 東北	0	0.0
④ 関東	3	9.1
⑤ 中部	5	15.2
⑥ 近畿	4	12.1
⑦ 中国	3	9.1
⑧ 九州・沖縄	0	0.0
計	33	100.0

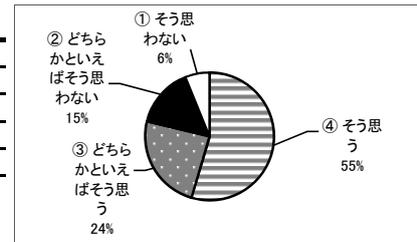
(4) 職種

	度数	割合
① 教員	9	27.3
② 職員	24	72.7
③ 学生	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	33	100.0

2. この研修について

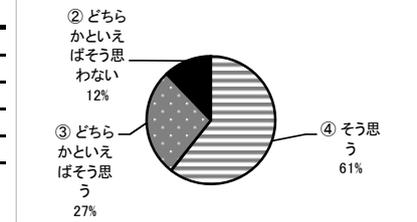
(1)研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	18	54.5
③ どちらかといえばそう思う	8	24.2
② どちらかといえばそう思わない	5	15.2
① そう思わない	2	6.1
計	33	100.0



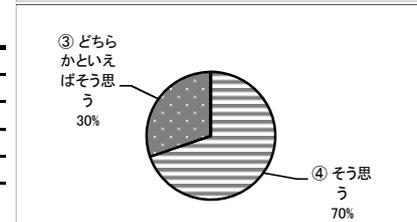
(2)研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	20	60.6
③ どちらかといえばそう思う	9	27.3
② どちらかといえばそう思わない	4	12.1
① そう思わない	0	0.0
計	33	100.0



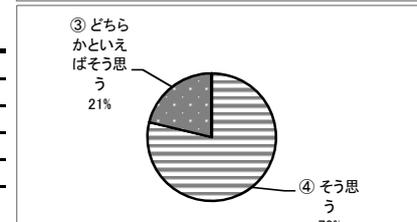
(3)研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	23	69.7
③ どちらかといえばそう思う	10	30.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	33	100.0



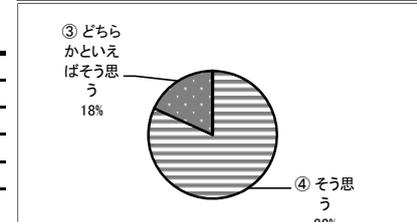
(4)研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	26	78.8
③ どちらかといえばそう思う	7	21.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	33	100.0



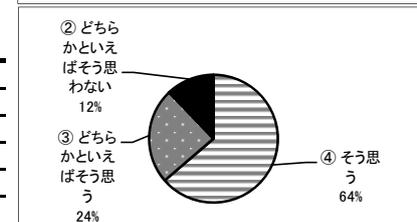
(5)講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	27	81.8
③ どちらかといえばそう思う	6	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	33	100.0



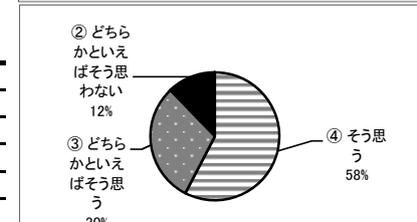
(6)自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	21	63.6
③ どちらかといえばそう思う	8	24.2
② どちらかといえばそう思わない	4	12.1
① そう思わない	0	0.0
計	33	100.0



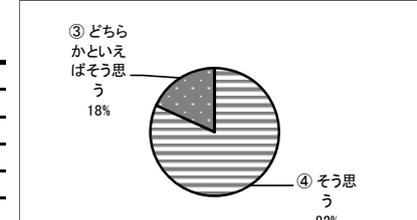
(7)受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	19	57.6
③ どちらかといえばそう思う	10	30.3
② どちらかといえばそう思わない	4	12.1
① そう思わない	0	0.0
計	33	100.0



(8)研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	27	81.8
③ どちらかといえばそう思う	6	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	33	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
- ・知っていることは確認でき、知らないこと(ポイント)を確認できた。
 - ・実体験に基づき、詳細に教えてくださった。
 - ・幅広くわかりやすい内容で説明してくださったので、内容が入ってきやすかったです。
 - ・概要を知りたいと思い受講しました。その目的は達成できて満足です。
 - ・様々なケースの事例を知ることができ、参考になった。
 - ・具体的なエピソードを交えながらお話しくださりわかりやすかったです。
 - ・今後、国際関係業務に関わる際に役立つ知識を学べた。
 - ・忙しくなると機械的にこなしてしまうこともあるが、一つ一つ確認しながら業務をしなければならなかった。
 - ・留学生との関係について考えさせられた。
 - ・わかりやすかったです。
 - ・最後のお話。
 - ・受け入れの具体的な項目を1つ1つ丁寧に伺うことができ、本当に勉強になりました。
 - ・留学生の受け入れに関して、基礎知識な部分から実践的な部分まで、色々な話を聞くことができ、今後活かせる点が見つかりました。
 - ・学生を1年間の交換プログラムで出すプロセスは教員の立場からはわかっていたが、受け入れ側がどうようことを行われているかを知る
 - ・今年の7月より留学生への支援業務が移管され、まだ全般を把握できていなかったのもので、全般的なところを掴むことができ、何に力を入
 - ・自分が今まで行ってきた業務の再確認及び新たな発見ができたこと。
 - ・お話がおもしろく長時間にもかかわらず飽きずに聴講することができました。ありがとうございました。
 - ・外国人留学生から信頼される職員を目指さないといけないと思いました。
 - ・留学生受け入れの基本的な流れや注意点が先生の体験をつうじて具体的に理解できました。
 - ・講師の先生のお話を参考に、自分自身が日頃取り組んでいる業務内容が間違っていないことが再確認できたので大変よかったですと思いま
 - ・わかりやすくご説明いただけたので、業務の全体の流れを確認できた。
 - ・これからのことでまだイメージできていなかったこともあったが、とても参考になった。
 - ・主に事務職向けの内容(FDよりSD)であったが、国際交流としての姿勢、やるべきことを再確認できた。
 - ・講師の実体験をたくさん聞いた点。
4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
- ・事前に資料がwebにあがっていると良いと思います。
 - ・もう少し時間があるとよい。
 - ・やはり、時間的余裕がありませんでしたので、時間効率の高い研修を望みます。
 - ・画面が少々見づらかったです。
 - ・グループディスカッションで問題の共有化、情報交換する機会があればなおよかった。
 - ・内容が多く、2コマで実施していただき良かったです。

SPODフォーラム2015「国際連携系職員養成プログラム（レベルI）②

「海外派遣入門」

1. 到達目標

- ・海外体験の意義について説明することができる。
- ・自大学及び政府等が実施する海外派遣制度について説明することができる。
- ・派遣に際しての手続きを説明することができる。
- ・派遣に際しての注意事項を説明することができる。

2. 対象者

大学等で海外派遣業務に携わっている方。教員、職員を問いません。初心者及び経験年数が短い方はもちろんですが、経験年数の長い方でも、「おさらい」と「情報交換」のために参加ください。

3. 日 時

平成27年8月26日（水）15：30～17：30

4. 場 所

愛媛大学 城北キャンパス

5. 担当講師

塩川 雅美（摂南大学 学長室 大学改革アドバイザー）

6. 概 要

「日本人学生の内向き志向」が取り上げられ、海外留学などの海外経験に対して、現在の学生は消極的であると言われていています。しかし、次代を担う学生たちが国内にとどまるのみでは、地球的規模のグローバル化社会では、日本の存在自体が危うくなります。文部科学省は、企業から原資を集め、「官民協働海外留学支援制度～トビタテ留学 JAPAN 日本代表プログラム」を創設しました。経済が活況を呈していない中でも、寄付金が集まったことに象徴されるように、今や、文部科学省が国内学生の海外派遣数増加推進のための施策を講じるだけでなく、社会も「グローバル人材」には、海外体験が必要であるとして、国内学生の海外派遣への関心は高くなっています。今回の研修は、「国際連携系職員養成プログラム」の「レベル1」として、「海外派遣業務」の基本について学びます。

SPODフォーラム2015アンケート(個別プログラム用)集計結果

プログラム名: 国際連携系職員養成プログラム レベル I ②「海外派遣入門」(2603F)
 講師名: 摂南大学 塩川雅美
 実施日: 平成27年8月26日(水)
 実施会場: 愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

当日参加者数: 36名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	33	91.7
② 短期大学	3	8.3
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	36	100.0

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	11	30.6
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	10	27.8
③ 学校法人	15	41.7
④ その他()	0	0.0
計	36	100.0

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	20	55.6
② 北海道	0	0.0
③ 東北	0	0.0
④ 関東	4	11.1
⑤ 中部	4	11.1
⑥ 近畿	3	8.3
⑦ 中国	3	8.3
⑧ 九州・沖縄	2	5.6
計	36	100.0

(4) 職種

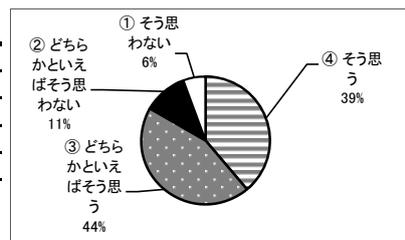
	度数	割合
① 教員	11	31.4
② 職員	24	68.6
③ 学生	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	35	100.0

※1名未記入あり

2. この研修について

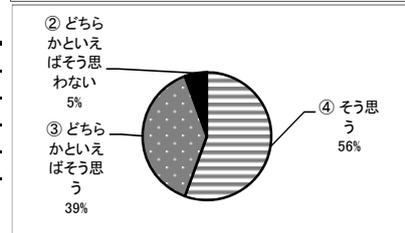
(1)研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	14	38.9
③ どちらかといえばそう思う	16	44.4
② どちらかといえばそう思わない	4	11.1
① そう思わない	2	5.6
計	36	100.0



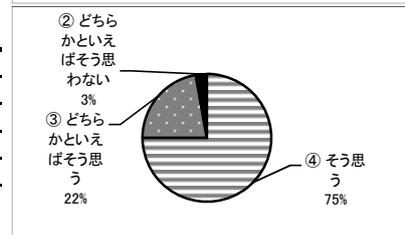
(2)研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	20	55.6
③ どちらかといえばそう思う	14	38.9
② どちらかといえばそう思わない	2	5.6
① そう思わない	0	0.0
計	36	100.0



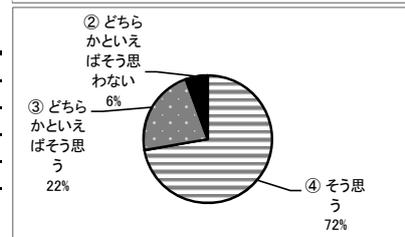
(3)研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	27	75.0
③ どちらかといえばそう思う	8	22.2
② どちらかといえばそう思わない	1	2.8
① そう思わない	0	0.0
計	36	100.0



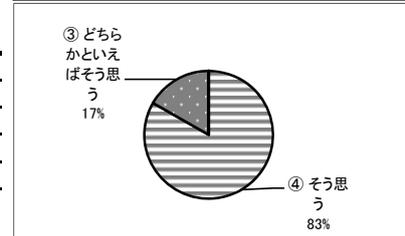
(4)研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	26	72.2
③ どちらかといえばそう思う	8	22.2
② どちらかといえばそう思わない	2	5.6
① そう思わない	0	0.0
計	36	100.0



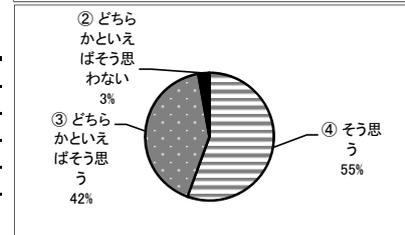
(5)講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	30	83.3
③ どちらかといえばそう思う	6	16.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	36	100.0



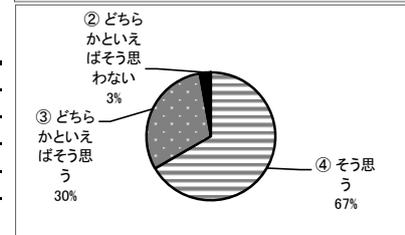
(6)自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	20	55.6
③ どちらかといえばそう思う	15	41.7
② どちらかといえばそう思わない	1	2.8
① そう思わない	0	0.0
計	36	100.0



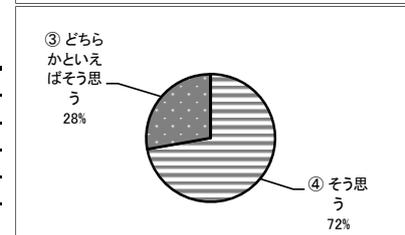
(7)受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	24	66.7
③ どちらかといえばそう思う	11	30.6
② どちらかといえばそう思わない	1	2.8
① そう思わない	0	0.0
計	36	100.0



(8)研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	26	72.2
③ どちらかといえばそう思う	10	27.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	36	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
- ・ まだ大学自体が国際的ではありませんが、少しずつそういう感覚を高めていきたいと思いました。
 - ・ 話術の大切さがよくわかった。
 - ・ 講義の内容は大変わかりやすく、自身の業務と照らし合いながら聞いていました。おさらいができたし、今後の方向性を定めることにも参考になりました。
 - ・ 話の中で貴重な情報を知ることができました。
 - ・ 海外へ派遣する際のポイントが簡単にわかりました。
 - ・ 送り出しプログラムを段階別に準備しなければいけないと思った。にくまれ役になってもいいので、とにかく無事に学生が帰ってこられるよう、ステップアップの道を明確に示す。
 - ・ 先生が具体的な事例を用いて説明してくださり、わかりやすかった。
 - ・ 事後の大切さ、「非日常を日常に落とし込む」という言葉が本当に心に残りました。
 - ・ 今後の指針となった。
 - ・ 入門の広い知識を得ることができ、良かった。
 - ・ 具体的な経験談を聞けてよかった。
 - ・ 経験が浅く、自分の知識が不足している箇所が分かった。
 - ・ 基礎的な知識の修得に役立った。
 - ・ 詳細に教えていただいた。
 - ・ 具体的に業務に活かせる小話が多く、大変勉強になりました。
 - ・ リスクマネジメントの学びを得た。
 - ・ 講師の熱が伝わってきて非常に聞きやすかった。
 - ・ すぐに活用できる様々な体験談をお聞きでき、大変参考になりました。特に、危機管理に関してぜひとも取り入れていきたいと思います。
 - ・ 派遣プログラムは学生が無事に帰国したら終了という感覚がありましたが、振り返りの大切さを学ばせていただき大変勉強になりました。
 - ・ 送り出しに関しては担当外ですが、留学生の受け入れの視点からも非常に役立つポイントが多くありました。非常にためになりました。
 - ・ また、リスクマネジメントが改めて重要であるということも痛感しました。お話の内容も面白かったです。ありがとうございました。
 - ・ 徳に海外体験の意義に関するお話がstimulating, exciting and helpfulでした。ありがとうございました。
 - ・ とても熱い話でした。
 - ・ 気づかされること、考えさせられることがたくさんあった。
4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
- ・ 初任者が通りすがりに聞いてわかるような題材ではないので、協定締結の端緒から、連携事業の成功例、実践例を含めたいくつかのモデル事業のうち、ひとつの事例(協定のもの)を通じて大学職員としての意識を高めるような解説があってもよいと思いました。
 - ・ 2コマ連続講座とし、前半部分を省略してほしかった。
 - ・ もう少し時間(コマ)を増やしても良いと思う。
 - ・ もう少し他大学の方と情報交換したい。
 - ・ 自己紹介30分は長過ぎたと思います。
 - ・ 時間を延ばしている印象があったため、グループ内の交流を増やした方がよい。
 - ・ グローバル化の推進という観点から海外体験にあまり意欲の高くない学生を参加させる(参加してくさせる)ようなしかけがあれば聞いて;

平成27年度次世代リーダー養成ゼミナール実施要項

1. 目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に学び、「巻き込み力」を発揮する人材を養成する。

2. 到達目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

※本ゼミナールの詳細については、別紙1「次世代リーダー養成ゼミナール概要」及び別紙2「次世代リーダー養成ゼミナール科目一覧」をご参照ください。

3. 開催日

(第1回) 平成27年 5月21日(木)～23日(土) (徳島大学)

(第2回) 平成27年 7月16日(木)～18日(土) (愛媛大学)

(第3回) 平成27年11月 5日(木)～ 7日(土) (高知大学)

(第4回) 平成28年 1月21日(木)～22日(金) (愛媛大学)

※次世代リーダー養成ゼミナールのプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

4. 場所

(第1回) 徳島大学 ※場所の詳細については、後日ご連絡いたします。

5. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。

※別紙3「スタッフ・ポートフォリオ記入例」をご参照ください。

※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。

※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

6. 募集人員

10名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

7. 講師

桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科	教授	山本眞一
九州共立大学	教授	船戸高樹
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師	阿部光伸
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師	仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	清水栄子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	丸山智子
愛媛大学教育学生支援部	部長	吉田一恵 他、外部講師複数名

8. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

9. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

平成27年度次世代リーダー養成ゼミナール（第1回）日程表

場所：徳島大学

時間	(1日目) 5/21 (木)		(2日目) 5/22 (金)		(3日目) 5/23 (土)		時間
	5期生	6期生	5期生	6期生	5期生	6期生	
10:00	講師 清水 栄子 メンター入門		講師 丸山・吉田・仲道・清水・阿部	5期生による プロジェクト実践Ⅱ（進捗）	講師 丸山・吉田・仲道・清水・阿部	九州共立大学 船戸 高樹	9:00
11:30				プロジェクト実践Ⅳ （ゼミ指導）			
12:00	昼食		昼食		昼食		12:00
13:00	開講式		講師 阿部 光伸 SD実践Ⅰ（プログラム構築）	講師 桜美林 山本 眞一 高等教育政策論	講師 丸山・吉田・仲道・清水 インストラクション・スキルⅠ（プレゼンスキル） ※6期生による自大学プレゼン	休憩	13:00
13:30	次世代リーダー養成ゼミナール 受講にあたって （6期生より決意表明）						
14:00	講話 講師 阿部 光伸		講師 阿部 光伸 リーダーシップ論Ⅰ	講師 丸山 智子 プロジェクトマネジメント	講師 阿部 光伸 インストラクション・スキルⅠ（プレゼンスキル）	15:00	
14:30							
16:10	休憩		休憩		講師 阿部 光伸 インストラクション・スキルⅠ（プレゼンスキル）	15:10	
16:20			講師 阿部 光伸 SD実践Ⅰ（プログラム構築）	講師 丸山 智子 プロジェクトマネジメント			
16:30	休憩						17:00
16:40	メンタリング実践Ⅰ ※5期生が6期生へのメンタリング		情報交換会				
18:00							
19:00	情報交換会		情報交換会				
21:00							

※ 都合により、時間を変更する場合があります。

※ 色付き箇所は2講義につきましては、次世代リーダー養成ゼミナール受講生以外にも開放いたします。

平成27年度次世代リーダー養成ゼミナール実施要項

1. 目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に学び、「巻き込み力」を発揮する人材を養成する。

2. 到達目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

※本ゼミナールの詳細については、別紙1「次世代リーダー養成ゼミナール概要」及び別紙2「次世代リーダー養成ゼミナール科目一覧」をご参照ください。

3. 開催日

(第1回) 平成27年 5月21日(木)～23日(土)(徳島大学) ※実施済

(第2回) 平成27年 7月16日(木)～18日(土)(愛媛大学)

(第3回) 平成27年11月 5日(木)～ 7日(土)(高知大学)

(第4回) 平成28年 1月21日(木)～22日(金)(愛媛大学)

※次世代リーダー養成ゼミナールのプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

4. 場 所

愛媛大学本部棟1階及び5階 第1・第2・第3会議室(松山市道後樋又10番13号)

5. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。

※別紙3「スタッフ・ポートフォリオ記入例」をご参照ください。

※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。

※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

6. 募集人員

10名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

7. 講師

追手門学院大学	副学長 秦 敬治
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	教授 中井俊樹
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師 阿部光伸
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師 仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師 清水栄子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教 丸山智子
愛媛大学教育学生支援部	部長 吉田一恵

8. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

9. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

平成27年度 次世代リーダー養成ゼミナール（第2回）日程表

日時：7月16日（木）～18日（土）

場所：愛媛大学本部棟 第1・第2・第3会議室

時間	(1日目) 7/16 (木)		(2日目) 7/17 (金)		(3日目) 7/18 (土)		時間
	5期生	6期生	5期生	6期生	5期生	6期生	
9:00	S D実践 I (プログラム構築) 講師 阿部		6期生による プロジェクト実践 I (課題設定) 講師 阿部・仲道・清水・丸山・吉田		高等教育 I R 講師 愛媛大学 教授 中井 俊樹		9:00
12:00	昼食		昼食		昼食		12:00
13:00	開講式		経営管理・戦略論 講師 追手門学院大学 副学長 秦 敬治		インストラクション・スキル II (プロジェクト設計法) 講師 阿部		13:00
13:30	5期生による S D実践 II (模擬講義) 講師 阿部・仲道・清水・丸山・吉田						16:00
16:10							休憩
16:20			プロジェクト実践 IV (ゼミ指導)				
18:00							
18:45							
19:30	情報交換会 (6期生主催)		情報交換会 (拠点主催)				

※ 都合により、時間を変更する場合があります。

※ 色付き箇所2講義につきましては、次世代リーダー養成ゼミナール受講生以外にも開放いたします。

平成27年度次世代リーダー養成ゼミナール実施要項

1. 目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に学び、「巻き込み力」を発揮する人材を養成する。

2. 到達目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

※本ゼミナールの詳細については、別紙1「次世代リーダー養成ゼミナール概要」及び別紙2「次世代リーダー養成ゼミナール科目一覧」をご参照ください。

3. 開催日

(第1回) 平成27年 5月21日(木)～23日(土)(徳島大学) ※実施済

(第2回) 平成27年 7月16日(木)～18日(土)(愛媛大学) ※実施済

(第3回) 平成27年11月 5日(木)～ 7日(土)(高知大学)

(第4回) 平成28年 1月21日(木)～22日(金)(愛媛大学)

※次世代リーダー養成ゼミナールのプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

4. 場所

高知大学朝倉キャンパス総合研究棟2階 会議室1・2 (高知市曙町二丁目5番1号)

5. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。

※別紙3「スタッフ・ポートフォリオ記入例」をご参照ください。

※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。

※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

6. 募集人員

10名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

7. 講師

京都外国語大学総合企画室参事兼IR推進グループ	山崎その
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師 阿部光伸
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師 仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教 丸山智子
愛媛大学教育学生支援部	部長 吉田一恵

8. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

9. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

平成27年度 次世代リーダー養成ゼミナール（第3回）日程表

日時：11月5日（木）～11月7日（土）

場所：高知大学 朝倉キャンパス総合研究棟2階 会議室1・2

時間	(1日目) 11/5 (木)		(2日目) 11/6 (金)		(3日目) 11/7 (土)		時間
	5期生	6期生	5期生	6期生	5期生	6期生	
9:00			講師 丸山 智子 リーダーシップ論Ⅱ	講師 仲道 雅輝 インストラクショナル・ デザイン概論	講師 阿部 光伸 大学職員論	講師 吉田 一恵 危機管理実践	9:00
12:00			昼食		昼食		12:00
13:00	開講式						13:00
13:30	※6期生による プロジェクト実践Ⅰ (課題設定) 講師 阿部・丸山・吉田		講師 阿部 光伸 メンタリング 実践Ⅱ		講師 阿部・仲道・ 丸山・吉田 (ゼミ指導) プロジェクト実践Ⅳ		14:30
14:50			休憩		休憩		14:40
15:00			講師 S D 論 山崎 総合企画室 兼 I R 推進グループ		講師 阿部 研究法概論		15:30
15:50	休憩						
16:00	プロジェクト実践Ⅳ (ゼミ指導) 講師 阿部・丸山・吉田						
17:00	S D 実践Ⅲ (振り返り) 講師 丸山 智子						
18:00							
19:00	情報交換会		情報交換会				
21:00							

※ 都合により、時間を変更する場合があります。

※ 色付き箇所の4講義につきましては、次世代リーダー養成ゼミナール受講生以外にも開放いたします。

平成27年度次世代リーダー養成ゼミナール実施要項

1. 目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に学び、「巻き込み力」を発揮する人材を養成する。

2. 到達目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

※本ゼミナールの詳細については、別紙1「次世代リーダー養成ゼミナール概要」及び別紙2「次世代リーダー養成ゼミナール科目一覧」をご参照ください。

3. 開催日

（第4回）平成28年 1月21日（木）～22日（金）（愛媛大学）

※次世代リーダー養成ゼミナールのプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

平成27年度の開催予定

- （第1回）平成27年 5月21日（木）～23日（土）（徳島大学）※実施済
- （第2回）平成27年 7月16日（木）～18日（土）（愛媛大学）※実施済
- （第3回）平成27年11月 5日（木）～ 7日（土）（高知大学）※実施済

4. 場所

愛媛大学本部5階 第1・第2会議室（愛媛県松山市道後樋又10-13）

5. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。

※別紙3「スタッフ・ポートフォリオ記入例」をご参照ください。

※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。

※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

6. 募集人員

10名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

7. 講師

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師	阿部光伸
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師	仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師	清水栄子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	丸山智子
愛媛大学教育学生支援部	部長	吉田一恵

8. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

9. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

平成27年度 次世代リーダー養成ゼミナール（第4回）日程表

日時：1月21日（木）～1月22日（金）

場所：愛媛大学本部5階第1・第2会議室

時間	(1日目) 1/21 (木)		(2日目) 1/22 (金)		時間
	5期生	6期生	5期生	6期生	
					9:00
			講師 阿部 ※ スイ ブルスト ラッシュ シユアラ ツバ ン	講師 清水 メンター 入門	
			講師 丸山	ディベート 演習	11:00
			昼食		12:00
13:00	開講式		講師 阿部・仲道・丸山・吉田	築 SD実践I (プログラム 構	13:00
13:30	プロジェクト実践III (修了) 講師 阿部・仲道・清水・丸山・吉田		最終口頭試問		16:00
			次世代リーダー養成ゼミナールを振り返って (発表) - 5期生 -		16:00
			講話 講師 阿部・仲道・清水・丸山・吉田		16:30
17:00			修了式		17:00
17:30					17:30
18:00	プロジェクト実践IV (ゼミ指導)				18:30
18:30					18:30
19:30			修了パーティー		20:30
	情報交換会				20:30
21:30					

平成27年度職員のための講師養成講座 実施要項

1. 目的

SPOD加盟校の意欲のある職員に対して、研修講師として必要な心構え、知識、技法を習得させることにより、将来のSPOD-SD講師として育成することを目的とする。

2. 内容

- (1) 組織内講師の役割を説明することができる
- (2) 教育課題の探索から研修詳細の設計まで考え方と方法を習得する
- (3) 企画した内容を伝達できるインストラクションスキルを習得する

3. 対象者

- ・将来SPOD-SD講師になる意欲のある職員
- ・説明会、プレゼンテーション等、人前で話すときに自信を持ちたい職員

4. 日時

平成27年6月18日(木)～6月19日(金)

5. 場所

愛媛大学校友会館2階 サロン

6. 日程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	丸山	智子
愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	講師	阿部	光伸

8. 受講定員

12名

9. 修了証書

本研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)、愛媛大学

平成27年度職員のための講師養成講座日程表

研修会場：愛媛大学校友会館2階 サロン

	8:40	9:00	9:30	12:00	13:00	17:00	18:00
第1日目 6月18日 (木)							
		受付	オリエンテーション	1. 1人1分程度で自己紹介 (ビデオ撮影) 2. 「よい研修」の条件を考える <個人ワーク・グループワーク> 3. 魅力的な講師とは？ <個人ワーク・グループワーク>	休憩	4. プレゼンテーション力を身につける <個人ワーク・グループワーク> <講義> 5. PREP法の活用 <個人ワーク・グループワーク> <講義> ① 自己紹介 ② 自分の仕事 6. ビデオを見て、自分のプレゼンテーションを知る <ビデオ確認>	
第2日目 6月19日 (金)							
				7. プレゼンテーション演習 <ロールプレイング> ① アイスブレイク 8. インストラクションスキルを身につける① ～受講者との関わり方～ <個人・グループワーク> <講義> 9. インストラクションスキルを身につける② ～経験談を考える～ <個人・グループワーク> <講義>	休憩	10. 実践ロールプレイング～1回目～ 11. 実践ロールプレイング～2回目～ 12. 成果発表～1人ずつ(あるいはグループの代表) <全体発表> 13. 2日間のまとめ	
		9:00		12:00	13:00	16:30	17:00

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成27年度「職員のための講師養成講座」
 実施日：平成27年6月18日（木）～6月19（金）
 実施会場：愛媛大学校友会館 2階 サロン
 アンケート回答者数：11名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	11	100.0
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	11	100.0

(2) 所属先の設置者

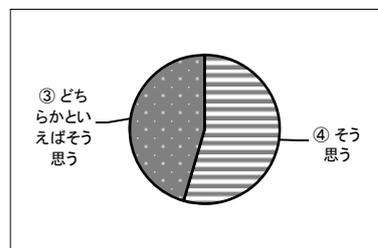
	回答数	割合
① 国(国立大学法人)	11	100.0
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	0	0.0
③ 学校法人	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	11	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。(具体的に) 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

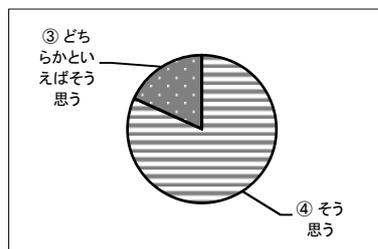
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	6	54.5
③ どちらかといえばそう思う	5	45.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



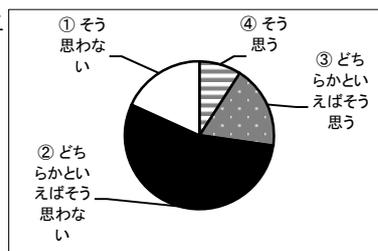
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	9	81.8
③ どちらかといえばそう思う	2	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



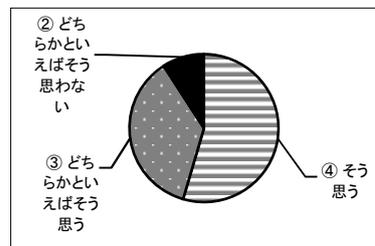
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	1	9.1
③ どちらかといえばそう思う	2	18.2
② どちらかといえばそう思わない	6	54.5
① そう思わない	2	18.2
計	11	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

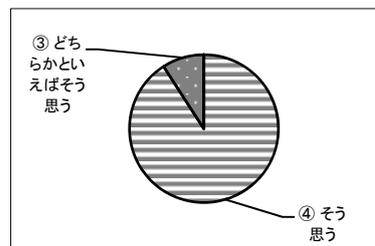
	回答数	割合
④ そう思う	6	54.5
③ どちらかといえばそう思う	4	36.4
② どちらかといえばそう思わない	1	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



3. 研修プログラムの設計について

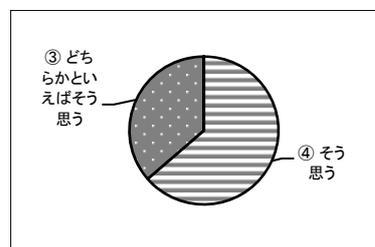
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	10	90.9
③ どちらかといえばそう思う	1	9.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



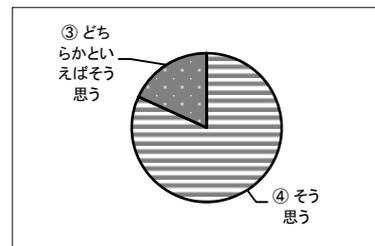
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	7	63.6
③ どちらかといえばそう思う	4	36.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



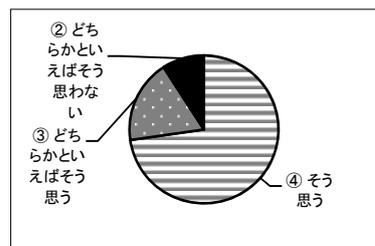
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	9	81.8
③ どちらかといえばそう思う	2	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



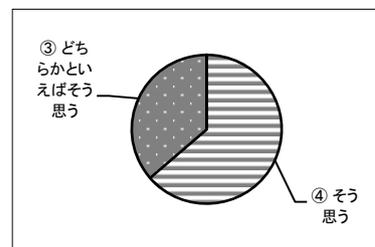
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	8	72.7
③ どちらかといえばそう思う	2	18.2
② どちらかといえばそう思わない	1	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



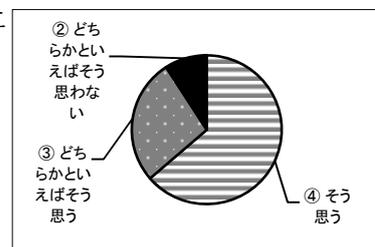
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	7	63.6
③ どちらかといえばそう思う	4	36.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



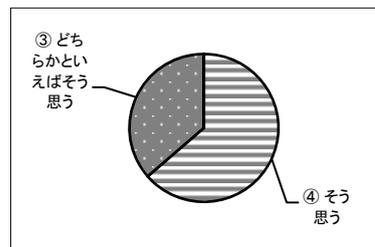
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	7	63.6
③ どちらかといえばそう思う	3	27.3
② どちらかといえばそう思わない	1	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



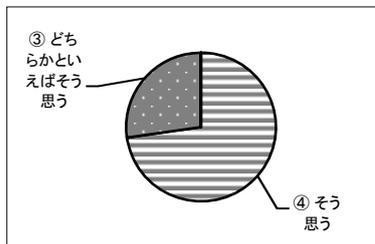
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	7	63.6
③ どちらかといえばそう思う	4	36.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



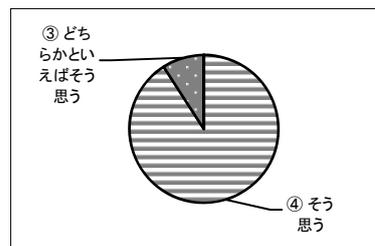
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	8	72.7
③ どちらかといえばそう思う	3	27.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

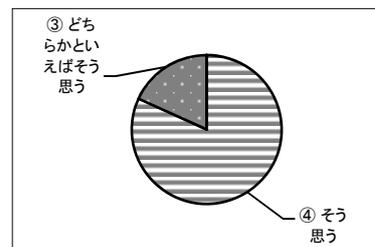
	回答数	割合
④ そう思う	10	90.9
③ どちらかといえばそう思う	1	9.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



4. 研修スタッフについて

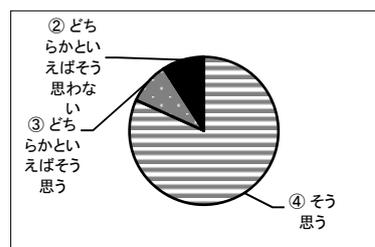
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	9	81.8
③ どちらかといえばそう思う	2	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



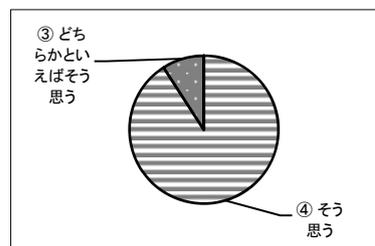
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	9	81.8
③ どちらかといえばそう思う	1	9.1
② どちらかといえばそう思わない	1	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



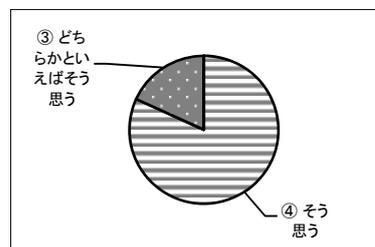
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	10	90.9
③ どちらかといえばそう思う	1	9.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



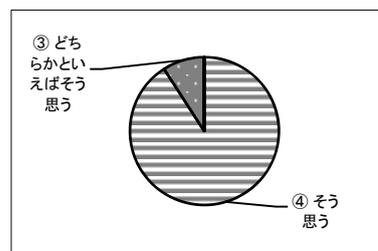
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	9	81.8
③ どちらかといえばそう思う	2	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

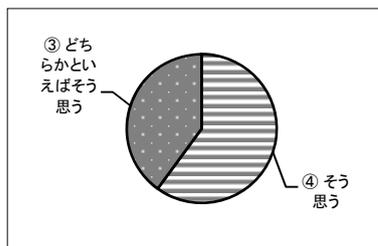
	回答数	割合
④ そう思う	10	90.9
③ どちらかといえばそう思う	1	9.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



5. 研修成果について

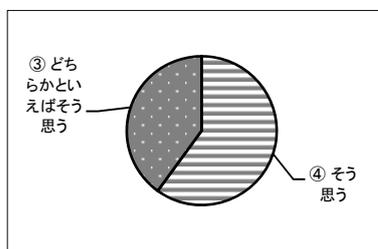
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	6	54.5
③ どちらかといえばそう思う	4	36.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	10	90.9



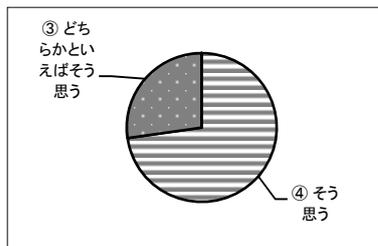
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	6	54.5
③ どちらかといえばそう思う	4	36.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	10	90.9



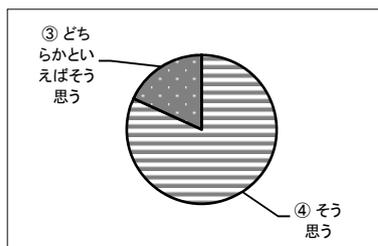
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	8	72.7
③ どちらかといえばそう思う	3	27.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	9	81.8
③ どちらかといえばそう思う	2	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



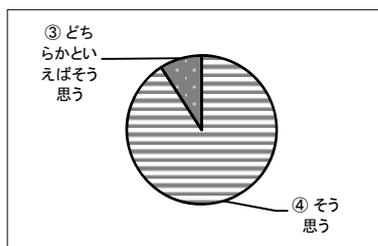
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

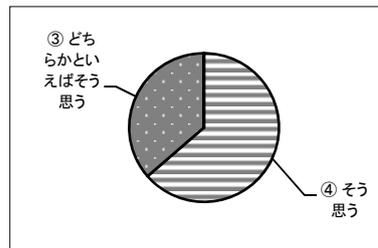
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	10	90.9
③ どちらかといえばそう思う	1	9.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



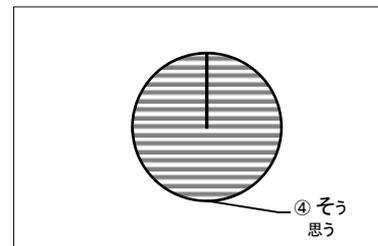
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	7	63.6
③ どちらかといえばそう思う	4	36.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	11	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



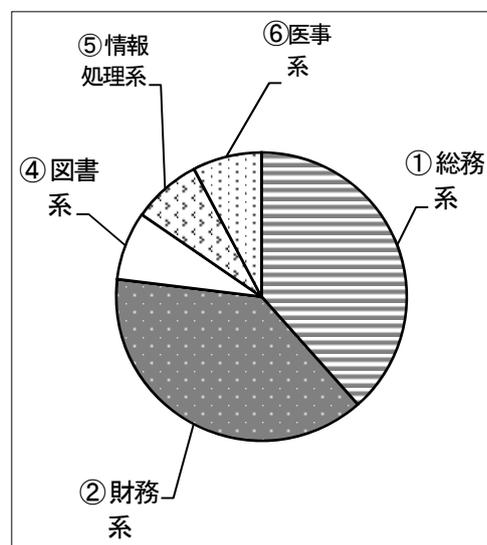
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	5	45.5
② 財務系	5	45.5
③ 施設系	0	0.0
④ 図書系	1	9.1
⑤ 情報処理系	1	9.1
⑥ 医事系	1	9.1
⑦ その他	0	0.0



⑦その他

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ 人前力 (2)
- ・ プレゼンテーション能力 (2)
- ・ 物事を深い部分まで考える力
- ・ 話の構成をきちんと作った上で、その説明ができる力
- ・ 内容に筋道をたて、与えられた時間で話す
- ・ インストラクションスキル
- ・ 企画力
- ・ 話し方 (速さ・抑揚)
- ・ 見やすい資料の作り方
- ・ 論理的思考

5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ 自分が気付いてなかった点を指摘してもらえた。(3)
- ・ 自分の表情をビデオで見ることで、客観的に見ることができ良かった。(2)
- ・ 人とのつながりができた。(2)
- ・ 自分の直すべきポイント、継続すべきポイントが明確になった。(3)
- ・ 話を組み立て、つなげていく難しさを痛感し勉強したいと思えた。
- ・ 「なんとかできる」という考え方を打ち砕いてくれた。
- ・ 受講前に比べて、話せるようになったと実感できたこと。
- ・ 相手に話をつたえることの大切さと難しさを感じた。
- ・ 受講者数が少人数で、指導が全員に万全に行き届いており良かった。
- ・ 講師の先生がプロで素晴らしく、事務局の運営も完璧だった。
- ・ ワークが多く、自分で考えることができる内容で、楽しく受講できた。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ 最後にもビデオを撮ってもらいたい。
- ・ 話し方に焦点を絞っていたが、見せ方 (資料の作り方・身だしなみ) についても触れて欲しい。
- ・ 企画方法 (テーマの作り方) も学びたかった。
- ・ 全体的にもっと時間があっても良かったと思う。
- ・ 資料が多い。

平成27年度職員のための講師養成講座「マイクロティーチング」 実施要項

1. 目的

SPOD-SD講師を務める際に必要なスキルを、外部講師が研修時に使用するテキストに沿って学び、習得することを目的とする。

2. 内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルI）の講師をすることに特化したマイクロティーチングを実施する。

※マイクロティーチングとは、教え方を学ぶ方法で、少人数で順番に短時間の講義とフィードバックを繰り返しながら、講義・説明・プレゼンのスキルアップを行う研修。教える技術だけでなく、学習者心理を経験し、フィードバック法を学ぶ。

3. 対象者

平成22年度～平成27年度講師養成研修を受講したSPOD加盟校の職員、次世代リーダー養成ゼミナールの修了者及び修了予定者（1期生～5期生）で、SPOD-SD講師になる意欲のある職員

4. 日時 平成27年12月3日（木）～12月4日（金）

5. 場所 愛媛大学本部第1, 第2, 第3会議室

6. 旅費 愛媛大学の旅費規則に準じて支給します。

7. 担当講師

愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室講師（拠点・SPOD-SDC）	阿部	光伸
愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室講師（拠点・SPOD-SDC）	清水	栄子
愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室特任助教（拠点・SPOD-SDC）	丸山	智子
愛媛大学	教育学生支援部長（拠点・SPOD-SDC）	吉田	一恵
愛媛大学	総務部人事課副課長（SPOD-SDC）	久保	秀二
愛媛大学	総務部広報課長（SPOD-SDC）	上甲	功治 他

8. 受講定員 10名

9. 事前課題

別紙「事前課題について」のとおり

10. 修了証書

本研修を修了した者には修了証書を交付する。

11. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、愛媛大学

平成27年度職員のための講師養成講座「マイクロテイチング」 日程表

【愛媛大学本部棟5階 第1・第2・第3会議室】

	9:00			12:45 13:00 13:30	17:00 18:00
第1日目 12月3日 (木)			受付	開講式	<p>プレゼンテーション演習 I</p> <p>1. 実践(1人15分)</p> <p>2. フィードバック</p> <p>3. ブラッシュアップ</p> <p>情報交換会</p>
第2日目 12月4日 (金)	連絡事項	<p>グループワーク演習</p> <p>1. 実践(1人20分) ※グループワーク演習を実際に行う</p> <p>2. フィードバック</p> <p>3. ブラッシュアップ</p>	休憩	<p>プレゼンテーション演習 II</p> <p>1. 発表(1人30分)</p> <p>2. フィードバック</p>	<p>振り返り</p> <p>閉講式</p>

8:50 9:00

11:30

12:30

16:00 16:20 16:30

※研修スケジュールは、受講者数・進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成27年度職員のための講師養成講座「マイクロティーチング」
 実施日：平成27年12月3日（木）～12月4日（金）
 実施会場：愛媛大学本部 第1・第2・第3会議室
 アンケート回答者数：7名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	7	100.0
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	7	100.0

(2) 所属先の設置者

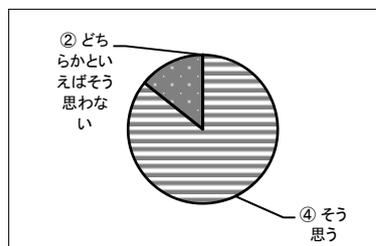
	回答数	割合
① 国(国立大学法人)	4	57.1
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	1	14.3
③ 学校法人	2	28.6
④ その他()	0	0.0
計	7	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。(具体的に) 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

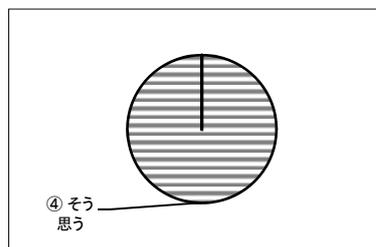
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	6	85.7
③ どちらかといえばそう思う	1	14.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



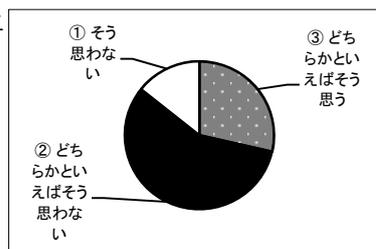
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	7	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



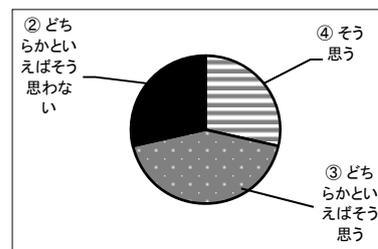
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	0	0.0
③ どちらかといえばそう思う	2	28.6
② どちらかといえばそう思わない	4	57.1
① そう思わない	1	14.3
計	7	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

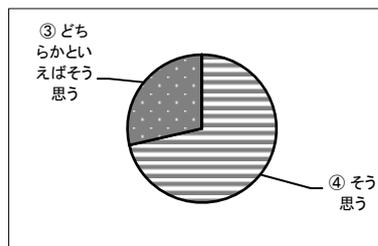
	回答数	割合
④ そう思う	2	28.6
③ どちらかといえばそう思う	3	42.9
② どちらかといえばそう思わない	2	28.6
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



3. 研修プログラムの設計について

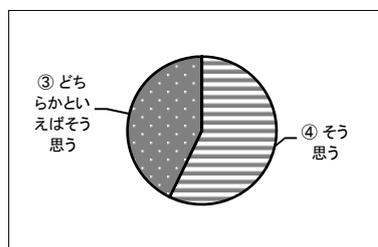
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	5	71.4
③ どちらかといえばそう思う	2	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



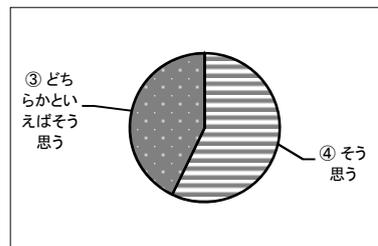
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	4	57.1
③ どちらかといえばそう思う	3	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



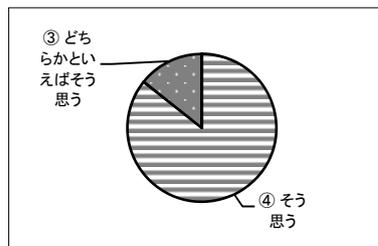
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	4	57.1
③ どちらかといえばそう思う	3	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



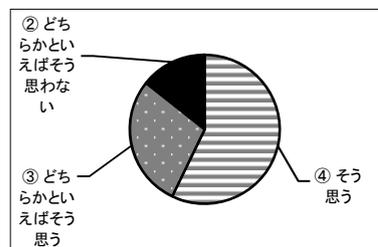
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	6	85.7
③ どちらかといえばそう思う	1	14.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



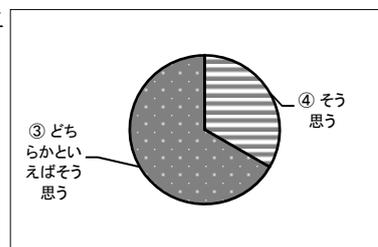
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	4	57.1
③ どちらかといえばそう思う	2	28.6
② どちらかといえばそう思わない	1	14.3
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

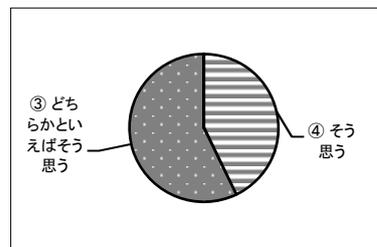
	回答数	割合
④ そう思う	2	33.3
③ どちらかといえばそう思う	4	66.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	6	100.0



※1人未回答

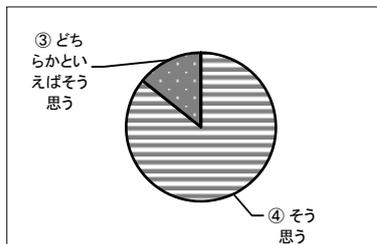
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	3	42.9
③ どちらかといえばそう思う	4	57.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



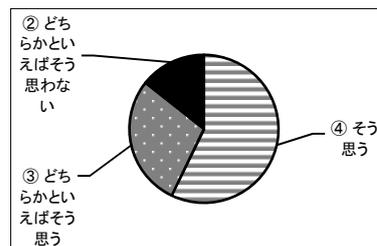
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	6	85.7
③ どちらかといえばそう思う	1	14.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

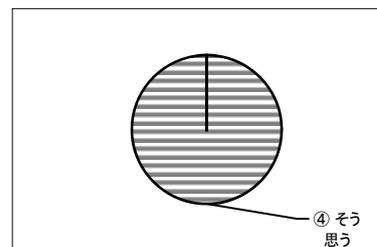
	回答数	割合
④ そう思う	4	57.1
③ どちらかといえばそう思う	2	28.6
② どちらかといえばそう思わない	1	14.3
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



4. 研修スタッフについて

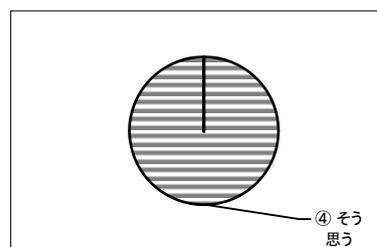
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	7	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



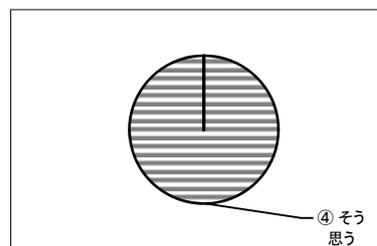
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	7	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



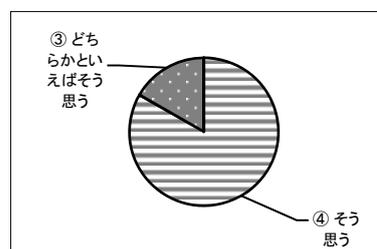
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	7	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

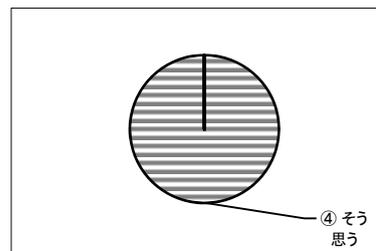
	回答数	割合
④ そう思う	5	83.3
③ どちらかといえばそう思う	1	16.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	6	100.0



※1人未回答

(5) 事務局の対応は丁寧だった

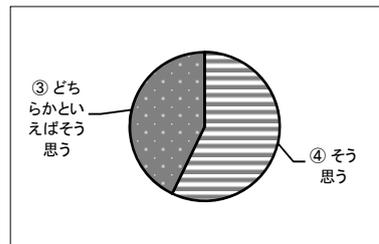
	回答数	割合
④ そう思う	7	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



5. 研修成果について

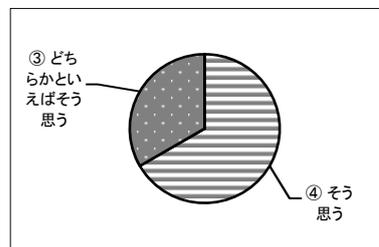
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	4	57.1
③ どちらかといえばそう思う	3	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

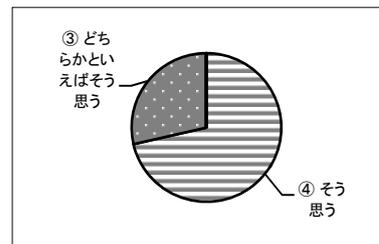
	回答数	割合
④ そう思う	4	66.7
③ どちらかといえばそう思う	2	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	6	100.0



※1人未回答

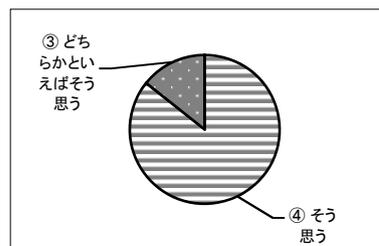
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	5	71.4
③ どちらかといえばそう思う	2	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	6	85.7
③ どちらかといえばそう思う	1	14.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



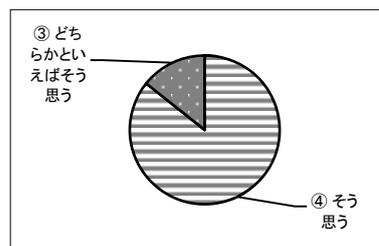
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

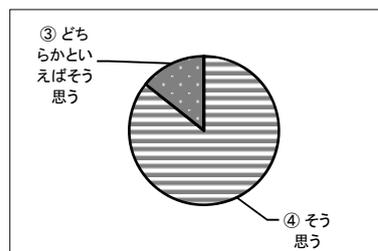
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	6	85.7
③ どちらかといえばそう思う	1	14.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



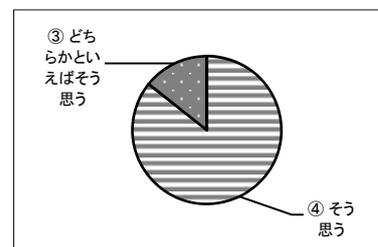
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	6	85.7
③ どちらかといえばそう思う	1	14.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	6	85.7
③ どちらかといえばそう思う	1	14.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



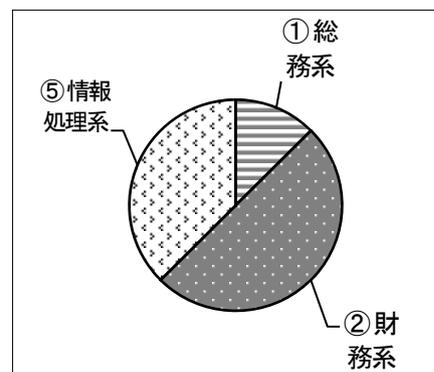
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	1	14.3
② 財務系	4	57.1
③ 施設系	0	0.0
④ 図書系	0	0.0
⑤ 情報処理系	3	42.9
⑥ 医事系	0	0.0
⑦ その他	0	0.0



1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ 人前で話すスキル (3)
- ・ タイムマネジメント力 (2)
- ・ パワーポイントの作成技術・運用テクニック (2)
- ・ アウトプット (人前で話す・見せる資料作り)
- ・ リーダーシップ
- ・ 担当業務外の大学での業務 (財務・社会連携など)
- ・ 文書作成のスキル
- ・ 端的に説明するスキル

5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ 久しぶりに前向きのパワーを得られた。
- ・ 先生方に丁寧に教えていただいているいろいろな気付きがあった。
- ・ 受講生との新たな出会いがあった。
- ・ 講師としてのスキルをブラッシュアップしてもらったこと。
- ・ 現状を見つめ直すことができた。
- ・ 活力がわいた。
- ・ 前向きに生きる積極的な皆さまと接することができた。
- ・ 自分では気付かないことが、短い間で理解できた。
- ・ 客観的な意見をたくさんいただけた。
- ・ すべて大変参考になった。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ 事前課題についてももう少し詳しく説明があれば良かったと思う。(2)
- ・ 資料修正の時間が短かったので大変だった。
- ・ スケジュール (マンツーマン) を前もって知らせてもらっていると、心構えが違っていたと思う。
- ・ 資料がうまくまとまっていると良い。
- ・ 事前準備を仕事の合間にやるのは大変だった。
- ・ 継続して指導していただけるような体制にしてほしい。

SPOD－SDC認定・授与原簿

番号	年月日	所属 / 職名	氏名	生年月日	備考
1	H23.7.14	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室／教授	秦 敬治	S38.10.6	
2	H23.7.14	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室／助教	大竹 奈津子	S51.6.18	
3	H23.7.14	愛媛大学教育学生支援部／部 長	米澤 慎二	S30.9.21	
4	H24.7.31	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室／特任助教	阿部 光伸	S39.11.21	
5	H24.12.7	愛媛大学教育学生支援部教育 企画課／部課員	岸岡 洋介	S52.4.4	
6	H25.12.18	愛媛大学総務部人事課／ 課長	吉田 一恵	S31.8.4	
7	H25.12.18	愛媛大学総務部人事課／ チームリーダー	久保 秀二	S42.2.28	
8	H25.12.18	愛媛大学総務部人事課／ チームリーダー	上甲 功治	S40.5.24	
9	H26.11.19	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室／講師	仲道 雅輝	S46.5.8	
10	H26.11.19	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室／助教	清水 栄子	S40.7.29	
11	H26.11.19	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室／特任助教	丸山 智子	S44.4.10	
12	H26.11.19	愛媛大学総務部人事課／ 課長	秋谷 恵子	S32.9.19	
13	H27.8.4	香川大学教育学部総務係／ 係長	野口 里美	S40.11.7	

(注) 資格の取消しを行ったときは、備考欄に取消年月日及び取消理由等を記載すること。

四国地区大学教職員能力開発ネットワークにおける
スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定に関する申合せ

平成 26 年 11 月 19 日
ネットワークコア運営協議会

(趣旨)

第 1 条 この申合せは、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（以下「SPOD」という。）において、職員の能力開発（以下「SD」という。）に関する知識・技術を修得し、自大学及びSPOD加盟校におけるSDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者の資格認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(資格の名称)

第 2 条 資格の名称は、「SPOD—スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター (Staff Development Coordinator)」(以下「SPOD—SDC」という。)とする。

(資格の認定)

第 3 条 SPOD—SDCの資格の認定は、別紙に定める認定基準を満たし、かつ、SPOD加盟校人事課長又はSD担当課長相当が別紙様式 1 により推薦する自大学の教職員に対して、SPODが別紙様式 2 の資格認定証書を授与することによって行う。

2 前項の資格認定証書は、SD専門部会において研修プログラム受講歴及び研修講師歴等を踏まえ審査し、SPODネットワークコア運営協議会が承認した者に授与する。

(資格の有効期間)

第 4 条 SPOD—SDC資格の有効期間は、認定日から、SPOD事業の運営終了日までとする。

(資格認定・授与原簿)

第 5 条 SPOD—SDC資格を認定して資格認定証書を授与したとき、及び第 7 条に規定する資格の取消しを行ったときは、別紙様式 3 のSPOD—SDC認定・授与原簿に所定の事項を記入するものとする。

(資格認定証書の再交付)

第 6 条 資格認定証書を破損又は紛失したときは、再交付を受けることができるものとする。

(資格の取消し)

第 7 条 SPOD—SDC資格を認定された者が、刑事罰又は行政罰等を受けたときは、当該資格を取り消すことができるものとする。

(事務)

第 8 条 SPOD—SDC資格認定に関する事務は、SPOD事務局において処理する。

(雑則)

第 9 条 この申合せに定めるもののほか、SPOD—SDCの認定に関し必要な事項は、SPODネットワークコア運営協議会が別に定める。

附 則

1 この申合せは、平成 26 年 11 月 19 日から施行する。

2 この申合せの施行の際、現に認定されている者については、第 3 条に規定する資格認定証書を授与する。

別紙

SPOD－スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準

SPOD－スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準は、次のとおりとする。

1. SPOD－SD（又は自大学におけるSD）講師を務めることができる。
2. 職員のキャリアプランニングをサポートすることができる。
3. 大学等における職員人材育成ビジョンの構築方法について説明することができる。
4. 大学等におけるSDプログラムの企画・立案ができる。
5. スタッフ・ポートフォリオの有益性を説明することができる。

SPODフォーラム2015 トップリーダーセミナー

「学習成果をめぐる国内外の動向

ー学内・国内・国際社会における合意形成のアプローチー

1. 到達目標

- ・学習成果をめぐる国内外の動向について、俯瞰的に説明することができる。
- ・なぜ教育目標・学習成果を明確化する必要があるのかを説明することができる。
- ・学問分野で共有する抽象的な教育目標の枠組みと、各大学で設定する具体的な学習成果を区別して、それぞれの意義について説明することができる。
- ・ご自身の置かれた文脈のなかで、教育目標・学習成果について合意を形成するアプローチを提案し、その課題を想定することができる。

2. 対象者

- ・学習成果を強調する大学教育改革に不安や疑問をお持ちの教職員。
- ・教育課程の体系化、学位プログラム、学士力と分野別参照基準、学習成果アセスメントをめぐる国内外の動向に関心をお持ちの教職員。

3. 日 時

平成27年8月27日（木）13:00～15:00

4. 場 所

愛媛大学 城北キャンパス

5. 担当講師

深堀 聡子（国立教育政策研究所・高等教育研究部・総括研究官/副部長）

6. 概 要

大学教育を通して学生にどのような知識・技能を身に付けさせたいのか。教育目標や達成すべき学習成果の明確化は、体系的な教育課程を提供するための大前提と言えます。しかしながら、自律性と多様性が尊重されてきた大学では、何を教育目標とするのかについての合意を形成すること自体が、学問分野としても大学組織としても容易ではありません。この問題に、諸外国はどのように向き合ってきたのでしょうか。また、日本ではどのような取組が展開されてきたのでしょうか。

本セミナーでは、学習成果をめぐる国内外の動向を整理しながら、教育目標や達成すべき学習成果についての合意を学内・国内・グローバル社会において形成するためのアプローチと課題について検討します。

- ・欧州のボローニャ・プロセスとチューニング
- ・米国の学位資格プロフィール（DQP）とチューニング
- ・中央教育審議会の学士力答申、日本学術会議の分野別参照基準、文部科学省競争的資金制度を利用した取組事例、国立教育政策研究所のテスト問題バンクの取組（OECD-AHELO 後継事業）

SPODフォーラム2015アンケート(個別プログラム用)集計結果

プログラム名:トップリダーセミナー 学習成果をめぐる国内外の動向-学内・国内・国際社会における合意形成のアプローチ-(2702G)

講師名:国立教育政策研究所 深堀 聰子

実施日:平成27年8月27日(木)

実施会場:愛媛大学城北キャンパス 法文学部講義棟305講義室

当日参加者数:52名

アンケート回答者数:48名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	41	85.4
② 短期大学	5	10.4
③ 高等専門学校	2	4.2
④ その他()	0	0.0
計	48	100.0

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	9	18.8
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	11	22.9
③ 学校法人	28	58.3
④ その他()	0	0.0
計	48	100.0

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	15	31.3
② 北海道	0	0.0
③ 東北	0	0.0
④ 関東	13	27.1
⑤ 中部	2	4.2
⑥ 近畿	9	18.8
⑦ 中国	3	6.3
⑧ 九州・沖縄	6	12.5
計	48	100.0

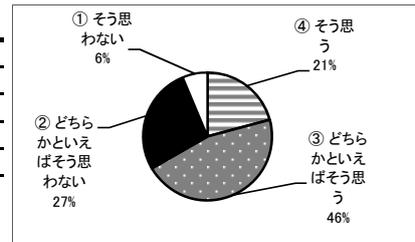
(4) 職種

	度数	割合
① 教員	29	60.4
② 職員	18	37.5
③ 学生	0	0.0
④ その他()	1	2.1
計	48	100.0

2. この研修について

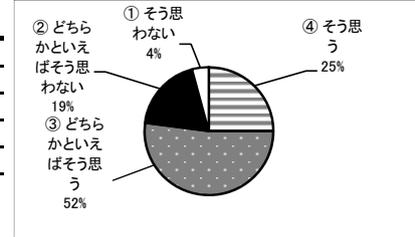
(1)研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	10	20.8
③ どちらかといえばそう思う	22	45.8
② どちらかといえばそう思わない	13	27.1
① そう思わない	3	6.3
計	48	100.0



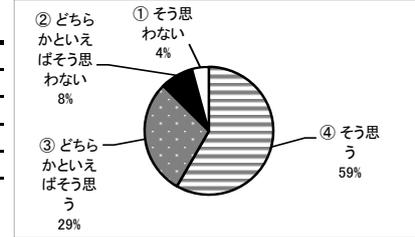
(2)研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	12	25.0
③ どちらかといえばそう思う	25	52.1
② どちらかといえばそう思わない	9	18.8
① そう思わない	2	4.2
計	48	100.0



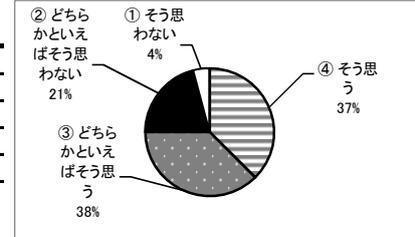
(3)研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	28	58.3
③ どちらかといえばそう思う	14	29.2
② どちらかといえばそう思わない	4	8.3
① そう思わない	2	4.2
計	48	100.0



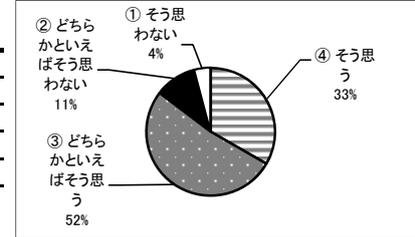
(4)研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	18	37.5
③ どちらかといえばそう思う	18	37.5
② どちらかといえばそう思わない	10	20.8
① そう思わない	2	4.2
計	48	100.0



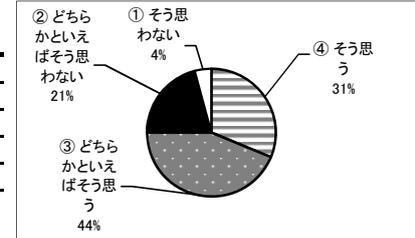
(5)講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	16	33.3
③ どちらかといえばそう思う	25	52.1
② どちらかといえばそう思わない	5	10.4
① そう思わない	2	4.2
計	48	100.0



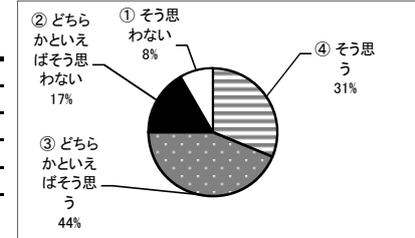
(6)自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	15	31.3
③ どちらかといえばそう思う	21	43.8
② どちらかといえばそう思わない	10	20.8
① そう思わない	2	4.2
計	48	100.0



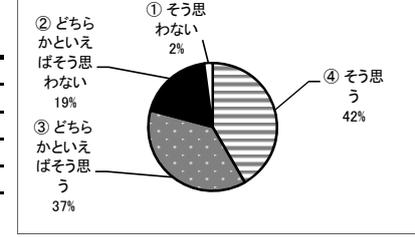
(7)受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	15	31.3
③ どちらかといえばそう思う	21	43.8
② どちらかといえばそう思わない	8	16.7
① そう思わない	4	8.3
計	48	100.0



(8)研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	20	41.7
③ どちらかといえばそう思う	18	37.5
② どちらかといえばそう思わない	9	18.8
① そう思わない	1	2.1
計	48	100.0



4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的に書き下さい。	3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的に書き下さい。
	<p>NO. 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまり知識のなかった参照基準と学士力の関係と問題, 参照基準に基づく内部質保証について知ることができた点が良かった。
	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学教育の在り方など, 国外の動向など, 勉強になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・聞く側の問題かもしれないが, 話のポイントがどこにあるのかわかりにくかった。講師の考えの部分についての概念, 定義が曖昧。 	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国外の動向が理解できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・内容がやや多すぎたようです。スライドの文字が小さすぎて読めないところがありました。 	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国や欧州の取組みがよくわかりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・近くの人とシェアする際, 「大丈夫です」と断る方が隣にいました。もう少し強制力があっても良かったかもしれません。 	<p>5</p>
	<p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の保証, アウトカムの難しさを改めて感じた。 ・コンピテンスの考え方が理解できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・スライドの字が細かすぎて読めない。 	<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話が盛りだくさんで, すべての内容を理解できたわけではなかったが, 参照基準と内部質保証システムの関連は何となく理解できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・「エキスパート・ジャッジメント」とは何か, についての概念理解が参加者に十分でなかったように感じました。大学教員は何故に「エキスパート」であるのか, というところからの説明が必要だったかもしれない。 ・最後の方でコメントされた「大学教員改革」の必要性は, その意味でおっしゃるとおりだと思います。 	<p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習成果の可視化」が必要とされるようになった経緯・背景が理解できた。
	<p>9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容的に初めて知る部分が多く, 自分の中で理解することが講義内では難しかったが, なかなかない機会なのでよかった。
	<p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前提知識を少し必要としたかもしれない。
	<p>11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像していたものより, アカデミックな内容で刺激を受けました。
	<p>12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の動向が理解できました。
	<p>13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容が少し難しいです。(自分に合わないという意味で)
	<p>14</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景も含めて学べてよかった。
	<p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近のアメリカやイギリスの動向と日本の動向を知ることができた。
	<p>16</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の情報を得ることができました。ありがとうございます。
	<p>17</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学のグローバル化に伴う教育改革の必要性がわかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・1コマ90分でも可能ではないかと思う。 	<p>18</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新のデータをご提示いただいたこと。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的に とお書き下さい。	3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的に とお書き下さい。
<ul style="list-style-type: none"> ・資料の字が細かく、小さすぎて読めないところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・盛りだくさんの内容であったが、質保証の本質がよく表されていたと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果についての現在の国内外の動向を知ることができて良かったです。普段の学生評価の中で意識はしているものの、毎日の業務で精いっぱい、大学として、高等教育として、国として、意識することができました。
<ul style="list-style-type: none"> ・文字が小さい、速い。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に分かりやすく説明していただきました。ありがとうございました。
	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に知的好奇心お刺激さる内容で、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程についての国内の現状、海外の動向及び課題を分かりやすく解説いただきました。
	<ul style="list-style-type: none"> ・チューニングの必要性を理解した。 ・知識と技能の技能に関して、質保証の難しさを感じた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・脳みそフル回転でした。知識がないので、色々短時間に詰め込めてよかったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・時間の都合で省略された部分に興味のある事項があったのがやや残念でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に教えっぱなしの姿勢を是正し、修学の成果について重視される傾向が世界的に広まっていることを知ることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようにコンピテンスに関する研修を活かせるか考えるようになった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の動向についてある程度把握できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の大学で取り組みむべきこと、その順序などをもう少し詳しくお聞きしたかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸外国の取り組みを知ることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が学んだ大学院のプログラムは、学習成果とコンピテンシーがきちんと結び付けられたものでした。そのような結びつけを大学全体で行うことの必要性和困難とを感じました。

SPODフォーラム2015「人材育成のための人事評価

－評価の心構えとその手法－

1. 到達目標

- ・人事評価の目的・意義・重要性を説明することができる。
- ・面談の進め方を説明することができる。
- ・人材育成につながる人事評価を行うことができる。

2. 対象者

課長，課長補佐相当級の職員で，部下・後輩の成長を促そうと考えている方

3. 日 時

平成27年8月27日（木）10：00～15：00

4. 場 所

愛媛大学 城北キャンパス

5. 担当講師

阿部 光伸（愛媛大学 教育企画室 講師）

新名 敏弘（聖カタリナ大学 入試課長）

6. 概 要

高等教育機関においても人事評価の必要性／重要性が謳われて久しいですが，“人事評価に時間を掛けることが出来ない／公平・納得性のある評価が出来ているか不安／形骸化している”といった悩みを多く聞きます。SPODでは，当初より一般企業とは異なる大学等の人事政策を鑑みて“職員と大学等が共に輝く”を掲げSDを実施展開してきました。今回の人事評価研修も，人材育成の一手法であることを紹介するとともに，それが組織の活性化と個人の成長を促すために有効な手段となりうることを紹介します。

SPODフォーラム2015アンケート(個別プログラム用)集計結果

プログラム名: 人材育成のための人事評価－評価の心構えとその手法－(2701C)

講師名: 愛媛大学 阿部光伸, 聖カタリナ大学 新名敏弘

実施日: 平成27年8月27日(木)

実施会場: 愛媛大学城北キャンパス 法文学部講義棟304講義室

当日参加者数: 31名

アンケート回答者数: 30名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	26	86.7
② 短期大学	2	6.7
③ 高等専門学校	1	3.3
④ その他()	1	3.3
計	30	100.0

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	2	6.7
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	5	16.7
③ 学校法人	22	73.3
④ その他()	1	3.3
計	30	100.0

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	7	23.3
② 北海道	1	3.3
③ 東北	1	3.3
④ 関東	2	6.7
⑤ 中部	2	6.7
⑥ 近畿	13	43.3
⑦ 中国	3	10.0
⑧ 九州・沖縄	1	3.3
計	30	100.0

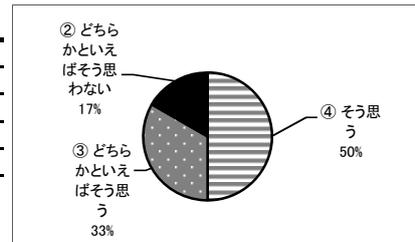
(4) 職種

	度数	割合
① 教員	1	3.3
② 職員	29	96.7
③ 学生	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	30	100.0

2. この研修について

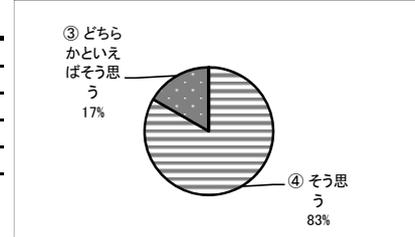
(1)研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	15	50.0
③ どちらかといえばそう思う	10	33.3
② どちらかといえばそう思わない	5	16.7
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



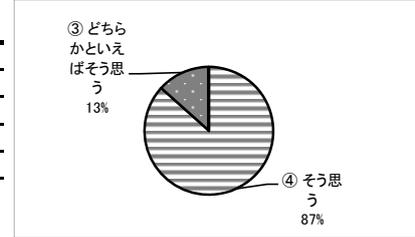
(2)研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	25	83.3
③ どちらかといえばそう思う	5	16.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



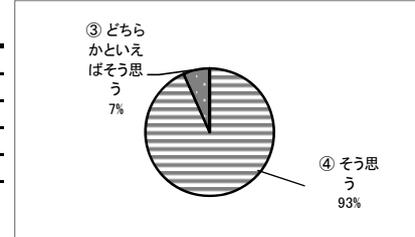
(3)研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	26	86.7
③ どちらかといえばそう思う	4	13.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



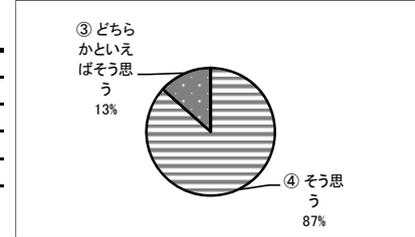
(4)研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	28	93.3
③ どちらかといえばそう思う	2	6.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



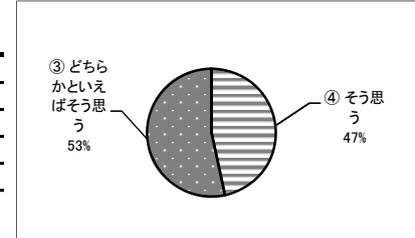
(5)講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	26	86.7
③ どちらかといえばそう思う	4	13.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



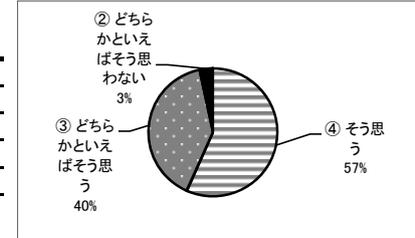
(6)自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	14	46.7
③ どちらかといえばそう思う	16	53.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



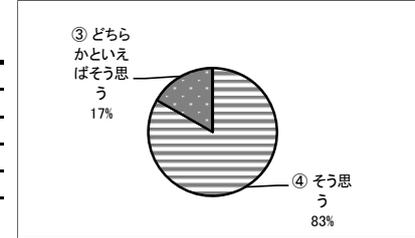
(7)受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	17	56.7
③ どちらかといえばそう思う	12	40.0
② どちらかといえばそう思わない	1	3.3
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



(8)研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	25	83.3
③ どちらかといえばそう思う	5	16.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



SPODフォーラム2015 人材育成のための人事評価－評価の心構えとその手法－(2701C) 個別アンケート自由記述欄

NO.	<p>3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的に書き下さい。</p>	<p>4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的に書き下さい。</p>
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ケーススタディが出来た点→評価の着眼点がわかった。 ・意見を全体で共有できた→多面的に人事評価をとらえることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し時間があればよかったかも。充実した時間となりました。ありがとうございました。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・評価について新たな視点を得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく工夫され、よく準備されていた研修だと思います。ありがとうございました。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・人事評価について必要なポイントが整理できました。 	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース1について、身につまされるようでした。勉強になりました。ありがとうございました。 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の自身の業務に活かすことのできる内容であった。 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者になった時、もしくは被評価者として参考になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間配分。もっとグループワーク、ケーススタディがあっても楽しかったかなと。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルだけでなく、理論と実践が融合され、学びと理解が深まった。 	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけたツールを実践できる点 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の理解を深めるために、時間を増やすor内容を減らす。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・人事評価に対する個人的な考え方を人に話すことや人の意見を聞くことで、よりブラッシュアップできたと感じています。 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・以前10年近く前に受けた研修からさらに理論進化している部分と、変わらない部分を認識できた。面談はつらいと思っていたが、ダイレクトに組織改善に関われると思うと楽しみになってきました。 	
11	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は人材育成のため、ということを実感した。今までと考え方を変えて評価することができると思う。 	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・不安なことが多々ありますが、今感じていることを忘れずにフィードバックしていこうと思います。 	
13	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成について、再考して取り組みたい。 	
14	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学職員と共通認識が持てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間が足りない。いい意味での消化不良感があった。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・人事評価の必要性について、よく考えることができました。 	
16	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく「評価」を自身におとしこむことができた。評価は組織にとって人材育成のために必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問時間が足りませんでした。残念。

5 平成27年度活動実績

(3) SPODフォーラム

SPODフォーラム2015事前アンケート集計結果

アンケート回答者数:449名(当日申込みを除く, webでの受講申込時に実施)

参加者の属性

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	434	88.9%
② 短期大学	43	8.8%
③ 高等専門学校	7	1.4%
④ その他()	4	0.8%
計	488	100.0%

国立政策研究所, 文部科学省,
大学コンソーシアム京都(2)

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	140	28.7%
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	60	12.3%
③ 学校法人	284	58.2%
④ その他()	4	0.8%
計	488	100.0%

国立政策研究所, 文部科学省,
大学コンソーシアム京都(2)

(3) 所属先の所在地

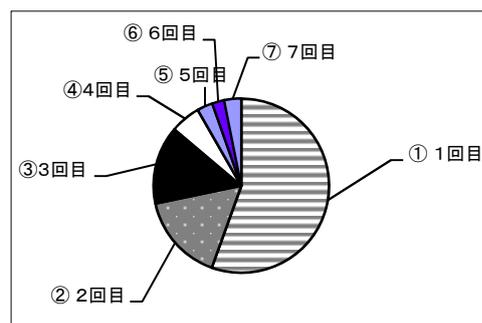
	度数	割合
① 四国	286	58.6%
② 北海道	1	0.2%
③ 東北	8	1.6%
④ 関東	47	9.6%
⑤ 中部	19	3.9%
⑥ 近畿	53	10.9%
⑦ 中国	50	10.2%
⑧ 九州・沖縄	24	4.9%
計	488	100.0%

(4) 職種

	度数	割合
① 教員	197	40.4%
② 職員	284	58.2%
③ 学生	0	0.0%
④ その他	7	1.4%
計	488	100.0%

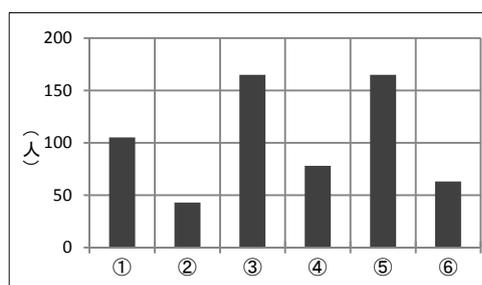
1. SPODフォーラムの参加は何回目ですか？

	度数	割合
① 1回目	249	55.5%
② 2回目	73	16.3%
③ 3回目	65	14.5%
④ 4回目	25	5.6%
⑤ 5回目	13	2.9%
⑥ 6回目	10	2.2%
⑦ 7回目	14	3.1%
計	449	100.0%



2. SPODフォーラムをどこで知りましたか？(複数選択可)

	度数	割合
① SPODホームページ	105	23.4%
② SPODメールマガジン	43	9.6%
③ SPODフォーラムチラシ	165	36.7%
④ SPOD研修プログラムガイド2015	78	17.4%
⑤ SPOD関係者からの案内	165	36.7%
⑥ その他	63	14.0%
アンケート回答者数	449	

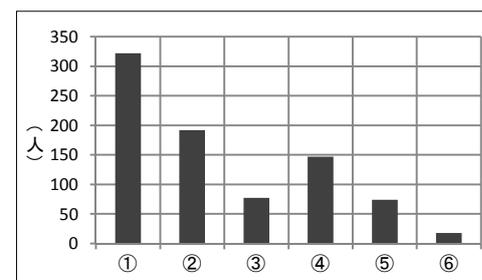


その他の記述内容

- ・ 職場からの案内(28)
- ・ 参加者の口コミ(3)
- ・ 研修担当者からの案内(10)
- ・ 上司からの案内(6)
- ・ 関係者からの案内(2)
- ・ あさがおML
- ・ JAEDホームページ
- ・ テニユアトラック教員
- ・ 毎年あるので

3. SPODフォーラムに参加した動機は何ですか？(複数選択可)

	度数	割合
① 自分自身の能力開発のため	322	71.7%
② 組織の課題を解決するヒントを得るため	192	42.8%
③ 組織を超えた人脈づくりのため	77	17.1%
④ FDやSDに関する情報収集のため	147	32.7%
⑤ 上司に参加をすすめられたため	74	16.5%
⑥ その他	18	4.0%
アンケート回答者数	449	



その他の記述内容

- ・ ポスターセッション参加のため(2)
- ・ フォーラム自体のデザインを知るため
- ・ 職員全員に参加が義務付けられている
- ・ テニユアトラック教員のため(2)
- ・ 学部内FD委員会の業務として
- ・ IRIに関する情報収集のため
- ・ 学生にとってより効果的な授業手法を学ぶため

SPODフォーラム2015全体アンケート集計結果

当日参加者数488名
(うちSPOD加盟校286名, SPOD加盟校外202名)

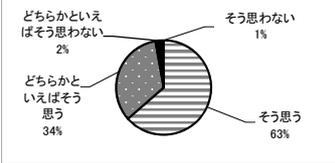
アンケート回答者数181名
(回答率37.1%, 回答期間9/28(金)~10/2(金) ※フォーラム終了3週間後よりweb入力にて実施)

1. SPODフォーラムでの研修成果について

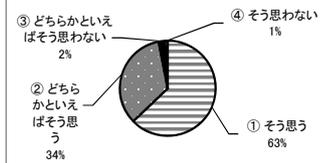
【SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった】

	度数	割合
① そう思う	115	63.5%
② どちらかといえばそう思う	61	33.7%
③ どちらかといえばそう思わない	4	2.2%
④ そう思わない	1	0.6%
計	181	100.0%
無回答	0	

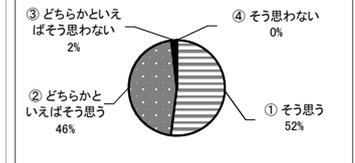
SPODフォーラム2015(愛媛大学開催)



SPODフォーラム2014(高知大学開催)

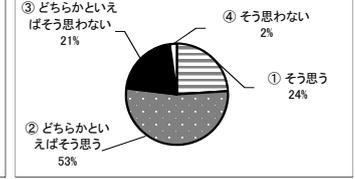
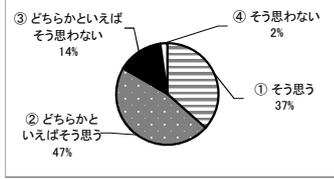
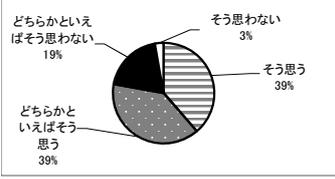


SPODフォーラム2013(愛媛大学開催)



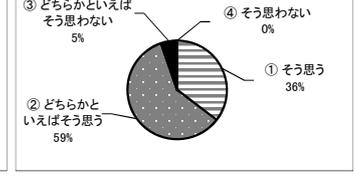
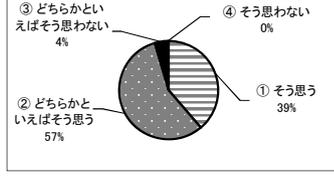
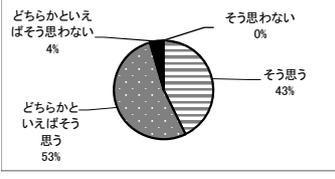
【所属組織を越えて人脈を広げることができた】

	度数	割合
① そう思う	70	38.7%
② どちらかといえばそう思う	71	39.2%
③ どちらかといえばそう思わない	35	19.3%
④ そう思わない	5	2.8%
計	181	100.0%
無回答	0	



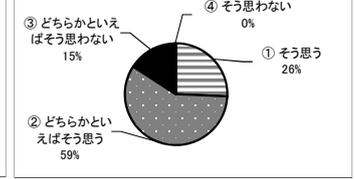
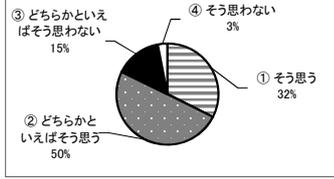
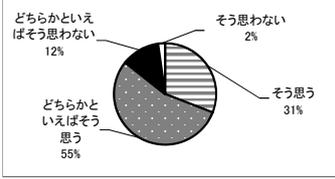
【自分に必要な知識やスキルを身につけることができた】

	度数	割合
① そう思う	77	42.8%
② どちらかといえばそう思う	95	52.8%
③ どちらかといえばそう思わない	7	3.9%
④ そう思わない	1	0.6%
計	180	100.0%
無回答	1	



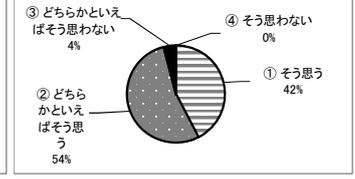
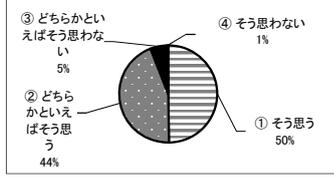
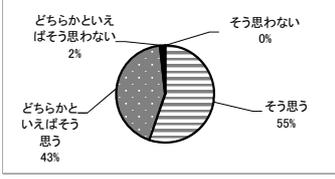
【業務や教育に対する意識や考え方が変わった】

	度数	割合
① そう思う	56	30.9%
② どちらかといえばそう思う	99	54.7%
③ どちらかといえばそう思わない	22	12.2%
④ そう思わない	4	2.2%
計	181	100.0%
無回答	0	



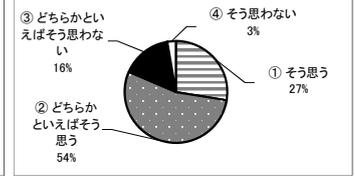
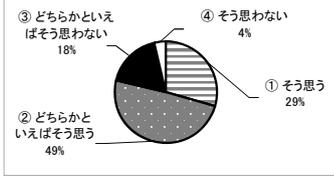
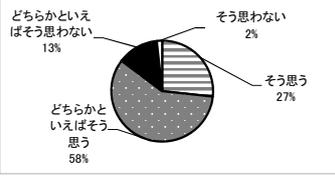
【業務や教育に積極的に取り組んでいきたいと思うようになった】

	度数	割合
① そう思う	100	55.2%
② どちらかといえばそう思う	78	43.1%
③ どちらかといえばそう思わない	3	1.7%
④ そう思わない	0	0.0%
計	181	100.0%
無回答	0	



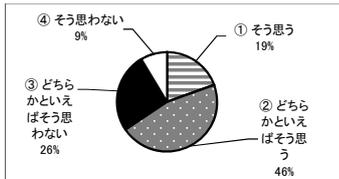
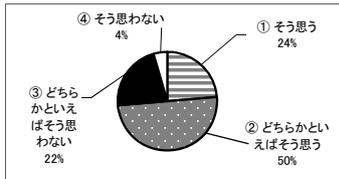
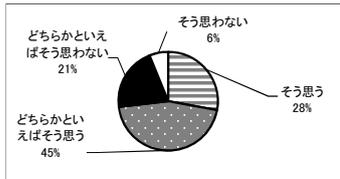
【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や教育現場で実際に活用している】

	度数	割合
① そう思う	47	26.7%
② どちらかといえばそう思う	103	58.5%
③ どちらかといえばそう思わない	23	13.1%
④ そう思わない	3	1.7%
計	176	100.0%
無回答	5	



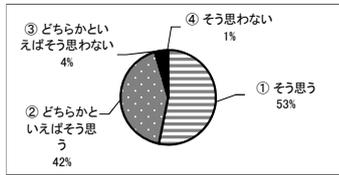
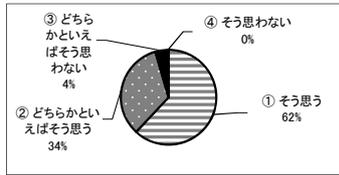
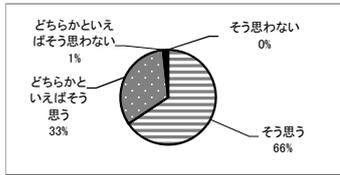
【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や他の教員に伝達している】

	度数	割合
① そう思う	50	27.9%
② どちらかといえばそう思う	81	45.3%
③ どちらかといえばそう思わない	37	20.7%
④ そう思わない	11	6.1%
計	179	100.0%
無回答	2	



【今後もフォーラムをはじめ、SPODが提供するプログラムに参加したい】

	度数	割合
① そう思う	118	65.6%
② どちらかといえばそう思う	59	32.8%
③ どちらかといえばそう思わない	2	1.1%
④ そう思わない	1	0.6%
計	180	100.0%
無回答	1	



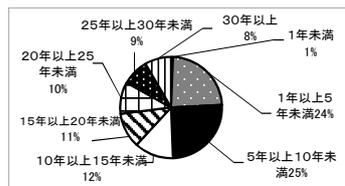
2. 参加者ご自身について

- 所属先
- 所属先の設置者
- 所属先の所在地
- 職種
- SPODフォーラムへの参加回数

事前アンケート(p36-37)参照

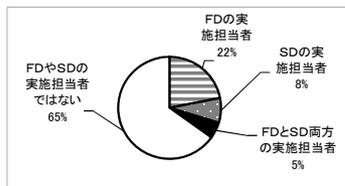
【大学教職員等の経験年数】

	度数	割合
① 1年未満	1	0.6%
② 1年以上5年未満	42	23.6%
③ 5年以上10年未満	45	25.3%
④ 10年以上15年未満	22	12.4%
⑤ 15年以上20年未満	20	11.2%
⑥ 20年以上25年未満	18	10.1%
⑦ 25年以上30年未満	15	8.4%
⑧ 30年以上	15	8.4%
計	178	61.8%
無回答	3	



【あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか？】

	度数	割合
① FDの実施担当者	39	21.9%
② SDの実施担当者	14	7.9%
③ FDとSD両方の実施担当者	9	5.1%
④ FDやSDの実施担当者ではない	116	65.2%
計	178	100.0%
無回答	3	



2-1【SPODフォーラムに参加して良かったと思われる点】

(職種: 教員)	
1	具体的な取り組みと、メタな視点の両方を学ぶことができた。
2	同じ問題を抱えている他大学の教職員と情報が共有でき、新たな視点が得られたこと。
3	異なる専門分野、あるいは他校の教員とワークを行ったり、情報を得たりできたこと。
4	テーマ別ラウンドテーブルは全体のまとめにもなっていて、密度の高いものになっていた点
5	他の先生方の工夫や努力に触れられた点
6	意識の高い教職員による共同作業は、気づかされることが多く、大変有意義でした。
7	ソフトウェア実験をグループで取り組ませることを考えていたのだが、今回フォーラムに参加して、実施する決心が固まり、この秋学期から開始した。フォーラムに背中を押してもらったことに感謝している。
8	今の自分の授業を改善するために、まず取り掛かるべき自分の課題がわかり、一歩前進できる気がしています。自分の授業のシラバスを持参して、具体的に実践する時間を講義の中で作って下さったことが、とてもよかったです。
9	最新の事例を知ることができる点、ワークショップ形式でスキルを習得できる点、他大学の教職員の方と情報交換ができる点、運営及び参加者の意識が非常に高くポジティブに感化される点。
10	自分の授業のスタイルを考えるヒントが得られた。
11	新しい情報を学ぶことができた。
12	他大学での具体的実践内容を知ることができたこと。
13	授業をみなおすきっかけになった
14	実践的を前提とした各種講習会
15	他の大学の先生と情報交換ができた。
16	参考になる講義があり、とても有意義でした。
17	教育に対するマクロな視点、講義進行のちよとしたテクニックなどのミクロな視点まで、幅広く学べたため、自分の講義といま一度向き合うことができました。
18	授業や学生とのやり取りの中で、具体的にどうすれば良いかが明確になりました。
19	他の組織の教職員との意見交換が有意義である。
20	単なる講演ではなく、実際的な視点からのワークショップはとても勉強になるし、同僚に伝えたいものになる。
21	多様な考えを知ることができた。
22	懇親会での交流。料理も美味しかったです。
23	ルーブリックとは何かといった、内容に関するだけでなく、講義の進め方にも随所に工夫がなされており、大変参考になった。
24	大学、専門領域を超えて、他大学の教員と知り合い、情報交換することができた。また知りたいと考えていた授業の技法を学ぶことができた。
25	新しい教育方法を知ることができる。同業者とのつながりができる。
26	ワークショップの進め方について、勉強になりました。
27	FDIについて、新たに多くの知識を身につけることができたと同時に、熱心にFD・SDに取り組んでいる教職員が全国規模でたくさんいることを知る機会となって、大変充実した3日間であった。
28	新しいプログラムが継続的にあること
29	アクティブ・ラーニングの様々な手法を学ぶことができた。
30	あまりよく理解できていなかったメソッドや体験したことなかったメソッド(反転授業やワールドカフェ)について、理解を深めることができました。
31	教育の様々な方法を学ぶことができ、教育に取り組む姿勢や情熱をつぶさに感じることもできた。
32	新しい知識や考え方を学ぶことができた。
33	事務職と研究職の垣根を越えた情報交換ができる
34	多様なバックグラウンドをもつ参加者の意見を聞くことができた。
35	授業改善に役立てることのできる具体的な手法や、気をつけるべき課題を明確にした上で、参加者と討議できたこと。
36	参加したセミナーは全て参加型の内容だったので、参加者同士で意見交換がしやすかった。
37	国が違う大学間での単位認定について話を聞くことでよかった。この点はEU内で活発に行われており、日本はまだ遅れているようですが、こうやって世界の大学間で単位を認め合うことができるようになると、お互いの国を理解するようになり、世界が一つになって今世界にある紛争もなくなるのではないかと思います。講義の主旨とは異なる方向に考えが及びましたが、教育の大切さをあらためてこの講義を受けて感じました。
38	他大学、他の教職員の取り組みを知ることができた。
39	実際に体験してみることで、内容の理解を深めることができた。
(職種: 職員)	
40	今後のモチベーションアップに繋がった
41	実践されているメソッドなので苦労点などが共有できる。
42	職階や世代を越えた人と一つの課題に取り組むことが出来た点。(グループワークなどを通して)
43	新しい発見があった。 反転授業のテーマでは、解説が分かり易く理解できた。共感を得た。
44	自分の業務をさまざまな視野から見直すことができた。

45	他大学、他機関の方との情報交換ができ、自分だけが悩んでいる問題点ではないということを知ること、気持ちが軽くなったり、ほかの方からの経験を聞いて、今後の業務・生活に活かせるようになる点。
46	グループディスカッションにより、普段の勉強では得られにくい「人に言う自分の意見を考える」ことの訓練になった。
47	同世代の他大学の職員の方と意見を交換する貴重な機会になった。
48	他大学の様子がグループワーク等で理解できた。
49	講師も受講者も意欲的で、大変刺激を受けた。
50	講義だけではなく、グループワークも含めてプログラムが構成されていたこと。
51	プログラムおよび情報交換会で多数の方と名刺交換させていただき、他大学との交流を図ることが出来た点
52	内容はもちろんですが、ワークの仕方がとても勉強になりました。自身がプレゼンテーションする際の参考になります。
53	研修業者では実施できない大学独自のSDIについて勉強できたこと
54	四国地区のみならず、全国の大学・高専関係者と意見交換することができ、非常に満足している。
55	他大学の教職員と意見を交わすことができ、良い機会となった。
56	幅広い知識・技能の習得を短期間・同一の場でできること。
57	多様な分野の第一人者の方による多様なメニューを受講できる点
58	他大学等の方々と交流が出来ること。意識が高い方々の参加が多いので、いろいろな意見を聞くことが出来る。
59	どの講義も楽しく、ためになるものでした。 学ぶ面白さを改めて認識できました。
60	他大学の意見が聞いて良かった。
61	他大学の先進事例等について情報を得ることができたこと。
62	他大学の方々で行う演習は、緊張感もあり、多様な意見を伺うこともでき、大変よかったです。
63	比較的新しい知識(IR)に触れることができ、自分が今後、何をしていけばいいのか分かってきた点。
64	他大学の職員の方も多く参加されており、刺激を受けること
65	自分の業務に直接関係ないと思っていたプログラムでも、大変学ぶことが多く、幅広い見識を身に付けることができた。
66	ワールドカフェなど知らなかった手法を勉強できたり、人事評価の意義について自分の中で明確になった。
67	他校の状況を聞くことができるのが何よりの収穫です。
68	ワークや懇親会で、他大学の方との交流の場があり、人脈が広がった。
69	現在携わっている業務内容が初めてSPODの講座として開講されたので、今後の取り組みの参考になった。
70	他学との情報交換の場が持てる。
71	他地域の大学の様子を知ることができた。 プログラムの選択肢も多く、自身が受講したいプログラムを選ぶことができた。
72	新しい発見があって良かった。
73	業務改善や部下の育成について、ぼんやりと考えていたことが明確になりました。
74	他の大学でも、学生の学習意欲の温度差が有り苦慮していることなどを知ることが出来た。
75	どの講義もとてもよく準備されている印象を受けました。
76	プログラムの内容はもちろんですが、グループワークを行った他大学の教職員の方と、各大学の現状についてお話をできたことは非常に有意義でした。
77	他大学の教職員とのネットワークができたこと。
78	研修テーマが学びたいと思っていたものがあったので、大変勉強になりました。
79	自分の無知さを知ることができ、仕事に対する意識が変わった。良くしようと思えることで、大学の仕事と向き合うきっかけとなり大変ためになった。
80	四国外からの参加者もいるので、規模が似通った大学の方とも知り合え、有意義な情報交換ができた。
81	SPODでしか学べないスキルが学べる
82	これまでにない内容の講義も増えて、新しい学びを得ることができました。
83	今回成果の可視化というテーマは興味深かった。日本各地からの参加者があることもわかり、各大学の関心の深さも垣間見ることができて良かった。
84	各プログラム、ポスターセッション等を通じて、情報交換・意見交換の機会が豊富にあり、自大学(自身)の取組を相対化できた。
85	教育改善のトレンドと手法を学ぶ事ができる。自分の業務に関連するが普段接することがない分野の勉強ができる(リスク管理・図書館等)
86	他大学の状況等意見交換できる時間もあり、大変参考になりました。
87	他大学の職員の方と交流がもてたこと
88	他大学の方とお話する事が出来たこと。
89	幅広く様々な話を聞くことができたため、良かったと思う。
90	業務に活用できる内容であったこと
91	普段の職務の中では気付にくい職務上の改善点や発想転換のきっかけを、グループワーク研修を通して改めて学びなおすことが出来ました。また、自分自身の発想や作業の癖を自覚することが出来ました。
92	実際に業務に取り入れることは考えていなかったことも、研修を受けるとやってみようという気持ちになりました。
93	自大学以外の方と意見交換することで、今までの考え方を見直すよいきっかけとなった。
94	今まで取り組んできた取組を多くの視点から再確認することができた
95	専門的な知識を学ぶことができた。

96	プログラム自体も興味のあるものが多く素晴らしかったですが、ポスターセッションで色々な情報を得ることができたのも非常に良かったです。業務の都合上1日目だけの参加になってしまったのですが、2日目以降のプログラムへの参加やポスター発表の見学などできなかったことが心残りです。
97	SDやFDに取り組むモチベーションが上がったことが、最も良かったことだと思う。学内ではどうしても孤立しがちなので、志を同じくする仲間と会えるのが、最も良いところだと思う。また、各プログラムについても、非常にうまく設計されていて、最終日まで集中して受講することができた。
98	他大学の教職員と話す機会がほぼなかったので、いろんな考え方を知ることができて良かった
99	他校の取り組み内容を聞くことができたこと。
100	他大学の現状、同じ課題を抱える人と交わって刺激を受けた。
101	今回から設定されたポスターセッションの発表を行った。職員を主たる対象とする発表機会は多くないので、いい機会となった。(学会は教員中心なので…)
102	自身が感じていなかった欠点等が浮き彫りになったので、今後気をつけて業務に取り組むことができると感じたところ。
103	ワークショップ形式の講座が多く、さまざまな大学の方と意見交換することができた。
104	理論を学び、グループワークで学びを深めるという講義は、身につけやすいと感じました。
105	あまり興味がなかったプログラムからも得られたことが多くあったため、多様なプログラムを開催している点がよかった。
106	ケーススタディができること
107	他大学の人たちと交流があり意見交換できた。
108	1人で考えているだけでは得られない新しい考え方を学ぶことができた点
109	ワークショップ形式で各現場の声を聞きながら学ぶことができ、大変ためになった。
110	他大学の方との交流で様々な問題等を共有できたこと。
111	SDの必要性と人事評価の在り方について勉強になりました。人を育てるためには、自分自身を磨き、自信を持って仕事のあり方を伝え続けること、諦めないことが必要であると感じました。
(職種:その他)	
112	他の参加者との交流の機会が多くあったこと。
113	他大学の取り組み、考え方を聞くことができる
(職種:空欄)	
114	他大学の方と交流を持つことができるところ

2-2【SPODフォーラムをよりよいものとするために改善点・開催日程や会場等についてご要望】

(職種:教員)	
1	特になし。来年も愛媛大学ということで、準備される方々のご努力に頭が下がります。
2	日程的に難しいとは思いますが、興味のある内容が同じ日時にぶつかって、受講できないことがよくあります。
3	書画カメラ等の活用。A3判程度の大きさの紙にワークで書かれた内容がスクリーンに投影できれば、受講者全員に見えていいと思います。
4	ファシリテーションが不十分なセッションも見られた
5	四国以外の大学の場合、申し込んでも、満員という場合が多いのが残念です。
6	プログラムの空き状況が不明瞭でした。
7	講師の先生のご都合で、パワーポイント資料と、配布されたハンドアウトが少しずつ異なり(直前にパワーポイント資料を変更されたとのこと)、講義の流れについていくのが難しい時がありました。短い時間での集中的な学びの時間ですので、そのあたりを統一していただけるととても助かります。
8	研修教室は、もう少し余裕をもった広さがあると良いと思った。
9	駅や空港へのシャトルバスなども配慮して頂けると遠方の方には参加しやすいと思う(予約制でも良いので)。
10	FDまたはSDの実施担当者と受講者は、違うのでしょうか？ 文面からわかりませんでした。
11	時々趣旨と少し離れた講演がある。複数で担当する場合にあることがある。
12	講義を選ぶ時に見た資料の内容と、実際に行われた講義内容が、必ずしも一致していないものも、あったように思います。
13	プログラム内容等、非常に満足できました。
14	いいと思います。
15	もっと個々の参加者が現場に活かそうなシンポジウムの方が嬉しかったです。ポスターセッションは無くてもいいです。開催校の教員の無断欠席が目立っていたように感じました。何か対策は取れませんか？
16	シラバスに記載する「対象者」や「内容」などをもっとハッキリとさせて欲しい。
17	以前フォーラムに参加した際(今年ではありません)、民間企業の方のセミナーに参加しましたが、授業の進め方のテクニカルな話が多く、自分の授業にはあまり参考になりませんでした。今回のように現任教員が講師を務めた方が、わかりやすいと思います。また必要に応じて、シリーズものや、事前事後学習を取り入れて密度の濃い授業としてはどうでしょうか。
18	SPODに何回か参加している者は、新しいもの(スキル)を求めているので、講師もそれなりに新しいものを取り入れてスキルアップしてもらえたらいいものになると思います。シンポジウムが楽しみです。トップマネジメント、これからの大学教育を見据えたテーマなどがあると楽しいです。
19	テーマにもよりますが、ワークショップ形式のプログラムが増えることを期待します。
20	同じ講師が幾つもの講座を担当するのではなく、さらにバラエティに富んだ講師陣であれば、リピーターもさらに増えるのではないかと思います。
21	以前のように、もう少しFDプログラムがあっても良いのではないかと思います
22	各講師お勧めの本が展示販売されているといいのではないかと思います。
23	教室の広さにももう少し余裕がほしい。
24	シラバスの内容をより具体的に。事前学習ができるようにデータの提供などを行う
25	WSを行った教室が狭いように感じた。もう少しスペースのある教室の方が居心地がよいです。
26	SPOD加盟校以外であっても、ある程度希望するプログラムを受講できる枠を確保しておいてほしい。(申込み日に既にいっぱいとなっているものが多かったため)
27	一つ一つのセミナーをもう少し時間をとって欲しかった。
28	参加者の専門分野、校種をそろえたプログラムがあっても良いと思う。
29	会員校でなくても希望講座を受講できること。
30	身に付けるためには少々時間が足りないので、もう少し(30分程度)時間を増やして欲しい。
(職種:職員)	
31	より実践的なプログラムの実施を望みます。
32	シンポジウムはできれば分科会参加者には全員聴講できるようにしてほしい。
33	受講プログラムがすぐ定員一杯になり、参加したいプログラムに参加できなかったので、もう少しその点での改善をお願いいたします。
34	特になし
35	講義形式で単純に情報・知識を増やすことを重視した授業がもう少しあってもいいと思う。開催日程は、今回のように週末に付く(金曜日がフォーラム最終日)形の方が、県外からの受講者にも都合がいいと思う。
36	2時間の中でグループワークをやるのは結構難しい。
37	グループワークやディスカッションのあるプログラムに参加したが、時間が足りないと感じた。せっかく全国から参加した方たちの意見を取り入れたり、一緒に考えたりする良い機会なのに、こういった作業の時間が短いと浅い物になってしまいがちになる。ワークやグループディスカッションなどのあるプログラムは、2日目または3日目の9:00開始にする、2コマ連続にするなどして時間を確保する事を検討しても良いのではないかと。
38	シンポジウムのマイクが気になりました。 私たち聞き手は問題ありませんが、発表者は時間を守るため、よりわかりやすく伝えるために相当な時間を割いているはずで、終始マイクを気にしながら発表されていたのでとてもかわいそうでした。 全体的にはとてもすばらしいので、細かいことですが、発表者へのご配慮をお願いいたします。

39	もっと広い会場(教室)であれば良かったと思う。グループ同士の間隔が狭すぎて、会話しづらい場面もあった。なぜ今回ミュージズではなかったのでしょうか。
40	グループワークの際に、周りの議論が白熱し、自グループの議論が聞こえにくいことが多々あった。難しいと思うが、教室の広さ(若しくは定員)を再検討してみてもどうか。
41	現在は単発プログラム(導入編)が主となっておりますが、同一テーマによる3日間の集中講義プログラム(『高等教育の動向』『教授方法』『研究支援業務』)を組んでいただければ幸いです。ご検討よろしくお願いたします。
42	会場の制約があるとは思いますが、もう少し広い会場ですと、グループワークの際、声を張り上げなくて済むので助かります。
43	講義室がもう少し広い方がいい。
44	教室が狭くて窮屈だった。 大学内の駐車場に駐車できてありがたかった。
45	プログラムではシラバスから外れたことが多く話され、残念だった。予めシラバスを提示するのであれば、少なくともその内容はお話していただきたい。
46	SPOD加盟校の場合、可能なプログラムをいくつか遠隔配信することはできないのでしょうか。
47	業務の都合等で、1日しか参加ができませんでした。 3日間とも参加できるように連休中などの開催を希望します。 また、全てのプログラムで参加者の方々と意見交換等を行える時間がほしかったです。
48	1日目の1限の際に関心がないプログラムをとらなければならなかった。SDに興味関心があったため、FDと半々ぐらいプログラムがあると助かります。
49	■ポスターセッションの会場をもう少し広くし、発表者どうしの間隔を広くとっていただきたいです。 ⇒ポスターを囲みやすく、見やすくなり、また近隣の発表者の声と重なって聞き取りにくいのを防ぐことができると思います。 ■講師別情報交換会2次会を開催してほしいです。 ■名刺を切らしてしまう方が多かったので、プリントできる設備・対応する窓口があるといいと思います。
50	グループワークを組み込んでいたので同じグループの方とのディスカッションはすすんだが、他のグループの方とお話する時間が少なかったので、グループワークを取り入れている講座はもう少し時間が欲しかったと思う。
51	充実した内容ではありますが、なかなか参加されている方とお話する時間が少ないので、休憩時間を多めに取って欲しい。
52	関西からの参加ですが、1日目の開始時刻をもう少し遅くしていただけると前泊の必要がないので、有り難いです。
53	今回、参加したプログラムは2時間で、時間的に短すぎて、講師も進行に苦慮していた。 もっと参加者と話し合う時間が欲しいと思った。
54	SPOD加盟校の職員ではないからかもしれませんが、申込みが始まった直後に申し込んだプログラムの中でも受講できないものがありました。定員の拡大についてご検討いただけると幸いです。
55	個人的には、知識修得型(講義型)のプログラムがもう少し多ければ嬉しい。
56	初めて参加しましたが、満足でした。
57	討論もよいが実際に入ってくる知識量が少ない
58	平日に3日間というスケジュールは、京都から参加する場合には厳しいです。今回は1日半の参加で失礼しました。できれば土日のいずれかを入れて、2日間で実施していただきたいです。
59	開催日程や会場は適切だと思います。
60	総て適切と感じている。初めのころに在った「愛媛大学キャンパスツアー」は「愛媛大学リーダーズ・スクール」を当事者の学生から聞くことができるなど、勉強になることが多くありました。
61	あの時期、職務の専門分野の他の研究会とバッティングしていて、なかなか参加しづらい、という面があります。もう少し日程を前倒しするかしていただければ、と思います。
62	比較的時間の取りやすい8月の開催だったため、参加することができました。
63	ワークの時間をもっと増やしてほしい。他大学がどのように取り組んでいるのかを聞きたい。
64	できる限りスタッフの負担を軽減できれば持続しやすいと思いました。
65	受講申し込み時点で締切のプログラムがあったので、受けられなかったプログラムの資料等でも良いのでWEB等で閲覧できれば嬉しいです。
66	ネタの鮮度はしっかりキープしてください。ちょっと意図が見えにくいセッションがありました。
67	参加したいプログラムが定員いっぱいとなり受けられませんでしたので、人気のプログラムは2回ぐらいやっていただくとありがたいです。
68	全般的に会場が狭いと感じた。スケジュールもタイトであったので、移動時間を考えるとなるべく1つの建物の中で完結した方が良いのだと思うが、改善できるのであれば、空間に余裕がある方がありがたい。
69	他校の取り組みはとても参考になったので、情報交換の時間が多いほうが良いと思った。
70	各企画に定員があるため、気軽に参加することは難しい。ポスターセッションは、オープン企画でも良いのでは。
71	四国外からの参加だったので土地勘がなく、愛媛大学の正門の場所がわからずかなり迷った。当日は、路面電車の最寄り駅から看板を設置していただけたらありがたい。
72	8月の末は、他の研修とも重なり、どちらかを諦めざるを得ませんでした、9月の開催は難しいのでしょうか？
73	特になし。

74	初日の朝出発すると、開催時間に間に合うかどうかという時間帯であったためもうすこし遅く始まると参加がしやすい。
75	特にありません。
(職種:その他・空欄)	
	回答なし

2-3【SPODフォーラムで開講してほしい研修プログラム】

(職種:教員)	
1	英語での教授法
2	このようなFDIに参加しない教員へ向けての情報発信方法や意識向上のためのスキル
3	欧米の大学教育の先進事例
4	学生の能力差が大きいにもかかわらず、能力別クラスにできないケースが多いです。この問題に取り組んでいる方がおられるならば話を聴きたいと思います。
5	色々なアクティブラーニングの手法とその教育効果について、IRの初級編・入門編の次のレベルの内容のもの。
6	1H程度での同じテーマを持つ方々との意見交換ができるプログラムがあればいいと思う。
7	授業評価アンケートの設計
8	モデル授業参観
9	LMSについて、一般論・単なる事例紹介ではない講義があればと思います。
10	授業スキルにつながるような内容のものがほしい。長年出ていると新しいプログラムはSDになりがちなので。
11	中教審答申などを含めた高等教育界の次の動向について“わかりやすく”我々は具体的に何をした方がよさそうなのかをレクチャーしてもらいたい。難しく現場として何に手を付けたらいいのかよく分かりませんでした。学者や役人ではない方がいいのかもしれませんが。
12	大学のグローバル化
13	ファシリテーションスキルについてプロから学ぶことのできるプログラム(1日がかりでもよいので)
14	PBLの実践例、教材例。
15	参加者の分野を緩やかに絞ったプログラム
16	アクティブ・ラーニングを実際に授業に取り入れてみたが、ただアクティブにはなっただけで、必ずしも学びが深くなったわけではないように思うこともある。また、学問領域や授業の性質によって、適した技法が異なる気もする。このように、実際にアクティブ・ラーニングを導入した際に生ずる様々な問題の解決のヒントになるようなプログラムがあればと思います。
17	今まで同様定番メニューも有りながら新しいアクティブ・ラーニングの手法なども少しずつ増やしてほしい。
18	障がい学生への対応
19	・アクティブ・ラーニングの具体的手法・効果についての紹介と、その課題解決を討議するワークショップ ・授業コンサルテーション導入にあたっての留意事項
20	様々なアクティブラーニング手法の実例を体験できるようなプログラム。
21	ビッグネームの方も良いが、深く考え実際に活動、仕事をしている実務者の生の声を聞きたい 自校教育について、基本を身につける教育、なども取り上げて欲しい
22	アスペルガーなど発達障害のある学生への対応
23	参加者の専門分野、校種をそろえたプログラム
24	「学習支援の方法」「発達障害学生の種類、対応ケースの事例報告」など
(職種:職員)	
25	体系的な大学職員アドミニストレーター研修
26	すごく実の有る内容ばかりなので、今後も現在開講しているプログラムを続けて欲しいです。
27	特になし
28	教員と職員との付き合い方
29	大学経営・大学マネジメント・教育(大学)に関する世界や国の動向についての授業
30	就職困難学生の対応、ロールプレーを交えた研修
31	中途半端に教員が担当するSDより、職員が担当するSDの方が現状に即していたり、進行が適切だという印象を受けたので、もっとSD講師のプログラムを増やす(全部それでも良い)ようにしてほしい。
32	経営改善計画(中長期経営計画)の取り組みについて、特に、全学的に推進していくための体制作りについて。
33	高等教育支援にあたる職員向けプログラム
34	学習支援の発展的なメニュー
35	高大接続改革について
36	「まち・ひと・しごと創生」に関わるようなプログラム
37	知的財産
38	・スタッフポートフォリオの作成プログラム ・メンター育成プログラム ・職員研修プログラム(他校の事例を交え、どのような研修が大学職員にとって最適か考える)
39	スタッフ・ポートフォリオ
40	レディースワールドカフェ
41	協働の進め方など
42	障害学生のインターンシップ受け入れについて
43	男女共同参画に関わるプログラムがあってもいい気がします。
44	学生の学習支援として、大学全体の取り組みの事例などを参考にさせて頂きたい。
45	・学内のグローバル化のための取組事例 ・新規留学プログラムの開発について ・留学生への研修について
46	プロジェクトマネジメント(ルーティン業務ではない単発の事業の進め方)等

47	高等教育史, 法令解釈に関するプログラムを開講して欲しい。
48	事務の実践スキル(メール照会のしかた、共有フォルダの作成法など)
49	SDCフォロー講座をぜひ実施して、次世代のSDCを育てていただきたいです。
50	職員の人材育成に関するプログラムは、継続して開講していただくと幸いです。
51	「発達障害学生への対応」、「退学者減少への取組み」等はいかがでしょうか。
52	教学中心の講座となっているので、法人系も取り入れてもらいたい。
53	特になし
54	ダイバーシティ関連
55	若手教職員を対象としたプログラムをもっと増やしてほしいと思います。
56	学外活動の企画立案・運営など
57	IRについては非常に興味を持っています。 また、研究倫理に関する話題があるとうれしいです。
58	統計学の入門編。3日間あるので、初歩から始めても、集中講義のように講義とワークを組み合わせれば、簡単な手法や概念は学べるのではないかと。それに、持ち帰ってすぐに使うことができる技術でもあるし、期間中先生に質問もできるので、かなり学習効果が高いと思う。
59	高等教育の制度を正しく理解する講座。現場で望ましい対応をするためには、その基本を知っておかなければならない。特にブームで「〇〇を進めなければ」の前に、なぜ、そのようなことが求められるのか、が理解できないと場当たりの対応になってしまうため。基本は大事である。
60	職員の部署ごとのプログラム(新人・中堅・課長クラスなどにわかれて等)
61	特になし。
62	特にありません。
(職種:その他)	
63	インストラクショナル・デザイン
64	データベースの作成、活用
65	教学IRは今後も継続的に取り上げて欲しい。
(職種:空欄)	
66	エクセル、ワード、パワーポイントの便利な機能や実践的な演習

2-4【SPODの事業全般についてご意見やご要望】

(職種:教員)	
1	複数の大学が互恵的に活動しているのはとても良いことだと思います。
2	大変お世話になりました。ありがとうございました。
3	特にありません。
4	このアンケートについて、教育等についてすでに積極的に取り組んできていて、今回のフォーラムでとくに意識や考え方が変わったわけではない場合の、適切な選択肢がない。また、これまでのフォーラムでの知見はすでに授業等に生かしているが、今回のフォーラムの知見についてはまだこれからのことだ、という場合に、「実際に活用している」との設問の回答がどちらのことかわからないなど、曖昧さが目立つ。一応回答したが、この結果がどのように利用されるのかを思うと、曖昧であり、今後もこのようなアンケートに協力できるかどうかはわからない。
5	今後も続けてください。非常勤講師にも積極的に連絡をください。
6	特にありません。
7	とてもよい試みだと思います。負担は大きいと思いますが続けてください。
8	今年度からは業者も参加していなかったことで、以前みたいに参加者リストがあると助かります。
9	先進的な内容が次々に開講されていく一方で、いったん乗り遅れると参加者のレベルについていけない場面もあります。これまで参加していない者にとっては、ますます気後れすることも考えられます。キャッチアップ講座のように、ざっと復習できる講座が時々入るのは、どうでしょう。今回、アクティブ・ラーニングの講座で、アクティブ・ラーニングに該当する授業方法を網羅して下さったのは、とても助けになりました。
10	同じ教員という立場でもある講師の先生方に心から感謝申し上げます。
11	これからもぜひ有益な講座の提供をよろしくお願い致します。
12	特にありません
13	このような学びの機会を作っていただき感謝しております。
14	今年度参加者には来年度の案内をメールで送って下さい、四国以外の参加者です。
15	ワークショップを受けた後のシンポジウムはつらかったです。学会でも聞けるような話よりはアクティブ・ラーニングの実施者にワークショップしてもらうような内容が良いのでは無いでしょうか。
16	四国地区だけでなく、是非中国地区とも連携して事業や情報交換会などを企画してほしい。
17	企画・運営のご苦勞にいつも感心し感謝している
18	関東からの参加者がいることに驚いた。
19	可能な申し込み時期でできるだけ早く申し込んだが、会員校でなかったため希望の講座に参加できなかった。
(職種:職員)	
20	特にありません。いつもありがとうございます。
21	特になし
22	愛媛大学様の企画力に頭が下がります。遠方の大学から来られるほど知名度も上がった感じです。
23	HPの管理を適格にしていきたい。リンク切れなどが常時多々あり、更新がかかる度にどこかミスがある。現在もフォーラムのチラシやシラバスなどリンクが切れている。
24	フォーラムの規模について、今回程度が適正であるように感じている。今年度が初参加であり、前回以前のことは分からないが、むやみやたらと拡大してフォーラムの質が低下することの無いように願いたい。
25	いつも教育業界に多大なご貢献を賜り、有難うございます。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。
26	これだけの規模の事業を継続することは大変だと思いますが、今後も質の高い研修を期待しております。
27	四国外の受講者が多く、刺激になった。
28	いろいろお世話になりました。
29	主催者だけでなく参加者が大変熱心に参加されているので、良い刺激を受けた。
30	特になし
31	今回も大変お世話になりました。ありがとうございました。
32	幹事校は大変なことと思いますが、今後とも是非継続していただきたいと思います。
33	特になし
34	講師、スタッフの皆様お世話になりました。
35	四国外の方ともお話しできたのがとても良かったです。
36	素晴らしいプログラムがたくさん開講されており、うらやましい限りです。
37	これだけの規模のイベントを実施するのはとても大変なことだと思いますが、全国の大学関係者にとってこれほど素晴らしいイベントは他にないと思いますので、今後も継続して欲しいです。また、このアンケートフォームの回答欄が小さすぎます。2行しか表示されないの、せめて数行は見えるようにしてほしいです。(笑)
38	四国のネットワークなので加盟大学優先は理解できるが、各講座に一般枠を設けられると、他地区からも参加しやすいのでは。加盟大学以外が申し込める段階で、既に満席はがっかりしてしまう。特にポスター発表者は、会場へ出向くことを決めているので、講座申込段階で意欲が減退してしまう。
39	短期間に多くの講座を受講することができ、とても有意義な研修でした。
40	特になし。
41	特にありません。
(職種:その他・空欄)	
	回答なし

SPODフォーラム2015 参加者からの要望等について

■開催時期／期間について

- ・業務の都合等で1日しか参加ができなかったため、3日間とも参加できるように連休中などの開催を希望します。
- ・職務の専門分野の他の研究会とバッティングしていて、なかなか参加しづらいという面があります。もう少し日程を前倒しするとかしていただければ、と思います。
- ・8月の末は他の研修とも重なり、どちらかを諦めざるを得ませんでした、9月の開催は難しいのでしょうか？

対応

過去の実績に基づき、教職員が最も参加しやすい夏期休業中の平日に開催している。なお、来年度は愛媛大学で8月下旬に開催する予定である。

- ・同時期に開催していた他の研究会と調整を行い、日程が被らないよう対応した。

■開催会場について

- ・もっと広い会場（教室）であれば良かったと思う。グループ同士の間隔が狭すぎて、会話しづらい場面もあった。
- ・グループワークの際に、周りの議論が白熱し、自グループの議論が聞こえにくいことが多々あった。難しいと思うが、教室の広さ（若しくは定員）を再検討してみてもどうか。
- ・全般的に会場が狭いと感じた。スケジュールもタイトであったので、移動時間を考えるとなるべく1つの建物の中で完結した方が良いのだと思うが、改善できるのであれば、空間に余裕がある方がありがたい。
- ・ポスターセッションの会場をもう少し広くし、発表者どうしの間隔を広くとっていただくと、ポスターを囲みやすく、見やすくなり、また近隣の発表者の声と重なって聞き取りにくいのを防ぐことができます。

対応

・会場確保の都合上、来年度も今年度と同じ法文学部講義棟をメイン会場として開催を予定している。各プログラムの定員数の見直しを行い、会場の規模に応じた定員を設定することで空間に余裕を持たせることを検討する。

- ・2日目（シンポジウム実施の日）に、講義形式のプログラムを設け、受け入れ可能な人数を増やすことを検討する。

■研修時間・開始時刻について

- ・初日の朝出発すると、開催時間に間に合うかどうかという時間帯であったためもう少し遅く始めると参加がしやすい。
- ・関西からの参加ですが、1日目の開始時刻をもう少し遅くしていただけると前泊の必要がないので、有り難いです。
- ・一つ一つのセミナーをもう少し時間をとって欲しかった。
- ・身に付けるためには少々時間が足りないので、もう少し（30分程度）時間を増やして欲しい。
- ・グループワークを組み込んでいたので同じグループの方とのディスカッションはすすんだが、他のグループの方とお話する時間が少なかったため、グループワークを取り入れている講座はもう少し時間が欲しかったと思う。
- ・全てのプログラムで参加者の方々と意見交換等を行える時間がほしかったです。

・グループワークやディスカッションのあるプログラムに参加したが、時間が足りないと感じた。ワークやグループディスカッションなどのあるプログラムは、2日目または3日目の9:00開始にする、2コマ連続にするなどして時間を確保する事を検討しても良いのではないか。

・ワークの時間をもっと増やしてほしい。他大学がどのように取り組んでいるのかを聞きたい。

・他校の取り組みはとても参考になったので、情報交換の時間が長いほうが良いと思った。

対応

・講義開始時刻については過去の実績に基づき設定しているが、四国以外からの参加者も増加していることから、できる限り考慮して開始時刻の設定を検討する。

・講義時間については、グループワークのあるプログラムは時間が足りないとの意見が多く、講義時間を長くしたり講師の時間配分を調整してもらったりするなど工夫できるところがないか検討する。

■プログラムの申込について

・SPOD加盟校の職員ではないからかもしれませんが、申込みが始まった直後に申し込んだプログラムの中でも受講できないものがありました。定員の拡大についてご検討いただけると幸いです。

・可能な申し込み時期でできるだけ早く申し込んだが、会員校でなかったため希望の講座に参加できなかった。

・SPOD加盟校以外であっても、ある程度希望するプログラムを受講できる枠を確保しておいてほしい。(申込み日に既にいっぱいとなっているものが多かったため)

・四国のネットワークなので加盟大学優先は理解できるが、各講座に一般枠を設けられると、他地区からも参加しやすいのでは。加盟大学以外が申し込める段階で、既に満席はがっかりしてしまう。特にポスター発表者は、会場へ出向くことを決めているので、講座申込段階で意欲が減退してしまう。

・プログラムの空き状況が不明瞭でした。

対応

・今回、加盟校限定の先行受付の段階では定員に達しなかったものの、一般受付開始後まもなく定員に達したプログラムもあった。今回は申込フォームのシステムの都合上、定員に達したプログラムの申込を締め切るまでにタイムラグが生じたため、申込フォームのシステム等を見直し、申込フォーム画面上で随時プログラムの空き状況を掲示したり、定員に達し次第自動的に申込を締め切ったりする等の対応を検討する。

・SPOD加盟校教職員は先行受付期間に申込ができるようになっており、期間内に申し込んだ加盟校の教職員はほぼ希望するプログラムを受講できるようになっている。ただ、近年加盟校外からの参加者も増加していることから、できる限り加盟校外の参加者も希望するプログラムを受講できるような工夫を検討する。

・キャンセル等により空きが生じたプログラムについて、二次募集を申込フォームで行う等の対応を検討する。

・「キャンセル等により空きが生じる可能性がある」旨、申込フォーム等に記載し事前に参加者にお知らせしておく。

・受講希望の多いプログラムについては、同内容のプログラムを2回実施するなどの対応を検討する。

■シラバスについて

- ・ 講義を選ぶ時に見た資料の内容と、実際に行われた講義内容が、必ずしも一致していないものも、あったように思います。
- ・ シラバスに記載する「対象者」や「内容」などをもっとハッキリとさせて欲しい。
- ・ シラバスの内容をより具体的に。事前学習ができるようにデータの提供などを行う。

対応

- ・ 講師の選考を早めに行い、講師の方々には講義内容を十分検討いただいた上でシラバスを作成していただき、シラバスに沿った研修の実施をお願いします。
- ・ 講師の方々にはシラバスに記載する受講対象を明確に設定していただき、受講者にわかりやすい表現で記載する等工夫する。
- ・ 受講対象外の方から申込があった場合の受入可否について、講師の方に事前確認しておく。
- ・ 講義形式中心のプログラムについては、シラバスに講義形式の旨記載するようにする。

■広報等について

- ・ 受講申し込み時点で締切のプログラムがあったので、受けられなかったプログラムの資料等でも良いのでWEB等で閲覧できれば嬉しいです。
- ・ このアンケートについて、教育等についてすでに積極的に取り組んできていて、今回のフォーラムでとくに意識や考え方が変わったわけではない場合の、適切な選択肢がない。また、これまでのフォーラムでの知見はすでに授業等に生かしているが、今回のフォーラムの知見についてはまだこれからのことだ、という場合に、「実際に活用している」との設問の回答がどちらのことかわからないなど、曖昧さが目立つ。一応回答したが、この結果がどのように利用されるのかを思うと、曖昧であり、今後もこのようなアンケートに協力できるかどうかはわからない。適切な設問の立て方と選択肢の設定をした方がよい。
- ・ 今年度参加者には来年度の案内をメールで送って下さい、四国以外の参加者です。

対応

- ・ フォーラム終了後、掲載許可を得たプログラムの資料についてはSPODホームページに掲載しているが、申込時点で参加者がわかるように申込フォーム等にその旨記載しておく。
- ・ ご指摘いただいたアンケート項目については改善することを検討する。
- ・ SPODフォーラムの広報については毎年6月頃に全国の高等教育機関にチラシを配布している他、各種メーリングリストにて案内をしているが、更なる周知のために前年度のフォーラム参加者に対して、案内メールを送ることを検討する。

■運営上の要望について

- ・ 各講師お勧めの本が展示販売されているといいのではないかと思います。
- ・ 四国外からの参加だったので土地勘がなく、愛媛大学の正門の場所がわからずかなり迷った。当日は、路面電車の最寄り駅から看板を設置していただけたらありがたい。
- ・ 名刺を切らしてしまう方が多かったので、プリントできる設備・対応する窓口があるといいと思います。
- ・ 県外の方がお土産を買う場所を探していたので、受付付近で販売されてはどうでしょうか。

・フォーラムの規模について、今回程度が適正であるように感じている。今年度が初参加であり、前回以前のことは分からないが、むやみやたらと拡大してフォーラムの質が低下することの無いように願いたい。

対応

- ・会場までの案内板の設置場所や、参加者に事前に案内する地図の表現等を工夫する。
- ・関連書籍等の販売については、過去の実績も考慮しつつ実施の有無について検討する。
- ・お土産販売については、全体受付で参加者全員に配付したチラシにてご案内していたが、ご覧になっていなかった方もいたようなので周知方法を工夫する。
- ・名刺については、プリントできる設備等を用意することが難しいため、参加者への事前連絡の際に、参加者各自で名刺を多めに準備するよう依頼する。

■プログラム構成等について

- ・以前のように、もう少しFDプログラムがあっても良いのではないかと思う
- ・講義形式で単純に情報・知識を増やすことを重視した授業がもう少しあってもいいと思う。
- ・個人的には、知識修得型（講義型）のプログラムがもう少し多ければ嬉しい。
- ・必要に応じて、シリーズものや事前事後学習を取り入れて密度の濃い授業としてはどうでしょうか。
- ・現在は単発プログラム（導入編）が主となっておりますが、同一テーマによる3日間の集中講義プログラム（『高等教育の動向』『教授方法』『研究支援業務』）を組んでいただければ幸いです。
- ・先進的な内容が次々に開講されていく一方で、いったん乗り遅れると参加者のレベルについていけない場面もあります。これまで参加していない者にとっては、ますます気後れすることも考えられます。キャッチアップ講座のように、ざっと復習できる講座が時々入るのは、どうでしょう。今回、アクティブ・ラーニングの講座で、アクティブ・ラーニングに該当する授業方法を網羅してくださったのは、とても助けになりました。
- ・同じ講師が幾つもの講座を担当するのではなく、さらにバラエティに富んだ講師陣であれば、リピーターもさらに増えるのではないかと思う。
- ・書画カメラ等の活用。A3判程度の大きさの紙にワークで書かれた内容がスクリーンに投影できれば、受講者全員に見えていいと思います。
- ・開講してほしいプログラムについては別紙のとおり。

対応

- ・FD対象，SD対象，種々テーマのプログラムが偏りのないよう考慮して構成しているが、さらに受講者に満足いただけるよう、できる限り要望を考慮してプログラム構成について検討する。

《開講してほしいプログラムについて》

アクティブ・ラーニング関係

- ・色々なアクティブラーニングの手法とその教育効果について、IRの初級編・入門編の次のレベルの内容のもの。
- ・今まで同様定番メニューも有りながら新しいアクティブ・ラーニングの手法なども少しずつ増やしてほしい。
- ・アクティブ・ラーニングの具体的手法・効果についての紹介と、その課題解決を討議するワークショップ
- ・様々なアクティブラーニング手法の実例を体験できるようなプログラム。
- ・アクティブ・ラーニングを実際に授業に取り入れてみたが、ただアクティブにはなっただけで、必ずしも学びが深くなったわけではないように思うこともある。また、学問領域や授業の性質によって、適した技法が異なる気もする。このように、実際にアクティブ・ラーニングを導入した際に生ずる様々な問題の解決のヒントになるようなプログラムがあればと思います。
- ・PBLの実践例、教材例。

IR関係

- ・IRについては非常に興味を持っています。また、研究倫理に関する話題があるとうれしいです。
- ・教学IRは今後も継続的に取り上げて欲しい。
- ・データベースの作成、活用
- ・統計学の入門編。3日間あるので、初歩から始めても、集中講義のように講義とワークを組み合わせれば、簡単な手法や概念は学べるのではないかと。それに、持ち帰ってすぐに使うことができる技術でもあるし、期間中先生に質問もできるので、かなり学習効果が高いと思う。

障がい学生、学生支援関係

- ・障がい学生への対応
- ・障害学生のインターンシップ受け入れについて
- ・「発達障害学生への対応」、「退学者減少への取組み」等はいかがでしょうか。
- ・アスペルガーなど発達障害のある学生への対応
- ・「学習支援の方法」「発達障害学生の種類、対応ケースの事例報告」など
- ・学習支援の発展的なメニュー
- ・就職困難学生の対応、ロールプレーを交えた研修

国際関係

- ・欧米の大学教育の先進事例
- ・大学のグローバル化
- ・新規留学プログラムの開発について
- ・留学生への研修について
- ・学内のグローバル化のための取組事例

知識習得系

- ・大学経営・大学マネジメント・教育（大学）に関する世界や国の動向についての授業
- ・経営改善計画（中長期経営計画）の取組みについて、特に、全学的に推進していくための体制作りについて。

・中教審答申などを含めた高等教育界の次の動向について“わかりやすく”我々は具体的に何をしたい方がよさそうなのかをレクチャーしてもらいたい。

・自校教育について、基本を身につける教育、なども取り上げて欲しい

・高等教育の制度を正しく理解する講座。現場で望ましい対応をするためには、その基本を知っておかなければならない。特にブームで「〇〇を進めなければ」の前に、なぜ、そのようなことが求められるのか、が理解できないと場当たりの対応になってしまうため。基本は大事である。

・高等教育史，法令解釈に関するプログラムを開講して欲しい。

・高大接続改革について

・知的財産

・ダイバーシティ関連

スキル習得系

・授業評価アンケートの設計

・授業スキルにつながるような内容のものがほしい。長年出ていると新しいプログラムはSDになりがちなので。

・英語での教授法

・事務の実践スキル（メール照会のしかた、共有フォルダの作成法など）

・エクセル、ワード、パワーポイントの便利な機能や実践的な演習

・FDに参加しない教員へ向けての情報発信方法や意識向上のためのスキル

・ファシリテーションスキルについてプロから学ぶことのできるプログラム（1日ばかりでもよいので）

・学外活動の企画立案・運営など

・プロジェクトマネジメント（ルーティン業務ではない単発の事業の進め方）等

スタッフ・ポートフォリオ関係

・スタッフポートフォリオの作成プログラム

・スタッフ・ポートフォリオ

・メンター育成プログラム

その他

・授業コンサルティング導入にあたっての留意事項

・モデル授業参観

・学生の能力差が大きいにもかかわらず、能力別クラスにできないケースが多いです。この問題に取り組んでいる方がおられるならば話を聴きたいと思います。

・体系的な大学職員アドミニストレーター研修

・職員研修プログラム（他校の事例を交え、どのような研修が大学職員にとって最適か考える）

・若手教職員を対象としたプログラムをもっと増やしてほしいと思います。

・男女共同参画に関わるプログラムがあってもいい気がします。

・教学中心の講座となっているので、法人系も取り入れてもらいたい。

・インストラクショナル・デザイン

・LMSについて、一般論・単なる事例紹介ではない講義があればと思います。

・レディースワールドカフェ

・参加者の分野を緩やかに絞ったプログラム

・参加者の専門分野，校種をそろえたプログラム

・1H程度での同じテーマを持つ方々との意見交換ができるプログラムがあればいいと思う。

・ビッグネームの方も良いが、深く考え実際に活動、仕事をしている実務者の生の声を聞きたい

5 平成27年度活動実績

(4) S P O D 共通事業

① S P O D 内講師派遣

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り
 講師名：立川 明（高知大学）
 実施日：平成27年5月7日（木）
 実施会場：徳島工業短期大学

当日参加者数：19名
 アンケート回答者数：19名

1. 参加者ご自身について 職種

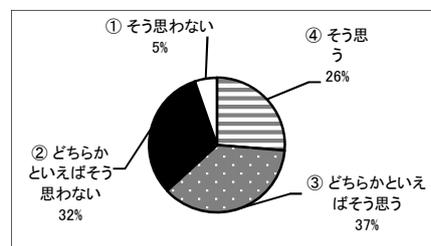
	度数	割合
① 教員	19	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	19	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

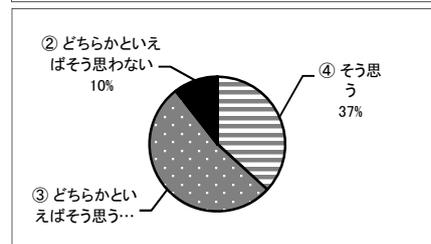
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	26.3
③ どちらかといえばそう思う	7	36.8
② どちらかといえばそう思わない	6	31.6
① そう思わない	1	5.3
計	19	100.0



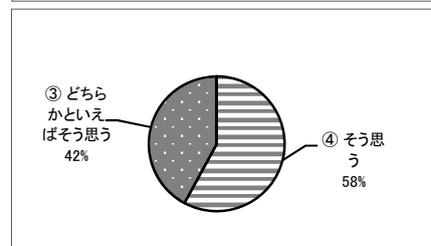
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	7	36.8
③ どちらかといえばそう思う	10	52.6
② どちらかといえばそう思わない	2	10.5
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



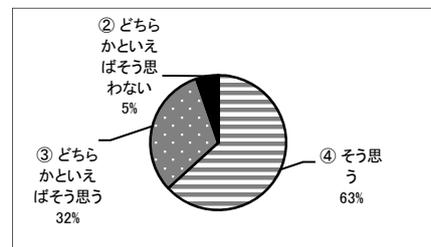
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	11	57.9
③ どちらかといえばそう思う	8	42.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



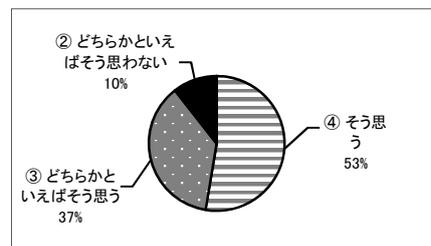
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	12	63.2
③ どちらかといえばそう思う	6	31.6
② どちらかといえばそう思わない	1	5.3
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



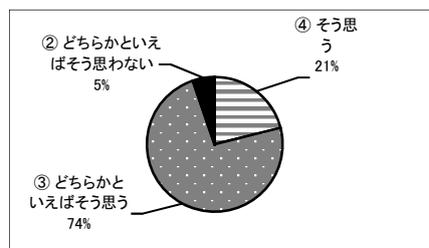
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	10	52.6
③ どちらかといえばそう思う	7	36.8
② どちらかといえばそう思わない	2	10.5
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



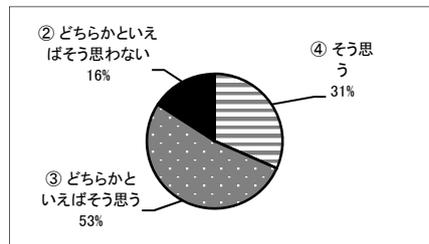
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	4	21.1
③ どちらかといえばそう思う	14	73.7
② どちらかといえばそう思わない	1	5.3
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



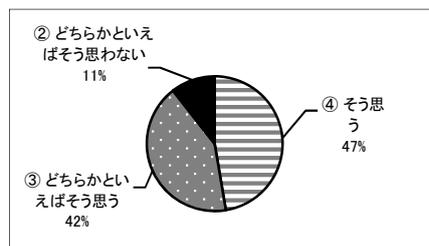
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	6	31.6
③ どちらかといえばそう思う	10	52.6
② どちらかといえばそう思わない	3	15.8
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	9	47.4
③ どちらかといえばそう思う	8	42.1
② どちらかといえばそう思わない	2	10.5
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 最初の授業において、参加者の共通点を理解した話し合いを行い、協同学習の基盤を作るなどの下準備の工夫に驚かされた。そこまで授業への配慮がなされなければならないことに気付かされた。また、授業の振り返りとして、1分間のプレゼンを課すことも授業への積極的参加となり、能動学習としての成立が可能と思われる。
- 他の大学の先生方と交流できたこと。振り返りの時間を頂き、授業の内容等について意見交換をできたので。
- 学生の立場になってグループワークができたので良かったです。
- 全体的に良かったと思います。しいて言うならば、「良い間の条件」が参考になりました。授業に誘導する質問、主語はあなた、えっと思う要素、という内容が良かったです。
- 1回の授業でいかに最初、始まり、導入が重要であることを再認識した。
- 授業するための良い雰囲気作り方の一手法として生かせる。
- 努力の必要性を感じる。
- 班別活動によって、最初に参加者の意識が高まった。授業改善の具体的な“工夫、しかけ”が分かったので、早速使える。
- 学生が楽しく授業に参加できる工夫が、自分に不足していることが分かった。
- 様々な手法を紹介してくれたのが良かった。
- 事例をあげての解説により、各種コミュニケーションの取組方法が理解できた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 今回の研修では、授業全体をモデル化した形式で行われたと思われるが、次には、実際にこの方法を実施された授業を再現してもらうことはどうだろうか。講師の方には大変と思われるが、挑戦していただくとありがたい。被授業者にもよるが、アクティブ・ラーニングを重視したやり方が今ブームとなっている。そのことを意識した研修を示していただけると良いと思われる。
- (研修に臨む自分の勉強不足が災いしていますが。) 配付資料がテーマしがなく、LIT、PRSなどの意味をPPで示されたが、前もって表記しておいただければ転記に時間が取られず、話に集中できたかもしれません。また、その活用方法などに興味を感じましたが、事例が少なく、実際の活用場面をイメージしにくいと感じました。
- 「良い間」を導き出し、授業に引き込ませるような内容にしていきたいと思います。
- 自分自身の集中力、記憶力を現状以上に高めなければ内容を理解し、覚えることが難しく思った。
- 機械系の講師を希望する。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート
 講師名：坪井 泰士（阿南工業高等専門学校）
 実施日：平成27年5月29日（金）
 実施会場：新居浜工業高等専門学校

当日参加者数：37名
 アンケート回答者数：35名

1. 参加者ご自身について 職種

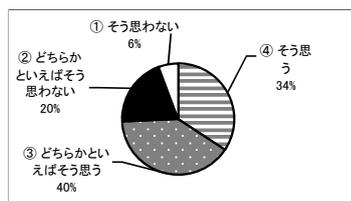
	度数	割合
① 教員	35	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	35	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

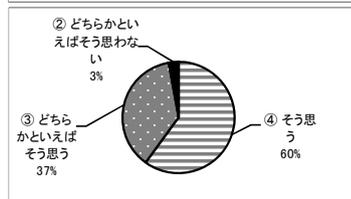
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	12	34.3
③ どちらかといえばそう思う	14	40.0
② どちらかといえばそう思わない	7	20.0
① そう思わない	2	5.7
計	35	100.0



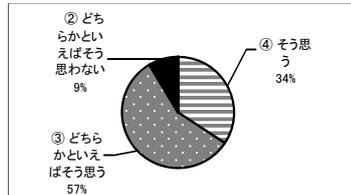
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	21	60.0
③ どちらかといえばそう思う	13	37.1
② どちらかといえばそう思わない	1	2.9
① そう思わない	0	0.0
計	35	100.0



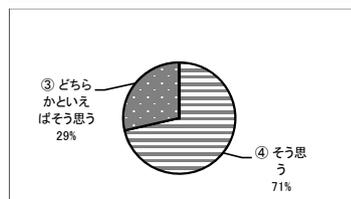
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	12	34.3
③ どちらかといえばそう思う	20	57.1
② どちらかといえばそう思わない	3	8.6
① そう思わない	0	0.0
計	35	100.0



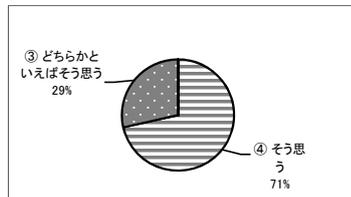
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	25	71.4
③ どちらかといえばそう思う	10	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	35	100.0



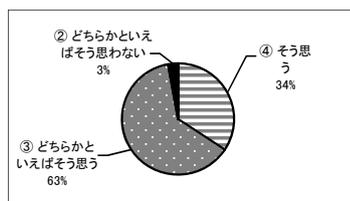
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	25	71.4
③ どちらかといえばそう思う	10	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	35	100.0



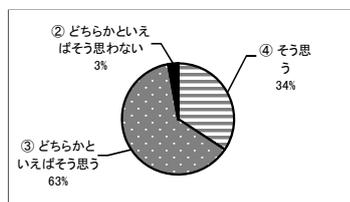
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	12	34.3
③ どちらかといえばそう思う	22	62.9
② どちらかといえばそう思わない	1	2.9
① そう思わない	0	0.0
計	35	100.0



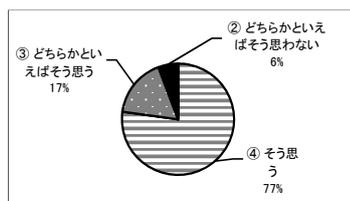
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	12	34.3
③ どちらかといえばそう思う	22	62.9
② どちらかといえばそう思わない	1	2.9
① そう思わない	0	0.0
計	35	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	27	77.1
③ どちらかといえばそう思う	6	17.1
② どちらかといえばそう思わない	2	5.7
① そう思わない	0	0.0
計	35	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- とても分かりやすかった。
- 教員間の横の連携が高専においてどうあるべきかについて考える良い機会になった。アクティブ・ラーニング本体のこと以上に、その前提（より具体化し易い）となる条件について知ることが出来た。
- 自身の授業や指導法を見直すことができた。グループで話し合うことができた。
- 求められるファシリテータ像が、少し理解できたこと。
- ALについて着手するための勇気をいただきました。
- アクティブ・ラーニングの活用について理解することができた。
- 種々のmethodを知ることができた。
- 各先生方の意見を見解することができた。
- 具体的手法の知識を得られた。
- 今まで自分が教壇で出会ったことのない問題の事例を提示された。今後の参考になるだろう。
- Active Learningの内容は良く知らなかったが以前からかなりの部分で授業で行っていることが分かった。Think-Pair-Shareの手法など取り入れたい。
- ALのいろいろを認識でき、これまでのやり方にふくらみを持たせることでより良い学習に繋げることができることが分かった。
- 具体的に実行できる内容であった。
- 学生への意欲を出させる必要性を感じていたが、学生へ回答させた後の教員の反応の大切さを感じた。
- 事例のグループワークで他の先生の意見を聞いて参考になった。
- 授業で利用できそうな取組が多く紹介された。
- 熱意を感じました。
- 具体例、Tipsが分かりやすかった。
- 教員同士のネットワークとして取り組むことの重要性を感じられた。
- アクティブラーニングに関して、身がまえることがなくなった。できることからやっていきたい。
- アクティブラーニングの実践方法が具体的に分かった。
- 何かひとつでも自分の実力、立場、状況の中で進められる目標ができた。
- 具体的な取り組み方法がイメージできた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 講演中に使用された英単語を日本語に置き換えると、100年上前に出版された「学問ノススメ」に書かれています。ご参考まで。
- もう少し内容がまとまっていれば助かるのだが。
- 特になし。あえて言うなら時間を延長しすぎないでいただきたい。次の予定もあるので。
- 工夫しながらやる!
- もっと多く参加すべきだ。
- 遅れて入ってきた時にとまどう。
- できれば時間内に終わって欲しい。
- 答えが一意に決まっている授業（数学など）で短時間で実践できる例が知りたい。
- 内容を少し絞るべきか。
- 個々のあり方とは別に、いかに「教育グループ」を作り、運用するのかというお話をお聞きしたかったです。
- ワークをもう少しやった方がよかったと思うので、時間を長くor複数回。
- 事前の情報（具体的）を提供してほしい。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り
 講師名：立川 明（高知大学）
 実施日：平成27年6月3日（水）
 実施会場：高知工業高等専門学校

当日参加者数：22名
 アンケート回答者数：13名

1. 参加者ご自身について
 職種

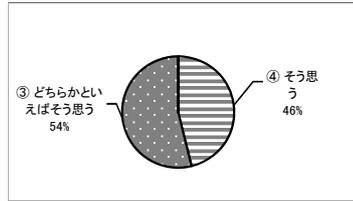
	度数	割合
① 教員	13	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	13	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

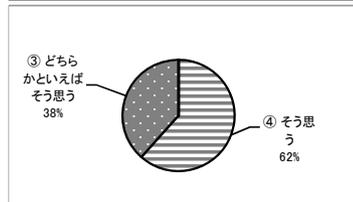
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	6	46.2
③ どちらかといえばそう思う	7	53.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



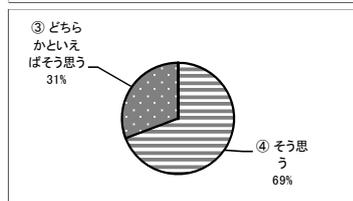
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	8	61.5
③ どちらかといえばそう思う	5	38.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



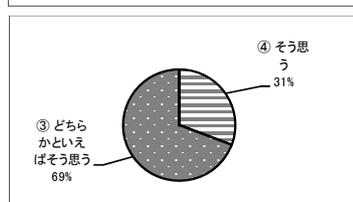
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



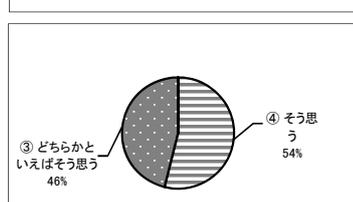
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	4	30.8
③ どちらかといえばそう思う	9	69.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



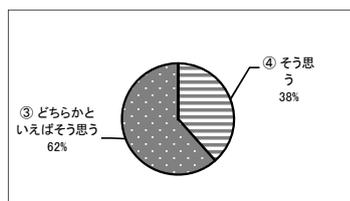
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	7	53.8
③ どちらかといえばそう思う	6	46.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



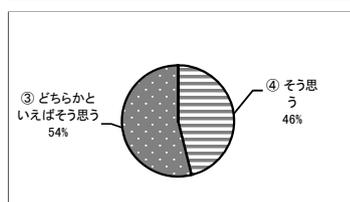
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	5	38.5
③ どちらかといえばそう思う	8	61.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



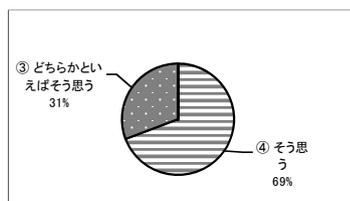
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	6	46.2
③ どちらかといえばそう思う	7	53.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 業務に直接関係した、具体的な内容で、体験的に学習できた。
- すぐに使うことのできる具体的な授業の手法を知ることができた。(グループワーク、授業の最初にすべきこと、PRSなど)
- 協同学習の効果、グループワークの効果を知ることができた。
- 具体的な手法や事例をたくさん紹介していただけてとても有益でした。いくつかを自分の授業に取り入れて実施してみたいと思います。
- グループ学習の作り方。
- 具体例もあり、すぐに授業に取り入れられる手法が学べて良かったです。
- 実践的なアクティブラーニングの手法について学ぶことができた。
- IBやBSから始まって、様々な「受講生を飽きさせない手法」について実践しながら説明していただいたことが、非常に分かりやすく、実際に使用する場面を想起しやすかった。
- 様々な授業の工夫を知ることができました。授業の最後のふりかえりは取り入れたいと思いました。
- 新しい授業方法(自分の授業でもすぐに実施出来そうな方法であったので)を学べたことが良かった。
- いろいろなスキルについて、聞くことができ、体験できたこと。
- 学生を授業に集中して取り組ませる手法を色々と学べたこと。
- グループでの小テストのやり方等、新しい視点を学べた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 教科ごとの実践風景を見てみたい。
- スライドの資料などをいただくと、また復習できると思いました。
- 一般論的な話ではなくて、実際に授業で実践している内容そのものを例として用いてもらいたい。ある程度、偏りがあつた方がイメージしやすい。
- 研修受講メンバーが固定されてきている。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育
 講師名：坪井 泰士 (阿南工業高等専門学校)
 実施日：平成27年6月15日 (月)
 実施会場：弓削商船高等専門学校

当日参加者数：22名
 アンケート回答者数：22名

1. 参加者ご自身について
 職種

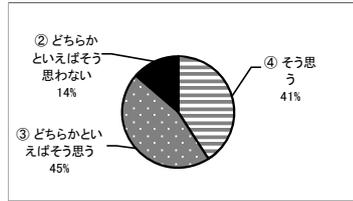
	度数	割合
① 教員	22	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	22	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

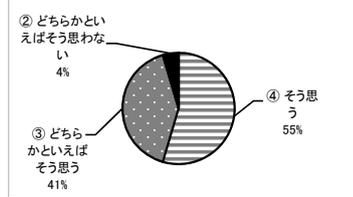
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	9	40.9
③ どちらかといえばそう思う	10	45.5
② どちらかといえばそう思わない	3	13.6
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



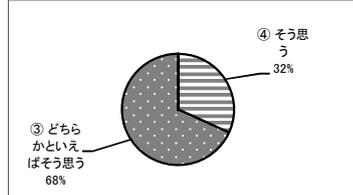
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	12	54.5
③ どちらかといえばそう思う	9	40.9
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



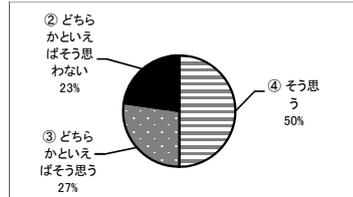
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	7	31.8
③ どちらかといえばそう思う	15	68.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



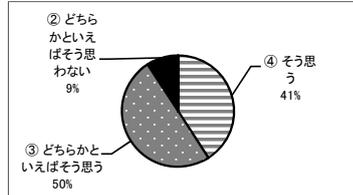
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	11	50.0
③ どちらかといえばそう思う	6	27.3
② どちらかといえばそう思わない	5	22.7
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



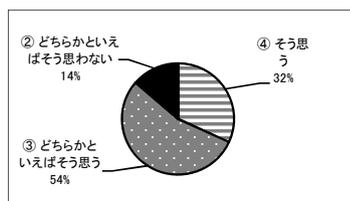
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	9	40.9
③ どちらかといえばそう思う	11	50.0
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



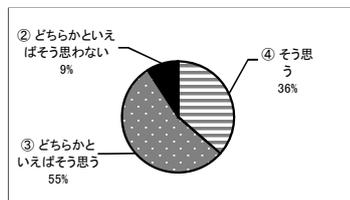
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	7	31.8
③ どちらかといえばそう思う	12	54.5
② どちらかといえばそう思わない	3	13.6
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



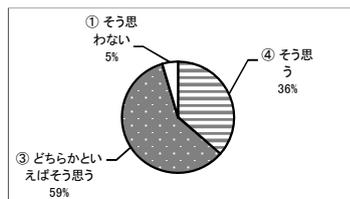
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	8	36.4
③ どちらかといえばそう思う	12	54.5
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	8	36.4
③ どちらかといえばそう思う	13	59.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 判例，事例を知ることができた。
- チームワークの大切さを確認した。難しいテーマであるが，構築につとめた。
- 教育活動における問題を整理し，今後どのような対応（対策）をすべきか確認することができた。
- 具体的な事例を用いてのご説明でありわかりやすかった。
- 普段の業務，学生とのかかわりを再確認することができ，これまでの行動をふり返ってみようと思う。
- 判例など具体例が用いられており，わかりやすかった。
- 日常の業務を見直すいい機会となった。
- 具体例を判り易く説明していただき良かった。
- 自分が行っている業務に即して，内容を聴くことができました。ありがとうございました。
- 学校内での自分の立場，教員への対応，学生への対応の中で自分にできることを考え直す機会になった。
- 様々なケースを想定して準備をしておく必要性を感じた。
- 色々な裁判の事例，特に校則，教員の過失，指導方法等，法的責任などを聞けて良かった。
- いじめに対することを教えていただいたこと。
- 具体例が聞けたこと。あきらめることも有（ただし，BESTをつくすこと）
- エビデンスの必要性の再確認
- 具体的な事例，体験談が多く，貴重な知識を得られた。
- 教員の日々の努力があっても，書類等がないと無力なものになってしまうこともある，ということがわかりました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 高専機構本部・役職が本講座・現場を知ってもらい個々・各高専の対応ではなく，高専全体として取り込むべき。（法務課の設定など）
- 受講前に本校の状況を整理すべき。
- 動画とか音声でこれはいじめ，これはいじめでない，といったグレーゾーン具体例があるともっと分かりやすくよくなると思いました。
- もう少し時間が長くあれば，ワークなどができて良い。
- 話を聞くだけでなく，議論があると良いと思います。（ケーススタディ的な）
- 図などを用いるともっとよくなると思う。
- 卒研の時間に実施しないこと。
- 保護者や裁判へのクレーム対策としてしっかりエビデンスを作ることが大事。つまり管理者向けの研修ではないかと思った。一教員として，学生への教育について熱心にとりくんでいこうという気持ちになれる研修がききたかった。
- 研修時期を忙しくない時期かつ，手遅れにならない時期にする。
- 配付資料はスライドをメモする時間がなく，有効に使えなかった。文字も刷ってほしい。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：事例から考えるハラスメント
 講師名：阿部 光伸（愛媛大学）
 実施日：平成27年7月7日（火）
 実施会場：香川短期大学

当日参加者数：66名
 アンケート回答者数：65名

1. 参加者ご自身について
 職種

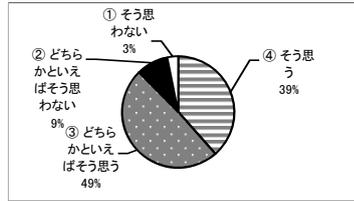
	度数	割合
① 教員	47	72.3
② 職員	18	27.7
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	65	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

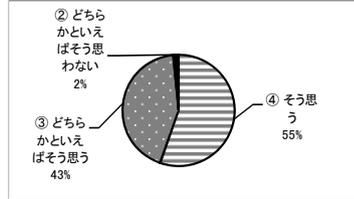
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	25	38.5
③ どちらかといえばそう思う	32	49.2
② どちらかといえばそう思わない	6	9.2
① そう思わない	2	3.1
計	65	100.0



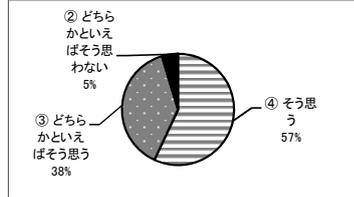
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	36	55.4
③ どちらかといえばそう思う	28	43.1
② どちらかといえばそう思わない	1	1.5
① そう思わない	0	0.0
計	65	100.0



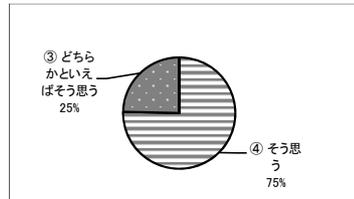
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	37	56.9
③ どちらかといえばそう思う	25	38.5
② どちらかといえばそう思わない	3	4.6
① そう思わない	0	0.0
計	65	100.0



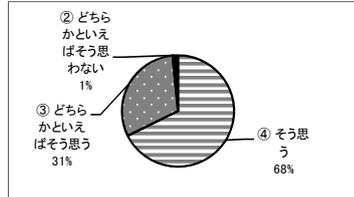
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	49	75.4
③ どちらかといえばそう思う	16	24.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	65	100.0



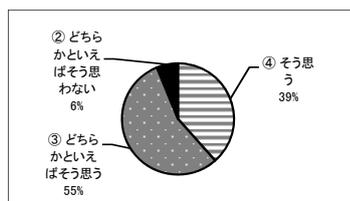
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	44	67.7
③ どちらかといえばそう思う	20	30.8
② どちらかといえばそう思わない	1	1.5
① そう思わない	0	0.0
計	65	100.0



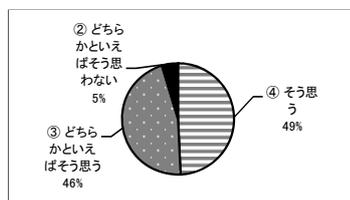
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	25	38.5
③ どちらかといえばそう思う	36	55.4
② どちらかといえばそう思わない	4	6.2
① そう思わない	0	0.0
計	65	100.0



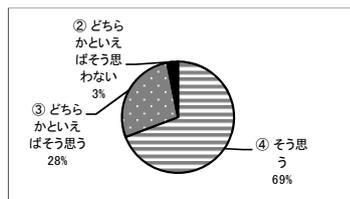
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	32	49.2
③ どちらかといえばそう思う	30	46.2
② どちらかといえばそう思わない	3	4.6
① そう思わない	0	0.0
計	65	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	45	69.2
③ どちらかといえばそう思う	18	27.7
② どちらかといえばそう思わない	2	3.1
① そう思わない	0	0.0
計	65	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 事例を知ることができた。
- 事案を聞くことができてよかった。
- 具体的なケースが挙げられていたので分かりやすかった。
- 30分に1度作業が入っていたので飽きずに受けられた。
- 具体的に自校の状況と照らし合わせて考えられた。
- 事例が分かりやすく、どのケースもありうる事例であった。
- いろいろとありがとうございました。
- ケースがどちらも現実のもので、考える題材としてとても興味深かった。アクティブ・ラーニングの要素が取り入れられており、授業の参考ともなった。
- 学生への対応の記録についての必要性を再認識させていただきました。ありがとうございます。
- 学生対応に十分対応できる内容であったと思います。
- 具体的な事例を挙げているので話の内容が理解しやすく、マネジメントについても考えやすかったです。
- 学生への対応等がわかりやすかった。
- ハラスメントを再確認できた。クレームハラスメント等も初めて知ることができた。
- 事例が多く分かりやすかった。
- 学生と接する機会も多々ある為、今後学生と接する時の参考となると思う。
- 具体的な事例があり、理解を深めることができました。日常的に心がける点もあると思いました。
- 法律上の事例を通して、どのように事実が認定されるかを知ることができた。指導をパワハラと取られない手法も知ることができた。
- 事例から考えることで分かりやすかった。
- 具体的な事例について考察した事で、意識が高まり、今後の業務（学生指導など）に活かせる内容で大変有意義な研修だったと思います。
- ハラスメントは受ける側だけでなく、自分が与えてしまう立場になることもあるのだと考えさせられた。
- 説明を聞くだけでなく、グループで意見を話し合う時間があり、よかったと思います。研修の時間が短く感じられました。
- 実際の事例が紹介されており、その事例について考える取り組みもあったことで理解しやすかったです。
- 具体的な事例を示した上で、考える時間をいただいたこと。そしてその後、回答をいただいたこと。
- ハラスメントについて具体例をあげて説明してくれて大変よく分かりました。ありがとうございます。
- ハラスメント事例について考えさせられた点。
- 事例に基づいていたのでわかりやすかった。
- ハラスメントの種類が細かくなっている。
- 新しいハラスメントの категорияが開けた。
- 実例を出して詳しく説明していただいたのでよくわかった。
- わかりやすく教えていただきありがとうございます。最後のモラルハラスメント、特に学生からのクレームはまさに現在起こって頭を悩ましていることなので興味深かったです。
- ケースメソッドで考えることができた点。

- 具体例を示しての研修となったことが分かりやすかった。判例についてもわかりやすく理解できた。
- アカデミックハラスメントについてはこの研修ではじめて内容を知った。学生とのコミュニケーションを取る上での参考にしたい。
- 証拠がどちらにしても必要と分かった。
- ハラスメントに対する抽象的なイメージが、具体的に変わりました。
- ハラスメントの理解はしていると思っていたが、今後の指針として再認識すべきことも多々あった。職員、教員以上に管理職者の意識改革につながることを期待したい。
- 自分の身に起こらなくとも、気づいた時に指摘できればと思います。こういうものもハラスメントとして認められるんだ、ということを知りました。
- 事例によって理解しやすく、本校（自身の授業や指導）においてもありえる事例であるとリアルにふり返りが行えた。ハラスメントへの理解が深まった。
- 自分では気づかないハラスメントの存在について知ることができました。ささいなことでもハラスメントにつながる危険性を知ったことで、今後活かしていきたいです。
- 特に後半のモラルハラスメントが現実的に思えました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 時間内にスケジュールがややつまりすぎているので、もう少し余裕を持って受けたいと思った。
- ハラスメントの定義について辞書的定義と被害者が精神的苦痛を感じた時点でハラスメントと認められるという話があったが、法的な定義あるいはハラスメントとそうでない部分の境界をはっきりと示した資料や文言を提示してほしいと思う。
- 3時間ある方がよかった。
- ハラスメントは申し立てしにくい。
- ケース1③、ケース2④を活用してほしい。（細かいですが、3つの事例の文字の大きさ、到達目標があまり活用されていなかった点。読み上げていただいたのでいくつかは理解できましたが、少し分かりづらかったです…。）
- 学内でハラスメントがあった場合、（教員同士、学生同士）の対応、具体的に学内の現状もふまえた研修としてもよかった。
- 職員にとっては参加しづらい時間帯でしたので、違った日程で開催していただければと思います。
- アンケート用紙の数字が少し見えにくいです。
- 法律上責任が生じるかどうか、ということに論点の重きが置かれていた。こんな行いも、こんな発言も、ハラスメントにあたる可能性がある、というきわどいor厳しいレベルでの話があってもよかった。みんなの認識が甘くなる。また、今回は職員間のハラスメントについてのきわどい部分を含めて認識を深める研修を行ってほしい。
- やはり、教員と職員を分けて研修を行ってほしい。今回の研修においても職員としてどのように対応すべきか学びたいと思った。
- ハラスメント防止について、もう少し具体的に対策の話をしていただきたかったです。メモ書きで記録を残すお話は大変参考になりました。
- バワハラ、アカハラの相違。
- 一般教職員と管理職で受け止め方の違いが分かるような方法があればと思いました。
- できれば17：30までに終了するようなスケジュールだとありがたいです。
- もう少し長くお話を聞きたかったです。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：事例から考えるハラスメント
 講師名：吉田 一恵, 倉田 千春 (愛媛大学)
 実施日：平成27年7月30日 (木)
 実施会場：松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

当日参加者数：65名
 アンケート回答者数：38名

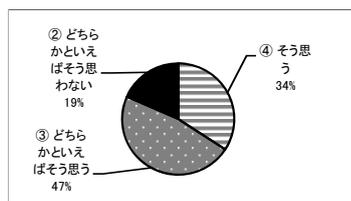
1. 参加者ご自身について 職種

	度数	割合
① 教員	17	44.7
② 職員	21	55.3
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	38	100.0

2. この研修について

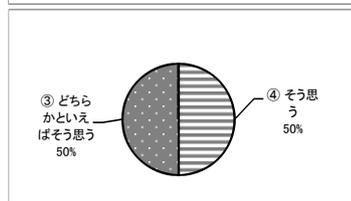
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	13	34.2
③ どちらかといえばそう思う	18	47.4
② どちらかといえばそう思わない	7	18.4
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



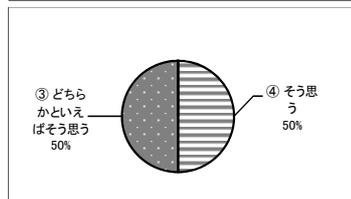
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	19	50.0
③ どちらかといえばそう思う	19	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



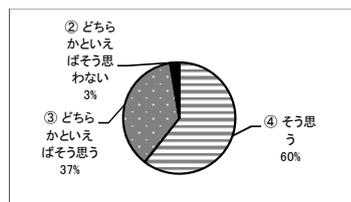
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	19	50.0
③ どちらかといえばそう思う	19	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



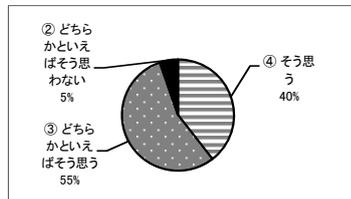
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	23	60.5
③ どちらかといえばそう思う	14	36.8
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



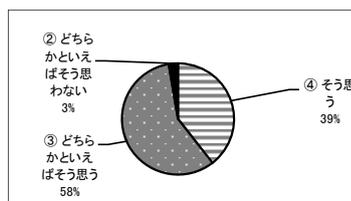
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	15	39.5
③ どちらかといえばそう思う	21	55.3
② どちらかといえばそう思わない	2	5.3
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



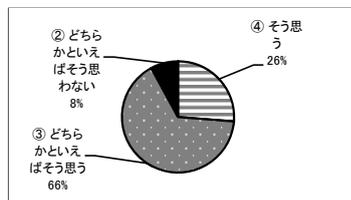
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	15	39.5
③ どちらかといえばそう思う	22	57.9
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



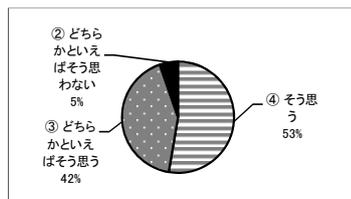
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	10	26.3
③ どちらかといえばそう思う	25	65.8
② どちらかといえばそう思わない	3	7.9
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	20	52.6
③ どちらかといえばそう思う	16	42.1
② どちらかといえばそう思わない	2	5.3
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 事例を通しての説明であり、理解しやすかった。
- ケースメソッドを体験したこと。
- 単なる概説ではなく、具体的事例を用いて、ハラスメントが成立するポイントを考えさせたところが興味深く、また勉強になりました。
- 実際の学生への接し方や注意すべきことを教えていただいた。
- 愛媛大の実践例を通して具体的なことから受講者が“考える”“体験する”ことができる研修であった。
- 事例についてグループディスカッションが行われたことで、様々な意見を聞くことができた。
- ハラスメントの具体的な定義の確認といった基本的なことから、豊富な具体例まで含まれ、大学で教員として働く中で遭遇する可能性の高い問題について理解が深まりました。特に自分が教育を受けていた時代には「指導」として通用していたことの多くが現在ではグレー（もしくはブラック）ゾーンに入ることが具体的に確認でき、今後留意すべき事柄を多く知ることができたと考えています。また、「証拠を残す事」「個人で対応しないこと」といった経験に基づく具体的なご助言は、現場を経験された講師ならではの内容で、非常に有益だと感じました。
- 愛媛大学で、ハラスメント、危機管理に対応する窓口、組織がどのようになっているかがわかり、勉強になった。研修では、事例を挙げて学ぶことで、どのような行動が問題となるのか、よく理解できたと思う。今後、自分自身がどのように行動するべきか考える良い機会となった。
- 裁判ではどのようなことが判断の根拠になるのかが示され、勉強になった。
- これからの業務に活かせると思う。
- ケース分析をした後、グループごとに結論が異なっていたことから、ハラスメントについて法的対応の理解と知識、また組織的な整備（規則、規定なども）から見直すことが重要であると実感できた点。
- 自分にはハラスメントは無関係なものだと思っていたが、いつ係わることになるかわからないのだと認識することができた。
- 事例が具体的に示されていたので、分かりやすかったし、参考になると思います。
- 最近ハラスメントという言葉はよく耳にするようになったが、具体的には分からなかった。今回の研修を通して、ハラスメントはいろいろな種類があり、どのような行為がハラスメントになるか理解できた。また、大学は先生と学生という特別な関係性により、ハラスメントが起りやすいことが理解できた。
- 危機管理の意識が高まった。
- 「事例紹介」と「ケースメソッド」が良かったです。
- 愛媛大学での取り組みと本学での取り組みを比較し、自分の部署での改善点や要点を見つけることができた。
- 様々な事例を知ることができた。
- 「新型うつ」について近年では多い話を聞き、実際そう思われる学生が多いのでハラスメントの予防、対策について考えることができた。
- 様々な事例から、ハラスメントになりうる要因を見つれたり、グループで検討することで自分では気づかなかったことを教えていただいたりして、講義を聞くだけではなくディスカッションもあったのでよかったと思う。
- 意識が高められたことにより、学生さんとの対応を丁寧にしていこうと思えた。
- 普段からニュースに気をつけておく必要があることを学びました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 研修時間が短いように感じる。もっと時間を取って欲しい。
- 講師の所属機関における組織的対応、手続きについてももう少し詳しく説明してはどうか。
- もう少し時間が長かったらゆっくりと聞くことができたと思う。なかなか忙しかった。

- では東雲はどうやっていくのか、具体的につくっていききたい。
- 通常は3時間程度の講義とのことでしたが、焦点が明確で分かり易かったと思います。また、ケースメソッドという方式は初めて体験しましたが、素人の観点と法的な観点の違いなどがよく分かりました。好みも多分に入るとは思いますが、以下の2つのスライドは情報量が非常に多く、色使いのルールも複雑であったため、説明を聞きながらであっても読み解くのが少々苦労しました。
 - ・大学・教育現場におけるハラスメントの説明（スライド27～29）
 - ・事例紹介（スライド31～36）
- 時間が短いと思う。2時間より30分、1時間長くすれば。
- ブレイクを入れて、2セッション構成で実施し、事例分析を複数行うとよいかもしいない。（時間は今回よりも長くなるが。）
- もう少し時間がとれば良かった。
- 本学の相談窓口は“セクハラ”に限定しているイメージがあるため、パワハラ、アカハラ、モラハラを含むハラスメント全体の相談窓口改善が必要だと感じた。
- ハラスメントの研修は初めてだったので、初心者には分かりやすかったので改善点はない。
- ハラスメントになってしまう言動は事例もありよくわかったが、ハラスメントを受けた場合に、ハラスメントとして認定されるための証拠など、メールなどが残っていれば物的証拠であるが、口頭でのハラスメントは自筆で書いておくだけでいいのか、相談された場合どのように対応すればいいのかもっと具体的に聞きたいと思った。
- お一人の講師の方の声が大きすぎた。部屋が冷房が効きすぎて、途中で何度か調節したが他にも寒いと感じておられる方がいる様子だった。
裁判記録以外の事例で学びができるとより身近に考えられるのではないか。
- 危機管理セミナー（シュミレーション）と同時開催（午前と午後）にするといいと思います。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：効果的なeラーニングの活用方法
 講師名：仲道 雅輝（愛媛大学）
 実施日：平成27年7月31日（金）
 実施会場：阿南工業高等専門学校

当日参加者数：14名
 アンケート回答者数：13名

1. 参加者ご自身について 職種

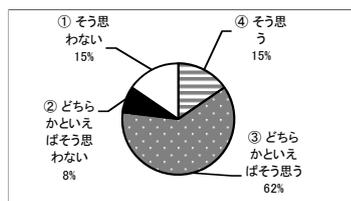
	度数	割合
① 教員	13	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	13	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

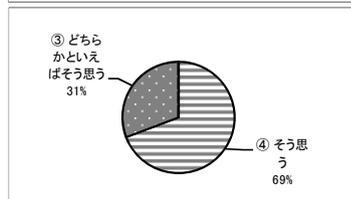
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	2	15.4
③ どちらかといえばそう思う	8	61.5
② どちらかといえばそう思わない	1	7.7
① そう思わない	2	15.4
計	13	100.0



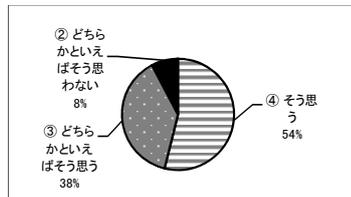
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



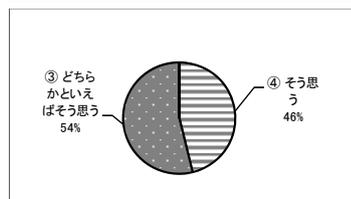
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	7	53.8
③ どちらかといえばそう思う	5	38.5
② どちらかといえばそう思わない	1	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



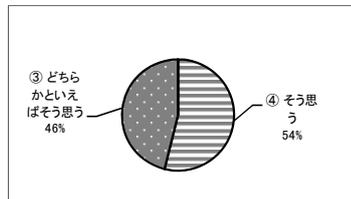
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	6	46.2
③ どちらかといえばそう思う	7	53.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



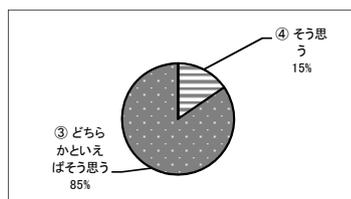
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	7	53.8
③ どちらかといえばそう思う	6	46.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



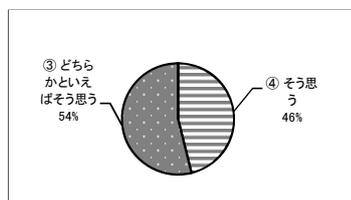
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	2	15.4
③ どちらかといえばそう思う	11	84.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



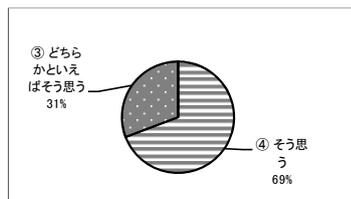
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	6	46.2
③ どちらかといえばそう思う	7	53.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 他の分野の先生方とLMSを使った場合に起きる問題やアイデアを共有できた。満足しております。
- 様々な事例を知ることができた。
- 新たなeラーニングの知識を得ることができた。
- eラーニングのデザインの考え方が理解できた。
- 様々な具体例を見ることができた。
- LMSの機能や利用方法、コツがよくわかった。
- Moodleの色々な使用例を見ることができて良かった。
- eラーニングの運用を知ることができてよかった。
- eラーニングにおいては、著作権に特に注意が必要な事がわかったことが良かった。
- 今回の内容はわからなかったところがよくわかって、良かったです。
- 以前購入したインストラクショナルデザインの本を読み直そうと感じた。受講者が少なく、質問に気軽に答えていただいた。
- 評価基準について学べた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
※記入なし

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～
 講師名：小林 直人（愛媛大学）
 実施日：平成27年8月6日（木）
 実施会場：愛媛県立医療技術大学

当日参加者数：35名
 アンケート回答者数：32名

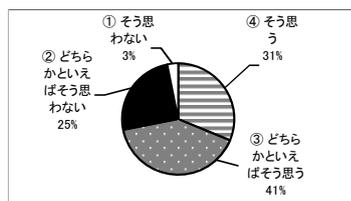
1. 参加者ご自身について 職種

	度数	割合
① 教員	31	96.9
② 職員	1	3.1
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	32	100.0

2. この研修について

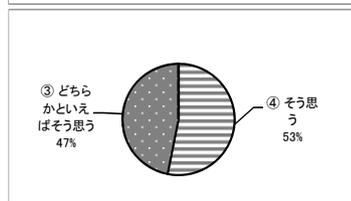
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	10	31.3
③ どちらかといえばそう思う	13	40.6
② どちらかといえばそう思わない	8	25.0
① そう思わない	1	3.1
計	32	100.0



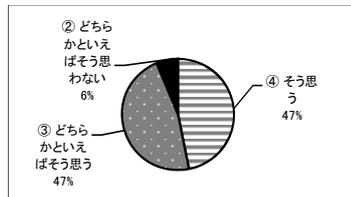
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	17	53.1
③ どちらかといえばそう思う	15	46.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	32	100.0



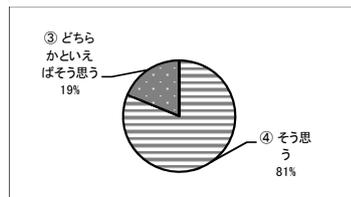
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	15	46.9
③ どちらかといえばそう思う	15	46.9
② どちらかといえばそう思わない	2	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	32	100.0



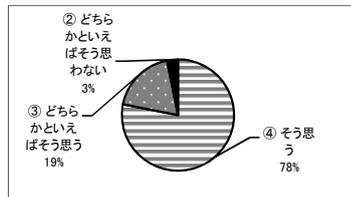
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	26	81.3
③ どちらかといえばそう思う	6	18.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	32	100.0



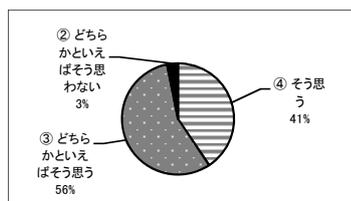
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	25	78.1
③ どちらかといえばそう思う	6	18.8
② どちらかといえばそう思わない	1	3.1
① そう思わない	0	0.0
計	32	100.0



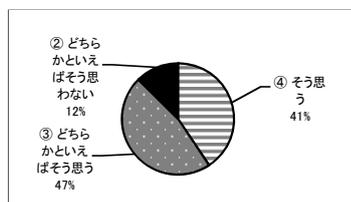
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	13	40.6
③ どちらかといえばそう思う	18	56.3
② どちらかといえばそう思わない	1	3.1
① そう思わない	0	0.0
計	32	100.0



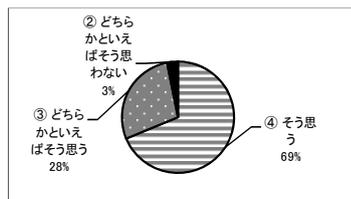
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	13	40.6
③ どちらかといえばそう思う	15	46.9
② どちらかといえばそう思わない	4	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	32	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	22	68.8
③ どちらかといえばそう思う	9	28.1
② どちらかといえばそう思わない	1	3.1
① そう思わない	0	0.0
計	32	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ポートフォリオの基本的知識が得られた。
- なんとなく今後の教育・研究に活かせるものであると分かった。
- 自分が何を大切に、教育・研究しているのか少し明らかになった。
- 自分の教育に対して考えていることを演習を通して言葉に表出することができた。
- 自分の大切にしていること（理念）を言語化することの重要性を再確認した。
- 自分を少し振り返ることができた。
- 自分を客観的に評価できた。
- 自分の考えやしていることを言葉にして他者に伝えることにより、していることの整理ができ、意味を確認することができた。これからの授業や実習指導でも時々、振り返りをしたいと思う。
- ポートフォリオの和訳活用の仕方など、細かな点まで分かってよかったです。
- わかりやすく、満足感の高い研修で、今後自分もティーチング・ポートフォリオを作ろうと思いました。
- ポートフォリオへの関心を持つことができました。もう少し深めて活用できるようにしたいと思います。
- 先生の話の展開がスムーズで分かりやすかった。
- 教員（参加メンバー）同士のメンタリングで、他の先生の話を開けたことがとても参考になった。
- 自らの教育の振り返りになりました。人生の振り返りの時期になって、ここでリフレクションして、残りの人生に進みたいと思います。
- 自己の教育観の振り返り、再確認になりました。
- ワークをシェアすることで、他者の取り組みを知れたことはとても良かった。
- 教育活動初期の人達に、早くこの方法を身につけて教育力を上げていけることを期待しています。
- 入門編として適度な分量だったので、今後の自己学習への動機付けになった。講師のTPが具体例として示されていたので、イメージしやすかった。
- 理念を考えるきっかけになった。
- 自分の大事にしていることを改めて整理することの重要性を感じた。自分の教育理念が明確にもなるので、非常に役立ちそうです。
- 講義について自分が大切にしていることが分かったような気がする。何をするのに自分の中で意図があったのだな、と改めて感じた。
- 自己の振り返りができた。
- 新たな気持ちで、自分を振り返ることができました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- この用紙のすべてが達成できる（書ける）ような時間がとれれば良かった（せめて3時間程度？）（中途半端になってしまった。自分だけはおそらくしないので）
- 良かったが、自分のものにする（アンケート項目の2-（6）、（7））には、時間が少なかった。
- 時間的な問題（もっとやりたかったと思いました）。
- ティーチング・ポートフォリオの形式や書き方をもっと具体的に見せてほしかった。結局ティーチング・ポートフォリオはどのようなものなのかという実物が分からなかった。
- 研修時間を長く、複数回の開催にすることでもう少し掘り下げた所まで到達できたのではないかと思います。
- 自分自身の根底にあるものを苦しくても見いだしたいと思っている。そのためには時間が必要、その導入としてはよく理解できました。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：コーディネート力養成講座
 講師名：仲道 雅輝（愛媛大学）
 実施日：平成27年8月19日（水）
 実施会場：香川大学

当日参加者数：30名
 アンケート回答者数：30名

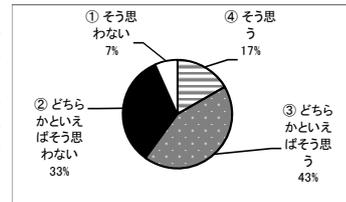
1. 参加者ご自身について
 職種

	度数	割合
① 教員	4	13.3
② 職員	26	86.7
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	30	100.0

2. この研修について

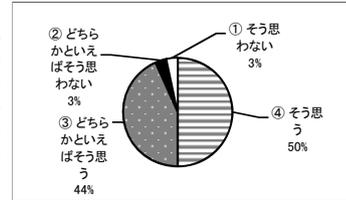
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	16.7
③ どちらかといえばそう思う	13	43.3
② どちらかといえばそう思わない	10	33.3
① そう思わない	2	6.7
計	30	100.0



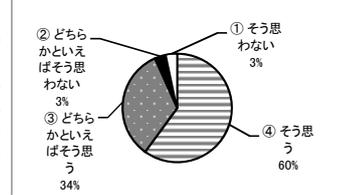
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	15	50.0
③ どちらかといえばそう思う	13	43.3
② どちらかといえばそう思わない	1	3.3
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



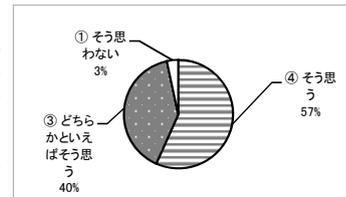
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	18	60.0
③ どちらかといえばそう思う	10	33.3
② どちらかといえばそう思わない	1	3.3
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



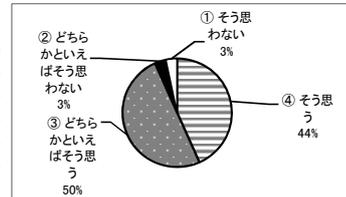
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	17	56.7
③ どちらかといえばそう思う	12	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



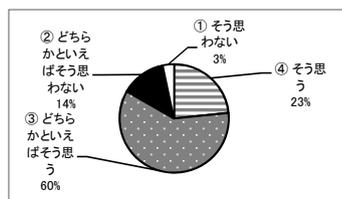
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	13	43.3
③ どちらかといえばそう思う	15	50.0
② どちらかといえばそう思わない	1	3.3
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



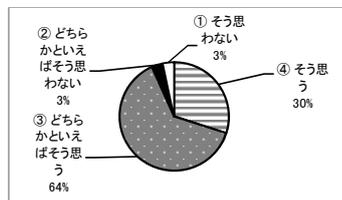
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	7	23.3
③ どちらかといえばそう思う	18	60.0
② どちらかといえばそう思わない	4	13.3
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



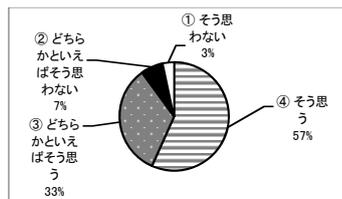
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	9	30.0
③ どちらかといえばそう思う	19	63.3
② どちらかといえばそう思わない	1	3.3
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	17	56.7
③ どちらかといえばそう思う	10	33.3
② どちらかといえばそう思わない	2	6.7
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 自分の仕事に直結している内容の話を開けたのでイメージしやすかった。
- 目的を定めて、相手の意見を尊重しながらも、自分の行きたい方向への落としどころを決める大切さを学びました。
- 自分の弱点がよくみえたので、改善点がわかった。
- 今まで、漠然と思っていたことがある程度明確になった。
- 役割を演じて議論することで「議論」の本質を感じられた。
- 自分のできていない点、足りない点を自覚できた。
- 気がついたことがあった。
- エゴグラム自己診断やコーディネート力要素のチェックリストにより自己理解が深まったり、今日から不足している部分を見直し、コーディネート力をつけていく意識を常に持つ重要性が良く理解できた。
- みなさん、同じようなことで悩んでいるなということが分かりました。自分に足りない点が多くあることも分かりました。
- 交渉は勝ち負けではないことということが意識の改革となった。
- 様々なタイプの人の多様な考えを聞くことができた。
- 資料は今後も活かされると思いました。
- 模擬会議、ブレインストーミングは新たな刺激を得られて効果的だと思う。
- コーディネート力要素について理解することができた。
- 解決力が身についたと思う。
- コーディネート力を身につけるために、日頃どのようなことを気をつければよいか明確に示していただいたのでとても分かりやすかったです。
- 講師の実体験を開けた。(ハウツウを開けた)
- 大学職員としての実際の経験に基づいた話は具体的でとても参考になります。
- エゴグラムで自分に不足している部分がわかり、今後は高められるよう努めたいと思います。
- 明日から実践したいコーディネート力を高める行動に気づくことができた。
- コーディネーター自身が目的・目標をはっきりさせる必要があると分かりました。
- 自分に足りない点に改めて気づきを与えていただきました、ありがとうございました。
- コーディネート力に関する知識だけでなく、他の部署の方々とも交流できてよかった。
- 改めて目的意識を持って仕事をする事の大切さが分かった。反対意見も今まではあまり聞きたくなかったのですが、これからはきちんと聞こうと思います。
- 自分で気づいていたことを明確に言っていたことで、整理することができた。
- ぼんやりした提案ではいいも悪いも意見が出にくいという話を聞いて、なるほどと思った。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- もっとグループワークを増やしても良いと思う。理論(座学)のあとに実践を試みたかった。
- もう少し長い時間でワークを行いたい。(複数のシチュエーションで)
- 実技が多いと良いと思いました。
- たとえば会議の進め方にテーマをしぼるとかして内容を深める。
- グループワークの提案内容がもう少し具体事例であれば、さらに議論が活発化されたと思います。
- もっと時間を長くした方が良い。
- 事前に取り入れたアンケートの内容は予め講座で紹介されることもあることを明確にされていた方がよろしいかと思いました。その場で「配布してよいか」と尋ねられても断れないと思います。
- 模擬会議のテーマを増やし、役割をその都度交代する。
- 時間が少し足りないように思います。せめて半日位は必要なのではないでしょうか。お世話になりました。

- 実戦経験を積むために、グループワークやロールプレイをもっと取り入れていただきたいです。
- クレーム対応や先生の普段の業務についてのお話が興味深かったので、もっとお聞きしたかったです。
- 保留者の役割だったが、懇親会についての立場は指示があったが情報交換会についての立場は指示がなく、議論が情報交換会の是非になったときにとまどいました。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：事例から考えるハラスメント
 講師名：吉田 一恵，倉田 千春（愛媛大学）
 実施日：平成27年8月24日（月）
 実施会場：香川県立保健医療大学

当日参加者数：43名
 アンケート回答者数：36名

1. 参加者ご自身について
 職種

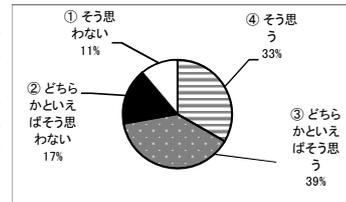
	度数	割合
① 教員	32	91.4
② 職員	3	8.6
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	35	100.0

★1名未記入

2. この研修について

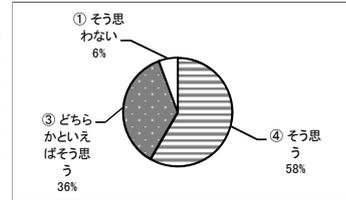
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	12	33.3
③ どちらかといえばそう思う	14	38.9
② どちらかといえばそう思わない	6	16.7
① そう思わない	4	11.1
計	36	100.0



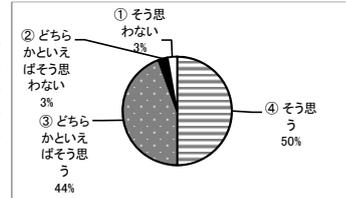
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	21	58.3
③ どちらかといえばそう思う	13	36.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	2	5.6
計	36	100.0



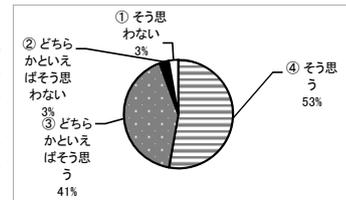
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	18	50.0
③ どちらかといえばそう思う	16	44.4
② どちらかといえばそう思わない	1	2.8
① そう思わない	1	2.8
計	36	100.0



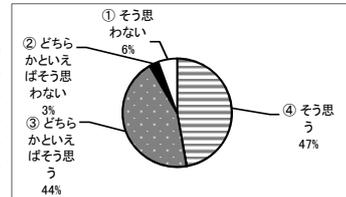
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	19	52.8
③ どちらかといえばそう思う	15	41.7
② どちらかといえばそう思わない	1	2.8
① そう思わない	1	2.8
計	36	100.0



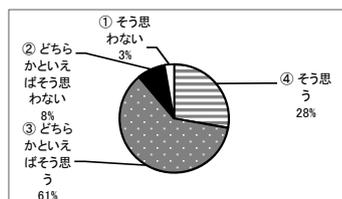
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	17	47.2
③ どちらかといえばそう思う	16	44.4
② どちらかといえばそう思わない	1	2.8
① そう思わない	2	5.6
計	36	100.0



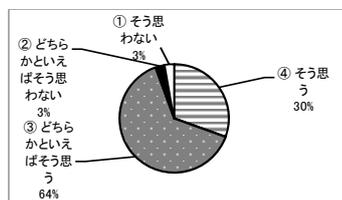
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	10	27.8
③ どちらかといえばそう思う	22	61.1
② どちらかといえばそう思わない	3	8.3
① そう思わない	1	2.8
計	36	100.0



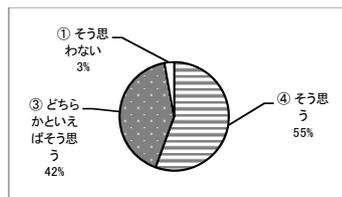
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	11	30.6
③ どちらかといえばそう思う	23	63.9
② どちらかといえばそう思わない	1	2.8
① そう思わない	1	2.8
計	36	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	20	55.6
③ どちらかといえばそう思う	15	41.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	2.8
計	36	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 事例を用いてケースメソッドを行い、検討したこと。
- ケースメソッドについてディスカッションして、より考えが深まった。
- 明確な認定ポイントが必要なのだと思った。必ず、指導記録を取る必要性を感じた。
- 具体例が複数挙げられていた。
- ハラスメントに関して知識が深まった。
- 具体例が示されていた。
- ハラスメントは認定されにくいという印象があった。認定されたポイント、棄却されたポイントを考えられた事がよかった。
- ケースメソッドが効果的だった。
- 具体的なポイントが理解できた。
- 事例について具体的に検証できた点。
- 日常業務では見落としていることに気づきがあった。
- 事例を通して深く考えることができた。
- 実際に明日から気をつけられる点が事例を通して分かりました。とても良い学びになりました。
- 学生への関わり方を振り替えることができた。
- 裁判所の実例を基に示していただいたこと。
- ハラスメントに関し、認識が改まった。
- 事例分析がよかった。
- 事例を検討して、裁判所での判定に係わるポイントを考えていくことは身につく体験であったと思います。
- 具体的な事例のものは分かりやすかった。
- ケーススタディが具体的な事例が示されてよかった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 大学院の成績評価。「学生の学習支援体制」学部よりも教員と学生の関係が密であり、1対1ではなく、集団対集団で教育する方策を考える必要がある。
- 全体的にボリュームが大きくて情報過多なので、同じ時間内でもコンパクトにまとめてほしい。
- ストレス耐性の低い学生への対処方法に関するスライドがあれば、もっと良かったです。
- 時間が足りない、もっとゆっくりした方がよい。
- 学内に起こっている事案を公にすべき方法を考えるとよいと思います。発表していないことが多いと思います。
- ハラスメントの対策についてもっと教示して欲しかった。
- 多くを望むのではなく、90分（1コマ）の時間配分がいいのでは？
- この研修を受けてからの上乗せになるかと思いますが、新任、学生係等立場を選定した、それぞれの役職についての特色に沿った研修でより深めていければと思いました。
- 基本知識を読んできておいて、事例分析から入ると2時間が充実する。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：教職員のためのPower Point～30分でマスターするPPT、プレゼン資料からポスター作成まで～
 講師名：立川 明（高知大学）
 実施日：平成27年8月31日（月）
 実施会場：聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部

当日参加者数：30名
 アンケート回答者数：30名

1. 参加者ご自身について
 職種

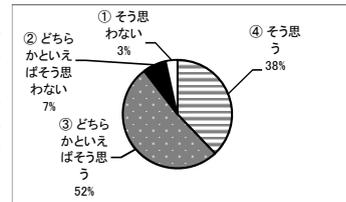
	度数	割合
① 教員	0	0.0
② 職員	30	100.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	30	100.0

2. この研修について

(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

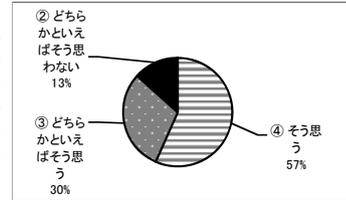
	度数	割合
④ そう思う	11	37.9
③ どちらかといえばそう思う	15	51.7
② どちらかといえばそう思わない	2	6.9
① そう思わない	1	3.4
計	29	100.0

★1名未記入



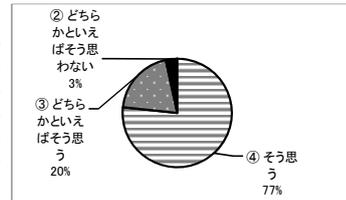
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	17	56.7
③ どちらかといえばそう思う	9	30.0
② どちらかといえばそう思わない	4	13.3
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



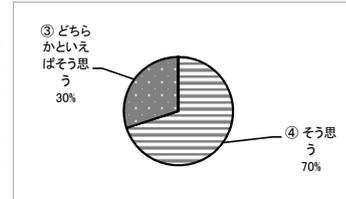
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	23	76.7
③ どちらかといえばそう思う	6	20.0
② どちらかといえばそう思わない	1	3.3
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



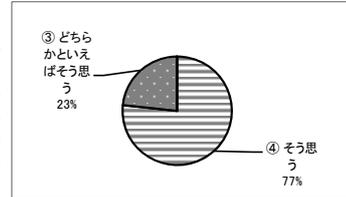
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	21	70.0
③ どちらかといえばそう思う	9	30.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



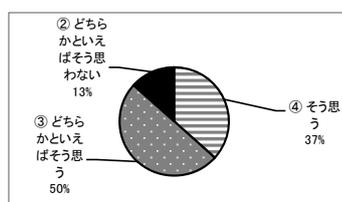
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	23	76.7
③ どちらかといえばそう思う	7	23.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



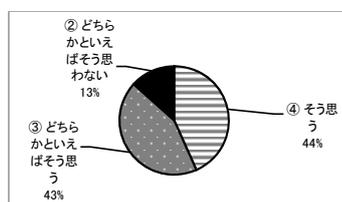
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	11	36.7
③ どちらかといえばそう思う	15	50.0
② どちらかといえばそう思わない	4	13.3
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



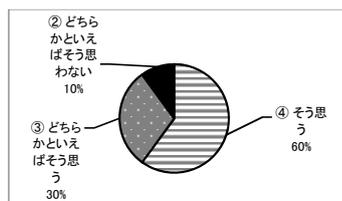
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	13	43.3
③ どちらかといえばそう思う	13	43.3
② どちらかといえばそう思わない	4	13.3
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	18	60.0
③ どちらかといえばそう思う	9	30.0
② どちらかといえばそう思わない	3	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- グループで意見を交換できた。
- 余白部分に立ってプレゼンをするのが効果的であるということが分かって良かった。
- パワーポイントの活用方法を知ることができた。
- プレゼンの時の講師の立ち位置などを知ることができた。
- パワーポイントに対してしりごみする感じはなくなった。気軽に使おうと思えるようになった。あとはちょっとずつ慣れようと思う。
- プレゼン時の立ち位置について、余白を使うということが新たに分かって勉強になった。キャッチコピーの付け方を学べたことは良かった。
- パワーポイントに対して興味がわきました。
- PowerPointの基本的な操作が理解できたこと。自分にも使えそうな気持ちになれたこと。(気のせいではないことを願っています。)
- 実際に活かせると思われます。
- 学内のシステムを統一させようで、取り組めればよかったですと思います。
- パワーポイントの使い方だけでなく、プレゼンをする際に注意すべき点なども説明していただけて、今後も業務に活かしていきたいと思いました。
- 「作業」があった為、身につけることができた。
- 普段はあまり使用しないパワーポイントですが、これからはもっと使っていきたいです。キャッチコピーを手早くつけることで、効果的に使うことが出来るようになりました。
- キャッチコピーの重要性、ショートカットキーの使い方が分かった。
- 自分の理解できてない点の把握。「知っているつもり」程度の理解度ではPCの活用ができないことが分かった。
- 色の使い方、余白の使い方等を知ることができた。
- パワーポイントとプレゼンのおさらいができました、ありがとうございます。
- パワポが少し“近く”なりました。新しい知識が身についたので、早速使ってみたいと思います。
- パワーポイントについては、十分に分からない部分も多々ありました、かといって人に聞くのもためられ、知らないままにきていたところがありました。それが明確になったのが良かったです。
- 見せ方について新しい発見があった。
- ショートカットキーの操作、プレゼンテーションの仕方について新たに知ることが出来たので良かった。
- 今後の業務に活用していきたいと思います。
- パワーポイントを使ったことがなかったが、使ってみると興味を覚えた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- PPTの技術的研修か、プレゼンの心構えや下準備に関するものか、どちらかにすべきだった。
- 個人によってパワーポイントを使用できるレベルが異なるため、段階、レベル別で実施することも検討されるとよいと思った。
- 受講生のレベルに差がありすぎて、職員全体の研修としては難しかったので、レベルをある程度合わせることは必要だと感じた。
- キャッチコピーを考える元ネタ情報を提供して(例えば、講演会なら、どんな人がどんな内容で話すのかを設定したプリントを配るとか)、全員が同じテーマでどれだけおもしろい(キャッチーな)コピーを考えられるかと競わせてはどうでしょう。
- 事前に課題を出し、最低ラインを同一にする。
- もう少し各々のレベルに合った学習ができると良かった。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り
 講師名：立川 明（高知大学）
 実施日：平成27年9月10日（木）
 実施会場：徳島文理大学 徳島キャンパス

当日参加者数：23名
 アンケート回答者数：21名

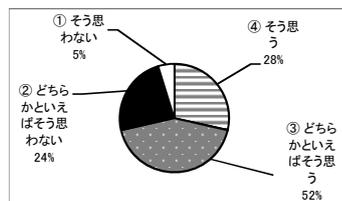
1. 参加者ご自身について 職種

	度数	割合
① 教員	20	95.2
② 職員	1	4.8
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	21	100.0

2. この研修について

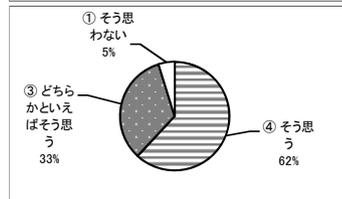
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	6	28.6
③ どちらかといえばそう思う	9	42.9
② どちらかといえばそう思わない	5	23.8
① そう思わない	1	4.8
計	21	100.0



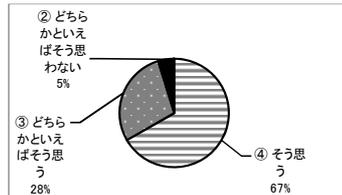
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	13	61.9
③ どちらかといえばそう思う	7	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	4.8
計	21	100.0



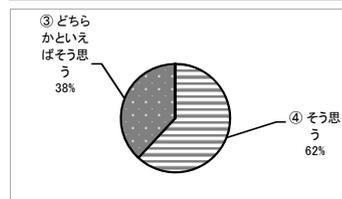
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	14	66.7
③ どちらかといえばそう思う	6	28.6
② どちらかといえばそう思わない	1	4.8
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



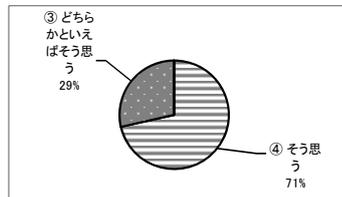
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	13	61.9
③ どちらかといえばそう思う	8	38.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



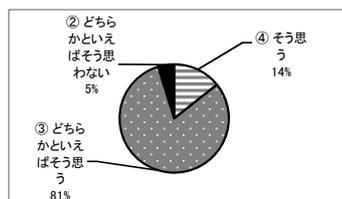
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	15	71.4
③ どちらかといえばそう思う	6	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



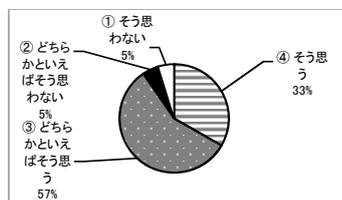
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	3	14.3
③ どちらかといえばそう思う	17	81.0
② どちらかといえばそう思わない	1	4.8
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



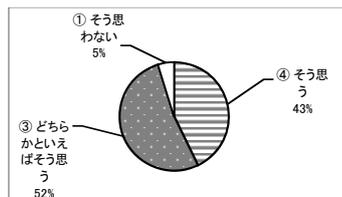
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	7	33.3
③ どちらかといえばそう思う	12	57.1
② どちらかといえばそう思わない	1	4.8
① そう思わない	1	4.8
計	21	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	9	42.9
③ どちらかといえばそう思う	11	52.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	4.8
計	21	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 「大好きマップ」、Clicaがよかった。
- 授業に活かせる内容だった。
- グループワークで他領域の教員の方の授業の考え方についても聞けた。
- ブレインストーミングをやってみたい。
- 具体的な方法を身につけることができた。
- PRSを授業に取り入れる。音は取り入れていたのですが、方法を考えてみます。
- 自らのふりかえりができた。
- 学生の深い学びに結びつける授業として活かせる内容であった。特に授業の振り返りの点で。
- 新しいことを知りました。
- 新しい手法を具体的に示していただき、今後の授業に活かせると思います。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 授業デザインの全体について指導していただいたが、個々の内容もそれぞれ深い理解をした方がよいので、表面的な理解になったことが残念でした。時間が足りなかったのかもかもしれません。
- 授業のふりかえりを行う（可能か？とも思うのですが…）
- 失敗の原因を学べる研修内容。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り
 講師名：立川 明（高知大学）
 実施日：平成27年9月10日（木）
 実施会場：徳島文理大学 香川キャンパス【遠隔配信】

当日参加者数：26名
 アンケート回答者数：20名

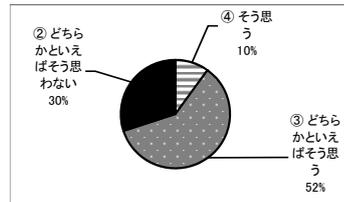
1. 参加者ご自身について
 職種

	度数	割合
① 教員	19	95.0
② 職員	1	5.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	20	100.0

2. この研修について

(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

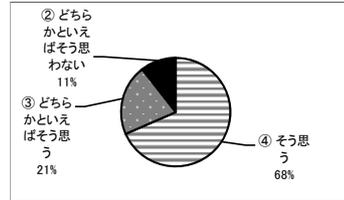
	度数	割合
④ そう思う	2	10.0
③ どちらかといえばそう思う	12	60.0
② どちらかといえばそう思わない	6	30.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

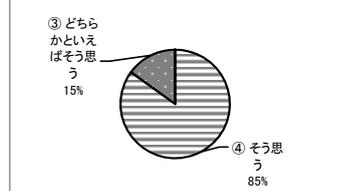
	度数	割合
④ そう思う	13	68.4
③ どちらかといえばそう思う	4	21.1
② どちらかといえばそう思わない	2	10.5
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0

★1名未記入



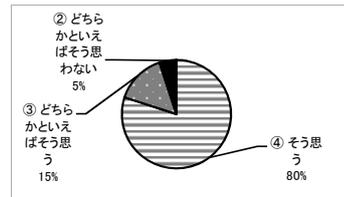
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	17	85.0
③ どちらかといえばそう思う	3	15.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



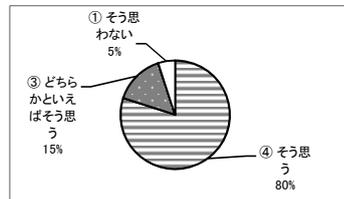
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	16	80.0
③ どちらかといえばそう思う	3	15.0
② どちらかといえばそう思わない	1	5.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



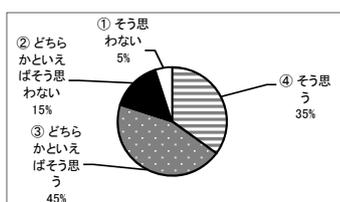
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	16	80.0
③ どちらかといえばそう思う	3	15.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	5.0
計	20	100.0



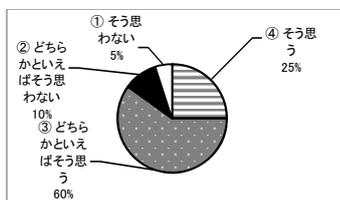
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	7	35.0
③ どちらかといえばそう思う	9	45.0
② どちらかといえばそう思わない	3	15.0
① そう思わない	1	5.0
計	20	100.0



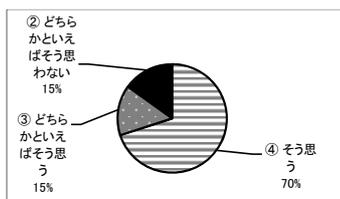
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	5	25.0
③ どちらかといえばそう思う	12	60.0
② どちらかといえばそう思わない	2	10.0
① そう思わない	1	5.0
計	20	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	14	70.0
③ どちらかといえばそう思う	3	15.0
② どちらかといえばそう思わない	3	15.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 初回の授業ですべきこと、毎回の授業の最初にすべきこと、実践してみようと思います。良い質問の条件「えっ」と思う要素難しいですね。
- 本学がクリッカーを所有していることがわかってよかった。後期の授業で使ってみたい。
- アクティブ・ラーニングの具体的なやり方がわかりやすかった点。
- 研修の内容が具体的なので、実践しやすい、できそうに思える事が良かった。
- 「つかみの質問」の作り方は参考になった。
- 学生の主体を自分にもっていく意識づけは参考になった。教育効果もあるが、学生自身のスキルUPにも効果。
- やる気のない冷めた学生さんを授業に参加させる方法が示され、参考になった。
- 自己紹介の方法が理解できた。
- 実際に行ってみて、それに対するコメントを後で必ず講師の先生がしてくださったこと。
- 授業開始時の取り組み方法を確認し、今後活かせることがたくさんあった。以前の研修で学んだことも再確認（再学習）でき、さらによく理解できた。
- 具体的な指示で進められていたので、取り組みやすかった。自分のこれまでに取り組みで足りなかった部分と比較しやすかった。
- 協同学習のポイントを知ることができて、有益でした。ありがとうございました。
- 授業デザインで考えるべき事がよくわかりました。授業のはじめにすべき質問の作り方が大変参考になりました。本日の内容を講義に応用したいと思います。ありがとうございました。
- 笑顔であいさつ、今日する事を説明することの大切さがわかった。
- 自分の授業をふりかえるよい機会となった。「授業の最後の10分にさらに難しいことをするよりも、その日の授業のふりかえりをする方が、学習効果が上がる」と立川先生に言われて、大いに反省しました。今後改善していきたいと思います。
- 大変楽しかったです。時間を数分とぎってやると、緊張感を持続させながら進めることができるのが、よくわかりました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- よい部分を取り入れようという意識で参加する。自分がやらないいいわけをマイクをつかって正当化する、質問する必要を感じない。
- 課題に対して、具体的に何をやったらいいのかが分からず、混乱することがたびたびあった。遠隔のためかもしれない。
- もう少し時間をかけて学びたい。
- 今回の講義内容は通常講義というよりは入学時のオリエンテーション（本学の場合で言えば宿泊セミナー）の際に使うと良いものではないか。「つかみ」の質問はともかく、各自の好きなことに基づくグループづくりは通常授業の時間内に行うのは不可能、別に枠をとってやれば、ある程度効果が期待できるかもしれない。
- 途中からわからなくなりました。自分の授業にどのようにとりこめるか悩ましい。
- もう少し短い時間でやってほしい。スピーカーの音量が大きく、頭が痛くなった。どういう科目を念頭においているのかわからなかった。文理大学の学生レベルを考えると、どのような授業にすれば良いのか、思案にくれます。
- 参加する教職員がもっと多い方が良かったと思いました。意見、方向性が異なる人が多い方がおもしろそうです。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン（ID）入門
～ARC S動機づけモデルの活用～

講師名：仲道 雅輝（愛媛大学）
実施日：平成27年9月14日（月）
実施会場：四国大学・四国大学短期大学部

当日参加者数：29名
アンケート回答者数：27名

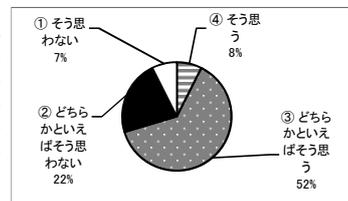
1. 参加者ご自身について
職種

	度数	割合
① 教員	26	96.3
② 職員	1	3.7
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	27	100.0

2. この研修について

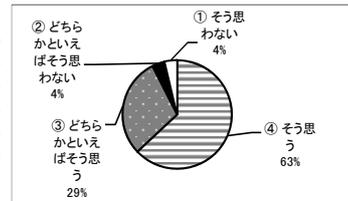
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	2	7.4
③ どちらかといえばそう思う	17	63.0
② どちらかといえばそう思わない	6	22.2
① そう思わない	2	7.4
計	27	100.0



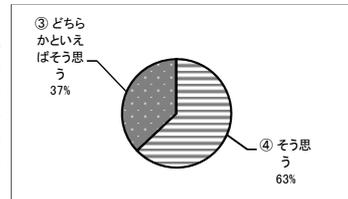
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	17	63.0
③ どちらかといえばそう思う	8	29.6
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	1	3.7
計	27	100.0



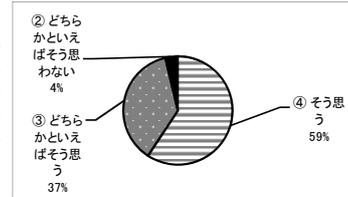
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	17	63.0
③ どちらかといえばそう思う	10	37.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



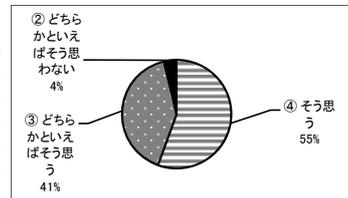
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	16	59.3
③ どちらかといえばそう思う	10	37.0
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



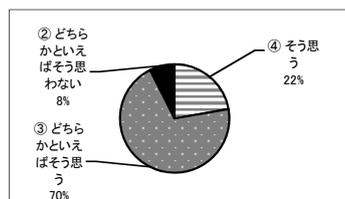
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	15	55.6
③ どちらかといえばそう思う	11	40.7
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



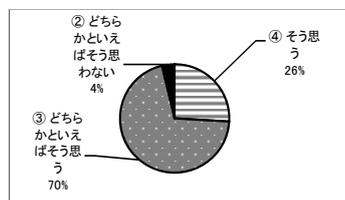
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	6	22.2
③ どちらかといえばそう思う	19	70.4
② どちらかといえばそう思わない	2	7.4
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



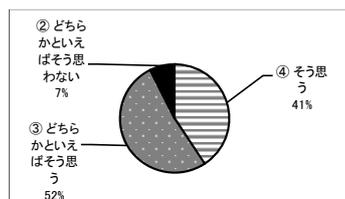
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	7	25.9
③ どちらかといえばそう思う	19	70.4
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	11	40.7
③ どちらかといえばそう思う	14	51.9
② どちらかといえばそう思わない	2	7.4
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ARCSモデルを知れてよかった。また、動機づけ方策チェックリストは今後の授業プランニングで役立てていきたい。
- こういう研修内容があることを知り、興味を持った。しかし、成果については未だこれからというところである。
- 分類をし、授業を進め、改善対策をしていたつもりだが、今回の様なARCSモデル種の分類（細かく）が出来ていない状況…今後の授業に活かしたい。ありがとうございました。
- ARCS動機づけモデルがよく理解できた。自分の授業を客観的に見ることができた。
- 具体的にどのように活用していくのか、例えもあり、分かりやすかったです。今後、活かしていきたいと思えます。
- ワークシートで文章にすると明確になった。入門としてはこれで良いと思えます。
- グループワークで他教員との情報交換ができた。
- ARCSの考え方がよく分かった。
- 分かりやすい資料、今後もっと深めていきたいと思う。言葉がはっきりして進行もちょうどよいスピードだったと思う。
- ARCSモデルは授業を考えるうえで役立つと思えます。
- ワークショップを通じて、他の科目担当の先生の状況や意見が聞けてとても参考になった。
- 授業の目標の設定を考えることができた。授業改善の視点を整理することができた。
- 授業に盛り込む構成を再確認できてよかった。
- 授業設計の方法が論理的に学ぶことができた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- IDのレベル3までの研修ができればより良いと思えます。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～
 講師名：仲道 雅輝（愛媛大学）
 実施日：平成27年9月15日（火）
 実施会場：高知学園短期大学

当日参加者数：40名
 アンケート回答者数：40名

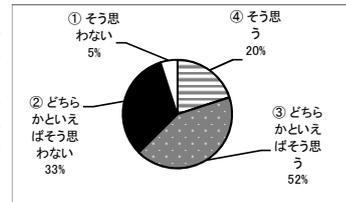
1. 参加者ご自身について
 職種

	度数	割合
① 教員	35	87.5
② 職員	5	12.5
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	40	100.0

2. この研修について

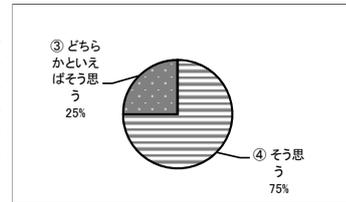
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	8	20.0
③ どちらかといえばそう思う	17	42.5
② どちらかといえばそう思わない	13	32.5
① そう思わない	2	5.0
計	40	100.0



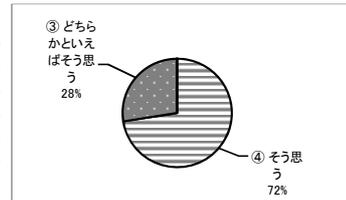
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	30	75.0
③ どちらかといえばそう思う	10	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



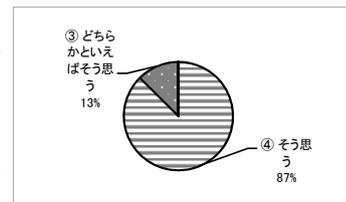
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	29	72.5
③ どちらかといえばそう思う	11	27.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



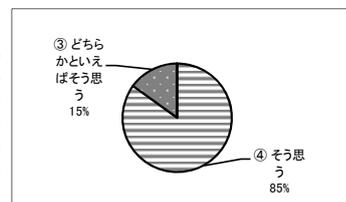
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	35	87.5
③ どちらかといえばそう思う	5	12.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



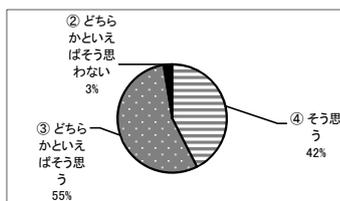
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	34	85.0
③ どちらかといえばそう思う	6	15.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



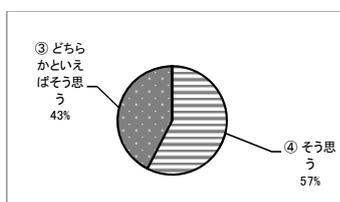
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	17	42.5
③ どちらかといえばそう思う	22	55.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



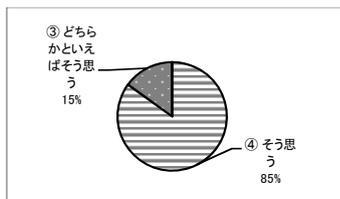
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	23	57.5
③ どちらかといえばそう思う	17	42.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	34	85.0
③ どちらかといえばそう思う	6	15.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 日頃気付かない点をふり返る上で有益でした。毎回ありがとうございます。
- 自分のシラバスを見直し、ストラクチャーを見たとき、内容から構成しているなど分かりました。ありがとうございました。
- 分かりやすい内容でした。先生の講義の進め方は、授業の進め方に参考になりました。自分では目標に沿った内容で組み立てているつもりですが、時には他者からの評価を受けることが必要だと感じました。
- 職員として事例を置き換えることに苦労しましたが、後半にかけて講師の先生がイメージしやすい説明をして下さったので、大変有意義でした。ありがとうございました。
- 課題分析図の作成は不慣れな為、しっかりとしたものを作れなかったのですが、一つ一つ課題を示すことで、自分の授業構成を見直すことができました。うまくいかなかった授業などについてこの手法を活用していきたいと思います。ありがとうございました。
- 授業の組み立て方が大変大きいことを実感しました。学生主体の授業の在り方をもっと考えていかなければいけないことを反省しました。
- 評価のできる授業目標の立て方、授業の組み立て方の考え方が少し整理できたのではないかと思います。シラバスを見直す必要性が実感できました。ありがとうございました。
- 授業内容を分析する時間を取れたので、自分も楽しくやりがいのある授業ができ、学生が理解してくれる授業ができるよう、もっと課題分析をしていこうと思わせていただけました。ありがとうございました。
- 要素、手順、位置に加えて動機づけ、復習を設計した授業をしないといけないと痛感しました。
- 自分のシラバスを振り返る時間があり、また振り返るポイントが具体的に分かりました。
- 改めて授業を見直すことができ、後期の授業を考え直してみたいと思う。
- 授業設計の際の課題分析は何となくやっていたつもりでしたが、本日基本的なところを勉強したので、新たに構造化していきます。
- シラバスを作成する上での内容の精選を行う上での参考になりました。
- 自分の授業をふり返り、これからの授業改善の動機づけになった。指導技術についても具体的な方法を随所に取り入れてくださったことが良かったです。
- 学生に理解してもらう為の方法が、たくさん学べました。特に動機づけだったり、細かく考えていく事については、勉強になりました。
- 次のシラバス作成に活かせる内容でした。ありがとうございました。
- 1回の授業をどのように組み立てるのが分かったことが良かったと思う。
- 自分の授業を具体的に自己分析することができた。先生方の授業のとりくみを聞くことができた。すぐに自分の授業に活かせるような感じがする。
- 分かりやすい具体例をあげての説明で、理解しやすかった。授業目標設定やシラバス作成時に見直していきたい。
- シラバスや毎回の授業内容について課題分析が必要だと思いましたし、できるよう実施してみます。具体的に…と自分では思っていたが、足りてないことがわかりました。
- 学習内容やその進め方、組み立てなど新しい考え方を知ることができました。
- 学習内容の構造化と再構造化における課題分析について、再度確認することができ、教材の内容にのみ考えがいつてしまいがちな点が反省できた。
- 自分に不足している部分がよくわかった。
- 自分が分かっていることを相手に伝えることが難しいと感じていたが、「再構造化をする」ところで少しイメージができた。
- 授業の中で学生への動機づけの部分が不足していたと反省しきりです。
- 自身の授業、実習の課題について改めて考えるきっかけとなったこと。具体的な例をもとに、自身の改善点が明らかになったこと。

- 他の学科の先生の授業の工夫について知ることができた。自分の授業についてじっくり考える時間が取れた。
 - 自分の授業&実習において課題分析の必要性を感じました。自分の領域だけでなく、他の領域の授業間の連携をとる必要があると感じました。
 - 仕事を構造化することの必要性がわかり、良かったです。ありがとうございました。
 - 授業のみならず、事務においても同じ様に対応出来るものであり、改めて考えさせられました。
 - 例題等がわかりやすく、理解しやすかったです。ありがとうございました。
 - シラバスを書く具体性が理解できました。
 - 授業設計の考え方や、学習目標の明確化をわかりやすく説明していただき、学習意欲を高めるための方策の道を示していただきました。
 - 授業設計に関して課題分析の知識を学んだ上で自分のシラバスをあらためて見てみることで、視点が広がったように感じました。学習目標の記述について、具体例を示していただき、大変参考になりました。今年またシラバスを見直してみたいと思いました。
 - 課題分析を行ったことが良かった。
 - 課題分析図を構造的に考えることによって、課題が具体的に見え、また学習課題の（知識、技能、態度）優先順位・位置関係を再認識することができた。学んだ視点をもとに、自分のシラバスを再検討してみたい。大変役に立つ研修の機会をありがとうございました。
 - 再確認しながらの授業を受けたような気持ちでした。ありがとうございました。
 - 振り返りを通じて改善点を把握するきっかけとなった。
4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
- グループワークをシェアする際、自分のグループだけでなく他のグループの内容も見ることができれば、更に具体例のヒントが得られたのではないかと思います。
 - 課題分析ワークシートをもっと広く、付箋紙をもっと小さくしてはどうか。グループワークの時、同分野の人同士で行うのも勉強になりそうである。今回のように他分野の人と行うのもとても新鮮で楽しかった。
 - 学生の変化も日進月歩であるから、それに対応出来る情報を示していただけたらと思います。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：教職員のためのプレゼンテーション～説得力のある話し方，組み立て方～
 講師名：立川 明（高知大学）
 実施日：平成27年9月17日（木）
 実施会場：今治明德短期大学

当日参加者数：25名
 アンケート回答者数：25名

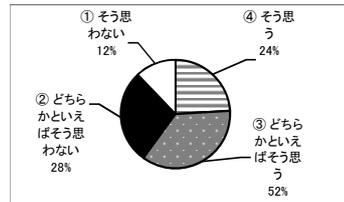
1. 参加者ご自身について
 職種

	度数	割合
① 教員	13	52.0
② 職員	12	48.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	25	100.0

2. この研修について

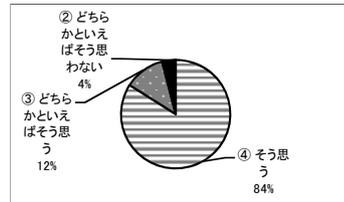
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	6	24.0
③ どちらかといえばそう思う	9	36.0
② どちらかといえばそう思わない	7	28.0
① そう思わない	3	12.0
計	25	100.0



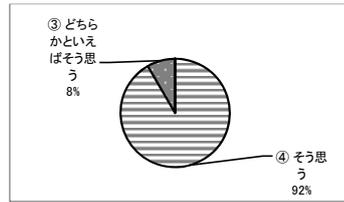
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	21	84.0
③ どちらかといえばそう思う	3	12.0
② どちらかといえばそう思わない	1	4.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

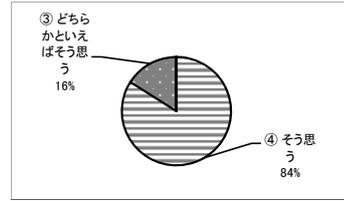
	度数	割合
④ そう思う	22	91.7
③ どちらかといえばそう思う	2	8.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



★1名未記入

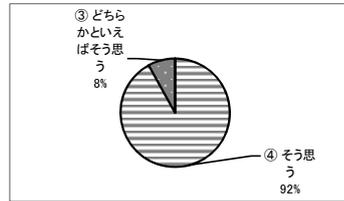
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	21	84.0
③ どちらかといえばそう思う	4	16.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



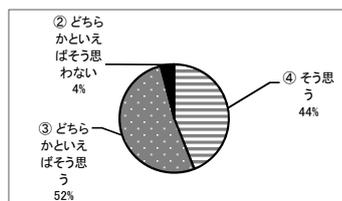
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	23	92.0
③ どちらかといえばそう思う	2	8.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



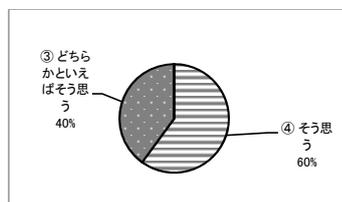
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	11	44.0
③ どちらかといえばそう思う	13	52.0
② どちらかといえばそう思わない	1	4.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



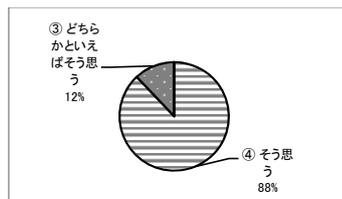
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	15	60.0
③ どちらかといえばそう思う	10	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	22	88.0
③ どちらかといえばそう思う	3	12.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 自分を撮ってもらえると、ノイズがたくさんありました。恥ずかしかったけど、よかったと思う。
- PREP法を業務全般に適用できると思った。ノイズを除去する努力を払えると思った。これらは日常的に努力すべきであると感じた。
- 腹式呼吸の練習。いつも自分の顔が右に傾いていることは知っていたが、ビデオを見て意識することの大切さを学びました。
- 以前より自分は話し方が下手だという自覚がありました。本日の講座はよりよい授業のために大変参考になりました。
- 今後の話し方、伝え方を考えさせられ、改善していきたい。
- 具体例をお示し頂き、実践向きであった。
- 話の組み立て方がすごく勉強になりました。撮影することで自分自身を知る事が出来、楽しく受講出来た。
- ノイズが分かり、自分の修正すべき点が見えた。
- 実際の自身業務に活かせるかという点では、あまりなかったのですが、ノイズ、腹式呼吸などは実践しやすいと思った。
- 話し方での自分の欠点を発見出来、良くしていく方法も学べた。
- 自分の話し方を客観的に見る事ができて、良かった。
- 自分の話し方が相手にどう見えているか、聞こえているか、どういう印象を与えているか、俯瞰で見られたこと。(猛烈に反省中ですが…)
- 自分ができていない所が動画でふりかえる事でよくわかった。全体を見て、説得力のある話し方をしたい。
- 自分が日頃どんな話し方をしているか、何も考えずに話していたかがよくわかった。
- 自分自身の話し方や姿を見て、改善しないといけない点など気がつくことができた。
- 客観的に自分を見ることで、改善すべき点がよく分かった。
- プレゼンの重要点を示してもらえてよかった。PREP法は初めてきたが、納得できた。自分のクセをビデオにとって気付くことができた。
- PREP法について、腹式呼吸の発声法。
- プレゼンの自分の姿を見て、ノイズが良くわかりました。PREP法に気をつけて話を組み立てたいと思います。又、お願いします。楽しく参考になりました。
- iPad等を使用して自分を客観的に見る事ができたこと。
- 気づきが促され、自己啓発につながった。「できているはず」と思わずに、日々見直す必要を認識した。フィードバックを授業に取り入れたい。
- 自分の話し方、クセが見つけれ、どこを直したら良いかわかるきっかけが出来た。
- グループワークを通して、自分の欠点が確認できて改善すべき点の目標を掲げることができた。
- 話し方、組み立て方が具体的で楽しく受講できた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ペアの奇数の対応(余り)。
- もう少し話す内容を考える時間がほしかったです。
- 話の組み立て方をもう少し詳しく勉強したいなと思った。
- 簡単なレジュメを事前にいただけるとなおよかったと思います。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の自立を促す学生支援の実践とコツ
 講師名：吉田 博（徳島大学）
 実施日：平成27年9月18日（金）
 実施会場：愛媛大学

当日参加者数：12名
 アンケート回答者数：12名

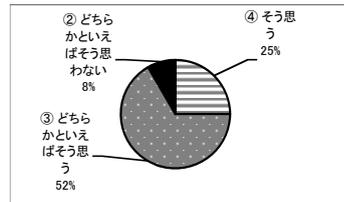
1. 参加者ご自身について
 職種

	度数	割合
① 教員	3	25.0
② 職員	8	66.7
③ 学生	0	0.0
④ その他（ 研究員 ）	1	8.3
計	12	100.0

2. この研修について

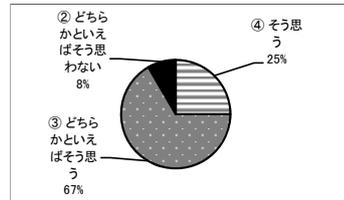
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	3	25.0
③ どちらかといえばそう思う	8	66.7
② どちらかといえばそう思わない	1	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



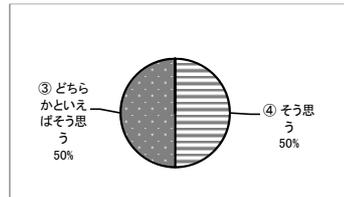
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	3	25.0
③ どちらかといえばそう思う	8	66.7
② どちらかといえばそう思わない	1	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



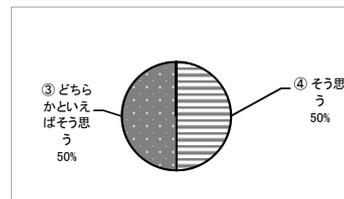
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	6	50.0
③ どちらかといえばそう思う	6	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



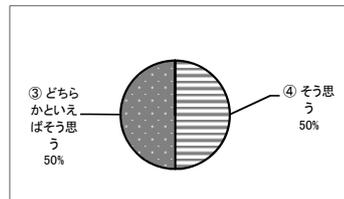
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	6	50.0
③ どちらかといえばそう思う	6	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



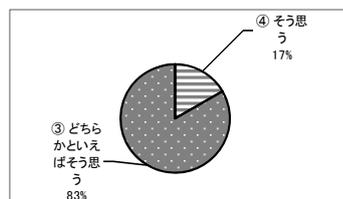
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	6	50.0
③ どちらかといえばそう思う	6	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



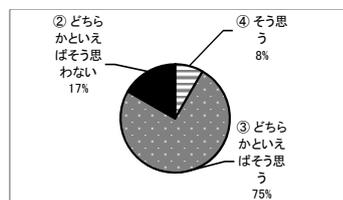
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	2	16.7
③ どちらかといえばそう思う	10	83.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



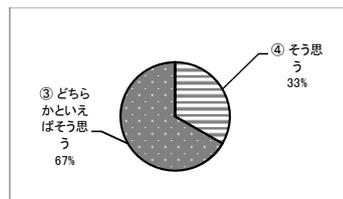
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	1	8.3
③ どちらかといえばそう思う	9	75.0
② どちらかといえばそう思わない	2	16.7
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	4	33.3
③ どちらかといえばそう思う	8	66.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 準備が十分にされていた。
- 他大学の事例を開けたこと。講師の体験を失敗談も含めて開けたこと。
- ピア・サポートについて理解できた。
- 日頃の業務に関係していることが多く、参考になった。
- 悩んでいた点の解決口が見つかった点。
- 職員が全てお膳立てしてしまう傾向があったが、手間はかかっても学生の成長のために、ピア・サポーターを活用した方がよいと感じました。
- 具体例をまじえた貴重なお話がきけて良かったです。実際に学生と活動する方の生の声が聞けて勉強になりました。
- ありがとうございます。ピア・サポートの実践例など大変参考になりました。いくつかご紹介いただきました「コツ」をアレンジして、今後の学生支援へ活かしてまいります。
- 学生支援について何ひとつわからない状態（現場がどう動いているのか）だったので、なんとなくどのようなことをして、どうすればよいか分かりました。ありがとうございます。
- 実際の例をだしてくれるので理解しやすかった。
- 学生に何か行動を促すためには、まず人間関係を構築していくことの大切さを学ぶことができてよかった。
- 講師の先生のお話を以前から聞いてみたいと思っていたので、良い機会になりました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- タイトルが分かりにくい。“学生”の自立を促す“学生”支援 → この2つの学生とサポーターとサポートされる人の関係は？
- せっかくグループになっているので、もう少しグループ内共有もしたかった。
- もっと参加者の悩み、事例を聞いてみたかったです。
- 最後にふせんを書いて引込めた方がいらっしやっただので、あらかじめアナウンスしてアンケート記入の時間に読んであげてもいいと思った。
- グループ内でのシェアがもう少しあると良かったでしょうか。グループメンバーにもよりますが。
- きちんとこの主旨、対象を把握せずに出てしまい、すでに学生支援している教職員に対する講義のように思えた。ゼロからの人間にはもう少し細かい説明が必要かと思いました。講義内容が先生目線だったので、もちろん事務職員にも通じるころはありますが、事務職としてどう接するかも詳しく教えてほしかったです。
- グループ内での討論がしたかった。
- もう少しグループワークや参加者同士での討論の場があればよかったと思う。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？
 講師名：塩崎 俊彦（高知大学）
 実施日：平成27年9月24日（木）
 実施会場：高知県立大学 池キャンパス

当日参加者数：32名
 アンケート回答者数：27名

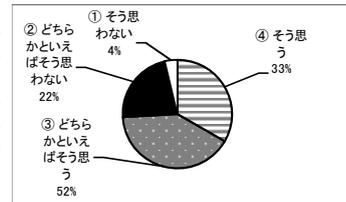
1. 参加者ご自身について
 職種

	度数	割合
① 教員	27	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	27	100.0

2. この研修について

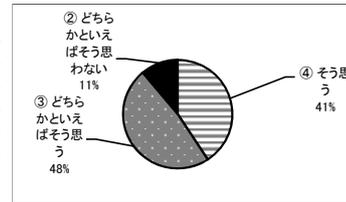
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	9	33.3
③ どちらかといえばそう思う	11	40.7
② どちらかといえばそう思わない	6	22.2
① そう思わない	1	3.7
計	27	100.0



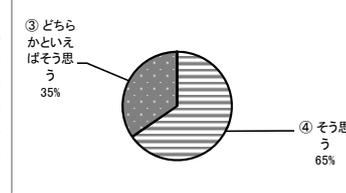
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	11	40.7
③ どちらかといえばそう思う	13	48.1
② どちらかといえばそう思わない	3	11.1
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

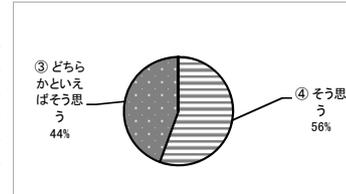
	度数	割合
④ そう思う	17	65.4
③ どちらかといえばそう思う	9	34.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



★1名未記入

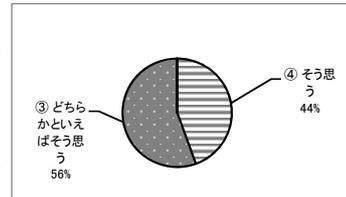
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	15	55.6
③ どちらかといえばそう思う	12	44.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



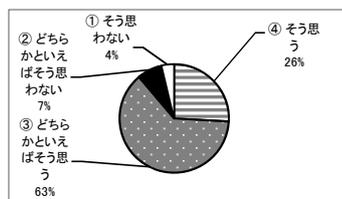
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	12	44.4
③ どちらかといえばそう思う	15	55.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



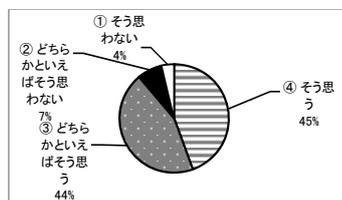
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	7	25.9
③ どちらかといえばそう思う	17	63.0
② どちらかといえばそう思わない	2	7.4
① そう思わない	1	3.7
計	27	100.0



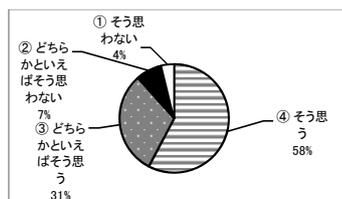
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	12	44.4
③ どちらかといえばそう思う	12	44.4
② どちらかといえばそう思わない	2	7.4
① そう思わない	1	3.7
計	27	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	15	57.7
③ どちらかといえばそう思う	8	30.8
② どちらかといえばそう思わない	2	7.7
① そう思わない	1	3.8
計	26	100.0



★1名未記入

3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- グループワークの現状（限界）がわかったこと。
- グループワークの手法がわかった点。ワークに対するコメントがもたらえた点。
- グループワークについて整理ができた。
- 学部は異なっても、教員の考えていることは同じだと実感した。
- 非常にわかりやすい進め方で行っていただき、自分自身の主体的な学びの意識付けに対して役に立っていく内容だと思っています。ありがとうございました。
- 「主体的に学ぶ」ということが学生の自発的な部分だけでなく、教員の取り組みや工夫によって引き出されることが分かった。
- 主体的に学ぶための具体的な方法を知ることができた。
- 学生さんの主体性を引き出す具体的な視点や工夫、方法について先生の講義、GWを通して学ぶことができました。
- グループワークが色々あることがよくわかった。
- 5人くらいの小グループでの話し合いの機会があると意見を出しやすいと思います。自分の担当授業をベースにして、改善点を出して他の参加者からコメントをもらえた点が良かったと思います。
- 視野が広がった。
- いろいろ考えるきっかけになった。役立てたい。
- 他学部のお話が聞けた。いろいろな工夫を再確認できた。
- グループワークについて学び、体験することができた。
- 実際に、自信が体験できて、勉強になりました。また、アクティブ・ラーニング、グループワークの注意点、問題点に触れていただいたのも、良かったです。（我が意を得たり、でした。）今後の授業に大いに参考にさせていただきます。ありがとうございました。
- ワークシートを使った内省型のグループワークに挑戦してみたいと思った。しばらく授業から離れていたため、あらためて授業計画を立てるきっかけになった。
- 大学教育における社会人基礎力を高める役割について自分の中でストンと落ちました。また、GWにおいてプロセスを重視する点についてあまり意識できていなかったため、教えていただけ良かったです。
- “主体性とは”について分かりやすく説明していただき、そこから具体的なグループワーク方法について演習を交えてご指導いただいた点。すごく学びになりました。
- 授業のテクニックが理解できました。
- グループワークの方法や、とらえ方（考え方）がよくわかった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 具体的な内容（スキル）について更に知る事が出来ると嬉しいです。
- 平教員以外に管理職の方々も参加されれば良い。
- こういう研修を受けて視野を広げたい。
- もう少し時間があれば、ワークをもっとできて工夫などの共有ができたかも。
- 紀要のしめきりと重ならないようにしていただきたい。
- アクティブ・ラーニングの具体的な手法をもっと知りたかったです。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～
 講師名：仲道 雅輝（愛媛大学）
 実施日：平成27年9月30日（水）
 実施会場：環太平洋大学短期大学部

当日参加者数：19名
 アンケート回答者数：19名

1. 参加者ご自身について
 職種

	度数	割合
① 教員	17	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	17	100.0

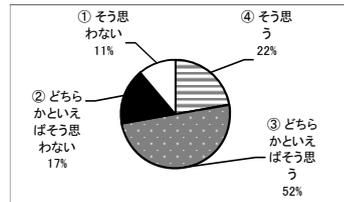
★2名未記入

2. この研修について

(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

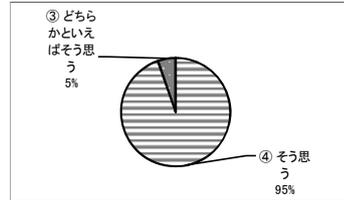
	度数	割合
④ そう思う	4	22.2
③ どちらかといえばそう思う	9	50.0
② どちらかといえばそう思わない	3	16.7
① そう思わない	2	11.1
計	18	100.0

★1名未記入



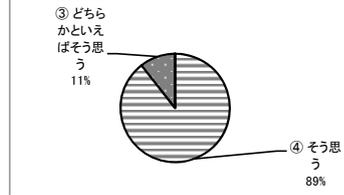
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	18	94.7
③ どちらかといえばそう思う	1	5.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



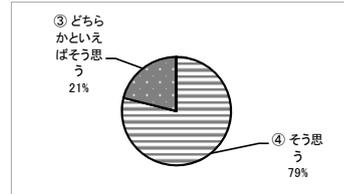
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	17	89.5
③ どちらかといえばそう思う	2	10.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



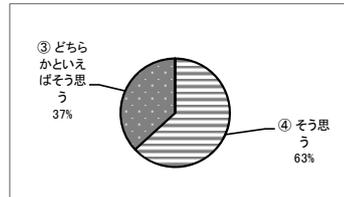
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	15	78.9
③ どちらかといえばそう思う	4	21.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



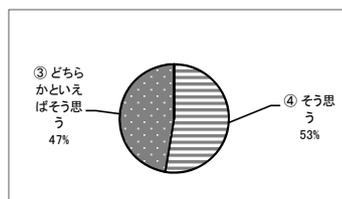
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	12	63.2
③ どちらかといえばそう思う	7	36.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



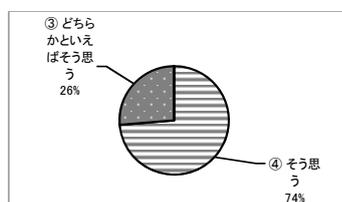
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	10	52.6
③ どちらかといえばそう思う	9	47.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



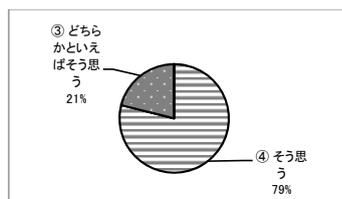
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	14	73.7
③ どちらかといえばそう思う	5	26.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	15	78.9
③ どちらかといえばそう思う	4	21.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 自分自身の授業をパーツに分けていくことによって、授業目標がより明確になったように思います。明日からの授業に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- 今まで疑問としてかかえていたことをいくつか解決できました。また、新しい課題を見つけることもできました。
- シラバスの書き方が具体的にわかった。授業に対して改善する点（もっとゆっくり話す、その回の目標を学生に示す、などがわかった。）
- 本学にとってとてもタイムリーな課題についてレクチャーをしていただき、大変参考になりました。非常に分かり易い内容でした。感謝しております。
- 学習目標、課題分析を実際に練習する時間が与えられたことが良かった。このような研修の機会を又お願いしたいと思います。
- 何ができるようになるのが明確、手が届きそうな目標という点等、自分の目標シラバスを反省しました。又、授業にもすぐに取り入れられそうです。
- 学習目標を明確にして、授業に臨みたいと思う。課題分析を自ら行うことによって授業の進め方が自分に工夫できるような気がしております。今後の改善に役立つような良い研修でした。
- 課題分析の手法について視覚的に説明していただけたので理解しやすかったです。授業で使える小ネタ的な手法が、講義の中にちりばめられていたので、参考になりました。簡単な演習が入っていたので、考えるトレーニングになりました。
- 授業に入る時、どこから取りかかるかとても勉強になった。目標を一時限の中でもしっかりしたいと思いました。ありがとうございました。
- 自身のシラバスを使つての課題分析はとても考えさせられました。よく「理解できる」と目標提示で使っているので反省しました。また、グループ活動はおもしろかったです。
- 自分自身もっと毎回の授業のポイントを明確にしていきたい。
- とても勉強になる内容でした。ワークが入るとやはり良いですね。ありがとうございました。
- 自身の授業を振り替えるいい機会を持てた。後期の授業から役立てたい。
- ご多忙の中ありがとうございました。大変勉強になりました。授業に活かしていきます。
- 日本語教育でしていることが他分野にも実施されていることが分かった点。
- 具体的にわかりやすく教えていただいたので良かった。今後、授業準備に活かし、今日学んだ事を忘れないよう復習していきたい。先生の授業が集中力をとぎらせないものであり、勉強になった。
- 授業設計は自身にとっても今後取り組んでいく項目であり、今後研究していく上でのモチベーションアップにもつながっていった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 違う分野の科目について知ることができたのでよかったが、科目の特性が違っていると前提の説明に時間を取ってしまうので、ある程度分野を合わせた方が、より話し合いを深められるように思いました。ただ、一般的なワークの場合は違う分野の先生がいたので、違った着眼点でおもしろかったです。
- 座る所が同分野のグループ分けでも良かったかなと思います。
- 具体的に学士自身が毎回の授業の説明ができるようにさせたい。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の学びを促すシラバスの書き方
 講師名：葛城 浩一（香川大学）
 実施日：平成27年10月8日（木）
 実施会場：松山大学・松山短期大学

当日参加者数：25名
 アンケート回答者数：19名

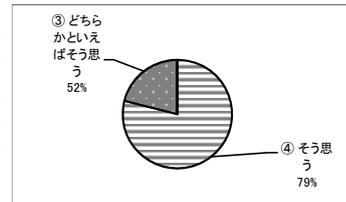
1. 参加者ご自身について
 職種

	度数	割合
① 教員	19	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	19	100.0

2. この研修について

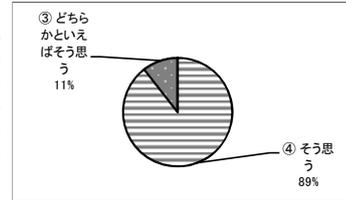
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	15	78.9
③ どちらかといえばそう思う	4	21.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



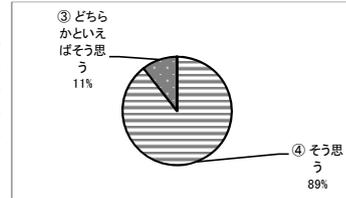
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	17	89.5
③ どちらかといえばそう思う	2	10.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



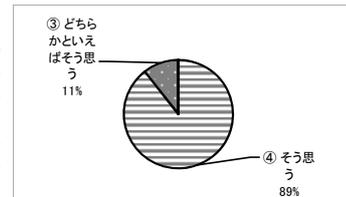
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	17	89.5
③ どちらかといえばそう思う	2	10.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



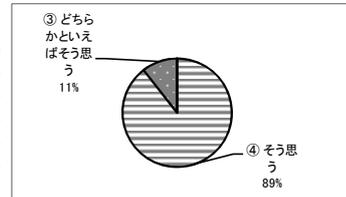
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	17	89.5
③ どちらかといえばそう思う	2	10.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



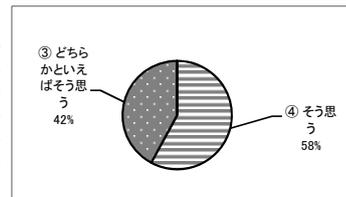
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	17	89.5
③ どちらかといえばそう思う	2	10.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



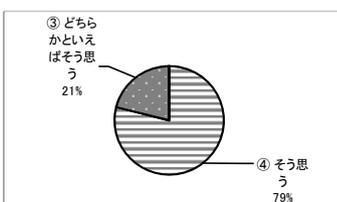
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	11	57.9
③ どちらかといえばそう思う	8	42.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



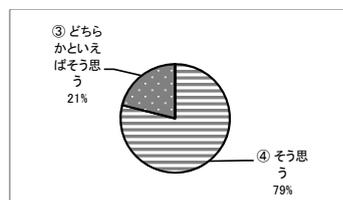
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	15	78.9
③ どちらかといえばそう思う	4	21.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	15	78.9
③ どちらかといえばそう思う	4	21.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 目標の書き方が分かった。(目的と目標の違いが理解できた。)
- 今まで書いてきたシラバスに修正を入れて、改善することができた。
- 様々な分野の先生方と話げできた。
- シラバスの意味を理解できた。
- シラバスの書き方の問題点が明確になった。
- なすべきことが、具体的に提示され、その根拠も提示されていたため、行動に移しやすい。また、問いに対し、講師が答えの例を伝えてくれるのがとても役立つ。疑問点へのフィードバックがすぐあるのはシラバス改善への動機付けとなった。
- シラバスをよりよくすることができたこと。
- 自分では分かっていると思っていたのですが、まだまだ知らなかった点や、ヒントになる点がありました。勉強になりました。
- 具体的ワークショップが行えて良い。
- 大先輩の先生方にシラバスの書き方に関するアドバイスを頂けたこと。
- 曖昧なシラバスの書き方を自分がしていたと知ったこと。
- シラバスの到達点がより明確になった。オフィスアワーをシラバスに明記した方が良いということが分かった。
- 本学のシラバス改善に役に立ちそうです。ありがとうございました。
- 改善点が具体的にわかった。
- シラバスの改善点を具体的に学ぶことができた。(学習の目的・目標など)
- 具体的で分かりやすい。
- シラバス=0回目の授業という視点が興味深かった。松山大学のシラバスフォーマットの改善すべき点への言及が印象的だった。出席：測定可能なのに、評価の対象にならないということに疑問を感じる。
- 目的・目標と評価との関連させるべき具体化方法が知れた。
- 基本的認識を再度確認できた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 時間どおり始めた方がよいかと思います。楽しく参加できました、ありがとうございました。
- もう少しだけグループワークの時間が欲しかった。
- シラバスの書き方をフォーマルに学んだことはなくても、過去に自分が受講し、参考にしたいと思ったもの(クラス)に基づいて書いている場合は、インフォーマルにでも“学んだ”ことになるのではないのでしょうか。最初の挙手(4 択)の際に、そのことにも言及してもらいたかったです。
- シラバスを他の科目との関連性を高めるためにわかりやすい位置付けをする手法があれば教えて欲しい。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：インストラクショナル・デザイン（ID/教育設計）を活用した企画・立案マネジメント
 講師名：仲道 雅輝（愛媛大学）
 実施日：平成27年10月21日（水）
 実施会場：徳島大学

当日参加者数：22名
 アンケート回答者数：22名

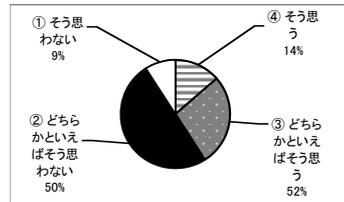
1. 参加者ご自身について
 職種

	度数	割合
① 教員	0	0.0
② 職員	22	100.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	22	100.0

2. この研修について

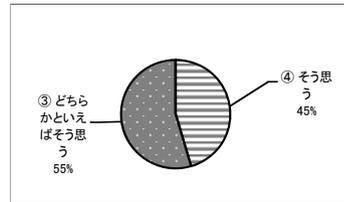
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	3	13.6
③ どちらかといえばそう思う	6	27.3
② どちらかといえばそう思わない	11	50.0
① そう思わない	2	9.1
計	22	100.0



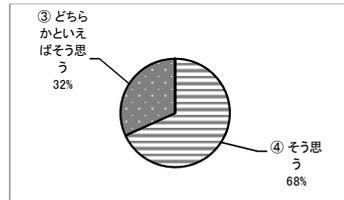
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	10	45.5
③ どちらかといえばそう思う	12	54.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



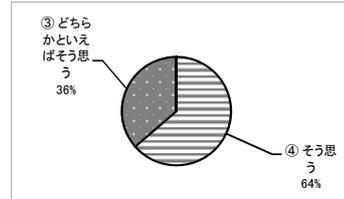
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	15	68.2
③ どちらかといえばそう思う	7	31.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



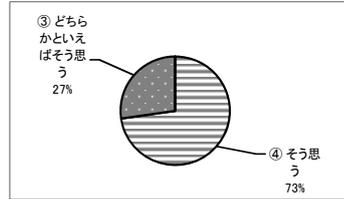
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	14	63.6
③ どちらかといえばそう思う	8	36.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



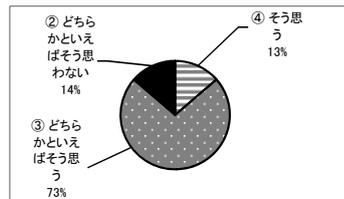
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	16	72.7
③ どちらかといえばそう思う	6	27.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



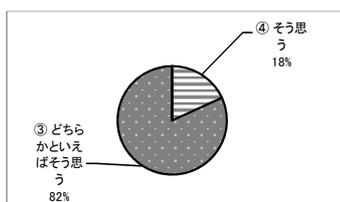
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	3	13.6
③ どちらかといえばそう思う	16	72.7
② どちらかといえばそう思わない	3	13.6
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



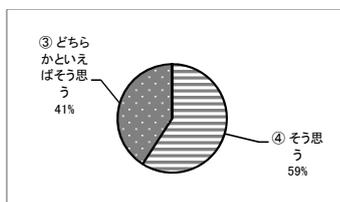
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	4	18.2
③ どちらかといえばそう思う	18	81.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	13	59.1
③ どちらかといえばそう思う	9	40.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 使うのはこれからだと思いますが、現状分析がもっとも必要なのだと分かっただけでも来た甲斐がありました。
- 自分の業務の課題について他の大学の方のコメントをいただいたのがよかった。実際の業務に役立てられそうです。
- 他部署の課題などが聞けてよかった。
- 自身の業務の進め方が間違っていないことが確認できた。
- 目標と現状のギャップが問題点となることがわかり、解決策が見つけやすくなった。
- 業務に落とし込むやり方が少し理解できました。
- 自分の業務を振り替えることができて良かったです。違う視点からグループワークで意見を貰って新しい発見がありました。
- 実践してテクニックを学べたと思う。
- 目標をより具体的に（到達80%等）すべきということや、現状把握を大事にするなど業務改善を進めるのにとっても良く役立つと思います。また、楽しく話を進めていただけておもしろかったです。興味深く聞けました。
- 他大学、他部署の方々との問題点を語り合うことで、自分があたりまえと思っていたことが本当は違っていたなど、気付く点が多々あった。
- 研修を受けるまで「インストラクショナル・デザイン」という言葉自体聞いたことがなかったのですが、受講して少しだけ理解できたように思います。問題解決のためには現状分析が大事ということ、勉強になりました。
- 現状をきちんと分析したうえで課題を立てなければうまくいかないということが印象に残り、非常に納得できました。
- 問題解決のために、どのような考え方が必要か参考になった。課題を細分化して洗い出すことなど、実践したいと思う。
- 事務職員として専門性を高めることの重要性について学ぶことが出来てよかったです。
- 「職員が大学を動かすんだ」という言葉に感動しました！
- 自分の目標設定が曖昧であることがよく分かった。
- 業務の問題点を分析できたこと。他の方の意見を聞いて、自分の思っていなかった視点からアドバイスをもらえたこと。
- 短い時間に内容が濃く、効率的にスキルアップがはかれたと思います。
- 業務改善の一つの手法として学ぶことができた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 事前の簡単な宿題があったら良かったかもしれません。（逆にそのために参加者が少なくなることもあるので、その点はちょっと注意必要ですが。）
- もっと他の方の意見を聞く時間が欲しかったです。
- 研修未経験者がいると思うが、最低何回参加すべきか提示して参加させるべき。忙しいとか肩書きが上とか不参加の理由にはならないと思うし、今回の研修などは上司の立場の方が学ぶべきところが多かったと思う。
- もう少し時間があった方が良い。
- 設計のコツややり方（会議資料につけるというような）、経験をもっと知りたい。
- ワークの時間をもっと取って、研修時間ももう少し長くなって良かったかもしれない。
- もう少し時間が長くてよいと思う。
- そもそものIDに関する部下の育成、リーダーシップの一つとして研修があれば、と思った。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：プロジェクト・マネジメント入門
 講師名：丸山 智子 (愛媛大学)
 実施日：平成27年10月28日 (水)
 実施会場：高知大学

当日参加者数：17名
 アンケート回答者数：17名

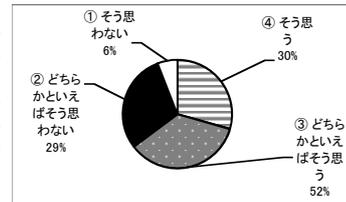
1. 参加者ご自身について
 職種

	度数	割合
① 教員	17	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	17	100.0

2. この研修について

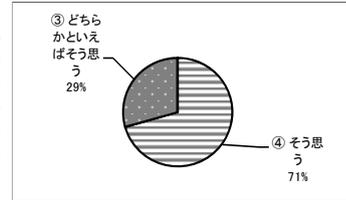
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	29.4
③ どちらかといえばそう思う	6	35.3
② どちらかといえばそう思わない	5	29.4
① そう思わない	1	5.9
計	17	100.0



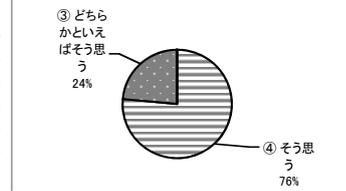
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	12	70.6
③ どちらかといえばそう思う	5	29.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



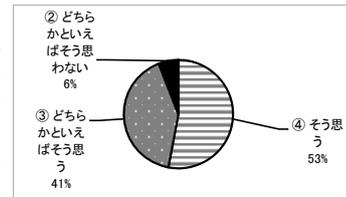
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	13	76.5
③ どちらかといえばそう思う	4	23.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



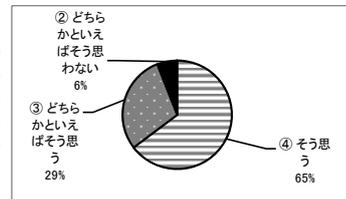
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	9	52.9
③ どちらかといえばそう思う	7	41.2
② どちらかといえばそう思わない	1	5.9
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



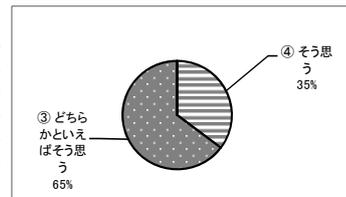
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	11	64.7
③ どちらかといえばそう思う	5	29.4
② どちらかといえばそう思わない	1	5.9
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



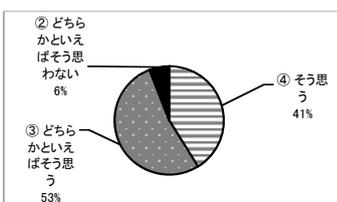
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	6	35.3
③ どちらかといえばそう思う	11	64.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



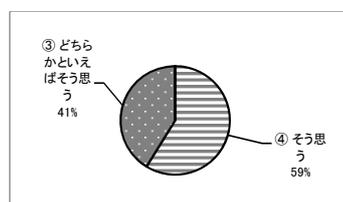
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	7	41.2
③ どちらかといえばそう思う	9	52.9
② どちらかといえばそう思わない	1	5.9
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	10	58.8
③ どちらかといえばそう思う	7	41.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 学生の技術の習得において、成績を伴わない評価をしていきたいと考えている。学生と一緒にになって、プロジェクトとして企画し、考えていける材料になった。また、自身の研究の中でステークホルダーマネジメントの必要性に気付かされた。
- 教育というより、看護の場面でもチームで問題に取り組む時に活用できると感じた。
- プロジェクトを学生のアクティブ・ラーニングに活用するポイント、教員の考えなどを知ることができてよかった。
- 講演の中で、参加者にも能動的になる所が設定されて内容を体験できるものになった。
- WBS 作るのは難しい…と体験したこと。
- チーム形成のフェーズについて学生にも伝えた方がよいことを知ったこと。
- 断片的に行ってきたマネジメント技法を包括的に再確認することができました。また、「嵐」の話は、とても良い概念をいただきました。
- 振り返りワークシートや目的を授業に取り入れたいと思う。
- プロジェクトをどのようにコントロールしていくか、その視点がよく理解できた。
- 実際の授業や実習で役立てることのできることを学べたこと。
- プロジェクトマネジメントについてある程度わかった。
- 具体的に何をさせれば良いか、シート類が手に入って良かった。
- プロジェクトマネジメントの全体像と、各分野の具体的な内容をかなり明確に理解することができた。
- 話が具体的で分かりやすかった。
- 学生の取り組むプロジェクトについて、注意すべき事柄が具体的に大変よく理解できました。
- 日常生活にも応用できます!!ありがとうございました。
- 自分の申請したプロジェクトにマネジメントの実行者が欠けていることに気づけた点。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 実際の授業等で使われているツール（今回でいえば振り返りのワークシート）みたいなものをもっと沢山知ることができるともっと良かったです。
- 実例ベースで、グループワークで解決策を考えさせる形があれば参加者がよりコミットできたと思います。
- 上記とアクティブラーニングとの関連、位置づけがいまひとつ見えにくかった。プロジェクト＝アクティブラーニングではないし、アクティブラーニングはコントロールでもない。
- 正課の授業を例に示してくれると良かった。
- 導入は工夫の余地があったかもしれない。
- 講義バージョンとワークショップバージョンの2段階設定でもいいのかもかもしれません。
- 大学向けの例示がもう少し多ければよかったかも。

平成27年度SPOD内講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生が輝くFDの実践事例
 講師名：小林 直人（愛媛大学）
 実施日：平成28年2月18日（木）
 実施会場：高松大学・高松短期大学

当日参加者数：44名
 アンケート回答者数：42名

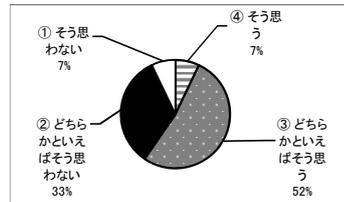
1. 参加者ご自身について
 職種

	度数	割合
① 教員	42	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	42	100.0

2. この研修について

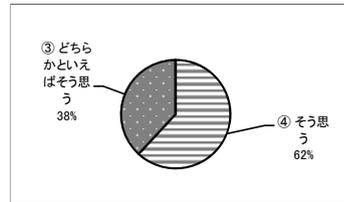
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	3	7.1
③ どちらかといえばそう思う	22	52.4
② どちらかといえばそう思わない	14	33.3
① そう思わない	3	7.1
計	42	100.0



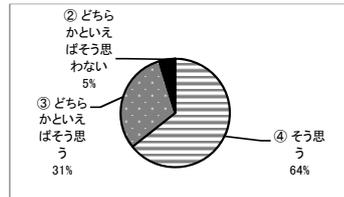
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	26	61.9
③ どちらかといえばそう思う	16	38.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



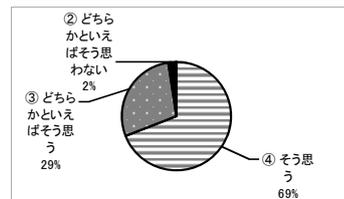
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	27	64.3
③ どちらかといえばそう思う	13	31.0
② どちらかといえばそう思わない	2	4.8
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



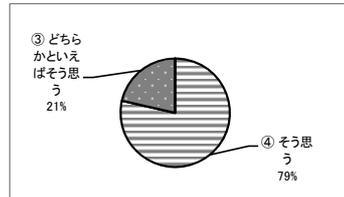
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	29	69.0
③ どちらかといえばそう思う	12	28.6
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



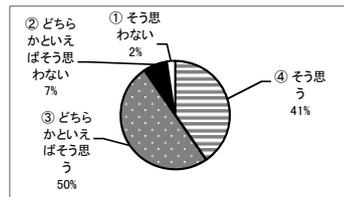
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	33	78.6
③ どちらかといえばそう思う	9	21.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



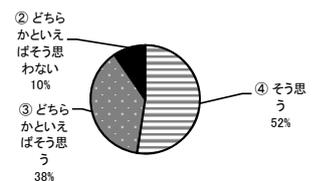
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	17	40.5
③ どちらかといえばそう思う	21	50.0
② どちらかといえばそう思わない	3	7.1
① そう思わない	1	2.4
計	42	100.0



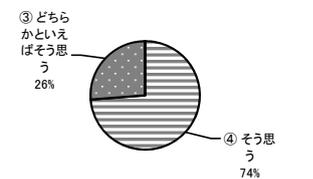
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	22	52.4
③ どちらかといえばそう思う	16	38.1
② どちらかといえばそう思わない	4	9.5
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	31	73.8
③ どちらかといえばそう思う	11	26.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 貴重なお話ありがとうございました。FDからPDへ…私自身がTPをちゃんと書けるようにスキルアップはもちろん、現状の整理と振り返りをしていきたいと思いました。エンパワメントがちょっと必要です(笑)。
- 愛媛大での実践例を紹介していただき、今後の研修に生かされる内容であった。
- 「コンテンツ」が良かった。(スマートでさわやかな話しぶり)
- 全体感をもてた。
- FDでグループ分けをする場合、最近学科別ばかりになってしまっており、それ以外の分け方でもよいのでは?と思っていた。今回の話を聞くことで、何が求められているのかでグループ分けを考えたらよいことが理解できた。ティーチング・ポートフォリオについてももっと詳しく知りたいと思った。
- マンネリ化していた自己省察の方法論を見直すことができた。
- 自己の講義の客観視がチャリとできたかもしれません。見えてから変わる、を信じて、FDを楽しむ境地を目指します。
- FD研修の根本的目的、「学生のために」行っているという意識が高められ、前向きに本研修を受けることができました。
- 公立学校の教員をしているときは、校内での研究授業、校外でのサークル活動等で、授業、特に学習指導についての研究をすすめていた。しかし、大学の教員になってからは、そのエネルギーがなく、のんびんだらりとした授業になっていると思う。今一度、自分の授業(講義、演者)のあり方を振り返って、学生にとって「知的で魅力ある授業」を大学でも実践したいと思う。
- ティーチング・ポートフォリオについて、大変ためになるお話を伺うことができました。「学生が輝く」-「生き生きとした教職員の元で指導を受けた学生はきっと輝くはず」、本当にこの通りだと思いました。参考文献のご紹介ありがとうございました。
- 参考図書を教えてくださって、後で学びを深めることができそうです。ありがとうございました。
- 大変ためになるお話を聞けました。教育改革のアクター、講義法などについても新たに理解ができそうです。
- 教育、研究、管理運営の3つの領域を少しでも統合できるよう、自分自身のコアとなる理念は何かを自問したいと思います。小林先生のお話を伺い、誰が話すのか(タレント)の大切さがよく分かりました。
- 「学生が輝くためのFD」という目的が示され、それについての様々な考え方を知ることができた。ティーチング・ポートフォリオの重要性に気付くことができた。
- FDに関する各要素を有機的、かつ具体的に理解する上で大変参考になった。
- 自分の研究が学生の教育に還元されているか振り返るよい機会になった。ある程度分けて考えていたので、時間的にしんどい思いをしてきた。しかし、学生に対して自信を持って今まで授業に取り組めたとと思う。
- FDを重ねていくことによって、高松大学・高松短期大学の教職員全体がレベルを上げていくことができることを認識できました。今後も授業改善を続け、生き生きとした授業ができるようにしていきたいと思います。本日はありがとうございました。
- 専門外の担当科目も多くある中、学生に対しても自分自身にもジレンマがある。その中での気持ちの持ち方が分かった面もある。
- ピアノ楽曲を聴くような心地良いご講話で、励ましをいただいた。
- 先生の教育理念として、「知の運用能力」…と書かれていることを拝見して、まさにその通り、すばらしいと思った。今、小中高を通して、知的財産の記憶だけでなく、そこへたどり着く背景を常に考える習慣を持たせる為に大いに結構。与えられたことを消化するだけでも十分でない学生が多い中、如何に自発的に学びとろうとするかの意欲の喚起法を考える自立した市民になるために!
- 非常に分かり易い内容であった。
- ティーチング・ポートフォリオなど、名前は知っていても、内容については分かっていなかったものについて、知ることができ、さらにそれが自分自身の講義内容とも関連が深いものであると理解できた点。特に、自分自身、学生に対しての講義法や、内容について常に日頃より反省を繰り返したり、学生の返答等も得ていたので、大変勉強になりました。もっと研究として、学生にとってのよい講義について内容を深めていきたいです。
- アカデミック・ポートフォリオについて参考になった。全体の説明が経験に基づいて明確にお話しただいて、大変よく分かりました。ありがとうございました。
- よく整理されていて、よく分かった。本学のことを踏まえてお話しいただきよかった。ポートフォリオの意義は分かった。

- 今年度が初年度なので、今年から毎年振り返りのティーチング・ポートフォリオを書いてみたいと思います。実践のことや研究のことを授業に活かすことができるように、今後の授業を考えていきたい。
- 改めてFDの意義や大切さがわかった。自らの教育活動を振り返る必要性を感じた。
- 小林先生が明確に話して下さったので、授業、教育、ティーチング・ポートフォリオなどそれぞれの意味などが明確になり、良かった。
- FDの必要性について良く分かった。
- 授業改善の手法を教えていただいたことはよかった。私もまだ経験が浅いため、教えていただいた手法を取り入れて授業改善に生かしていきたいと思う。
- 講義の最初に、目的と目標を明確にすることの重要性が理解できた。
結論を印象的に学生に説明することで、学生に興味を持たせることが可能であることが分かった。
- 教育に関して心の中でモヤモヤしていたものが（完全ではないが）明確な形として見えてきた。
- 「アカデミック・ポートフォリオ」という考え方は新鮮であった。実際に高次元でうまくまとまるのかどうかは定かではないが。
- 講義法については無意識にPPTの内容を行っていたが、意識的に行う必要を認識させられてよかった。
- 理論と実践のズレがあるからこそ教育の意義があると思いました。ありがとうございました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- （質問・疑問）教育コーディネーターとメンターは別者ですか？メンターも教員がされているのでしょうか？授業参観にて学生の意見を聞くとき、どんな方法で？
- 研修した内容を実践し、検証することで、次のSTEPへ登ることができる。
- 講師自身の取り組みをもっと取り入れて紹介してもらいたい。
- 時間的に厳しいと思いますが、話の中であげられている例をもっと増やしてほしい。また、授業参観でどの様な意見が出されたのか等も知りたかった。
- 本テーマと時間からすれば、改善点はないと思います。ワークショップを次回に。
- 特にありません。ありがとうございました。
- 今までのFD研修会も、それぞれに勉強になり刺激的なものでした。しかし、FD研修会で外部の講師の方々が述べたことが本大学で生かされたという実感が一度もありません。私は私で自分の力量を向上し、自分が大学に貢献できる場所で頑張るだけです。
- レジュメのスライドが順序通りではなかったり、ないものがあったり、少し残念に思いました。実習体験があれば、ありがたかったです。
- 本学でこれまで実施してきたFDの内容を事前に調べ、分析された上で、本日の講演内容を決定され、大変わかりやすい、聞き手を意識されたお話でした。アカデミック・ポートフォリオのお話がありましたが、本学では年度末に、1年間の教育研究報告と、今後1年間の教育研究計画を提出しています。この2つの書類について、改善した方が良い点について、ご教示いただきたいです。
- 自己の教育の理念について再確認していきたい。
- アカデミック・ポートフォリオの3つの領域とその関係をさらなる具体例を用いて明らかにするとともに、一貫した理念（教育の体幹ともいえる）とのつながりを明確にすることによって、より理解が深まると思われる。（より効果的）
- 若手教員の話があったが、シニア教員のFDはないのでしょうか？大学組織で言えば、シニアの割合の方が高いのでは…と思う。
- 使命感を持って、しかも誇りを持って仕事に取り組んでいる方特有の爽快感があった。
- SPODには参加した事がなかったけれど、今年は参加したいと思いました。
- ポートフォリオの方法、形がいまひとつ分からなかった。
- 教室が寒かったのが残念でした。でも寒さの中でも集中できるお話でした。
- この後に討議（小グループ）とかできればよかった。あと部屋が寒すぎました…
- 講師の方の講義をムービー等で見せてほしい。
- 学生等にも配付するパワーポイント資料ですが、小さな文字で書かれていると読みにくい（何のためにパワーポイントを使っているのか分からなくなる）。今回配付された資料はほぼ読めますが、印刷で「配付資料」モードで印刷するよりも、「通常モードで1ページに6枚分印刷」するモードで印刷の方が大きく印刷されてベターです。そのような工夫もFDとして大切ではないでしょうか。
- 今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成27年度 SPOD内講師派遣事業についてのアンケート 集計結果

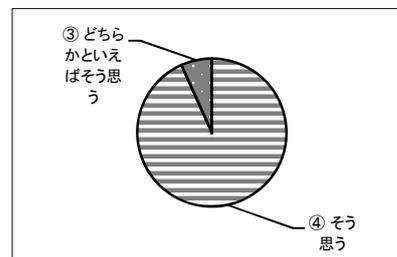
SPOD内講師派遣事業実施校：22校

アンケート回答数：22校

回答者：計32名（内訳：FD担当20名，SD担当5名，事務担当7名）

1. SPOD内講師派遣事業を来年も継続したらいいと思いますか。

	回答数	割合
④ そう思う	28	121.7
③ どちらかといえばそう思う	2	8.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	130.4



2. SPOD内講師派遣事業により、学内でどのような成果や変化がありましたか。

○FDプログラム

1	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の知見が深まった。 ・講師の講義後，方法を踏襲し自分の教授活動に取り入れている教員がいる。 ・教育の実績を残し，積み重ね，体系化していくことの重要性（教育の可視化・説明責任）が分かった。
2	<p>教員各自が研修内容を参考に授業向上等に取り組んでいる。学部・センターによっては，簡易版ティーチング・ポートフォリオを作成する取組もはじまっている。今年度から，過年度に実施した研修会（今年度の場合は2014年度に実施した研修会）について，その後実際に自分の教育や授業等の向上にどのように生かされたのか，生かされていないのか，検証調査を行う（2～3月実施）。調査結果については，次年度以降に，機会があれば報告する。</p>
3	<p>SPOD講師派遣事業で，普段話をしたことが無い教員同士が話をする機会となり，色々な場面で話ができるようになったようです。大学内での風通しが良くなることで，今までにない動きが出てくることを期待しています。</p>
4	<p>事業の受講により，授業力のUPや授業改善に取り組む教員が増えている。この成果を検証し，さらに参加者を増やしていくことが課題である。</p>
5	<p>講師の先生に本学のFDの取り組みが充実していると評価されたことで，今後も継続して改善していけばよいと思いました。</p>
6	<p>毎年，シラバス作成法についてFDを実施することによって，非常勤講師を含めた全教員に対して，学生にとって理解しやすく，達成目標が明確なシラバス作成について，理解が深まり，認識が広まった。特に文科省の推奨する単位の実質化に関する項目について，理解の徹底が見られた。</p>
7	<p>学内全体の成果や変化を検証することはできなかった。講演内容が授業改善に関する内容なので，FD研修後の各自の授業を見直したり，工夫するきっかけになったことは間違い無い。</p>
8	<p>昨年度より，「授業改善」に重点を置きFD研修を行い，少しずつ教員の意識が高まってきている。</p>
9	<p>各教員が，自分の授業計画について，長年の経験だけではなく，改めて課題分析図の視点を活用しながら授業構成を見直すように意識されてきた。組織全体での活用には至っていないが，平成28年度シラバス作成にあたっては，学科によっては従来のシラバスを一度リセットし，学科が掲げた学習成果の獲得に必要な内容を再検討するなど，学生主体の授業のあり方を改善する動きもあった。</p>

10	本校は、平成27年度より本格的に全学でLMSを導入し、その活用推進を始めたばかりである。また、高専機構本部はICT活用教育とアクティブ・ラーニングを推進している。このような背景から「効果的なeラーニングの活用方法」の講師派遣を依頼した。参加者の記述式アンケートから、「LMS使用におけるアイデア、コツを共有できた」、「eラーニングに関連する知識、デザイン方法、運用、著作権への注意がわかった」といった良い成果が見られる。また、選択式アンケートから参加者全員が満足する内容だったと言える。今回の参加者は13名で少ないようだが、前期末試験直前の開催日程から考えると意欲的に参加した教員ばかりだったと考えられる。現在、本校のアクティブ・ラーニング推進は組織的ではなく、ボトムアップ形式で進んでおり、まずは今回の参加者のような意識の高い教員から活用推進が広まることが望ましいと考えている。今回の講師派遣事業の後もアクティブ・ラーニング研究会は継続しており、有意義な講演だったと考えている。
11	平成27年度の講師派遣事業は、「今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート」というテーマであり、授業に取り入れ易い手法については、すでに授業で試行的に実施している教員もいる。
12	他の教育機関における教育裁判の事例や、その際の裁判所の見解を知ることができ、有意義な講演会であった。また、学生や保護者等に対する教員としての心構えについて理解を深めることができた。
13	「受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り」（6月3日開催）に22名の教員が参加し、授業中にアクティブ・ラーニングを取り入れるための様々なテクニックを学んだ。来年度からの学科再編に伴い、昨年度からアクティブ・ラーニングの考え方や手法を学ぶための研修をSPOD講師派遣事業を利用して続けてきた。これらの研修によって多くの教員が少しずつそれぞれの授業の中にアクティブ・ラーニングを取り入れるようになってきている。また、SPOD講師派遣事業の研修をきっかけにさらに学外の研修に参加してより深く学ぼうとする教員も増えた。

○SDプログラム

1	日常業務でなかなか研修に参加できない中堅層の職員が、SPOD講師派遣事業により学内開催することで多数出席したことが一番の効果と思われる。中には、その後で開催されたSPOD研修の参加も見られた。また、アンケート結果から自分の業務に生かせる内容であったとの回答93%、業務への取り組みが改善されると思うとの回答が83%であったことから成果があったと思われる。
---	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○FD・SDプログラム

1	講師派遣事業において様々なテーマを扱っていただけのことで、本学組織または職員のニーズに応じた講座を適宜選択し提供できている。今回は部局、階層を縦横断して参加できるテーマで実施したことで組織全体の連携に繋がる意識改革の一助を担えるものとなったと考える。
2	学内での効果検証まではできていないが、受講者向けの事後アンケート結果では、全員が「研修は満足できるものだった」との回答をしており、参加した者にとっては非常に有益なものになったと思う。
3	今年度は、本学ではプロジェクト・マネジメントを受講した。今回の事業で目に見えての成果や変化は見られないが、学内の実習企画等の立案において、プロジェクトマネジメントの見え方を意識し導入した部分もあった。どちらかというとなすぐに使える技法や手法が多くて大変参考になったと考える。
4	全学的に年1回実施しているSPOD講師派遣事業によるFD講演会には、教員の約7割が参加し、全教員の教育研修の機会提供とともに、学科を越えた意見交換の場として機能しており、教員のFDに取り組む姿勢や授業改善への意欲が高められている。また、若手教員が主体的・積極的に近隣大学主催のFDスキルアップ講座に参加し、授業実践のための能力向上に努めている。 本年度の「大学の危機管理～事例から考えるハラスメント～」では、ハラスメントの定義、大学職員に求められる危機管理、事件・事故の具体例、ケースメソッドなどについて、グループワークを行いながら学んだ。学んだ内容は各職員のハラスメント防止に向けた自己啓発に役立つと感じられた。

5	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの見せ方について新しい発見ができ、それを活用する職員も多くなった。 ・実際の業務に活かせるようになってきた。
6	特に、具体的・組織的な動きはなかったが、教職員のハラスメントに関する意識は高まったように思える。
7	具体的な事例をもとにワークショップ形式で行われたため、ハラスメントについての意識が共有できたと同時に、本学が留意しなくてはならないことについて、意見交換ができました。ハラスメントは受ける側は自分のこととして強く認識できるが、している側が鈍感であるために起きると思われるので、効果についても不明な点は残るものの、全体的な研修成果は大きかったと思います。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する意識が全体的に高まった。FD参加の意欲が高まった。 ・自分の授業の在り方をふり返ることが出来ました。常時、学んだ内容を忘れずに改革する意識をもって実践しなければと思います。 ・委員会の内容の幅が広がった。
9	・学内の成果・変化についてはわかりませんが、個人においては研修によって自分の仕事で役立つ知識を得ることができたので、あまり目には見えないが、研修で得た知識を意識し、業務を行うことで変化や成果を感じることはできた。

3. SPOD内講師派遣事業への要望があれば、具体的にお書き下さい。

1	引き続き実務スキルから大局的な視点での業務改善まで幅広いテーマでご提供いただきたい。また、既に各大学では第3期中期目標期間中の女性管理職登用目標値を公表しており、女性リーダー養成へのプログラムも望まれるのではないかと。
2	SPODで行われているプログラムについて、専門性の部分があり、難しいことがあるため全ての分野を本学の教員がカバーできるわけではないため、講師派遣で専門家による教授があり大変助かっている。今後、さらにポリシーの検証等を含めて、大学改革が行われていくため、講師派遣プログラムもマンネリ化するのではなく、常に新しい提案や示唆ができる講義内容であっていただきたい。
3	全学的なFD活動を進めるにあたり、SPOD講師派遣事業は大変有効に機能しており、SPODとの連携は不可欠である。SPODの支援は今後も継続していただきたい。
4	他の加盟校の先生方を話し合う機会があるが、本学でもそうであるように、多くの教育機関が、“対応が難しい学生”（例：成人型アスペルガー症候群や境界型人格障害などの学生）への対応に関する企画があれば良いという意見が多かった。相応しい講師がおられれば、その講義に期待いたします。
5	SPODの研修会はどれも有意義なものが多いので、年度につき1件だけでなく、派遣予算は派遣先（派遣をうける大学等）が負担するので、複数回の派遣依頼を受けてほしい。
6	講師を捜すことがまづなかなか難しいので、継続していただくと非常に助かります。また、研修内容も色々な中から、自分の大学に必要なことを選択させていただけるというシステムも、現状問題となっていることや気になることについて研修を受けることができるようになるので助かっています。
7	積極的に活用したい新規のメニューが用意されており、期待できます。この事業の運営にあたる愛媛大学やコア校の負担は相当のものですが、本学でもFD活動の推進に寄与しており、来年度以降も継続していただきたいです。
8	講師派遣を年度2回にして、同年度内にFDとSDそれぞれ1回お願いできるようになれば有り難いです。両方で毎年お願いするのではないのですが、そういう年度もあるように思います。
9	・SPOD内講師派遣事業は、大学教職員が個々に出張することなく、自大学において同時に情報や知識を共有し得ることができる、非常に活用しやすい機能的な研修システムであると考えていますので、より充実したプログラムの策定を望みます。
10	今後も継続して派遣事業を行ってほしい。
11	講師の先生方が空き時間を工面して来学していただけることに感謝しています。
12	これまで通り続けていただけると有難いと思います。

13	・授業改善ではないのですが、出来れば、アンケート分析、統計解析の派遣事業をお願いします。（論文レポートの作成指導に活かせるので。） ・学生の学ぶ視点に立っての授業を心がけるように努めるためには、定期的な研修が必要である。
14	・学習障害を持つ学生に対しての大学としての対応に関する内容の事業を要望。
15	講師派遣について、具体的に講師名の希望もできればいいなと思っております。（難しいとは存じますが、ご検討いただければ有難く思います。）
16	いつも有意義な研修を受けることができ、深く感謝しております。事業計画は大変かと思いますが、伝統的、基本的な内容を大切にしながらも新規の内容が充実していくことを希望しております。厚かましいお願いですが、今後も楽しみにしています。
17	様々なコンピテンシー育成に関連して、正課授業においてどのような授業形態を実施して、どのようにコンピテンシーを評価すればよいか、について模索している。そこで、このようなコンピテンシー育成に関して、一般教員への意識づけと動機づけとなる講師派遣事業内容を期待しています。
18	毎年、高専向けの講師派遣事業を増やしてきていただいているので非常に感謝している。今後も、高専向けの派遣事業の充実をよろしくお願ひしたい。
19	（要望ではないが）平成28年度の講師派遣プログラム概要を見るかぎりでは、SD向けの魅力的なプログラムが複数見受けられるが、残念ながら、1高専に講師を派遣してもらっても、事務職員数が少ないため、ワークなどを行っても、仲間うちだけの議論になってしまい、多様な意見を聞く機会にもならず、効果のほどはそれほど大きくはないと思われる。また、大学と高専とは、同じ高等教育機関とはいえ、設置法（組織）やミッションが大きく異なるため、職員のキャリアプランも大学職員とは異なる点が多々あり、大学職員向けのプログラムがそのまま高専職員にも当てはまるものではない。従って、今後も講師を派遣してもらおう予定はなく、高専機構が主催する階層別・業務別の研修会・説明会への参加を優先せざるを得ない。
20	規模の小さな本校にとっては外部講師によるFD／SD活動は大変重要な役割を果たしており、今後も引き続き事業の継続を希望したい。

4. SPOD全体への要望があれば、具体的にお書き下さい。

1	大学教員向けの内容をより充実していただきたい。
2	連絡や報告も確実にいただき、特に意見はありません。ありがとうございます。
3	ひきつづき、四国内でのFD活動の充実をはかっていただきたい。
4	遠隔教育の場合に、画像がもう少し鮮明になるなど改良されればいいかと思ひます。
5	・SPODフォーラムには、日本全国の大学から教職員が参加していますが、設置形態別の研修も欲しいものです。
6	いつもお世話になっています。SPOD研修があるおかげで、本学のような小規模な短大でも有意義な研修を気軽に受けることができます。行事、会議、授業などで受けたくても受けられない研修もあります。準備は大変ですが、遠隔授業で受けられる研修がもう少し増えるとありがたいと思ひます。
7	・今後も、夏休み等の期間で開催お願いします。授業改善だけでなく、内容も幅広くした方が好いと思ひます。 ・年間通してまんべんなく研修があると好い。
8	・教職員レベルアップのために取り入れるべきSPOD研修があれば、積極的に取り上げていただきたい。
9	感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも宜しくお願ひします。
10	たくさんの研修プログラムを用意していただき感謝いたします。本校から学外の研修への参加者はまだ少ないのが現状ですが、引き続き多くの教職員の参加を促していきたいと思ひます。

5 平成27年度活動実績

(4) SPOD共通事業

② 「SPOD将来構想ワーキンググループ」 議事概要

平成27年度第1回SPOD将来構想ワーキンググループ議事概要

- 1 日 時 平成27年10月21日(水) 13:30~17:00
- 2 場 所 愛媛大学城北キャンパス 愛大ミューズ3階会議室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

(1) SPOD将来構想ワーキンググループメンバーについて 【資料1, 参考資料1】

議長より資料1及び参考資料1に基づき、将来構想ワーキンググループメンバーについて説明があり、異議なく了承された。

(2) SPODフォーラムの持ち回りについて 【資料2】

議長より資料2に基づき、平成28年度以降のSPODフォーラムの四国地区各県の持ち回り開催について説明があり、異議なく了承された。なお、本件については11月13日(金)に開催予定の第6回SPODネットワークコア運営協議会にて審議予定である旨の説明があった。

(3) 講師派遣プログラムについて 【資料3】

資料3に基づき、講師派遣プログラムについて意見交換を行った。

(意見交換の主な内容)

- ・FDの講師派遣プログラムは徐々にコンサルテーションの形にシフトしていったらどうか。
⇒コンサルテーションの場合、どこまでやって終了と考えるのか？研修のように時間が決まっているわけではないので定義が難しい。相談された内容に詳しい人物を紹介して終了というパターンや、SPODの講師が案件に対応するパターンなどが考えられる。
⇒コンサルテーションのフローチャートを作成するべき。
- ・SDの講師派遣プログラムについては、従来どおりプログラム一覧から研修プログラムを選択してもらった形のままが良い。
- ・各加盟校へプログラム希望調査を行う際の一覧表から、FD/SDの区分をなくしてはどうか。
- ・平成28年度講師派遣プログラム希望調査を行う際には、平成27年度の希望調査時に各加盟校に回答してもらったアンケート回答を参考までに添付して依頼する。
- ・講師派遣プログラム希望調査のプログラム一覧表は、コンサルテーションを一番上に配置する。

(4) SPOD事業経費について 【資料4, 参考資料2】

資料4及び参考資料2に基づき、今年度のSPOD事業経費の余剰分の利用及び次年度以降の予算減について検討を行った。

(意見交換の主な内容)

- ・年会費に応じて余剰分を加盟校に返すか？

- ・新しいプロジェクトを立ち上げて今年度のうちに実施するか？
- ・赤字を出してはいけないため多めに見込んでいるが、当初見込みの予算額を減らしてはどうか？
⇒年会費を1度減らすと次に上げることは難しくなる。
⇒年会費を減らすことは今は厳しいのではないか。
- ・SPODフォーラムを愛媛で開催するときは見込み予算額を減らしても良いかもしれないが、愛媛以外で開催するときは事務局スタッフの旅費分予算が増えるため、年度によって必要予算がバラつく。
- ・加盟校に所属する教職員がSPODフォーラムで講師をするなどして事業に関わった場合、その加盟校の年会費を割引してはどうか。

(5) 取組内容の検討について

【資料5，参考資料3-1～2】

資料5及び参考資料3-1～2に基づき、現在及び今後のSPOD取組内容について意見交換を行った。その結果、SPOD事業の将来の主な方向性として以下の3点があげられた。

- ・SPOD事業は今後も継続していく。
- ・FD事業においては、マイクロレベルの研修はSPODフォーラムに集約させ、取組内容を精選していく。
- ・SD事業においては、従来のプログラムを実施し、SDの義務化など政策動向を注視しながら取組を発展させていく。

(意見交換の主な内容)

徳島大学

- ・(FD) マイクロレベルのFDを数多く実施するよりは、SPODフォーラムの中でマイクロレベルのプログラムを集約させて実施する。
- ・(FD) 講師派遣プログラムはコンサルテーション型にしていく。
- ・(FD) 事業としては新任教員研修とティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップを中心とし、他のプログラムについては各コア校で実施しているものを加盟校に開放すれば良い。
- ・(FD) FDeR養成講座やプレFDについては、SPODフォーラムの中で開催してはどうか。
- ・(FD) SPODフォーラムの充実を図り、日頃の各種研修は各コア校が実施しているものを加盟校に公開すれば良い。

香川大学

- ・(FD) 講師派遣プログラムのインセンティブ付与について見直しを検討してほしい。
- ・(FD) FDeR養成講座やインターンシップ受入やプレFDを四国内で実施しなくても良いのでは。

高知大学

- ・(FD) 講師派遣プログラムは、センター以外の先生に講師を依頼する際に謝金が出せないため依頼しにくい。
- ・(SD) 経営者、管理者養成プログラムの開発については、「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」の見直しにより、「管理・運営力」がフレームワークの中に明記されたため、今後はこのフレームワークを生かしていくべき。
- ・(SD) 専門職養成プログラムについては、ニーズを把握しながら分野の拡大に取り組んでいくべき。

⇒これらの議論を踏まえ、FD/SDの取組内容について、それぞれ愛媛大学の中井委員及び阿部委員が修正案を作成することとなった。

その他にあった意見としては以下のとおり。

- ・加盟校にアクティブになってもらうにはどうすれば良いか検討の余地がある。
- ・加盟校にはパッシブなところとそうでないところがあり、加盟校へのサポートをいつまで行うかという問題もある。
⇒コア校ばかりが提供する形で良いのか？
⇒設立10年を迎える平成30年度がひとつの区切りと考える。
- ・SD事業の「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」は各加盟校でも非常に役割の大きいものであり、なくなった場合に困る加盟校が多数あるはずである。
- ・SPODフォーラムに絡めてFDファシリテーター（担当者）養成研修を実施してはどうか。（教職員能力開発拠点がFDer養成講座を開催しない年などに）3～4日開催にするか？
- ・SD事業の「講師養成講座」については、「講師」という名称を「指導者」のような広い概念に変更した方が良いのではないか。
- ・事例報告のようなものであれば、SPODフォーラムで加盟校も講師を引き受けやすいのではないか。
- ・簡易版のティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップを開発・実施してはどうか。

**平成27年度第1回SPOD将来構想ワーキンググループ
出席者名簿**

大学名	所属	職名	氏名	区分
愛媛大学	教育・学生支援機構 教育企画室	室長・教授	小林 直人	第3条第1号
愛媛大学	教育・学生支援機構 教育企画室	教授	中井 俊樹	第3条第2号
愛媛大学	教育・学生支援機構 教育企画室	講師	阿部 光伸	第3条第3号
徳島大学	総合教育センター	講師	吉田 博	宮田准教授代理
香川大学	大学教育基盤センター	講師	西本 佳代	葛城准教授代理
高知大学	大学教育創造センター	特任准教授	杉田 郁代	立川准教授代理
愛媛大学	教育学生支援部	部長	吉田 一恵	第3条第5号
愛媛大学	教育学生支援部教育企画課	課長	神 智彦	第3条第5号

(オブザーバー)

大学名	所属	職名	氏名	備考
愛媛大学	教育・学生支援機構 教育企画室	講師	清水 栄子	FD
愛媛大学	教育・学生支援機構 教育企画室	特任助教	丸山 智子	SD
愛媛大学	総務部人事課	課長	秋谷 恵子	SD
愛媛大学	総務部人事課	副課長	久保 秀二	SD
愛媛大学	教育学生支援部教育企画課	副課長	織田 隆司	SD・事務
愛媛大学	教育学生支援部教育企画課 教育企画チーム	チームリーダー	濱元 悠子	事務
愛媛大学	教育学生支援部教育企画課 教育企画チーム	サブリーダー	五貫 恵美	事務
愛媛大学	教育学生支援部教育企画課 教育企画チーム	部員	松崎 由里子	事務

5 平成27年度活動実績 (5) SPOD運営

①「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

総会，FD／SD分科会 資料

平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会
及びFD/SD分科会 実施要項

主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）
日 時：平成28年3月24日（木） 13：30～16：30
出席者：（総会）加盟校各大学長、短期大学長、高等専門学校長等
（FD/SD分科会）加盟校 FD/SD担当者等
場 所：（総会）愛媛大学城北キャンパス総合情報メディアセンター1階
メディアホール
（FD/SD分科会）愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ3階M32,33

【総 会】

- 13：30 開会挨拶 SPOD会長：愛媛大学長
- 13：35 平成27年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の実施状況について（25分）
- 14：00 平成28年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の運営について（30分）
- 14：30 質疑応答（30分）
- 15：00 閉 会

【FD/SD分科会】※FD分科会及びSD分科会を2箇所で開催

- 15：30 各加盟校での取り組み状況の報告
今後の具体的な事業の進め方について
意見交換 など
- 16：30 閉会

5 平成27年度活動実績 (5) SPOD運営

②「ネットワークコア運営協議会」 議事概要

平成27年度第1回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成27年4月28日(火) 13:15～14:00
- 2 場 所 各コア校(遠隔会議システム利用)
- 3 出席者 別紙のとおり

議事に先立ち、平成26年度第1回SPODネットワークコア運営協議会開催にあたり、今年度4月より新たに構成員となった出席者から自己紹介があった。

4 議 題

(1) ネットワークコア運営協議会の構成員等について

【資料1-1～3, 参考資料1-1～3】

議長から資料1-1及び参考資料1-1に基づき、平成27年度ネットワークコア運営協議会の構成員について説明があり、異議なく了承された。

引き続き、議長から資料1-2～3及び参考資料1-2～3に基づき、平成27年度ネットワークコア運営協議会FD/SD専門部会の構成員について、説明があり、異議なく了承された。

(2) SPODフォーラム2015について

【資料2-1～4, 参考資料2】

議長から資料2-1に基づき、SPODフォーラム2015の開催概要について説明があった。また、議長からSPODフォーラム2015の各講師に対し、各プログラムの正式なタイトル名を平成27年5月11日(月)まで、各プログラムのシラバスを平成27年5月29日(金)までにSPOD事務局へ提出するよう依頼があった。

次に、議長から資料2-2に基づき、SPODフォーラム2015の日程(案)について説明があった。

引き続き、議長から資料2-3～4に基づき、SPODフォーラム2015におけるポスターセッションの募集要領について説明があり、異議なく了承された。

(3) 平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及びFD/SD分科会について

【資料3-1～8, 参考資料3】

議長から資料3-1～6に基づき、平成27年3月27日(金)に開催したネットワーク総会について報告があった。また、議長から資料3-4及び参考資料3に基づき、今後、各加盟校への負担金請求手続きを行う旨の説明があった。

次に、議長から資料3-7に基づき、平成27年3月27日(金)に開催したFD分科会の概要について報告があった。

引き続き、愛媛大学阿部委員から資料3-8に基づき、平成27年3月27日(金)に開催したSD分科会の概要について報告があった。

(4) 平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査結果について

【資料4, 参考資料4】

議長から資料4及び参考資料4に基づき、平成27年3月20日(金)及び3月27日(金)

に実施した監事による会計監査の結果概要について報告があった。

(5) 研修プログラムガイド2015について

【資料5】

議長から資料5に基づき、研修プログラムガイド2015に掲載するプログラム一覧について説明があった。

(6) 平成27年度SPOD内講師派遣について

【資料6】

議長から資料6に基づき、平成27年度SPOD内講師派遣プログラムについて説明があった。なお、実施日及び対象校を記載した本プログラムの一覧表を後日各加盟校へ送付するとともに、ホームページに掲載予定である旨の説明があった。

(7) 平成27年度大学人・社会人基礎力養成プログラム研修について

【資料7-1~2】

愛媛大学阿部委員から資料7-1に基づき、平成27年5月13日(水)~15日(金)開催の大学人・社会人基礎力養成プログラム研修(レベルI)(新任職員研修)の概要について説明があった。

引き続き、愛媛大学阿部委員から資料7-2に基づき、平成27年6月25日(木)~26日(金)開催の「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」見直しワークショップの概要について説明があった。

(8) 平成27年度次世代リーダー養成ゼミナール(第1回)の開催について

【資料8】

愛媛大学阿部委員から資料8に基づき、平成27年5月21日(木)~23日(土)開催の次世代リーダー養成ゼミナールの概要について説明があった。

(9) 平成27年度職員のための講師養成講座の開催について

【資料9】

愛媛大学阿部委員から資料9に基づき、平成27年6月18日(木)~19日(金)開催の職員のための講師養成講座の概要について説明があった。

(10) その他

議長から次回の第2回ネットワークコア運営協議会は、平成27年6月5日(金)に遠隔会議で実施予定である旨の説明があった。

平成27年度 第1回ネットワークコア運営協議会 出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター教育改革推進部門 教授	川野 卓二	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課長	関谷 直樹	SD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育支援課教育企画室教育企画係	吉岡 茂夫	事務
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	佐藤 慶太	FD
	大学教育基盤センター能力開発部 講師	西本 佳代	FD
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	田中 正昭	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	藤原 淳之	SD
	教育・学生支援室学務グループ リーダー	野口 豊裕	事務
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	山本 英和	事務
	教育・学生支援室学務グループ	吉鷹 麻穂美	事務
高知大学	大学教育創造センター 教授	塩崎 俊彦	FD
	大学教育創造センター 准教授	立川 明	FD
	大学教育創造センター 特任准教授	杉田 郁代	FD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	有友 幸代	SD
	人事課労務管理係係員	高松 基子	SD
	学務課長補佐	末本 美千代	事務
	学務課総務係事務補佐員	高橋 智子	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	議長・FD
	教育企画室 教授	中井 俊樹	FD
	教育企画室兼総合情報メディアセンター教育デザイン室長 講師	仲道 雅輝	FD
	教育企画室 講師	村田 晋也	FD
	教育企画室 講師	清水 栄子	FD
	教育企画室 特定研究員	加地 真弥	FD
	教育企画室 特定研究員	小林 忠資	FD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	総務部人事課長	秋谷 恵子	SD
	総務部人事課副課長	久保 秀二	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	眞鍋 明菜	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課長	神 智彦	FD・事務
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	五貫 恵美	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	橋本 香央里	事務
教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	村越 綾香	事務	

平成27年度第2回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成27年6月5日（金）9：15～10：00
- 2 場 所 各コア校（遠隔会議システム）
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

（1）SPOD事業評価について 【資料1-1～2，参考資料1-1～2】

議長から資料1-1～2及び参考資料1-1～2に基づき、平成26年度SPOD事業における事業評価委員会委員からの主なコメントについて説明があり、今後の課題や改善点について意見交換を行った。なお、評価委員からのコメントに対する検討課題等については、次のネットワークコア運営協議会において審議予定である旨の説明があり、各コア校からも次回協議会までに事務局まで意見を提出するよう依頼があった。

（2）SPODフォーラムについて 【資料2-1～6】

議長から資料2-1に基づき、SPODフォーラム2015に関する今後のスケジュールについて説明があった。

また、議長から資料2-2に基づき、SPODフォーラム2015のプログラム案について、前回協議会からの変更点（プログラム及び講師の変更、タイトルの変更等）について説明があった。引き続き、議長から資料2-3に基づき、フォーラム2015のチラシが完成し、6月中旬までにSPOD加盟校を含む全国高等教育機関に送付予定である旨の説明があった。

次に、議長から資料2-4に基づき、SPODフォーラム2015の申込み時に回答いただく事前アンケートについて、赤字部分を昨年度の様式から変更予定である旨の説明があり、異議なく了承された。

最後に、議長から資料2-5～6に基づき、SPODフォーラム2015事後アンケートについて説明があった。資料2-5の事後個別アンケートは昨年度と同様とし、資料2-6の事後全体アンケートは赤字部分を昨年度の様式から追加変更する旨の説明があり、異議なく了承された。なお、事後全体アンケートの実施時期については、昨年度同様にSPODフォーラム終了3週間後に予定している旨の説明があり、異議なく了承された。

（3）授業設計ワークショップの開催について 【資料3】

徳島大学川野委員から資料3に基づき、平成27年6月20日（土）～21日（日）に徳島大学にて実施予定の授業設計ワークショップの概要について説明があった。現時点で参加者が40名以上集まっているとの説明を受け、議長より徳島大学川野委員に対して参加者を集める工夫について質問があった。このことについて徳島大学川野委員から、対象者にはプログラム受講を必修と位置づけていることや、学内の改組等により学外の新しい教員が増え、対象者の人数自体が増えたことが、主な理由としてあげられる旨の説明があった。

（4）授業デザインワークショップの開催について 【資料4】

議長から資料4に基づき、平成27年7月4日（土）～5日（日）及び平成27年9月1日（火）～3日（木）に久万高原ふるさと旅行村及び愛媛大学にて実施予定の授業デザインワークショップの概要について説明があった。

（5）その他

議長から次の第3回ネットワークコア運営協議会は、平成27年6月29日（月）に遠隔会議で実施予定である旨の説明があった。

平成27年度 第2回ネットワークコア運営協議会 出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター教育改革推進部門 教授	川野 卓二	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育支援課教育企画室教育企画係長	金治 志津子	事務
	学務部教育支援課教育企画室教育企画係	吉岡 茂夫	事務
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	葛城 浩一	FD
	大学教育基盤センター能力開発部 講師	西本 佳代	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	田中 正昭	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	藤原 淳之	SD
	教育・学生支援室学務グループ リーダー	野口 豊裕	事務
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	山本 英和	事務
	教育・学生支援室学務グループ	吉鷹 麻穂美	事務
高知大学	大学教育創造センター 教授	塩崎 俊彦	FD
	大学教育創造センター 准教授	立川 明	FD
	大学教育創造センター 特任准教授	杉田 郁代	FD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	有友 幸代	SD
	人事課労務管理係係員	高松 基子	SD
	学務課総務係長	徳弘 英明	事務
	学務課総務係事務補佐員	高橋 智子	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	議長・FD
	教育企画室 講師	村田 晋也	FD
	教育企画室 講師	清水 栄子	FD
	教育企画室 特定研究員	加地 真弥	FD
	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	総務部人事課長	秋谷 恵子	SD
	総務部人事課副課長	久保 秀二	SD
	総務部人事課人事・人材育成チームリーダー	大塚 陽介	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	眞鍋 明菜	SD
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	五貫 恵美	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	橋本 香央里	事務
教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	大西 陽子	事務	

平成27年度第3回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成27年6月29日(月) 13:00～13:35
- 2 場 所 各コア校(遠隔会議システム利用)
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

(1) SPOD事業評価について 【資料1-1～2, 参考資料1-1～3】

議長から資料1-1及び参考資料1-1～2に基づき、平成26年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項をもとに作成した対応(案)について説明があった。

次に、資料1-2及び参考資料1-3に基づき、平成26年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項への対応について各コア校からの意見を伺った。

最後に、議長から、今回の事業評価への対応については、次回第4回ネットワークコア運営協議会(対面開催)において引き続き議論したい旨の説明があり、異議なく了承された。

(2) SPODフォーラムについて 【資料2-1～4, 参考資料2～3】

議長から資料2-1に基づき、SPODフォーラム2015のチラシが完成し、SPOD加盟校及び全国の高等教育機関宛にチラシを発送した旨の報告があった。

次に、議長から資料2-2及び参考資料2に基づき、SPODフォーラム2015におけるシンポジウムの実施概要について説明があった。

引き続き、議長から資料2-3に基づき、昨年度と同様にSPODフォーラム開催中に、SPODや各加盟校の取組成果物や配付資料等の展示スペースを設置する旨の説明があり、異議なく了承された。

最後に、議長から資料2-4及び参考資料3に基づき、SPODフォーラム2015におけるポスターセッションの申込み状況について報告があった。

(3) 平成27年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルI)

【新任職員研修】について 【資料3】

議長から資料3に基づき、平成27年5月13日(水)～15日(金)に香川大学において開催された平成27年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルI)のアンケート結果について報告があった。

(4) ファカルティ・ディベロッパー養成講座・スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップについて 【資料4】

議長から資料4に基づき、平成27年10月2日(金)～4日(日)にキャンパスプラザ京都において開催予定の「ファカルティ・ディベロッパー養成講座・スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ」について説明があった。

(5) その他

議長から次回の第4回ネットワークコア運営協議会は、平成27年8月4日(火)に愛媛大学において対面で実施する旨の説明があった。

平成27年度 第3回ネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター教育改革推進部門 教授	川野 卓二	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育支援課教育企画室教育企画係長	金治 志津子	事務
	学務部教育支援課教育企画室教育企画係	吉岡 茂夫	事務
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部 講師	西本 佳代	FD
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	田中 正昭	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	藤原 淳之	SD
	教育・学生支援室学務グループ リーダー	野口 豊裕	事務
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	山本 英和	事務
	教育・学生支援室学務グループ	吉鷹 麻穂美	事務
高知大学	大学教育創造センター 教授	塩崎 俊彦	FD
	大学教育創造センター 准教授	立川 明	FD
	大学教育創造センター 特任准教授	杉田 郁代	FD
	大学教育創造センター(兼務) 講師	俣野 秀典	FD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	有友 幸代	SD
	人事課労務管理係係員	高松 基子	SD
	学務課長補佐	末本 美千代	事務
	学務課総務係長	徳弘 英明	事務
	学務課総務係事務補佐員	高橋 智子	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	議長・FD
	教育企画室 教授	中井 俊樹	FD
	教育企画室 講師	清水 栄子	FD
	教育企画室 特定研究員	加地 真弥	FD
	教育企画室 特定研究員	小林 忠資	FD
	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	総務部人事課副課長	久保 秀二	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	眞鍋 明菜	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課長	神 智彦	FD・事務
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	五貫 恵美	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	橋本 香央里	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	村越 綾香	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	大西 陽子	事務

平成27年度第4回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成27年8月4日(火) 12:30～13:20
- 2 場 所 愛媛大学城北キャンパス 校友会館2階 サロン
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

(1) SPOD事業評価について 【資料1-1～2, 参考資料1-1～3】

議長から資料1-1～2及び参考資料1-1～3に基づき、前回のネットワークコア運営協議会において継続審議となったSPOD事業評価について、説明があった。このことについて、講師派遣プログラムを中心に意見交換が行われ、今後引き続いてSPOD将来構想ワーキンググループやFD/SD専門部会において議論を続けていくこととなった。

(2) SPODフォーラム2015について 【資料2-1～3, 参考資料2】

議長から資料2-1～2及び参考資料2に基づき、SPODフォーラム2015の申込み状況について説明があり、SPOD加盟校外からの参加費による収入が当初予算額を超えているため、昨年度と同様にSPODフォーラム経費及び予備費に充当する旨の説明があり、異議なく了承された。なお、申込みは7月28日(火)正午をもって受付を締め切っているが、定員を満たしていないプログラムについては、8月3日(月)正午～8月10日(月)正午の期間、二次募集を行う旨の説明があった。

引き続き、議長から資料2-3に基づき、ポスターセッションの最終申込み者及びポスター番号の割り振りについて説明があった。

(3) 平成28年度における負担金の算定方法について 【資料3-1～2】

議長から資料3-1～2に基づき、来年度の事業経費に係るSPOD各加盟校の負担金の算定方法について、今年度と同様に学校基本調査における教職員数に基づき算定する旨の説明があり、異議なく了承された。また、議長から、負担金算定の基礎資料として、SPOD各加盟校に対して平成27年5月1日現在の教職員数の調査を実施する旨の説明があり、異議なく了承された。

(4) 新任教員研修の開催について 【資料4-1～2】

高知大学塩崎委員から資料4-1に基づき、平成27年9月2日(水)～3日(木)に高知大学で開催する「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ」の概要について説明があった。引き続き、香川大学葛城委員から資料4-2に基づき、平成27年9月17日(木)～18日(金)に休暇村讃岐五色台で開催する「よりよい授業のためのFDワークショップ」の概要について説明があった。

(5) 平成27年度職員のための講師養成講座について 【資料5】

愛媛大学阿部委員から資料5に基づき、平成27年6月18日(木)～19日(金)に開催した「職員のための講師養成講座」のアンケート結果について報告があった。

(6) 「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」見直しワークショップについて

【資料6, 参考資料3】

愛媛大学阿部委員から資料6及び参考資料3に基づき、平成27年6月25日(木)～26日(金)に愛媛大学で開催した「『大学人・社会人としての基礎力養成プログラム』見直しワークショップ」のアンケート結果について報告があった。

(7) 追加議題1：四国地区大学教職員能力開発ネットワークにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定について 【追加資料1-1～2, 追加参考資料1】

愛媛大学阿部委員から追加資料1-1～2及び追加参考資料1に基づき、香川大学野口係長が平成27年度第1回SD専門部会において、SPODのスタッフ・ディベロップメント・コ

ーディネーター（以下SPOD-SDCという）の名称付与基準を満たしていると認められた旨の報告があった。この報告を踏まえ、議長から香川大学野口係長をSPOD-SDCとして認定したい旨の説明があり、異議なく了承された。

(8) その他

議長から次回の第5回ネットワークコア運営協議会は、平成27年9月29日（火）に遠隔会議で実施予定である旨の説明があった。

平成27年度 第4回ネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	FD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	葛城 浩一	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	田中 正昭	SD
高知大学	大学教育創造センター 教授	塩崎 俊彦	FD
	大学教育創造センター 准教授	立川 明	FD
	大学教育創造センター 特任准教授	杉田 郁代	FD
	大学教育創造センター(兼務) 講師	俣野 秀典	FD
	人事課長	中山 胤	SD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	学務課長補佐	末本 美千代	事務
	学務課総務係長	徳弘 英明	事務
	学務課総務係事務補佐員	高橋 智子	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	議長・FD
	教育企画室 教授	中井 俊樹	FD
	教育企画室 講師	村田 晋也	FD
	教育企画室 講師	清水 栄子	FD
	教育企画室 特定研究員	加地 真弥	FD
	教育企画室 特定研究員	小林 忠資	FD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	総務部人事課長	秋谷 恵子	SD
	総務部人事課副課長	久保 秀二	SD
	総務部人事課人事・人材育成チームリーダー	大塚 陽介	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	眞鍋 明菜	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課長	神 智彦	FD・事務
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	五貫 恵美	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	橋本 香央里	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	村越 綾香	事務
教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	八丈野 真子	事務	

平成27年度第5回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成27年9月29日（火）13：15～13：45
- 2 場 所 各コア校（遠隔会議システム利用）
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

（1）SPODフォーラム2015の総括について 【資料1-1～4】

議長から資料1-1に基づき、SPODフォーラム2015の受講者数及びSPOD加盟校以外の参加者からの研修料収入について報告があった。

次に、議長から資料1-2～3に基づき、事前アンケートの集計結果及び各プログラムの個別アンケートの満足度について説明があった。なお、事後アンケートについては、9月18日（金）付けで受講者へ回答依頼をしており、第6回SPODネットワークコア運営協議会で集計結果の報告を行う予定である旨の説明があった。

引き続き、議長から資料1-4に基づき、ポスターセッションの「優秀ポスター賞」受賞取組についての報告があった。

（2）平成27年度SPODネットワークコア運営協議会SD専門部会（書面審議）について

【資料2】

愛媛大学阿部委員から資料2に基づき、SDプログラムの「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」の見直しについて、平成27年8月26日（水）から9月16日（水）の期間においてSD専門部会にて、「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」フレームワークの作成及び「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム」科目到達目標の見直しについて書面審議が行われ、審議の結果、異議なく了承された旨の報告があった。

（3）その他

議長から以下の会議の開催スケジュールについて説明があった。

①第1回SPOD将来構想ワーキンググループ：平成27年10月21日（水）（場所：愛媛大学）

②第6回SPODネットワークコア運営協議会：平成27年11月13日（金）

（場所：各コア校 ※遠隔会議システム利用）

平成27年度 第5回ネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター教育改革推進部門 教授	川野 卓二	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育支援課教育企画室教育企画係	吉岡 茂夫	事務
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	佐藤 慶太	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	田中 正昭	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	藤原 淳之	SD
	教育・学生支援室学務グループ サブリーダー	高嶋 実	事務
	教育・学生支援室学務グループ	吉鷹 麻穂美	事務
高知大学	大学教育創造センター 教授	塩崎 俊彦	FD
	大学教育創造センター 准教授	立川 明	FD
	大学教育創造センター 特任准教授	杉田 郁代	FD
	大学教育創造センター(兼務) 講師	俣野 秀典	FD
	人事課長	中山 胤	SD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	廣瀬 暢彦	SD
	人事課労務管理係係員	高松 基子	SD
	学務課長補佐	末本 美千代	事務
	学務課総務係長	徳弘 英明	事務
学務課総務係事務補佐員	高橋 智子	事務	
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長/教育企画室長	小林 直人	議長・FD
	教育企画室 教授	中井 俊樹	FD
	教育企画室兼総合情報メディアセンター教育デザイン室長 講師	仲道 雅輝	FD
	教育企画室 講師	村田 晋也	FD
	教育企画室 講師	清水 栄子	FD
	教育企画室 特定研究員	加地 真弥	FD
	教育企画室 特定研究員	小林 忠資	FD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	眞鍋 明菜	SD
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	五貫 恵美	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	八丈野 真子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	橋本 香央里	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	村越 綾香	事務

平成27年度第6回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成27年11月13日（金）9：30～10：50
- 2 場 所 各コア校（遠隔会議システム利用）
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

- (1) ネットワークコア運営協議会の構成員等について 【資料1】
議長から資料1に基づき、平成27年度SPODネットワークコア運営協議会構成員の追加・変更について説明があり、異議無く了承された。
- (2) SPODフォーラム2015全体アンケート結果等について 【資料2-1～2】
議長から資料2-1に基づき、SPODフォーラム2015の事後全体アンケートの集計結果について報告があった。
次に、議長から資料2-2に基づき、SPODフォーラム2015の参加者からの要望等及びそれに対する対応案について説明があり、異議無く了承された。
- (3) 第1回将来構想ワーキンググループについて 【資料3-1～2】
議長から資料3-1に基づき、平成27年10月21日（水）に開催された平成27年度第1回SPOD将来構想ワーキンググループにて、メンバーの変更が承認された旨の報告があった。
次に、議長から資料3-2に基づき、平成27年度第1回SPOD将来構想ワーキンググループでの意見交換内容等について報告があった。
- (4) SPODフォーラム持ち回りについて 【資料4】
議長から資料4に基づき、SPODフォーラムの四国地区各県の持ち回り開催案について説明があり、異議無く了承された。
- (5) 平成28年度SPOD事業計画について 【資料5-1～2，参考資料1】
議長から資料5-1に基づき、来年度のSPOD事業スケジュール案について説明があった。
この説明を受けて、徳島大学宮田委員から、来年度のSPOD将来構想ワーキンググループの開催について意見があった。このことを踏まえ、議長から、SPOD事業スケジュール案を各コア校に一旦持ち帰り、次回対面開催予定の第7回SPODネットワークコア運営協議会にて再度意見交換をし、平成28年度の事業計画について審議したい旨の説明があった。
引き続き、議長から資料5-2に基づき、SPODフォーラム2016の実施計画案について説明があり、異議無く了承された。
- (6) SPOD事業経費について 【資料6-1～4】
SPOD事務局の濱元教育企画課教育企画チームリーダーから資料6-1に基づき、平成28年度のSPOD事業予算案について説明があり、異議無く了承された。
引き続き、SPOD事務局の濱元教育企画課教育企画チームリーダーから資料6-2に基づき、平成27年度SPOD事業経費の執行状況と、今後の予算執行計画について説明があり、異議無く了承された。
次に、議長から資料6-3に基づき、平成27年度SPOD教職員能力開発経費について、SPOD加盟校教職員を対象に、平成27年11月30日（月）を締切として申請を募る旨の説明があり、異議無く了承された。なお、議長から、この申請は平成28年3月6日（日）までに完了する研修を対象としているが、完了日が遅くなる研修については、SPOD事務局まで連絡をいただきたい旨の説明があった。
引き続き、議長から資料6-4に基づき、平成27年度SPOD研修物品費について、SPOD

加盟校を対象に、平成27年11月30日（月）を締切として申請を募る旨の説明があり、異議無く了承された。

(7) SPOD内講師派遣について 【資料7-1～3, 参考資料2～3】

議長から資料7-1～2に基づき、平成28年度SPOD内講師派遣プログラム案について、昨年度からの変更点を中心に説明があり、プログラムの内容や担当者等に変更がある場合は平成27年11月30日（月）までにSPOD事務局へ連絡するよう依頼があった。

次に、議長から資料7-3及び参考資料2～3に基づき、平成28年度SPOD内講師派遣プログラム希望調査を依頼予定である旨の説明があり、異議無く了承された。

(8) 平成27年度研修プログラム実施状況について 【資料8】

議長から資料8に基づき、今年度のSPOD研修プログラムの実施状況について報告があった。

(9) その他

議長から次回の第7回SPODネットワークコア運営協議会は、平成27年12月21日（月）に愛媛大学において対面で実施する旨の説明があった。

平成27年度 第6回ネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター教育改革推進部門 教授	川野 卓二	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	FD
	総務部人事課長	関谷 直樹	SD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育支援課教育企画室教育企画係	吉岡 茂夫	事務
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部 教授	石井 知彦	FD
	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	葛城 浩一	FD
	大学教育基盤センター能力開発部 講師	西本 佳代	FD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	藤原 淳之	SD
	教育・学生支援室学務グループ リーダー	野口 豊裕	事務
	教育・学生支援室学務グループ	吉鷹 麻穂美	事務
高知大学	大学教育創造センター 教授	塩崎 俊彦	FD
	大学教育創造センター 准教授	立川 明	FD
	大学教育創造センター 特任准教授	杉田 郁代	FD
	大学教育創造センター(兼務) 講師	俣野 秀典	FD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	廣瀬 暢彦	SD
	人事課労務管理係係員	高松 基子	SD
	学務課長補佐	末本 美千代	事務
	学務課総務係事務補佐員	高橋 智子	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	議長・FD
	教育企画室 教授	中井 俊樹	FD
	教育企画室 講師	清水 栄子	FD
	教育企画室 特定研究員	加地 真弥	FD
	教育企画室 特定研究員	小林 忠資	FD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	総務部人事課人事・人材育成チームリーダー	大塚 陽介	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	眞鍋 明菜	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課長	神 智彦	FD・事務
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	五貫 恵美	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	八丈野 真子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	橋本 香央里	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	村越 綾香	事務

平成27年度第7回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成27年12月21日（月）14：15～15：40
- 2 場 所 愛媛大学 校友会館2階 サロン
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

(1) 平成28年度SPOD事業計画について 【資料1-1～2】

議長から資料1-1に基づき、平成28年度SPOD事業スケジュール（案）について、前回からの変更点等の説明があり、異議無く了承された。

引き続き、議長から資料1-2に基づき、SPODフォーラム2016の開催スケジュール（案）について説明があった。また、議長から各コア校にそれぞれ2コマ程度ずつプログラムの担当をお願いしたい旨の説明があり、平成28年2月29日（月）までに担当プログラムについてSPOD事務局へ回答するよう依頼があった。

(2) SPOD事業経費について 【資料2-1～2】

SPOD事務局の濱元教育企画課教育企画チームリーダーから資料2-1に基づき、平成28年度SPOD事業予算（案）について説明があり、異議無く了承された。なお、ネットワーク年会費（案）については、総会での正式決定事項であることを付記した上で、各加盟校に事前通知する予定である旨の説明があった。

引き続き、SPOD事務局の濱元教育企画課教育企画チームリーダーから、資料2-2に基づき、平成27年度SPOD事業経費の執行状況について、能力開発経費と研修物品費の申請及び採択結果の報告があった。

また、議長から平成28年3月28日（月）～29日（火）に高知大学で開催予定の「『学生主体』の授業デザインワークショップ」について、SPODで研修経費を補助したい旨の説明があり、異議無く了承された。

(3) 平成28年度SPOD内講師派遣について 【資料3-1～3】

議長から資料3-1～3-3に基づき、来年度のSPOD内講師派遣プログラム（案）に関して、前回からの修正点についての説明があった。なお、本会議前に開催された第2回FD専門部会での意見を踏まえ、再修正したものを会議終了後に再度各コア校で確認し、年内にはSPOD各加盟校へ来年度の希望調査を行う予定である旨の説明があった。

(4) 研修プログラムガイド2016について 【資料4-1～4】

愛媛大学丸山委員から資料4-1～4に基づき、来年度の「研修プログラムガイド2016」の作成について説明があり、異議無く了承された。

- (5) 平成27年度SPOD活動報告書について 【資料5-1~3, 参考資料1-1~2】
議長から資料5-1~2及び参考資料1-1~2に基づき、平成27年度のSPOD活動報告書(冊子版, ホームページ掲載用)の構成(案)について説明があり, 異議無く了承された。なお, 冊子版に追加したい事項等があれば, 平成28年1月7日(木)までにSPOD事務局へ連絡をいただきたい旨の説明があった。
引き続き, 議長から資料5-3に基づき, 各加盟校へ平成27年度FD/SD活動の取組報告の原稿作成を依頼する旨の説明があり, 異議無く了承された。
- (6) 平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及びFD/SD分科会の開催について 【資料6】
議長から資料6に基づき, 平成28年3月開催予定のSPODネットワーク総会及びFD/SD分科会について説明があった。なお, 開催日時については現在日程調整中のため, 決定次第通知する旨の説明があった。
- (7) 平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査の実施について 【資料7, 参考資料2-1~2】
議長から資料7及び参考資料2-1~2に基づき, 平成28年3月実施予定の会計監査について説明があった。なお, 開催日時については現在日程調整中のため, 決定次第通知する旨の説明があった。
- (8) 平成27年度SPOD事業評価委員会の開催について 【資料8, 参考資料3-1~2】
議長から資料8及び参考資料3-1~2に基づき, 平成28年3月開催予定の事業評価委員会について説明があった。なお, 開催日時については現在日程調整中のため, 決定次第通知する旨の説明があった。
- (9) 各コア校で実施する新任教員研修について 【資料9-1~4, 参考資料4-1~4】
議長から資料9-1及び参考資料4-1に基づき, 平成27年7月4日(土)~5日(日), 平成27年9月1日(火)~3日(木)に久万高原ふるさと旅行村及び愛媛大学で開催された第24回, 第25回授業デザインワークショップのアンケート結果について報告があった。
次に, 徳島大学川瀬委員から資料9-2及び参考資料4-2に基づき, 平成27年6月20日(土)~21日(日)に徳島大学で開催された平成27年度「授業設計ワークショップ」のアンケート結果について報告があった。
引き続き, 香川大学葛城委員から資料9-3及び参考資料4-3に基づき, 平成27年9月17日(木)~18日(金)に休暇村讃岐五色台で開催された第6回「よりよい授業のためのFDワークショップ」のアンケート結果について報告があった。
最後に, 高知大学塩崎委員から資料9-4及び参考資料4-4に基づき, 平成27年9月2日(水)~3日(木)に高知大学で開催された「学生の学びを支援するための授業準備ワークショップ(新任教員FDワークショップ)」のアンケート結果について報告があった。

(10) 平成27年度大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修について

【資料10-1~2, 参考資料5-1~2】

愛媛大学阿部委員から資料10-1~2に基づき、平成27年9月10日(木)~11日(金)及び平成27年9月17日(木)~18日(金)に愛媛大学で開催された「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目)」のアンケート結果及び平成27年10月14日(水)~15日(木)に開催された「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)」のアンケート結果について報告があった。

(11) 各コア校で開催するプログラム等について

【資料11-1~3】

徳島大学川瀬委員から資料11-1に基づき、平成28年1月6日(水)に徳島大学で開催予定の「大学教育カンファレンス in 徳島」について説明があった。

次に、議長から資料11-2に基づき、平成28年3月4日(金)に愛媛大学で開催予定の「平成27年度愛媛大学教育改革シンポジウム」について説明があった。

引き続き、高知大学杉田委員から資料11-3に基づき、平成28年3月28日(月)、29日(火)に高知大学で開催予定の「『学生主体』の授業デザインワークショップ」について説明があった。

(12) その他(将来構想案について)

【資料12】

議長から資料12に基づき、SPODの将来構想ワーキンググループの意見交換を基に作成した案についての説明があり、一部修正の上了承された。

(13) その他

議長から、次回の第8回SPODネットワークコア運営協議会は、平成28年1月29日(金)に遠隔会議で開催予定である旨の説明があった。

平成27年度 第7回SPODネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	FD
	総務部人事課長	関谷 直樹	SD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	葛城 浩一	FD
	大学教育基盤センター能力開発部 講師	西本 佳代	FD
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	田中 正昭	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	藤原 淳之	SD
高知大学	大学教育創造センター 教授	塩崎 俊彦	FD
	大学教育創造センター 准教授	立川 明	FD
	大学教育創造センター 特任准教授	杉田 郁代	FD
	人事課労務管理係長	廣瀬 暢彦	SD
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	議長・FD
	教育企画室 教授	中井 俊樹	FD
	教育企画室兼総合情報メディアセンター教育デザイン室長 講師	仲道 雅輝	FD
	教育企画室 講師	清水 栄子	FD
	教育企画室 特定研究員	加地 真弥	FD
	教育企画室 特定研究員	小林 忠資	FD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	総務部人事課長	秋谷 恵子	SD
	総務部人事課副課長	久保 秀二	SD
	総務部人事課人事・人材育成チームリーダー	大塚 陽介	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	眞鍋 明菜	SD
	教育学生支援部教育企画課長	神 智彦	FD・事務
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	五貫 恵美	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	八丈野 真子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	橋本 香央里	事務
教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	村越 綾香	事務	

平成27年度第8回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成28年1月29日（金）9：00～9：40
- 2 場 所 各コア校（遠隔会議システム利用）
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

- (1) 平成26年度事業評価委員会委員からの指摘事項に対する対応状況について 【資料1】
議長から資料1に基づき、平成26年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項に対する対応策(案)について説明があった。また、本資料は平成28年3月10日（木）開催の平成27年度SPOD事業評価委員会の資料とするとともに、今年度のSPOD活動報告書に掲載予定である旨の説明があった。なお、内容について意見がある場合は、平成28年2月8日（月）までにSPOD事務局へ連絡するよう依頼があった。
- (2) 平成27年度SPOD事業達成度について 【資料2】
議長から資料2に基づき、今年度のSPOD事業の定量的指標達成度一覧(案)を作成した旨及びその内容について説明があった。また、本資料は平成27年度SPOD事業評価委員会の資料とするとともに、今年度のSPOD活動報告書に掲載予定である旨の説明があった。なお、内容について意見がある場合は、平成28年2月8日（月）までにSPOD事務局へ連絡するよう依頼があった。
- (3) 平成28年度SPOD事業計画について 【資料3】
議長から資料3に基づき、平成28年度SPOD事業計画(案)について、前回からの変更点を中心に説明があり、異議無く了承された。
- (4) 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」役員の改選について 【資料4-1～2】
議長から資料4-1～2に基づき、平成28年度のSPOD役員について、徳島大学長の改選に伴う副会長の改選及び任期について説明があり、異議無く了承された。また、本件は平成28年3月24日（木）開催の平成27年度SPODネットワーク総会において審議予定である旨の説明があった。
- (5) 平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会等の開催について 【資料5】
議長から資料5に基づき、平成28年3月24日（木）に開催の平成27年度SPODネットワーク総会及びFD/SD分科会の概要について説明があった。なお、出欠について、平成28年2月5日（金）までにSPOD事務局へ回答するよう依頼があった。
- (6) 平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査実施について 【資料6】
議長から資料6に基づき、平成28年3月11日（金）及び3月16日（水）に実施のSPOD会計監査の概要について説明があった。なお、平成28年3月24日（木）開催の平成27年度SPODネットワーク総会には高松大学・高松短期大学、愛媛県立医療技術大学の両監事とも出席が難しいため、総会での会計監査報告については、愛媛県立医療技術大学の宮内保健科学部長に代理報告いただけるよう依頼予定である旨の説明があり、異議無く了承された。
- (7) 平成27年度SPOD事業評価委員会の開催について 【資料7】
議長から資料7に基づき、平成28年3月10日（木）に平成27年度SPOD事業評価委員会を開催する旨の説明があった。また、議長から、各コア校のFD/SD担当者に可能な限り出席いただくよう協力依頼があった。

(8) その他

【資料8～9】

議長から資料8に基づき、前回の第7回SPODネットワークコア運営協議会後に修正したSPOD将来構想案について説明があり、異議無く了承された。

次に、議長から資料9に基づき、平成27年11月13日(金)に開催された第6回SPODネットワークコア運営協議会で決定したSPODフォーラムの四国地区各県持ち回り開催について、社会教育主事講習当番校の表記に誤りがあったため、該当箇所を訂正した旨の報告があった。

最後に議長から、次回の第9回SPODネットワークコア運営協議会は、平成28年2月19日(金)に遠隔会議で開催予定である旨の説明があった。

平成27年度 第8回SPODネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター教育改革推進部門 教授	川野 卓二	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	FD
	総合教育センター教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育支援課教育企画室教育企画係長	金治 志津子	事務
	学務部教育支援課教育企画室教育企画係	吉岡 茂夫	事務
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部 教授	石井 知彦	FD
	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	葛城 浩一	FD
	大学教育基盤センター能力開発部 講師	西本 佳代	FD
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	田中 正昭	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	藤原 淳之	SD
	教育・学生支援室学務グループ リーダー	野口 豊裕	事務
	教育・学生支援室学務グループ	吉鷹 麻穂美	事務
高知大学	大学教育創造センター 教授	塩崎 俊彦	FD
	大学教育創造センター 准教授	立川 明	FD
	大学教育創造センター(兼務) 講師	俣野 秀典	FD
	人事課長	中山 胤	SD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	廣瀬 暢彦	SD
	学務課長補佐	末本 美千代	事務
	学務課総務係事務補佐員	高橋 智子	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	議長・FD
	教育企画室 教授	中井 俊樹	FD
	教育企画室 講師	村田 晋也	FD
	教育企画室 特定研究員	加地 真弥	FD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	総務部人事課長	秋谷 恵子	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	眞鍋 明菜	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	五貫 恵美	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	八丈野 真子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	橋本 香央里	事務

- 1 日 時 平成27年8月4日(火) 13:20～14:35
- 2 場 所 愛媛大学校友会館2階サロン
- 3 出席者 資料1のとおり
- 4 議 題

(1) 正副部会長の選出について

愛媛大学小林委員から資料1及び参考資料1に基づき、FD専門部会要項第4条より、正副部会長の任期が1年となっているため、平成27年度の正副部会長を選出する必要があることについて説明があり、部会長に愛媛大学中井委員を推薦し、異議なく了承された。

続いて、中井部会長から、副部会長の選出について、FD専門部会要項第4条第4項より、部会長の所属校を除くコア校から部会長が指名することについて説明があり、香川大学葛城委員を指名し、異議なく了承された。

(2) 調査・研究プロジェクトについて

高知大学塩崎委員、俣野委員及び杉田委員から追加資料「組織変容に関する調査・研究プロジェクト」に基づき、調査・研究プロジェクトのうち、平成27年度に重点をおいて行う、組織変容検証ワーキンググループの進捗状況について説明があり、意見交換が行われた。主な内容は以下のとおり。

【量的変化の調査について】

(SPODの活動成果の測定について)

- ・各加盟校のFD活動の成果について、それがSPODの活動によるものなのか、外的要因によるものなのかの区別が難しいため、SPODの活動によるものを引き出す枠組みを検討してはどうか。
- ・照会項目について、各加盟校のFD活動による組織変容を問うと同時に、その変容にどの程度SPODの活動が関与しているかを併せて問うてはどうか。
- ・中期目標や各種補助金申請書等からSPODの活用度合を読み取ることも可能ではないか。

(SPOD活動報告書の利用)

- ・新たな調査を開始する前に、まず過去のSPOD活動報告書にある各加盟校の「FD/SD活動の取組報告」のデータを利用してはどうか。
- ・単年度の成果のみではなく、経年変化を調査することでSPOD活動による組織変容として捉えることができるので、年度毎のSPOD活動報告書の利用にあたっては、調査方法を工夫した方がよい。
- ・FD/SD活動の取組報告の設問項目が漠然としているため、今後は報告書の様式を見直してはどうか。

- ・調査の実施時期について、各加盟校に依頼するFD/SD活動取組報告書の作成時期との兼ね合いを踏まえて検討するのがよい。
- ・量的変化の調査の事前調査と位置付けるのか、事後の確認調査と位置付けるのか。
- ・単年度のデータからは量的な変化は読み取ることが難しい。事前に、経年の変化について自由記述の調査を実施し、その結果を踏まえて照会項目を作成してはどうか。

【質的变化の調査について】

- ・量的変化の調査を実施した上で、インタビュー調査等の対象校を設定してはどうか。

これらの意見を踏まえ、調査方法について高知大学を中心に、適宜メールでの意見交換や対面での会議を行い、引き続き検討していくこととなった。

(3)FD活動の取組内容について

まず、第3期中期目標・中期計画でのSPODのFDの表記について、今後のSPODの活動内容に変更が生じて各コア校において問題がないか確認した上で、意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

【講師派遣プログラム事業について】

- ・各加盟校のニーズに応じたプログラムを提供するために、学内の新たな資源発掘を考えると、講師派遣事業の枠組みを見直してもよいのではないかと。
- ・SPOD内のFDの在り方について、SPOD発足当初は多くのマイクロレベルのプログラムを提供してきたが、徐々にミドルレベルや分野別のマイクロレベルにシフトしてきた。プログラムを精選する時期ではないかと。
- ・新任教員研修のように、プログラムを開放し、自発的な参加を促すことで、各加盟校の自立的なFD活動を支援するネットワークになる必要があるが、講師派遣プログラム事業については、参加者の自発性が乏しい。
 - プログラムの選択について、既存のものから選ぶのではなく、事前にコンサルティングを行い、その結果を踏まえて各加盟校の実情に応じたプログラムを提供してはどうか。
 - コンサルティング事業について、コア校を窓口として、各加盟校の要望に応じた講師を紹介する等の事業も含めてはどうか。
- ・平成27年度分の希望調査結果からニーズを汲み取ることも可能ではないかと。

また、高知大学立川委員から、アクティブ・ラーニングに関するプログラムについて、プログラムの充実を図る一例として、徳島大学吉田委員が作成した冊子「アクティブ・ラーニングの手法」の紹介があり、SPOD内で協力して事例を収集し、紹介できればよいのではとの意見があった。中井部会長からも今後、調査研究プロジェクトやフォーラムのラウンドテーブルを通じて事例を共有、発信することができるのではとの発言があった。

**平成27年度 第1回ネットワークコア運営協議会
FD専門部会出席者名簿**

大学名	所 属	氏 名	備 考
徳島大学	総合教育センター 教育改革推進部門 講師	吉田 博	第3条第1号委員
	総合教育センター教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	第3条第1号委員
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	葛城 浩一	第3条第1号委員
高知大学	大学教育創造センター 教授	塩崎 俊彦	第3条第1号委員
	大学教育創造センター 准教授	立川 明	第3条第1号委員
	大学教育創造センター 特任准教授	杉田 郁代	第3条第1号委員
	大学教育創造センター(兼務) 講師	俣野 秀典	第3条第1号委員
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長・教授	小林 直人	第3条第1号委員
	教育企画室 教授	中井 俊樹	第3条第1号委員
	教育企画室 講師	清水 栄子	第3条第1号委員
	教育学生支援部教育企画課長	神 智彦	第3条第2号委員

(オブザーバー)

大学名	所 属	氏 名	備 考
高知大学	学務課長補佐	末本 美千代	事務
	学務課総務係長	徳弘 英明	事務
	学務課総務係事務補佐員	高橋 智子	事務
愛媛大学	教育企画室 講師	村田 晋也	FD
	教育企画室 特定研究員	小林 忠資	FD
	教育企画室 特定研究員	加地 真弥	FD
	教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育企画課教育企画チーム	八丈野 真子	事務
	教育企画課教育企画チーム	橋本 香央里	事務

平成27年度第1回四国地区大学教職員能力開発ネットワークSD専門部会議事概要

- 1 日 時 平成27年8月4日(火) 11:30~11:40, 13:25~14:40
- 2 場 所 愛媛大学校友会館2階 白楊の間, 共通教育講義棟1階 12番教室
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり
- 4 議 題

(1) 正副部会長の選出について

愛媛大学の織田委員から資料1-1~2に基づき, SD専門部会要項第4条より正副部会長の任期が1年となっているため, 平成27年度の正副部会長を選出する必要があることについて説明があり, 部会長に愛媛大学阿部委員を推薦し, 異議なく了承された。

続いて, 阿部部会長から, 副部会長の選出についてSD専門部会要項第4条第4項より, 部会長の所属校を除くコア校から部会長が指名することについて説明があり, 徳島大学関谷委員を指名し, 異議なく了承された。

(2) SPOD-SDC 名称付与について

阿部部会長から, 資料2-1~2及び参考資料1に基づき, 香川大学より, 野口里美氏のSPOD-SDC認定推薦書の提出があったことについて説明があった。審議の結果, 認定基準を満たしていることを確認し, SD専門部会としてSPOD-SDC認定が了承された。

なお, 本件については, 同日開催されるSPODネットワークコア運営協議会へ付議することとした。

(3) 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム見直しについて

阿部部会長から, 資料3-1~4に基づき, 現在行っている大学人・社会人としての基礎力養成プログラム見直しの進捗状況等について説明があった後, 意見交換が行われた。

また, 12月に実施する講師養成講座「マイクロティーチング」において, 見直したプログラムを基に研修を実施予定であること, 平成28年度「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルI)」は高知大学において開催することとなっているので, 日程調整及び高知県内大学で講師の選出等をお願いしたい旨依頼があった。

なお, 大学人・社会人としての基礎力養成プログラムは継続して見直しを行い, 原案がまとまった段階でコア校へ照会する予定である旨説明があった。

(4) その他

第4回 SPOD ネットワークコア運営協議会の資料1-2に基づき、SPOD 事業評価への対応等について、意見交換が行われた。主な内容は以下のとおり。

- (徳島大学)・加盟校の状況について、高等専門学校からは SPOD での研修に参加させたいが旅費等の予算がでない状況がある。
 - ・講師養成講座や次世代リーダー養成ゼミナールには職員の資質の向上のために参加させており、担当業務を持っている職員に講師という役割を担わせることは負担増となり難しいとの意見がある。
- (香川大学)・研修講師を担う上で必要な教材費を SPOD 経費で負担できないか。
 - ・次世代リーダー養成ゼミナールの修了者について、SPOD 講師への登録を努力目標としてはどうか。
- (愛媛大学)・第3期中期目標・中期計画の中で SD や SPOD に関する記述があれば、情報共有することはできないか。
- (高知大学)・今まで実施された SD プログラムの変遷や開発・実施方針の情報をウェブサイトに掲載するなどして、分かりやすく共有することはできないか。
- (事務局)・今後も SDC 認定者を輩出できるよう、努めていただきたい。

**平成27年度 第1回ネットワークコア運営協議会
SD専門部会出席者名簿**

大学名	所 属	氏 名	備 考
徳島大学	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	第3条第1号委員
香川大学	経営管理室給与福利グループ リーダー	田中 正昭	第3条第1号委員
高知大学	人事課長	中山 胤	第3条第1号委員
	人事課課長補佐	川崎 美保	第3条第1号委員
愛媛大学	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	第3条第1号委員
	総務部人事課長	秋谷 恵子	第3条第1号委員
	教育学生支援部長	吉田 一恵	第3条第3号委員
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	第3条第2号委員

(オブザーバー)

大学名	所 属	氏 名	備 考
愛媛大学	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	総務部人事課人事・人材育成チームリーダー	大塚 陽介	SD
	教育企画課教育企画チームサブリーダー	五貫 恵美	事務
	教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	事務
	教育企画課教育企画チーム	村越 綾香	事務

平成27年度第2回四国地区大学教職員能力開発ネットワークFD専門部会議事概要

- 1 日 時 平成27年12月21日（月）13：00～14：00
- 2 場 所 愛媛大学校友会館2階サロン
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

(1) SPODフォーラム2016について

中井部会長から資料1に基づき、SPODフォーラム2016の開催スケジュール案について説明があった。

引き続き、中井部会長からプログラムの講師について、各コア校2コマ程度ずつ担当していただきたい旨の説明があった。

(2) 調査・研究プロジェクトについて

高知大学塩崎委員から、調査・研究プロジェクトのうち、平成27年度における、組織変容検証ワーキンググループの進捗状況について、今年度内に聞き取り調査を1校実施できるよう、対象校に依頼中である旨の説明があった。

(3) FD専門部会調査・研究 来年度以降の取組内容について

平成28年度以降のFD専門部会の取組内容について意見交換が行われ、組織変容検証ワーキンググループの取組を継続・発展することで合意した。主な意見は以下のとおり。

【組織変容検証ワーキンググループについて】

- ・聞き取り調査を軸として継続する。
- ・質問紙調査を実施する場合、どのように対象者を絞るとよいか。

【学生調査・IRワーキンググループについて】

- ・平成26年度のワーキンググループにおいて、質問紙は作成したが、学生への配付・集計は、予算等の都合上実施が難しい。
- ・本ワーキンググループよりも、組織変容検証ワーキンググループの取組を優先して継続するのがよいのではないか。

【新規取組について】

- ・FDの効果測定として、教員のFDに対する意識がどのくらい変化したかを測るために教員対象の調査を始めてはどうか。
 - ・SPODの効果測定だけでなく、SPODのスケールを利用した、連携の効果測定も可能か。
- なお、中井部会長から、来年度の取組に関して意見があれば、中井部会長及び葛城副部会長に連絡するよう依頼があった。

(4) その他

① SPODの将来構想について

中井部会長から参考資料1に基づき、SPODの将来構想案について説明があり、FD担当者の養成やコンサルティングの対応等について意見交換が行われた。

② SPOD内講師派遣プログラムについて

中井部会長から参考資料2-1～3に基づき、平成28年度SPOD内講師派遣プログラムについて説明があり、プログラムや担当講師の確認を行った。

③ 各コア校のFD活動について

高知大学杉田委員から、平成28年3月28日(月)、29日(火)に高知大学で開催予定の「『学生主体』の授業デザインワークショップ」について説明があった。

次に、徳島大学川瀬委員から、平成28年1月6日(水)に徳島大学で開催予定の「大学教育カンファレンス in 徳島」について説明があった。

**平成27年度 第2回ネットワークコア運営協議会
FD専門部会出席者名簿**

大学名	所 属	氏 名	備 考
徳島大学	総合教育センター教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	第3条第1号委員
香川大学	大学教育基盤センター能力開発部 准教授	葛城 浩一	第3条第1号委員
	大学教育基盤センター能力開発部 講師	西本 佳代	第3条第1号委員
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	第3条第1号委員
高知大学	大学教育創造センター 教授	塩崎 俊彦	第3条第1号委員
	大学教育創造センター 准教授	立川 明	第3条第1号委員
	大学教育創造センター 特任准教授	杉田 郁代	第3条第1号委員
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長・教授	小林 直人	第3条第1号委員
	教育企画室 教授	中井 俊樹	第3条第1号委員
	教育企画室 講師	清水 栄子	第3条第1号委員

(オブザーバー)

大学名	所 属	氏 名	備 考
愛媛大学	教育企画室兼総合情報メディアセンター教育デザイン室長 講師	仲道 雅輝	FD
	教育企画室 特定研究員	小林 忠資	FD
	教育企画室 特定研究員	加地 真弥	FD
	教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育企画課教育企画チーム	八丈野 真子	事務
	教育企画課教育企画チーム	橋本 香央里	事務

平成27年度第2回四国地区大学教職員能力開発ネットワークSD専門部会議事概要

1 日 時 平成27年12月21日（月）12:58～13:57

2 場 所 愛媛大学 校友会館2階 ミーティングルーム

3 出席者 別添出席者名簿のとおり

4 議 題

(1) SPOD-SD将来構想案について

阿部部会長から、資料1及び参考資料1に基づき、SPOD将来構想ワーキンググループの意見交換内容を基に作成したSPOD将来構想案について、SD関係部分を中心に説明があり、異議なく了承された。

なお、本件については、同日開催されるSPODネットワークコア運営協議会の議題となっている旨、併せて説明があった。

(2) 平成28年度SPOD-SDプログラムについて

阿部部会長から、資料2-1～3及び参考資料2～3に基づき、平成28年度SPOD-SDプログラムの開催計画案について説明があり、異議なく了承された。なお、「学務系職員養成プログラム研修」については、来年度に見直しを行う予定であるため、見直しの際には各加盟校に協力をお願いしたい旨の依頼があった。また、次世代リーダー養成ゼミナールについて、以下の2点に関する協力依頼を行った。

①第2回開催校である香川大学に、「SPODフォーラム2016」において6期生が行うプログラムの模擬講義への協力を依頼

②第3回開催校である徳島大学に、トップリーダーとの対談について協力を依頼

(3) SPOD-SDCの資格認定候補者について

阿部部会長から、SPOD-SDC資格認定候補者の推薦者リストを作成いただくよう、各加盟校に対し依頼を行いたい旨の提案があり、異議なく了承された。併せて、各コア校に対し、SPOD-SDCの輩出について引き続きサポートいただくよう依頼があった。

なお、推薦者リストの様式については、後日、SPOD事務局から各加盟校SD担当者宛に送付する予定である旨説明があった。

(4) SPODフォーラム2016開催スケジュールについて

阿部部会長から、資料3に基づき、SPODフォーラム2016のSD関連プログラム(案)について説明があった。また、愛媛大学吉田委員から、プログラム(案)の大枠について了承が得られた後、講師候補者等に対して依頼を行う予定である旨、併せて説明があった。続いて、阿部部会長から、SD関連プログラムとして開催してほしい研修プログラムについて各コア校から意見を伺った結果、内容は以下のとおりであり、これらを踏まえてプログラム(案)の検討を行うこととした。

(徳島大学) 男女共同参画・ダイバーシティについて

(香川大学) 女性リーダーの育成について

(5) その他

香川大学田中委員から、電算関係研修の各コア校における実施状況について状況確認があり、情報交換を行った。

また、愛媛大学織田委員から、SPOD-SDプログラムにおける講師の選出等において協力をお願いしたい旨の依頼があった。

**平成27年度 第2回ネットワークコア運営協議会
SD専門部会出席者名簿**

大学名	所 属	氏 名	備 考
徳島大学	総務部人事課長	関谷 直樹	第3条第1号委員
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	第3条第1号委員
香川大学	経営管理室給与福利グループ リーダー	田中 正昭	第3条第1号委員
	経営管理室給与福利グループ チーフ	藤原 淳之	第3条第2号委員
高知大学	人事課労務管理係長	廣瀬 暢彦	
愛媛大学	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	第3条第1号委員
	総務部人事課長	秋谷 恵子	第3条第1号委員
	教育学生支援部長	吉田 一恵	第3条第3号委員
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	第3条第2号委員

(オブザーバー)

大学名	所 属	氏 名	備 考
愛媛大学	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	総務部人事課副課長	久保 秀二	SD
	総務部人事課人事・人材育成チームリーダー	大塚 陽介	SD
	教育企画課教育企画チームサブリーダー	五貫 恵美	事務
	教育企画課教育企画チーム	村越 綾香	事務

5 平成27年度活動実績 (5) SPOD運営

③「各県内加盟校会議」議事概要

平成27年度第1回T-SPOD会議 議事概要

日 時： 平成27年10月29日（水）15：00～16：25
場 所： 授業研究インテリジェントラボ（徳島大学大学開放実践センター3階）
出席者： 鳴門教育大学 新居学部教務係長，坂本労務係長
四国大学・短期大学部 平野総務課員，大恵総務課員，
久我学部運営支援課係長，高木学部運営支援課員
徳島文理大学・短期大学部 新見准教授
徳島工業短期大学 近藤理事長
阿南工業高等専門学校 松本教授，湯浅総務課長補佐
徳島大学 赤池教授（議長），川野教授，宮田准教授，吉田講師，
川瀬助教，久保田特任助教，上岡特任研究員，
沖津人事課課長補佐，小山教育企画室長，
金治教育企画係長，吉岡教育企画係員

会議開催に先立ち，出席者の自己紹介が行われた。

議 題

1. FD・SD活動の取組等について

議長から，議題1資料に基づき，昨年に引き続き，徳島県内加盟校の独自の活動について情報共有及び情報交換を行いたい旨の説明があり，事前に提出した「平成27年度のFD・SD活動の取組等」により各校が説明し，種々意見交換を行った。

【内容】

- ①ティーチング・ポートフォリオを普及させる工夫として，まずは参加しやすい方に声をかける。ティーチング・ポートフォリオは必修とし，教育ポイントに加算され，給与等に反映するシステムを構築する。また，昇任及び昇格するにあたりティーチング・ポートフォリオの作成を義務付けることなどを行う。
- ②学生に模擬授業を行わせることにより，自分の成果が分かる。
- ③フリーソフトアプリ「レスポシ」をうまく使うことが出来れば授業改善アンケートにも使用出来る可能性がある。
- ④SPODの研修は愛媛大学で行われることが多いので，少ない予算の中では参加しにくい。
- ⑤学習障害学生に対する対応に関するシンポジウム又は研修プログラムを増やしてほしい。
FD・SD合同で行うことにより成果がでるのではないか。
- ⑥ICT活用教育に関連する実践事例を知りたい。
- ⑦県単位で充実したプログラムを実践できないか。インプット・アウトプットが出来る共通の場を増やして行き，FD担当者を養成できないだろうか。
- ⑧SDは体系化されているのでSPODで維持して行く方向である。

報 告

1. 大学教育カンファレンス in 徳島について

議長から、報告1資料に基づき、平成28年1月6日（水）に徳島大学において、大学教育の質的向上に向けた努力の成果を確認するための「大学教育カンファレンス in 徳島」をSPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）の研修プログラムの一環として開催することの説明があり、この中で「大学教育再生加速プログラムシンポジウム」を開催し、T-SPODからは「ラウンドテーブル」を兼ねて阿南工業高等専門学校の坪井先生から話題提供をいただくとともに、話題提供者間、及びフロアーを交えてディスカッションを行う予定としている旨の報告があった。

2. ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップについて

議長から、報告2資料に基づき、自身の授業を見直し、授業改善を行いたいと考えている教員に対し、平成28年3月9日（水）～11日（金）の3日間（定員8名）で開催する予定であるので是非参加してもらいたい旨の報告があった。

以上